

介護ロボット等による生産性向上の取組に関する  
効果測定事業 報告書

令和7年3月  
厚生労働省 老健局高齢者支援課



## 目次

I.	調査の背景・目的	1
II.	事業実施概要	2
	1. 実施内容	2
	2. 実施スケジュール	3
	3. 用語の定義	3
III.	実証委員会の設置・運営	4
	1. 実証委員会の設置の目的	4
	2. 実証委員会の委員構成	4
	3. 実証委員会における検討内容	5
IV.	実証テーマ	6
V.	実証施設の募集	7
	1. 募集期間	7
	2. 実施方法	7
	3. 実証施設一覧	7
VI.	実証結果:①-1【特定施設】	10
	1. 実証概要	10
	2. 実証結果(過年度比較実証)	29
	3. 実証結果(新規実証)	57
	4. 実証結果(共通)	88
	5. 実証結果(実証施設別結果概要)	92
VII.	実証結果:①-2【生産性向上】	97
	1. 実証概要	97
	2. 実証結果(過年度比較実証)	115
	3. 実証結果(新規実証)	129
	4. 実証結果(共通)	148
VIII.	実証結果:夜間見守り	204
	1. 実証概要	204
	2. 実証結果	222

IX. 実証結果:②【提案型】.....	272
1. 実証概要.....	272
2. 実証結果.....	278
3. 業務時間等調査.....	667
X. 実証結果:匿名調査.....	675
1. 調査概要.....	675
2. 調査結果.....	676
XI. 生産性向上推進体制加算 報告データ分析 .....	679
1. 調査概要.....	679
2. 調査結果.....	680

参考資料

## I. 調査の背景・目的

---

生産年齢人口が減少し、労働力の確保に向けた制約が強まる中、介護サービスの質を確保するため、介護現場において、ICT、介護ロボット等のテクノロジーの活用や業務の役割分担(いわゆる介護助手の活用等)などによる生産性向上の取組(以下、「介護ロボット等による生産性向上の取組」という。)を推進することは重要である。

本事業においては、「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果実証委員会」(以下、「実証委員会」という。)を設置し、介護施設等に対し介護ロボット等による生産性向上の取組について支援を行った上で、当該取組による効果実証を実施するとともに、実証から得られたデータの分析等を行い、今後の介護報酬改定の検討に資するエビデンスの収集等を行うことを目的とした。

## II. 事業実施概要

---

### 1. 実施内容

本事業では以下を実施した。

- ① 実証委員会の設置・運営
- ② 実証委員会での検討内容
  - ・ 実証計画の策定
  - ・ 実証方法等に資する専門的かつ技術的助言
  - ・ 実証結果のとりまとめ
- ③ 介護ロボット等による生産性向上の取組の効果実証を行う施設の選定
- ④ 選定された実証施設に対する介護ロボット等による生産性向上の取組に係る効果的な方法の助言・連絡調整支援
- ⑤ 介護ロボット等による生産性向上の取組の効果実証の進捗管理・連絡調整、実証結果の集計・データ分析、実証委員会への報告
- ⑥ 「介護ロボットのパッケージ導入モデル」の改訂

## 2. 実施スケジュール

本事業の全体スケジュールは以下のとおり。

図表 II-1 実証スケジュール

	事務局	実証施設(テーマ①)	実証施設(テーマ②)	
令和6年4月	実証委員会設置 実証計画案策定			
5月	調査詳細 検討	施設募集・公募実施		
6月	進捗管理 ・ 検証結果の集計 データ分析  生産性向上の取組を 行う事業者から集め られたデータの集計・ 分析	体制構築・オペレーション変更検討	提案実施	
7月		機器導入・教育	事前調査	
8月		テクノロジー等 の活用 (実証調査)	事後調査①	採択(施設確定)
9月				実証内容の確認
10月		テクノロジー等 の活用 (実証調査)	事後調査②	事後調査①
11月				
12月		機器返却	ヒアリング調査	事後調査②
令和7年1月				ヒアリング調査
2月		分析結果のとりまとめ		
3月		報告書の作成		

※テーマ①②の実証施設等詳細についてはIV. 実証テーマを参照

## 3. 用語の定義

用語の定義は以下の通り。

用語	意味
事前調査 もしくは 事前	本実証で用いた機器を導入する前の状態における実証調査
事後調査①もしくは事後①	本実証で用いた機器を導入し、導入後1か月以内における実証調査
事後調査②もしくは事後②	本実証で用いた機器を導入し、導入後 2 か月から 3 か月程度における実証調査
介護助手	食事等の準備や片付け、清掃、ベッドメイク、ごみ捨て等、利用者の身体的な介助を伴わない業務を行う者

### III. 実証委員会の設置・運営

---

#### 1. 実証委員会の設置の目的

介護施設に対して介護ロボット等による生産性向上の取組について支援を行った上で、当該取組による効果実証を実施するとともに、実証から得られたデータの分析等を行うことを目的とした。

#### 2. 実証委員会の委員構成

<委員> (◎委員長、○副委員長)

(敬称略、50音順)

飯島 節	筑波大学名誉教授 医療法人財団秀行会 介護老人保健施設ミレニウム桜台 施設長
岩井 広行	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT 推進委員会 委員長
加藤 健治	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ロボット臨床評価研究室 室長
五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部長
斉藤 正行	一般社団法人全国介護事業者連盟 理事長
新田 収	公益社団法人日本理学療法士協会 学校法人筑波学園 アール医療専門職大学 教授
東 憲太郎	公益社団法人全国老人保健施設協会 会長
舟田 伸司	公益社団法人日本介護福祉士会 常任理事 生産性向上中核人材育成プログラム検討部会 委員 一般社団法人富山県介護福祉士会 会長
◎本田 幸夫	東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター 特任研究員
松尾 徳哉	一般社団法人 全国介護付きホーム協会 事務局次長
室井 勝一郎	一般社団法人日本在宅介護協会 理事
○森 武俊	東京理科大学 先進工学部 機能デザイン工学科 教授
渡邊 慎一	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 一般社団法人日本作業療法士協会 生活環境支援推進室 副室長

<事務局>

厚生労働省 老健局 高齢者支援課長 峰村 浩司

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室

介護ロボット政策調整官 佐藤 修一

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット専門官 早川 慎

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 主査 兼子 雄

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室

介護ロボット係 阿久澤 ひかる

株式会社三菱総合研究所 ヘルスケア事業本部

エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社

### 3. 実証委員会における検討内容

実証委員会では、以下のスケジュール、議題で検討を行った。

図表 III-1 実証委員会における検討内容

回数	実施時期	議論事項
第1回	令和6年5月23日(木)	<ul style="list-style-type: none"><li>調査計画(案)について</li><li>調査項目(案)・調査票(案)について</li></ul>
第2回	令和6年7月12日(金)	<ul style="list-style-type: none"><li>テーマ①の実証施設・進捗について</li><li>テーマ②の施設・事業所選定について</li></ul>
第3回	令和6年12月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"><li>実証調査結果(速報)について</li></ul>
第4回	令和7年2月6日(木)	<ul style="list-style-type: none"><li>実証調査結果(確報)について</li></ul>
第5回	令和7年3月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"><li>実証調査結果のとりまとめについて</li></ul>

## IV. 実証テーマ

本事業では、以下を実証のテーマとした。

図表 IV-1 実証テーマ①

No	分類 (【】は略称)	対象機器	実証目的	対象サービス	実証 施設数
①-1	【特定施設】 「生産性向上に先進的に取り組む特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化」に関する実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器</li> <li>ICT 機器(インカム、介護記録ソフト等)</li> <li>その他施設が導入活用する機器</li> </ul>	令和6年度介護報酬改定で新設した特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化について、本特例措置を適用した施設又は適用予定の特定施設を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。	特定施設入居者生活介護	9 施設
①-2	【生産性向上】 「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)あるいは(Ⅱ)を算定した、または算定要件を満たす等、『働きやすい職場環境づくり』に関する実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器</li> <li>ICT 機器(インカム、介護記録ソフト等)</li> </ul>	令和6年度介護報酬改定で新設した「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)あるいは(Ⅱ)」を算定した又は算定要件を満たす等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む施設系サービス等において、介護サービスの質の維持・向上、職員の負担軽減、効率的な人員配置の実現等の観点から評価検討に資するデータを整備する。	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護、介護医療院 ※特定施設入居者生活介護については、①-1で実証を行うため対象外 ※短期入所系サービスは入所期間が短く比較が難しいことから対象外	20 施設
①-3	【夜間見守り】 「見守り機器等を活用した夜間見守り」に関する実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器(カメラタイプまたはバイタルタイプ)</li> <li>ICT 機器(インカム)</li> </ul>	令和元年介護報酬改定以降、見守り機器等を導入した場合の夜間における人員配置基準の緩和等を行ってきた見直しについて、対象サービスの拡大や更なる見直しに向けた検討に資するデータを整備する。	介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護、介護医療院	21 施設
②	【提案型】 「介護事業者・テクノロジー開発企業等からの提案手法による生産性向上の取組」に関する実証	事業者の提案による。但し、安全性を担保するため上市されている商品とする。	生産性向上の取組に意欲的な介護事業者やテクノロジー開発企業から、自ら高い目標を設定し、生産性の向上に資する新たな取組等に関する独自の提案を受け付け、当該取組内容の評価等に関するデータを収集する。	全サービス (開発企業からの提案も含む)	12 提案

## V. 実証施設の募集

---

### 1. 募集期間

令和6年4月25日(木)～令和6年6月21日(金)

### 2. 実施方法

以下の流れで実証施設を募集した。

- ① 公益財団法人テクノエイド協会 HP「介護ロボット等の開発・実証フィールド」に登録のあった施設、過年度実証参加施設に対する意向調査を実施
- ② 意向調査の結果を踏まえて、事務局にて対象施設を一次選定(介護ロボット等を導入して業務を改善したい課題、サービス種別、機器導入状況等)
- ③ 対象施設が不足する場合、関連団体及び介護ロボットメーカー等に対象施設候補の推薦を依頼
- ④ 対象施設に対する、電話による意向詳細確認
- ⑤ 実証施設の確定

### 3. 実証施設一覧

実証施設は以下のとおり。(※ 法人名 | 施設名 | 所在都道府県)

#### ①-1:特定施設(9 施設)

株式会社さわやか倶楽部 | 介護付有料老人ホームさわやか宗像館 | 福岡県  
ALSOK 介護株式会社 | 介護付有料老人ホームアミカの郷川口 | 埼玉県  
ALSOK 介護株式会社 | 介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜 | 神奈川県  
ALSOK 介護株式会社 | 介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘 | 埼玉県  
株式会社チャーム・ケア・コーポレーション | チャーム南田辺 | 大阪府  
株式会社チャーム・ケア・コーポレーション | チャーム西宮用海町 | 兵庫県  
社会福祉法人一乗谷友愛会 | 特定有料老人ホームリバティーハウスあさくら | 福井県  
株式会社ヒラマツ | 特定施設入居者生活介護虹の夢津 | 三重県  
株式会社アズパートナーズ | 介護付有料老人ホームアズハイム三郷 | 埼玉県

#### ①-2:生産性向上(20 施設)

社会福祉法人おおさわの福祉会 | 地域密着型特別養護老人ホームささづ苑 | 富山県  
医療法人財団五省会 | 介護老人保健施設みどり苑 | 富山県  
社会福祉法人愛生館 | 特別養護老人ホームひまわり・安城 | 愛知県  
社会福祉法人神戸中央福祉会 | 特別養護老人ホーム塩屋さくら苑 | 兵庫県

株式会社 connect | グループホームおおきな木 | 岩手県  
社会福祉法人若竹福祉会 | 特別養護老人ホーム YMBT | 京都府  
社会福祉法人やすらぎ会 | 特別養護老人ホーム ラ・フォート河内長野 | 大阪府  
NPO 法人ふれあいセンター そよ風 | グループホーム大空 | 滋賀県  
社会福祉法人 弘陵福祉会 | 特別養護老人ホーム 六甲の館 | 兵庫県  
社会福祉法人愛の会 | 特別養護老人ホーム桜川陽だまり館 | 茨城県  
社会福祉法人翠燿会 | 小規模多機能型居宅介護グリーンヒル八千代台 | 千葉県  
世田谷区社会福祉事業団 | 特別養護老人ホーム 芦花ホーム | 東京都  
社会福祉法人尾瀬長寿会 | 地域密着型特別養護老人ホーム桜花苑きらり | 群馬県  
社会福祉法人尾瀬長寿会 | 特別養護老人ホーム桜花苑 | 群馬県  
社会福祉法人一乗谷友愛会 | 特別養護老人ホームあさくら苑 | 福井県  
社会福祉法人 浩仁会 | 地域密着型特別養護老人ホーム セント・ケアおおの | 岐阜県  
社会福祉法人 鈴鹿福祉会 | 特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム | 三重県  
社会福祉法人 鈴鹿福祉会 | ショートステイ 鈴鹿グリーンホーム 翠風 | 三重県  
公益財団法人脳血管研究所 | 介護老人保健施設アルボース | 群馬県  
医療法人地塩会 | 介護老人保健施設夢の里 | 高知県

### ①-3:夜間見守り(21 施設)

社会福祉法人湖星会 | 特別養護老人ホームラスール坂下 | 福島県  
社会福祉法人 浩仁会 | 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 桜坂 | 岐阜県  
社会福祉法人 野の花会 | アルテンハイム鹿児島 | 鹿児島県  
社会福祉法人 野の花会 | ガレリアソル | 鹿児島県  
社会福祉法人ケアネット | 特別養護老人ホーム シェ・モア | 神奈川県  
医療法人 悠明会 | ウェルケア悠 | 奈良県  
医療法人社団幹人会 | 介護老人保健施設菜の花 | 東京都  
社会医療法人頌徳会 | ソルヴィラージュ | 大阪府  
医療法人ほがらか会 | 介護老人保健施設サンシャイン | 岩手県  
医療法人ほがらか会 | 介護老人保健施設サンホーム | 岩手県  
医療法人燦生会 | フルリールむかわ | 山梨県  
医療法人社団 大有会 | ドリームヒルズ滝山 | 兵庫県  
社会医療法人豊生会 | 介護老人保健施設ひまわり | 北海道  
社会福祉法人久盛福祉会 | 介護老人保健施設 あまさぎ園 | 秋田県  
社会福祉法人 愛宕福祉会 | グループホームなかのくち式号館 | 新潟県  
コスモスケア株式会社 | グループホームコスモス松陵 | 宮城県  
コスモスケア株式会社 | グループホームコスモス鶴ヶ谷 | 宮城県  
コスモスケア株式会社 | グループホームコスモス八乙女 | 宮城県  
コスモスケア株式会社 | グループホームコスモス向陽台 | 宮城県  
株式会社スマイル | スマイル住まいる大岩 | 静岡県  
株式会社スマイル | スマイル住まいる小川 | 静岡県

②提案型:(12 提案)

社会福祉法人あさがお福祉会 | KAGOYA LIFE | 徳島県

社会福祉法人京都社会事業財団 | 介護老人福祉施設 にしがも舟山庵 | 京都府

社会福祉法人こうほうえん | 法人本部 | 鳥取県

社会福祉法人弘陵福祉会 | 特別養護老人ホーム 六甲の館 | 兵庫県

社会福祉法人こすもす | 特別養護老人ホームサンウエスト | 兵庫県

社会福祉法人青祥会 | 特別養護老人ホーム アンタレス ホームヘルパーステーション | 滋賀県

社会福祉法人 青祥会 | 長浜メディケアセンター | 滋賀県

DFree 株式会社 | 東京都

芙蓉開発株式会社 | 安診ネット事業部 | 福岡県

社会福祉法人 墨友会 | 特別養護老人ホームサンヴェール尾張旭 | 愛知県

社会福祉法人 友愛十字会 | 特別養護老人ホーム 砧ホーム | 東京都

社会福祉法人 暘谷福祉会 | 特別養護老人ホーム暘谷苑 | 大分県

## VI. 実証結果:①-1【特定施設】

---

### 1. 実証概要

#### (1) 実証目的

令和 6 年度介護報酬改定で新設した特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化について、本特例措置を適用した施設又は適用予定の特定施設を対象に、生産性向上の取組の効果把握を行う。

過年度調査と調査方法等を可能な限りそろえることで、比較可能な調査になると想定した。

#### (2) 実証仮説

テクノロジーの複数活用及び職員間の適切な役割分担等の生産性向上の取組によって、特定施設入居者生活介護における間接業務が削減され、この結果、以下 4 つの変化がみられることを仮説とした。

- ⑥ 職員の総業務時間及び当該時間に含まれる超過勤務時間が短縮する
- ⑦ 総業務時間に占める直接介護の時間の割合が増加する
- ⑧ 人員配置基準を下回る割合で運営が可能になる
- ⑨ 介護サービスの質は確保され、職員の負担は軽減する(利用者の満足度や、職員の心理的負担の指標は悪化しない)

また、過年度(令和 5 年度)※に実証を実施した施設については、上記の取組の継続によって、取組当初よりも生産性が向上し、より効率的な人員配置で運営ができるようになることを仮説とした。

※令和 5 年度の介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業における「令和 4 年度提案手法の更なる検証」<sup>1</sup>を指している。

#### (3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

- 見守り機器
- ICT 機器(インカム・介護記録ソフト等)
- 入浴支援機器等、その他施設が導入活用する機器

---

<sup>1</sup> 厚生労働省 介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業報告書 令和 5 年度 2025 年 2 月 14 日閲覧  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001252897.pdf>

#### (4) 対象施設

本実証の対象施設は以下の通り。過年度(令和5年度)に実証を実施(以下、「過年度比較実証」という。)した施設は3施設、今年度から実証を実施する施設(以下、「新規実証」という。)は6施設であった。

図表 VI-1 実証対象施設

NO	法人名	施設名	実証パターン	導入した見守り機器	適切な役割分担の実施
1	株式会社さわやか倶楽部	介護付有料老人ホーム さわやか宗像館	過年度比較 実証	バイタルセンサー	タスクシフト
2	ALSOK 介護株式会社	介護付有料老人ホーム アミカの郷川口	過年度比較 実証	バイタルセンサー	介護助手活用
3	ALSOK 介護株式会社	介護付有料老人ホーム すこや家・北新横浜	過年度比較 実証	バイタルセンサー	介護助手活用
4	ALSOK 介護株式会社	介護付有料老人ホーム みんなの家・土呂栄光荘	新規実証	バイタルセンサー	タスクシフト
5	株式会社チャーム・ケア・コーポレーション	チャーム南田辺	新規実証	バイタルセンサー	タスクシフト
6	株式会社チャーム・ケア・コーポレーション	チャーム西宮用海町	新規実証	バイタルセンサー	タスクシフト
7	社会福祉法人一乗谷友愛会	特定有料老人ホームリ バティーハウスあさくら	新規実証	バイタルセンサー	タスクシフト
8	株式会社ヒラマツ	特定施設入居者生活介護 虹の夢 津	新規実証	ミリ波レーダー	介護助手活用
9	株式会社アズパートナーズ	介護付有料老人ホーム アズハイム三郷	新規実証※	バイタルセンサー	介護助手活用

※新規実証では事前調査、事後調査①、事後調査②を実施するが、過年度比較実証施設については事前調査、事後調査①のみ実施。調査の実施スケジュールについては、VI.1.(5)ア. 実証調査の時期を参照されたい。

## (5) 実証方法

### ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

過年度比較実証については、事後調査①の時期に 1 回調査を実施した。新規実証については、オペレーションの工夫・変更前(本実証における生産性向上の取組実施前)に事前調査を実施し、オペレーションの工夫・変更後に事後調査①・②を実施した。

図表 VI-2 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和 6 年 6 月～7 月のうち平日 5 日間 (過年度比較実証は昨年度事前調査の結果を使用するため調査なし)
事後調査①	令和 6 年 9 月～10 月のうち平日 5 日間
事後調査②	令和 6 年 11 月～12 月のうち平日 5 日間 (過年度比較実証は調査なし)
ヒアリング調査	令和 6 年12月～令和 7 年 2 月

※新型コロナウイルス感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

また、過年度比較実証において比較対象とした昨年度の調査時期は以下の通りである。

図表 VI-3 過年度比較実証の時期

調査	時期
事前調査	令和 5 年 7 月上旬 ※本実証では主にこの時点との比較を行う
事後調査	令和 5 年 8 月下旬～9月下旬 ※一部調査項目についてはこの時点との比較を行う

### イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」、「人員配置に係る調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 VI-4 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
① タイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアでケアを行った職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答方法: 自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入)</li> <li>調査スケジュール: 事前(オペレーションの工夫・変更前)</li> </ul>

調査名	調査対象者	調査概要
		<p>1 回、事後①・②(オペレーションの工夫・変更後)2 回の計 3 回。各日に勤務した職員全員が回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査実施の時間帯:実際に勤務した時間全て</li> </ul>
② 職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアでケアを行った職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答方式:自記式</li> <li>調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員 1 名につき1回のみ回答</li> </ul>
③ 利用者向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアの利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答方式:自記式</li> <li>※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼</li> <li>調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、利用者 1 名につき1回のみ回答</li> </ul>
④ 業務時間等調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査方法:自記式</li> <li>調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答</li> </ul>
⑤ 人員配置に係る調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査方法:自記式やヒアリング調査での聞き取り</li> <li>調査スケジュール:実証終了後に実施</li> </ul>
⑥ ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査方法:WEB 会議による聞き取り</li> <li>調査スケジュール:実証終了後に 1 回実施</li> </ul>

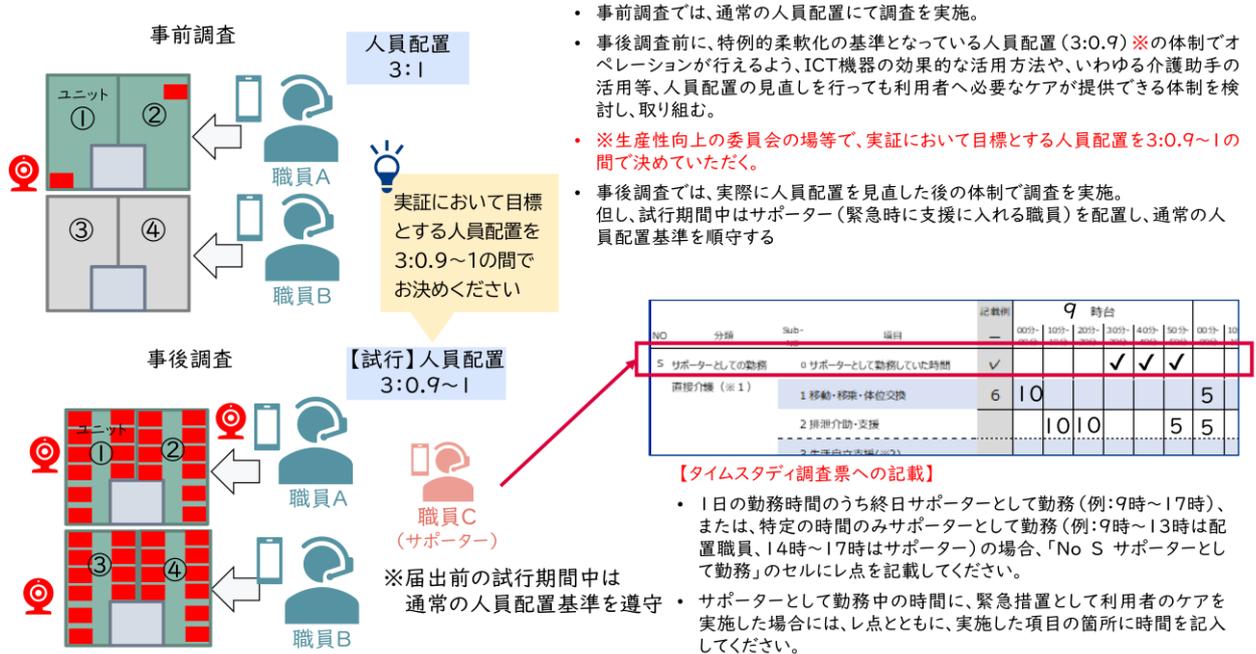
## ウ. 本実証で目指すところ

事前調査では通常通りのオペレーションで調査を実施する。事後調査では、見守り機器等のテクノロジーの導入や、職員間の適切な役割分担(いわゆる介護助手の活用等)の取組等を行い、オペレーションを変更することで、現行の人員配置基準(3:1)から特定施設における人員配置基準の特例的な柔軟化の基準となっている人員配置(3:0.9 $\div$ 3.33:1)でも利用者へのサービスの質を維持し、職員の負担が過度に増加していない状態を目指した。

本実証では、人員配置の計算には含めないサポーター(以下、「試行的な取組として、一時的にラインから外れて待機していた職員」を指す。)となる職員を配置し、通常より少ない人員でケアを実施した。ただし、通常より少ない介護職員でのケアを実施するものの、安全面を考慮し、ナースコールの重複等、緊急的に必要なケアについては適宜サポーターが支援に入る体制での実証を行った。

具体的な実施方法については以下の通り。

図表 VI-5 実証調査の実施方法



## エ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 VI-6 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容(見守り機器):過年度比較  
実証

施設名	A.通常(昨年度事前調査)の内容(工夫・変更前)	B. 導入後(昨年度事後調査以降)の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実証前は、夜間 2 時間ごとに居室へ訪室、呼吸確認をしていた。</li> <li>・ 巡視に対しての業務負担は勿論、訪室することで安眠を妨げてしまっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守り機器(バイタルセンサー)の導入により、夜間の巡視回数が減少した。</li> <li>・ 業務時間を 2 フロアで 120 分減少させた。職員の歩数も5千歩(3 キロ)減少し、身体的負担も減少した。</li> <li>・ モニター確認を増やしたことで、転倒事故数も月当たり 1 件少なくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全管理のために、食堂で起こしておき、その為に職員の見守りをつけるのは双方において負担の為、見守り機器で確認することで、自宅で過ごしていただく。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマートフォンの各職員への貸与と見守り機器(バイタルセンサー)を導入することにより、これまで定時でおこなっていた居室見守り業務が、個々に貸与をしたスマートフォンにて瞬時に確認ができるように変更をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守りは緊急性がない限り、見守り機器での確認とし、職員の業務効率が進んだ。</li> <li>・ これまで2時間に1回各居室を訪問しての確認業務が削減でき、他の業務に振替えることが可能となり、余裕時間の拡大につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアプランに見守り機器での見守り実施の一言を盛り込み、すべてのご家族様より了承の上、ケアプランに署名をいただいている。</li> <li>・ 夜間帯の見守りについては特に効果が発揮されているため、人員の配置変更を検討する。</li> </ul>
介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守り機器(バイタルセンサー)を昨年の実証前から導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜間のオペレーションを変更。(夜勤を 4→2 名とし、4 階・6 階の夜勤を廃止した。4,5 階で 1 名、6,7 階で 1 名)</li> <li>・ 訪室での巡視はなくし、見守り機器での巡視とした。(巡視のツールとして活用・利用者の同意は取得) ただ、見守り機器の感度が悪くタイムラグが生じることもあるため、完全な代用は難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロア会議で利用者ごとに訪室の判断をし、効率よく見守りできるようにする。</li> </ul>

図表 VI-7 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(見守り機器):新規実証

施設名	A.通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目 指すところ ※本実証を通して目指す 効果
介護付有料老人 ホームみんなの 家・土呂栄光荘	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器(バイタルセンサー)を導入していたが、施設の大型モニターでの確認が多く全職員が見られる環境ではなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が見えるように、スマートフォンを導入。いつでも見ることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者様の状態変化を察知できるようにし早期に医療機関と連携できる体制の構築。</li> </ul>
チャーム南田辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間の安否確認を2時間毎概ねすべての居室に訪室していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を用いて夜間の安否確認方法を個別検討し、必要な方に限って訪室対応とする。それ以外はモニター確認へ移行する。</li> <li>訪問診療時の情報提供やサービス担当者会議に個別の生活リズムデータを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤職員の訪室頻度を減少し、待機時間を増加させる。</li> <li>生活リズムデータを活用する事で、ご入居者様のQOL向上を目指す。</li> </ul>
チャーム西宮用 海町	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年以上前に見守り機器を導入済み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠時間の確保、体調の変化の早期発見・看護師の訪室、巡回の減少を実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き睡眠を可視化することでケアの質を向上させる。</li> </ul>
特定有料老人 ホームリバ ティーハウスあ さくら	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器(バイタルセンサー)は49床中5台のみ導入。転倒・転落防止、もしくは看取り対応にて使用している。</li> <li>夜間の定時巡視には使用できておらず、夜勤職員は階をまたいだフロアの移動が必要な状態。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を全床導入する。</li> <li>夜間の定時巡視を見守り機器にて代用し、職員の階をまたいだフロア移動を減少させる。</li> <li>また、全体的にも訪室回数を減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の中途覚醒を防ぎ、頓服の服用を減らす。</li> <li>職員の階をまたいだフロアの移動を減らし、負担軽減を図る。</li> </ul>
特定施設入居者 生活介護 虹の 夢 津	<ul style="list-style-type: none"> <li>容体に変化のない人は見守り機器での巡視により睡眠の質の向上に繋がった。</li> <li>夜間の使用のみで日中に有効的な使い方ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の検知で必要な人、不必要な人を選別し適切に設定する。</li> <li>そのうえで日中、検知スマートフォンを持つ職員を決め、必ず所持し検知の内容を確認する。</li> <li>検知したらスマートフォンで確認し訪室が必要であれば指示するように変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間、日中問わずスマートフォンの所持、アラームの確認をする。</li> <li>適切に検知を設定することで事故を未然に防ぐ。</li> </ul>

施設名	A.通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目 指すところ ※本実証を通して目指す 効果
介護付有料老人 ホームアズハイ ム三郷	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡視は必要な人は訪室、変化のない人は見守り機器での巡視により睡眠の質の向上に繋がった。夜間の使用のみで日中に有効的な使い方ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の検知で必要な人、不必要な人を選別し適切に設定する。そのうえで日中、検知できるスマートフォンを持つ職員を決め、必ず所持し検知の内容を確認する。検知したらスマートフォンで確認し訪室が必要であれば指示するよう変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間、日中問わずスマートフォンを所持し、アラームを確認できるようにする。</li> <li>適切に検知を設定することで事故を未然に防ぐ。</li> </ul>

図表 VI-8 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(インカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資する ICT 機器):過年度比較実証

施設名	A.通常(昨年度事前調査) の内容(工夫・変更前)	B. 導入後(昨年度事後 調査以降)の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、 目指すところ ※本実証を通して目指 す効果
介護付有料老人 ホームさわやか 宗像館	<ul style="list-style-type: none"> <li>口頭での申し送り、ノートに記載するが職員に伝わっておらずにトラブルになる事があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口頭での申し送りに合わせて行う事で情報の漏れを防ぐために、チャットツールを使用した申し送り、タスク管理機能を導入する。</li> <li>申し送りは、1F→2F など物理的に距離が遠いところに対して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人でのチェック機能やフロア間での申し送りなど、チャットツールを生かした申し送り体制を構築し、口頭・手書での申し送りからの脱却を目指す。</li> </ul>
介護付有料老人 ホームアミカの 郷川口	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し送りに朝夕各フロアの夜勤者、日勤者各1名、看護師、計画作成担当者、管理者等が出席しての対面申し送りを各20分から30分かけて実施していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員にスマートフォンを貸与しチャットツールを導入した。</li> <li>申し送りトークルームを作成し情報を集約することで、申し送りをなくす。</li> <li>申し送り事項、その他の情報を瞬時に共有し、業務の効率化を進める。</li> <li>入浴介助開始時間を30分ほど早め、職員の負担を軽減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の取り組みを継続する。</li> </ul>
介護付有料老人 ホームすこやか家・	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムの使用はなし。</li> <li>連絡調整にチャットツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフト、服薬管理アプリ、チャットツールがイ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本実証で新規実証取組はなし。</li> </ul>

施設名	A.通常(昨年度事前調査)の内容(工夫・変更前)	B.導入後(昨年度事後調査以降)の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
北新横浜	ルを使用。	インストールされているスマートフォンを導入する。 ・チャットツールを使用し、様々な事項を共有する。	

図表 VI-9 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(インカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資する ICT 機器):新規実証

施設名	A.通常(現在)の内容(工夫・変更前)	B.導入後の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	・連絡調整は朝の申し送りを行っていた。	・チャットツール(スマートフォン)を使用し、連絡調整を行う。	・業務時間の短縮を目指す。 ・チャットツールによる申し送りの確認を徹底する。
チャーム南田辺	・インカムを導入し活用済み。	・本実証での変更点はなし。	
チャーム西宮用海町	・各種会議体・委員会開催後の内容周知・欠席者の確認が紙運用の為、手間がかかる。 ・消耗品等の在庫管理が紙運用の為、在庫管理・発注手続きに手間がかかる。 ・各種立替請求実績管理が紙運用の為、実績管理・請求事務に手間がかかる。	・全職員携帯するタブレット端末上でグループウェアを利用することで、紙媒体をデジタル管理し、確認・実績管理・実績共有の手間を削減する。	・職員間の情報共有・情報管理の一元化を行い、間接業務時間の削減を目指す。
特定有料老人ホームリバーティーハウスあさくら	・インカムは各ユニットに2台あるが、十分に活用できていない。 ・チャットツールや PHS は活用できている。	・出勤している職員は全員インカムを使用する。ユニット間や看護師、事務所からの連絡にインカムを使用する。 (例:ユニット間での応援要請、看護師への処置の依頼、事務所からのオムツ等の配布に関する事務連絡、お見送りや移動販売の時間に関する連絡、面会者来	・情報共有を迅速に行い、全員に瞬時に対応できるようにする。 ・申し送りの漏れを防ぐ。 ・事務所から1回で連絡が全体にいきわたり、各ユニットへ何度も連絡をする時間を削減する。 ・面会時に全職員が来苑されたタイミングを把

施設名	A.通常(現在)の内容(工夫・変更前)	B.導入後の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
		苑時の連絡等。)	握し、しっかりとあいさつができるようにする。
特定施設入居者生活介護 虹の夢 津	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムを使って処置や業務の伝達、緊急時の対応の呼びかけには使用できているが、人により使い方が様々であった。そのため、インカムがあるにもかかわらず、人を探す作業があった。その為、対応が遅れていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカム使用の細かいルールを決める(事前に必ず所在を言う、情報の送り手に対して、受け手は必ず返信する)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員全員がインカムを使用し情報が共有できるようになる。その結果、利用者の直接介護に係る時間を増やす。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアズハイム三郷	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の人員であらかじめ決められたオペレーションでの業務を遂行している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各フロアの状況を鑑みて、職員の配置や動きを判断調整できる人員を配置し、インカムで全体の状況を確認&amp;指示をしながら業務を遂行する。</li> <li>各フロアによる業務量格差をなくし、配置された職員が均一にご入居者に関わることで、少ない人員で必要な業務を抜けなく対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた人員で、現状日々実施している業務(身体介助、レク、体操)ができる。</li> </ul>

図表 VI-10 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録の作成の効率化に資する ICT 機器):過年度比較実証

施設名	A.通常(昨年度事前調査)の内容(工夫・変更前)	B. 導入後(昨年度事後調査以降)の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特に排泄誘導は、スマートフォンに記録しているが、チェックのために手書きで重複記載していた。</li> <li>• 定時でトイレ誘導に行くことが当たり前になっており、疑問も抱かないので、仮に排泄がないとわかっているにもかかわらず誘導する援助を行っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データ可視化ツールを基に、スマートフォンに記録されたデータを分析。特に排泄に行ったものの、出なかった時間帯はスケジュールから外し、職員の業務減少を図る。</li> <li>• 介護記録を可視化するツールを使用し、元々2時間に1回排泄誘導をしていたが、データを見て見直す。</li> <li>• 月に1回程度、会議で誘導の時間を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 頻尿を主とした排泄課題を持つ方に対してアプローチを医療と連携を取って、データ起点での解決を行っていく。</li> <li>• 協力医療機関とのデータ連携を検討。</li> <li>• 今後、開発段階から関わっているアプリ(フォンログ)を全社的に使い、業務の見える化を実施予定。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 業務量が時間帯によって不均一であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 介護記録ソフトを用いて一律な介助を個々に変更することで、24時間を通し業務の平均化をはかり、必要な時に必要な人員配置ができるように取り組む。</li> <li>• 介護記録ソフトの実績から、本当に必要な介助をピックアップし、これまで惰性的に行っていた不必要な介助を削減する。</li> <li>• これにより一律でおこなっていた介助を個々によって適正な時間とすることで、無駄な業務を削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 業務の効率化で捻出することにより、週に1回のカンファレンスの実施をする。</li> <li>• その際に、モニターにて記録ソフトの実績を共有し、個々の対応の見直しを定期的に行い、常に業務の平均化が保たれるように目指す。</li> </ul>
介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 介護記録ソフトを使用。</li> <li>• スマートフォンを導入し、介護記録ソフト、服薬管理アプリ、チャットツールがインストールされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 介護記録ソフトを用いて、プランの見直しや入力方法を簡素化できるように内容を検討する。</li> <li>• スマートフォンを用いた記録をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スマートフォンでの記録の使用を広げられるように、検討・研修を行う。最終的には、場所・時間を選ばずに入力できることを目指す。</li> </ul>

図表 VI-11 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録の作成の効率化に資する ICT 機器):新規実証

施設名	A.通常(現在)の内容(工夫・変更前)	B.導入後の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
介護付有料老人ホーム みんなの家・土呂栄光荘	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトを使用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトの記載項目を整理することにより、業務体制・援助の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記の取組によって、ご利用者様にあった支援を行うことを目指す。</li> </ul>
チャーム南田辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトとタブレットを導入し、活用済み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本実証での変更点はなし。</li> </ul>	
チャーム西宮用海町	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトとタブレットを導入し、活用済み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本実証での変更点はなし。</li> </ul>	
特定有料老人ホームリバーティハウスあさくら	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットは各ユニット2台あるが、十分に活用できていない。PCは各ユニットに1台のため、入力時間が重複すると入力を待っている時間がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCが空いていないときはタブレットを使用して入力し、隙間時間を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隙間時間を活用し、直接介護や入居者とのかわりの時間、レク等の楽しみの時間をまとまった時間として設けることができるようにする。</li> <li>入居者の楽しみや取り組みを増やすことができるようにする。</li> </ul>
特定施設入居者生活介護 虹の夢津	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCと連携していることで記録入力の短縮、申し送り時間の短縮になったが簡易にできるため後回しになりやすく勤務終了後に記録の入力作業になり結果的に残業になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1介助ごとに必ず記録の入力を行うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就業時間内に記録の入力ができるようにする。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアズハイム三郷	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録に記載されている内容も、朝礼夕礼で読み上げていた。他諸々報告事項などもあり、平均20分×2(朝・夕)=40分かかっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し送るべき事項は送りたい人物がケアカルテに記載。各自で見えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し送りに要する時間を平均5分×2(朝・夕)=10分程度に短縮させることを目指す。</li> <li>また、従来より約30分の時間を捻出することで、入浴の開始時間を早め、入浴にかかる時間を30分程度増やす。</li> </ul>

図表 VI-12 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(その他のテクノロジー):過年度比較実証

施設名	A.通常(昨年度事前調査)の内容(工夫・変更前)	B. 導入後(昨年度事後調査以降)の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴の浴室清掃は、スポンジやデッキブラシを利用した手作業が中心で、時間以上に体力消費が大きいだけでなく、浴室・脱衣所と2名の人員が必要であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォームガンを利用し泡を排出、その後は吸着し待機するだけで浴室清掃が完了する運用へ変更。浴室内の清掃負担が解消され、所要時間を半減させつつ1名での対応を可能とした。(データで汚れが落ちていることも確認済み。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の運用を続ける。</li> </ul>
介護付有料老人ホーム アミカの郷川口	<ul style="list-style-type: none"> <li>①入浴業務の効率化を目指すために入浴支援機器を導入し、業務の短縮を目的とした。それにより、昼食時間に及ぶことがある午前の入浴業務を改定し、お客様の余裕のある生活と職員の休憩時間の確保を目指した。</li> <li>②これまで排泄の業務はバケツを用いて行っており、一人一人の介助ごとに物品の準備と排泄物の処理を行っていたため、移動時間等に時間を要していた。</li> <li>③褥瘡予防のためのポジショニングに時間を要していた。特に看取り期の栄養不足の利用者に関しては、数種類のクッションを用いて、2時間に1回の体位交換で15分要した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄に必要な物品を集約した排泄専用台車を使用することで、移動による時間を削減。一律排泄介助を個々での排泄介助に変更したことと合わせ、業務の均等化が実現できた。</li> <li>排泄に必要な物品が集約できる排泄専用台車を使用することで、移動による空白の時間を排除することができた。一律排泄介助を個々での排泄介助に変更したことと合わせ、業務の均等化が実現できた。</li> <li>自動体位変換機を使用することで、利用されるお客様の体重や、体位変換の間隔、傾き、部位を設定することで、職員の介入がなく適切な体位交換の提供が可能となった。これにより、職員の業務軽減とお客様の適正な体位交換の提供が実現された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄専用台車の購入のみで得られる効果は予想以上のものであった。そのため、本実証を通して、今後は他施設での購入を推奨し効率化の横展開を目指す。</li> <li>メーカーの違う2種の自動体位変換機を使い分けることで、更に個々のお客様に合った体位変換の実現に向け使い分けて効果を見極め、職員の業務軽減を目指す。</li> </ul>
介護付有料老人ホーム すこや家・北新横浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の準備・配膳や入浴業務の業務負担や効率化が課題であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷温カートを導入することで、食事の準備・配膳が効率化された。</li> <li>入浴の際に自動で泡が出る機械を導入することで、入浴時の負担が減った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後はより入浴業務が効率化されるように検討する。</li> </ul>

図表 VI-13 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(その他のテクノロジー):新規実証

施設名	A.通常(現在)の内容(工夫・変更前)	B.導入後の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
介護付有料老人ホーム みんなの家・土呂栄光荘	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴業務において、業務負担が大きかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴支援機器を導入することにより業務量を軽減させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる業務の効率化を目指す。</li> </ul>
チャーム南田辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護業務支援ソフト(業務スケジュール作成)を導入していたが、シフト・曜日ごとの予定率にムラがあった。具体的には、週3日は日勤6名体制、週4日は日勤7名体制であった。また、土日は入浴業務の稼働率が平日と比べ低かった。</li> <li>残業時間が増加傾向であった。</li> <li>定時退勤を優先し、急いで業務・ケアを実施することが発生しており、品質低下につながりうる状態であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護業務支援ソフトを用いてケア予定の見直しを実施。入浴スケジュールの見直しを行い、週7日全日スケジュールを平準化させる。</li> <li>間接業務を可能な限り週4日7人目職員に割り当て、業務優先度を検討のうえ、介護助手を含む代替え方法に切り替える。 (=介護助手に相当する間接業務専門のラインを設ける。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴担当者の早出職員の稼働時間減、早出・遅出職員の間接業務稼働時間減を調整後、全日勤務6名体制のオペレーションに変更を目指す。</li> </ul>
チャーム西宮用海町	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護業務支援ソフト(業務スケジュール作成)を導入していたが、十分に活用ができていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護業務支援ソフトを用いて、業務を可視化し、シフトごとの役割分担を変更する。遅出1名を通常の介護業務から、介護助手の業務内容に変更し、夜勤1名の深夜帯の業務を、雑務・宿直業務に変更する。(=介護助手に相当する間接業務専門のラインを設ける。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※介護職員がご入居者様のケアに充てる時間を増やすことで介護サービスの生産性向上(品質向上)を目的とする。</li> <li>介護に従事しないシフト・時間帯を新たに設定することで、職員採用を容易にする。</li> </ul>
特定有料老人ホームリバティールハウスあさくら	<ul style="list-style-type: none"> <li>本実証での利用予定なし。</li> </ul>		
特定施設入居者生活介護 虹の夢津	<ul style="list-style-type: none"> <li>本実証での利用予定なし。</li> </ul>		
介護付有料老人ホーム アズハイム三郷	<ul style="list-style-type: none"> <li>本実証での利用予定なし。</li> </ul>		

図表 VI-14 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(介護補助者(介護助手)):過年度比較実証

施設名	A.通常(昨年度事前調査)の内容(工夫・変更前)	B.導入後(昨年度事後調査以降)の内容(工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※本実証を通して目指す効果
介護付有料老人ホーム介護付有料老人ホームさわやか宗像館	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入していない。</li> <li>現在正規雇用の職員について、直接介護に関わっている度合いに応じて役割を変更することは検討している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>本実証での導入予定なし。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手の業務はこれまでも間接介助に多く携わっていた。リネン交換、おむつ発注業務、備品の管理、簡単な修繕業務等の業務が確立されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務に予定を見直すことにより、一部の介護助手職員は面会に来られたお客様の対応や誘導にも携わる時間が捻出できた。また物品搬入や整理の対応、個々の備品の発注なども携わってもらっている。</li> <li>上記により更に業務の予定を明確とし、効率の良い間接業務が可能となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間でのパート職員のできることを改めて抽出し、無駄のない平等な間接業務の提供を目指す。</li> </ul>
介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接介護に時間を要していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーン職員社員 1 名、週 3 回の介護助手が 2 名が介護助手として勤務。</li> <li>クリーン職員に対して利用者様がコミュニケーションを取るようになったため、介護職寄りの仕事になり、かえって介護職の仕事が増えていることが課題。</li> <li>クリーン職員は介護現場未経験のため、利用者とのコミュニケーションの取捨選択が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は同一のユニフォームを着ているが、役割に応じてユニフォームを変える等の工夫を検討する。</li> <li>見た目を変えることで、割り切った仕事の変更、教育、研修、指導を目指す必要があると考える。</li> <li>介護助手の導入ではないが、本実証の調査期間では試験的に早番を 1 名削減した状態でオペレーションを組み替える。</li> </ul>

図表 VI-15 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容(介護補助者(介護助手)):新規実証

施設名	A.通常(現在)の内容(工夫・変更前)	B.導入後の内容(工夫・変更後) ※具体的な取組	C.工夫・変更の目的、目指すところ ※目指す効果
介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セカンド職員という間接業務と直接介護に分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員を分けることにより業務の分担をする</li> </ul>
チャーム南田辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オペレーションを変更することで、既存職員において介護助手の役割を担うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割分担による業務の効率化を目指す。</li> </ul>
チャーム西宮用海町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オペレーションを変更することで、既存職員において介護助手の役割を担うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割分担による業務の効率化を目指す。</li> </ul>
特定有料老人ホームリバティハウスあさくら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護助手は0名。</li> <li>・ ケアワーカーが賄い業務も含むすべてを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助手を配置する。もしくは、ケアワーカーの1名をフリー(特定時間のみでも可)として配置し、全ユニットの賄い業務を中心に行う。</li> <li>・ インカムを使用して、応援要請に応じて全ユニットの業務を補助的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務分担を行い、業務全体の効率化を図る。職員が有給休暇の取得がしやすいようにする。</li> </ul>
特定施設入居者生活介護 虹の夢津	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労支援 A 型事業所が併設しており、すでに洗濯や共用部分の清掃(浴室含む)、ゴミ回収を委託している。ただ、介護補助者と内容が被る部分がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間接業務は委託業者に、その他の直接介護や行動上の問題への対応を介護補助者が対応するように分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委託しているところと介護補助者の業務を明確化することで介護専門職がより利用者と接する時間を増やす。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアズハイム三郷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護助手が在籍。洗い物、見守りなどを行ってもらっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助者にダイニングの見守り、食器洗いを行ってもらうことで、ケア職員が居室での身体介助を行う時間を捻出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実証においては、緊急時以外ヘルプをしないルールとして業務を遂行する。</li> </ul>

## (6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

### ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「S.サポーターとして勤務」「A.直接介護(小分類 6 つ)」「B.間接業務(小分類 5 つ)」「C. 休憩・待機・仮眠」「D. その他、未記入」「E.余裕時間」の6分類で整理し、計 15 項目を用意した。

図表 VI-16 タイムスタディ調査 項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・移乗・体位変換
		2	排泄介助・支援
		3	日常生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護ロボット・ICT 機器の準備・使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

## イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組による職員や施設業務の変化、生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり、職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間、本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

## ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

## エ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

## オ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に 1 回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

## カ. 人員配置に係る調査

上記調査終了後、事前調査(オペレーション変更前)および事後調査(オペレーション変更後)の人員配置について実績値を確認した。入居換算数の計算に使う利用者数の調査票については、参考資料を参照されたい。

図表 VI-17 ア～エの調査内容の整理

No	調査分類	調査項目
ア	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施した業務時間(分)を1分刻みで自記(5日間)</li> <li>●サポーターとして勤務、直接介護、間接業務、休憩、その他の分類で計15項目</li> </ul>
イ	職員向け調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員概要(年齢、職種、役職、経験年数等)</li> <li>●心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 SRS-18)</li> <li>●生産性向上の取組によるモチベーションの変化</li> <li>●生産性向上の取組による職員や施設業務の変化</li> <li>●生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり</li> <li>●職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間</li> <li>●本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務</li> <li>●全体的な満足度評価</li> </ul>
ウ	利用者向け調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者概要(性別・年齢・要介護度・障害高齢者の日常生活自立度)</li> <li>●ADLの変化(Barthel Index)</li> <li>●認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度、生活・認知機能尺度)</li> <li>●認知機能変化の総合的な評価</li> <li>●利用者への心理的な影響(Vitality Index)</li> <li>●QOLの変化(WHO-5)</li> <li>●QOL変化の総合的な評価</li> <li>●利用者のコミュニケーションの変化</li> <li>●コミュニケーション変化の総合的な評価</li> <li>●利用者の社会参加の変化</li> <li>●社会参加の変化の総合的な評価</li> <li>●ケア内容の変更</li> <li>●利用者からの意見等</li> </ul>
エ	業務時間等調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員毎の令和6年9～12月における1か月ごとの所定労働時間、総労働時間</li> <li>●職員毎の令和6年度(12か月分)の年間の有給休暇付与の日数と、同一期間内における有給休暇の取得日数</li> <li>●職員毎の令和5年9～12月における1か月ごとの所定労働時間、総労働時間</li> <li>●職員毎の令和5年度(12か月分)の年間の有給休暇付与の日数と、同一期間内における有給休暇の取得日数</li> <li>●実証期間(令和6年9月～12月)中の、生産性向上の取組に起因するヒヤリハットまたは事故の発生状況</li> </ul>

## 2. 実証結果(過年度比較実証)

過年度比較においては、過年度の事前調査(令和5年度)と事後調査(今年度)の間で結果を比較するが、一部の調査項目については過年度の事後調査(令和5年度)との間で結果を比較した。

また、事前調査(令和5年度)と事後調査(今年度)の間での職員や利用者の入れ替わりによる不一致は考慮せず、それぞれの時点における回答者全員を対象とした。

### (1) 利用者・職員概要

#### ア. 利用者概要

図表 VI-18 利用者概要:過年度比較実証全体 性別

		男性	女性	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	41	153	4	198
	割合	21%	77%	2%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	37	158	0	195
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 VI-19 利用者概要:過年度比較実証全体 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	5	3	8	27	47	63	42	3	198
	割合	3%	2%	4%	14%	24%	32%	21%	2%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	4	1	10	28	44	68	39	1	195
	割合	2%	1%	5%	14%	23%	35%	20%	1%	100%

図表 VI-20 利用者概要:過年度比較実証全体 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	50	36	41	32	13	17	7	2	198
	割合	25%	18%	21%	16%	7%	9%	4%	1%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	56	40	38	30	12	19	0	0	195
	割合	29%	21%	19%	15%	6%	10%	0%	0%	100%

図表 VI-21 利用者概要:過年度比較実証全体 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	2	9	0	41	33	35	14	3	0	61	198
	割合	1%	5%	0%	21%	17%	18%	7%	2%	0%	31%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	1	6	27	45	22	26	7	5	30	26	195
	割合	1%	3%	14%	23%	11%	13%	4%	3%	15%	13%	100%

## イ. 職員概要

図表 VI-22 職員概要:過年度比較実証全体 性別

		男性	女性	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	25	61	3	89
	割合	28%	69%	3%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	30	44	0	74
	割合	41%	59%	0%	100%

図表 VI-23 職員概要:過年度比較実証全体 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	1	10	17	15	24	17	2	3	89
	割合	1%	11%	19%	17%	27%	19%	2%	3%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	1	13	15	16	18	9	2	0	74
	割合	1%	18%	20%	22%	24%	12%	3%	0%	100%

図表 VI-24 職員概要:過年度比較実証全体 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	36	39	12	0	0	0	2	0	89
	割合	40%	44%	13%	0%	0%	0%	2%	0%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	26	39	9	0	0	0	0	0	74
	割合	35%	53%	12%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VI-25 職員概要:過年度比較実証全体 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	0	13	57	19	0	89
	割合	0%	15%	64%	21%	0%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	0	11	59	4	0	74
	割合	0%	15%	80%	5%	0%	100%

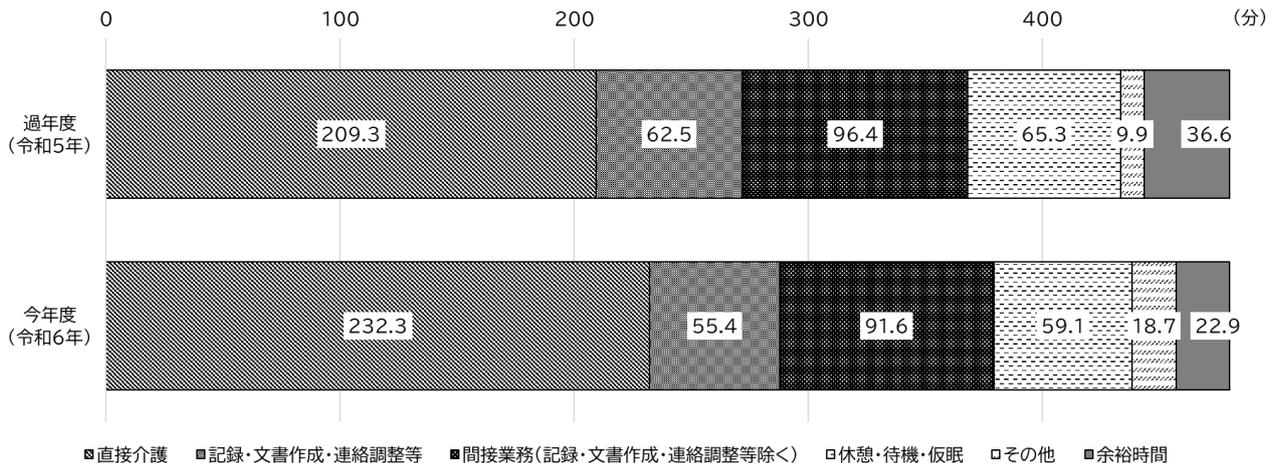
## (2) タイムスタディ調査結果

介護職員のタイムスタディ調査の結果に関する過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

直接介護の時間は、209.3分(過年度)から232.3分(今年度)に増加した。

間接業務(記録・文書作成・連絡調整等除く)の時間は、96.4分(過年度)から91.6分(今年度)に減少した。

図表 VI-26 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり):過年度比較全体



過年度 n=77

今年度 n=60

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

※事後調査において、Qライン等(和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を図った介護職員)やサポーターが担った直接介護以外の業務は集計から除外した。

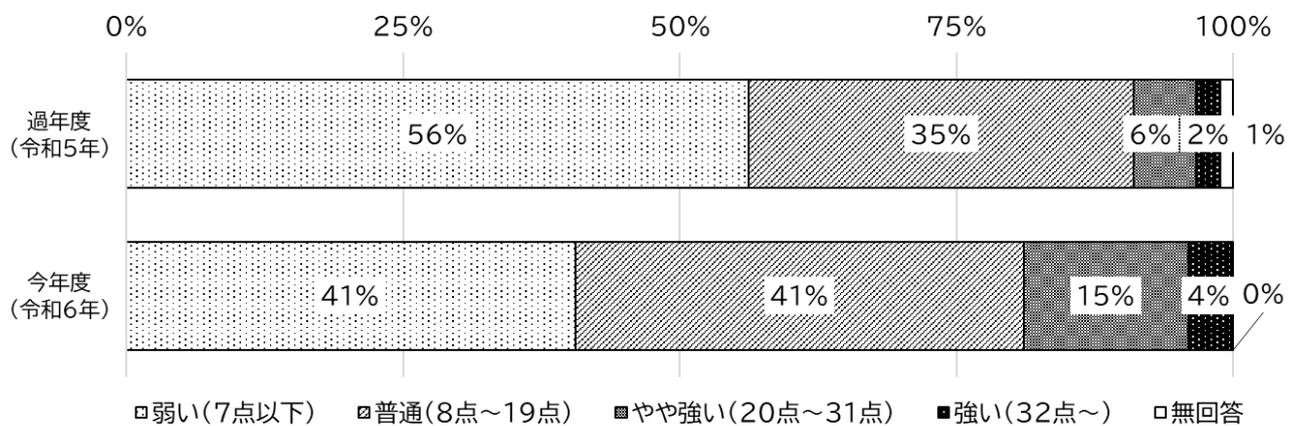
### (3) 職員向けアンケート調査結果

#### ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)における、過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-27 SRS-18 過年度比較実証全体

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	50	31	5	2	1	89
	割合	56%	35%	6%	2%	1%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	30	30	11	3	0	74
	割合	41%	41%	15%	4%	0%	100%



過年度 n=89

今年度 n=74

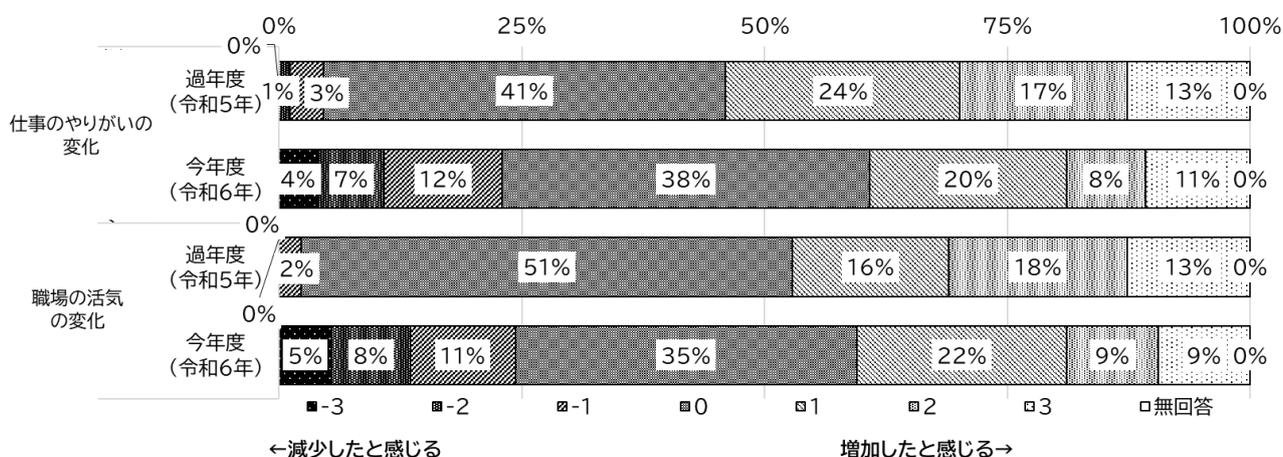
※ストレス反応は、SRS-18 個人の合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価し、事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

## イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-28 生産性向上の取組によるモチベーションの変化:過年度比較実証全体

			←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	過年度(令和5年)	人数(人)	0	1	3	36	21	15	11	0	87
		割合	0%	1%	3%	41%	24%	17%	13%	0%	100%
	今年度(令和6年)	人数(人)	3	5	9	28	15	6	8	0	74
		割合	4%	7%	12%	38%	20%	8%	11%	0%	100%
職場の活気の変化	過年度(令和5年)	人数(人)	0	0	2	44	14	16	11	0	87
		割合	0%	0%	2%	51%	16%	18%	13%	0%	100%
	今年度(令和6年)	人数(人)	4	6	8	26	16	7	7	0	74
		割合	5%	8%	11%	35%	22%	9%	9%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

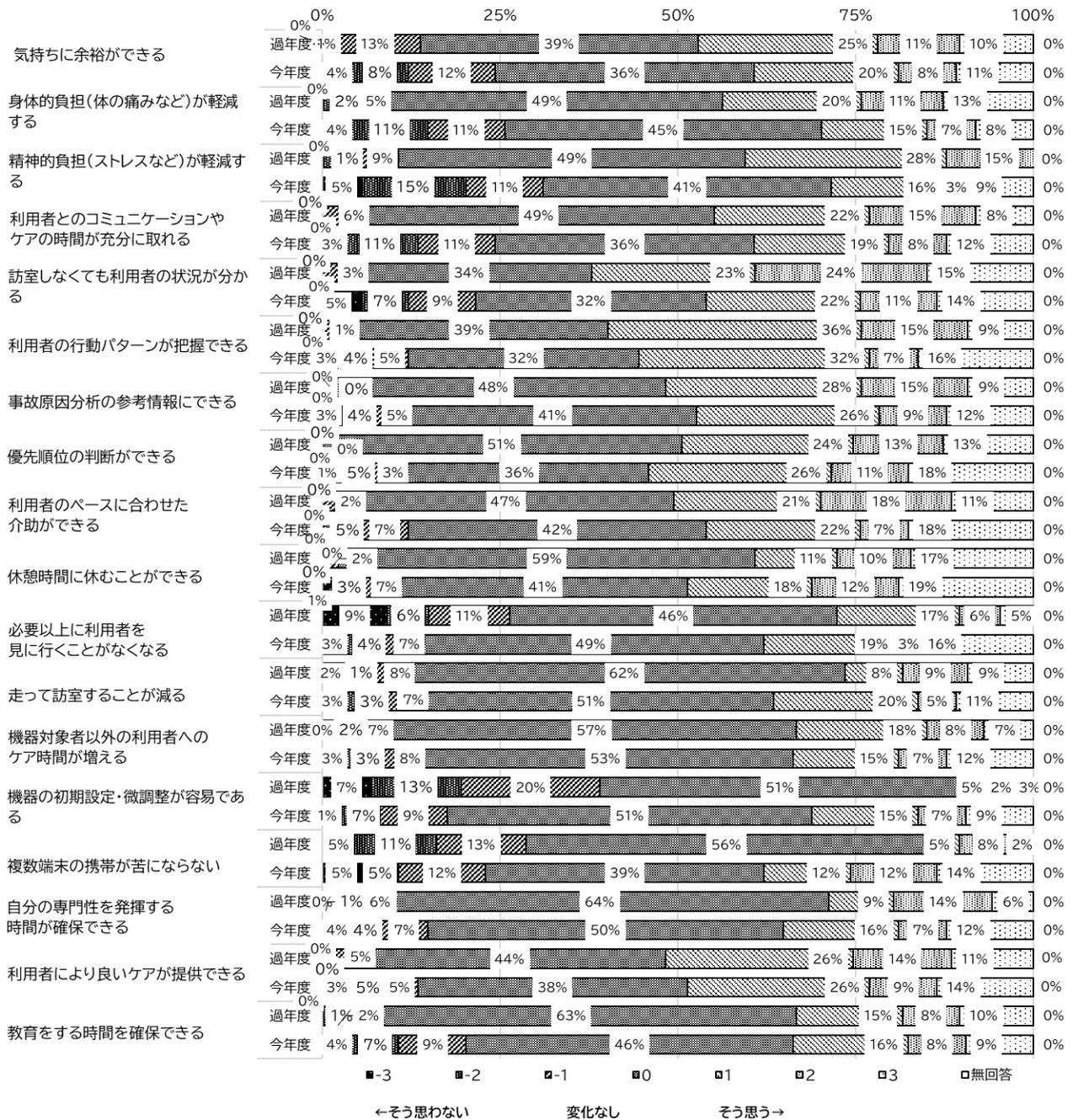
※過年度(令和5年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

## ウ. 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

生産性向上の取組による職員や施設業務の変化の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-29 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化:過年度比較実証全体

			←そう思わない		変化なし			→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	過年度	人数(人)	0	1	11	34	22	10	9	0	87
	(令和5年)	割合	0%	1%	13%	39%	25%	11%	10%	0%	100%
	今年度	人数(人)	3	6	9	27	15	6	8	0	74
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	過年度	人数(人)	0	2	4	43	17	10	11	0	87
	(令和5年)	割合	0%	2%	5%	49%	20%	11%	13%	0%	100%
	今年度	人数(人)	3	8	8	33	11	5	6	0	74
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	過年度	人数(人)	0	1	7	36	21	11	11	0	87
	(令和5年)	割合	0%	1%	9%	49%	28%	15%	15%	0%	118%
	今年度	人数(人)	4	11	8	30	12	2	7	0	74
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	過年度	人数(人)	0	0	5	43	19	13	7	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	6%	49%	22%	15%	8%	0%	100%
	今年度	人数(人)	2	8	8	27	14	6	9	0	74
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	過年度	人数(人)	0	0	3	30	20	21	13	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	3%	34%	23%	24%	15%	0%	100%
	今年度	人数(人)	4	5	7	24	16	8	10	0	74
利用者の行動パターンが把握できる	過年度	人数(人)	0	0	1	34	31	13	8	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	1%	39%	36%	15%	9%	0%	100%
	今年度	人数(人)	2	3	4	24	24	5	12	0	74
事故原因分析の参考情報にできる	過年度	人数(人)	0	0	0	42	24	13	8	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	0%	48%	28%	15%	9%	0%	100%
	今年度	人数(人)	2	3	4	30	19	7	9	0	74
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	過年度	人数(人)	0	0	0	44	21	11	11	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	0%	51%	24%	13%	13%	0%	100%
	今年度	人数(人)	1	4	2	27	19	8	13	0	74
利用者のペースに合わせた介助ができる	過年度	人数(人)	0	0	2	41	18	16	10	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	2%	47%	21%	18%	11%	0%	100%
	今年度	人数(人)	0	4	5	31	16	5	13	0	74
休憩時間に休むことができる	過年度	人数(人)	0	0	2	51	10	9	15	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	2%	59%	11%	10%	17%	0%	100%
	今年度	人数(人)	1	2	5	30	13	9	14	0	74
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	過年度	人数(人)	8	5	10	40	15	5	4	0	87
	(令和5年)	割合	9%	6%	11%	46%	17%	6%	5%	0%	100%
	今年度	人数(人)	2	3	5	36	14	2	12	0	74
走って訪室することが減る	過年度	人数(人)	2	1	7	54	7	8	8	0	87
	(令和5年)	割合	2%	1%	8%	62%	8%	9%	9%	0%	100%
	今年度	人数(人)	2	2	5	38	15	4	8	0	74
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	過年度	人数(人)	0	2	6	50	16	7	6	0	87
	(令和5年)	割合	0%	2%	7%	57%	18%	8%	7%	0%	100%
	今年度	人数(人)	2	2	6	39	11	5	9	0	74
機器の初期設定・微調整が容易である	過年度	人数(人)	6	11	17	44	4	2	3	0	87
	(令和5年)	割合	7%	13%	20%	51%	5%	2%	3%	0%	100%
	今年度	人数(人)	1	5	7	38	11	5	7	0	74
複数端末の携帯が苦にならない	過年度	人数(人)	4	10	11	49	4	7	2	0	87
	(令和5年)	割合	5%	11%	13%	56%	5%	8%	2%	0%	100%
	今年度	人数(人)	4	4	9	29	9	9	10	0	74
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	過年度	人数(人)	0	1	5	56	8	12	5	0	87
	(令和5年)	割合	0%	1%	6%	64%	9%	14%	6%	0%	100%
	今年度	人数(人)	3	3	5	37	12	5	9	0	74
利用者により良いケアが提供できる	過年度	人数(人)	0	0	4	38	23	12	10	0	87
	(令和5年)	割合	0%	0%	5%	44%	26%	14%	11%	0%	100%
	今年度	人数(人)	2	4	4	28	19	7	10	0	74
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	過年度	人数(人)	0	1	2	55	13	7	9	0	87
	(令和5年)	割合	0%	1%	2%	63%	15%	8%	10%	0%	100%
	今年度	人数(人)	3	5	7	34	12	6	7	0	74
			4%	7%	9%	46%	16%	8%	9%	0%	100%



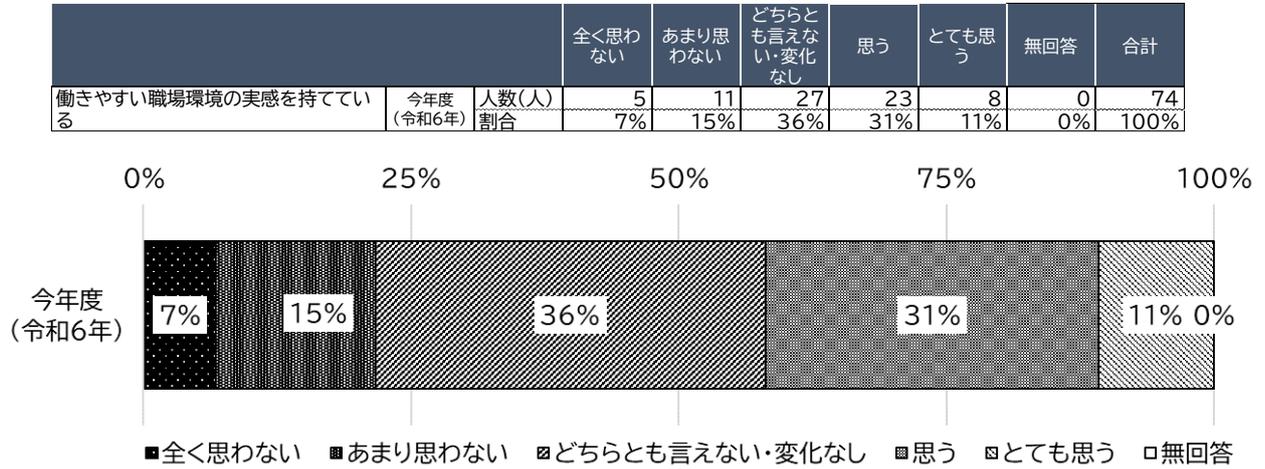
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

※過年度(令和5年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。なお、過年度事後調査では、「機器導入による職員や施設業務の変化」について調査を実施した。

## エ. 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり

生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感に関する過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-30 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感:過年度比較実証全体

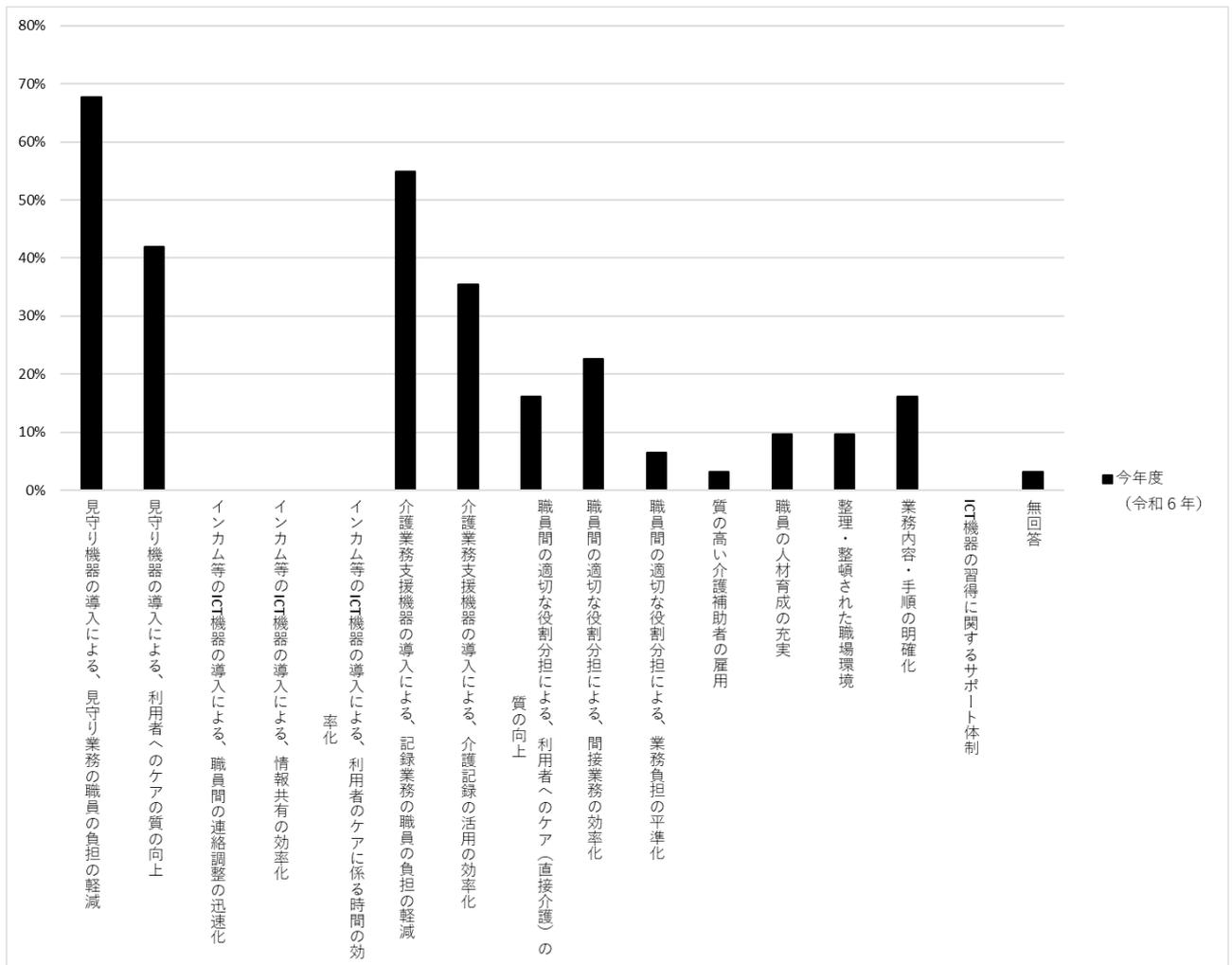


※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

図表 VI-31 「思う」または「とても思う」と回答した場合、その実感が持つことができた要因(5つ):過年度比較実証全体

今年度(令和6年)	人数(人) 割合	テクノロジーの導入					職員間の適切な役割分担 (タスク・ソフト/シエア)					その他					無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	インカム等のICT機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	介護業務支援機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化		
今年度(令和6年)	人数(人) 割合	21 68%	13 42%	0 0%	0 0%	0 0%	17 55%	11 35%	5 16%	7 23%	2 6%	1 3%	3 10%	3 10%	5 16%	0 0%	1 3%	31

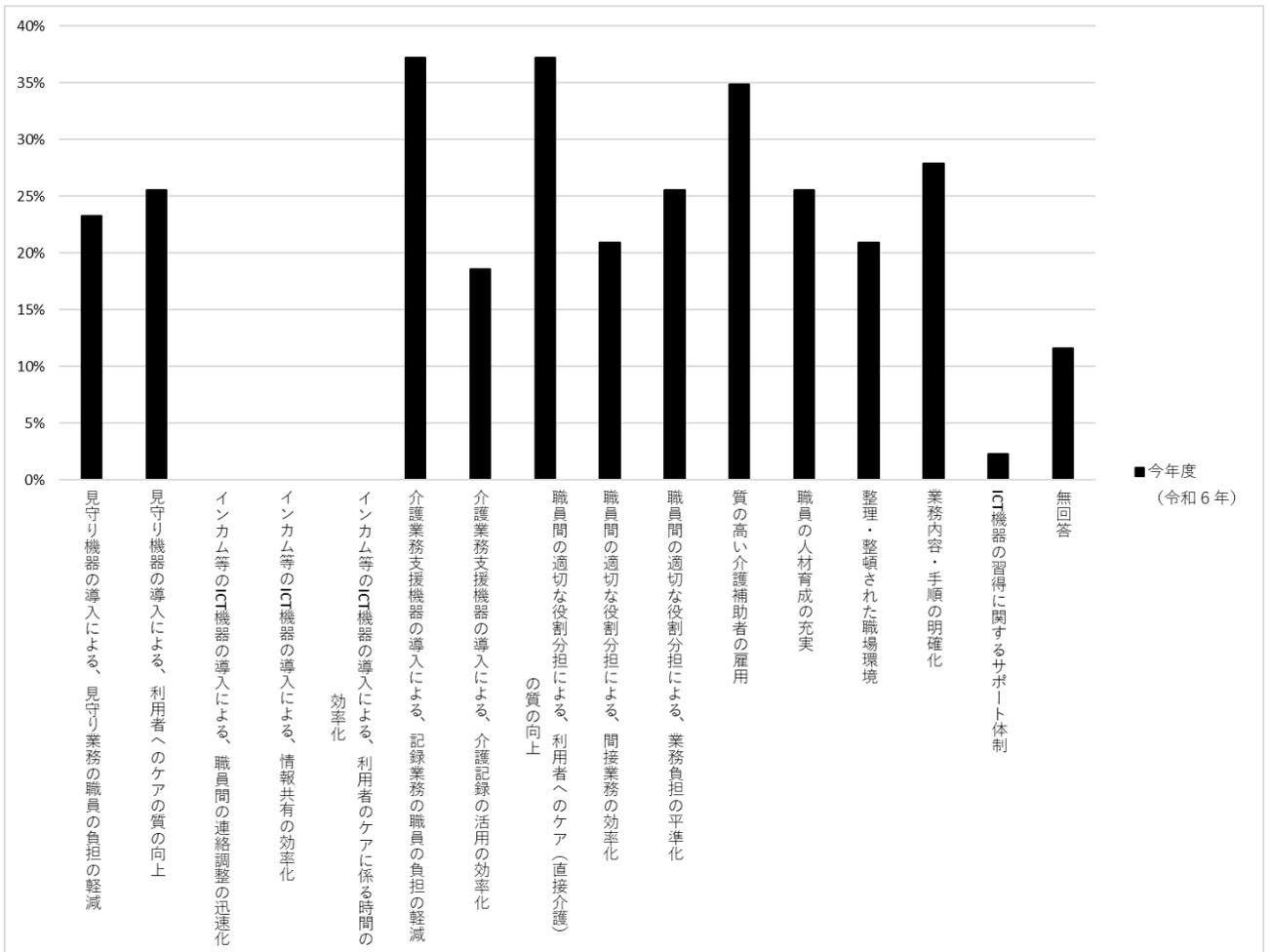


※該当する項目を最大5つ選択する設問。

※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

図表 VI-32 「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要なと思う項目(5つ):過年度比較実証全体

今年度(令和6年)	人数(人) 割合	テクノロジーの導入					職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他					無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	インカム等のICT機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	介護業務支援機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化		
今年度(令和6年)	人数(人) 割合	10 23%	11 26%	0 0%	0 0%	0 0%	16 37%	8 19%	16 37%	9 21%	11 26%	15 35%	11 26%	9 21%	12 28%	1 2%	5 12%	43



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

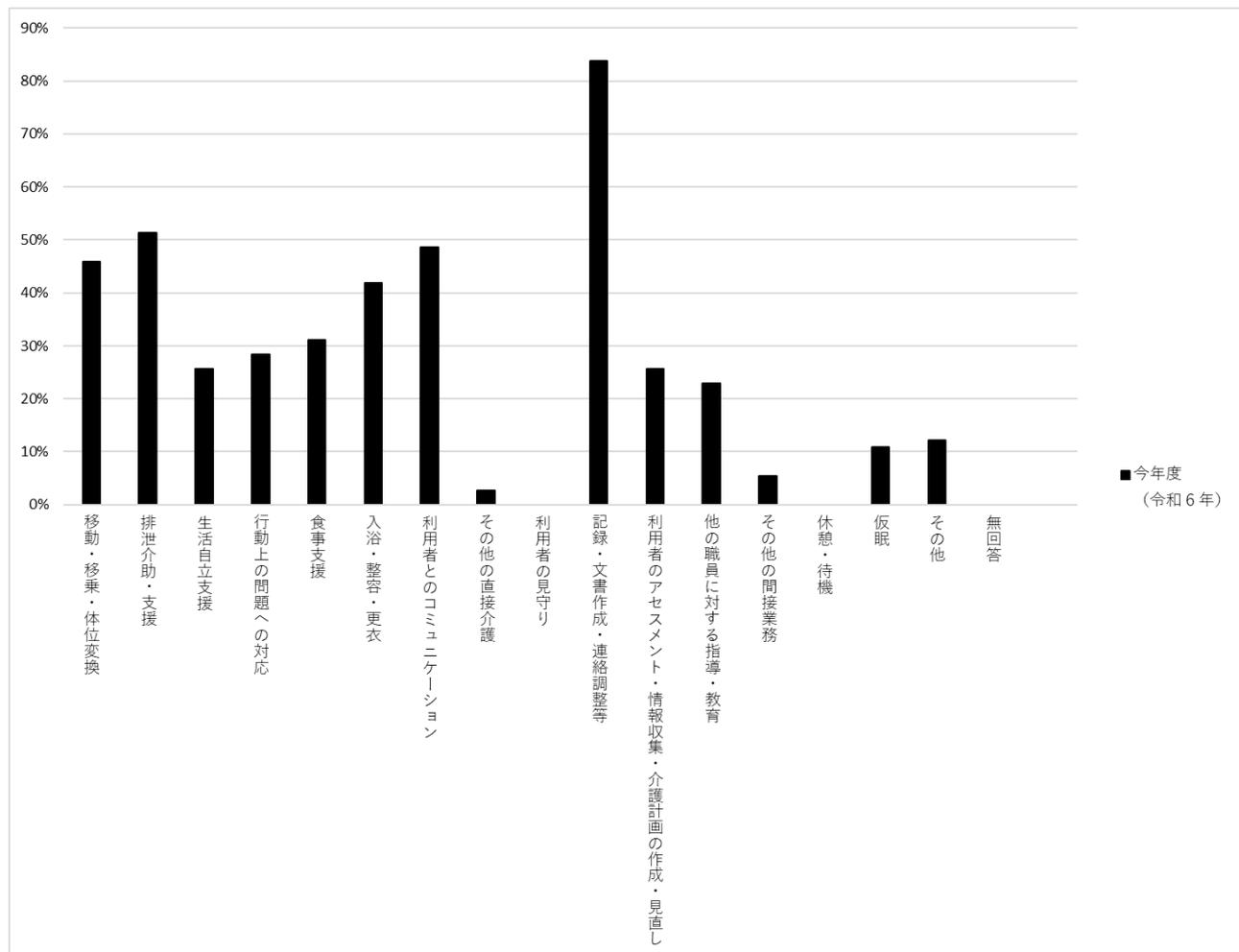
※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

## オ. 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-33 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間:過年度比較実証全体

今年度(令和6年)	人数(人) 割合	直接介護								間接業務					休憩		その他	無回答(人)	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	利用者の見守り	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠			
今年度(令和6年)	人数(人) 割合	34 46%	38 51%	19 26%	21 28%	23 31%	31 42%	36 49%	2 3%	0 0%	62 84%	19 26%	17 23%	4 5%	0 0%	8 11%	9 12%	0 0%	74



※該当する項目をすべて選択する設問。

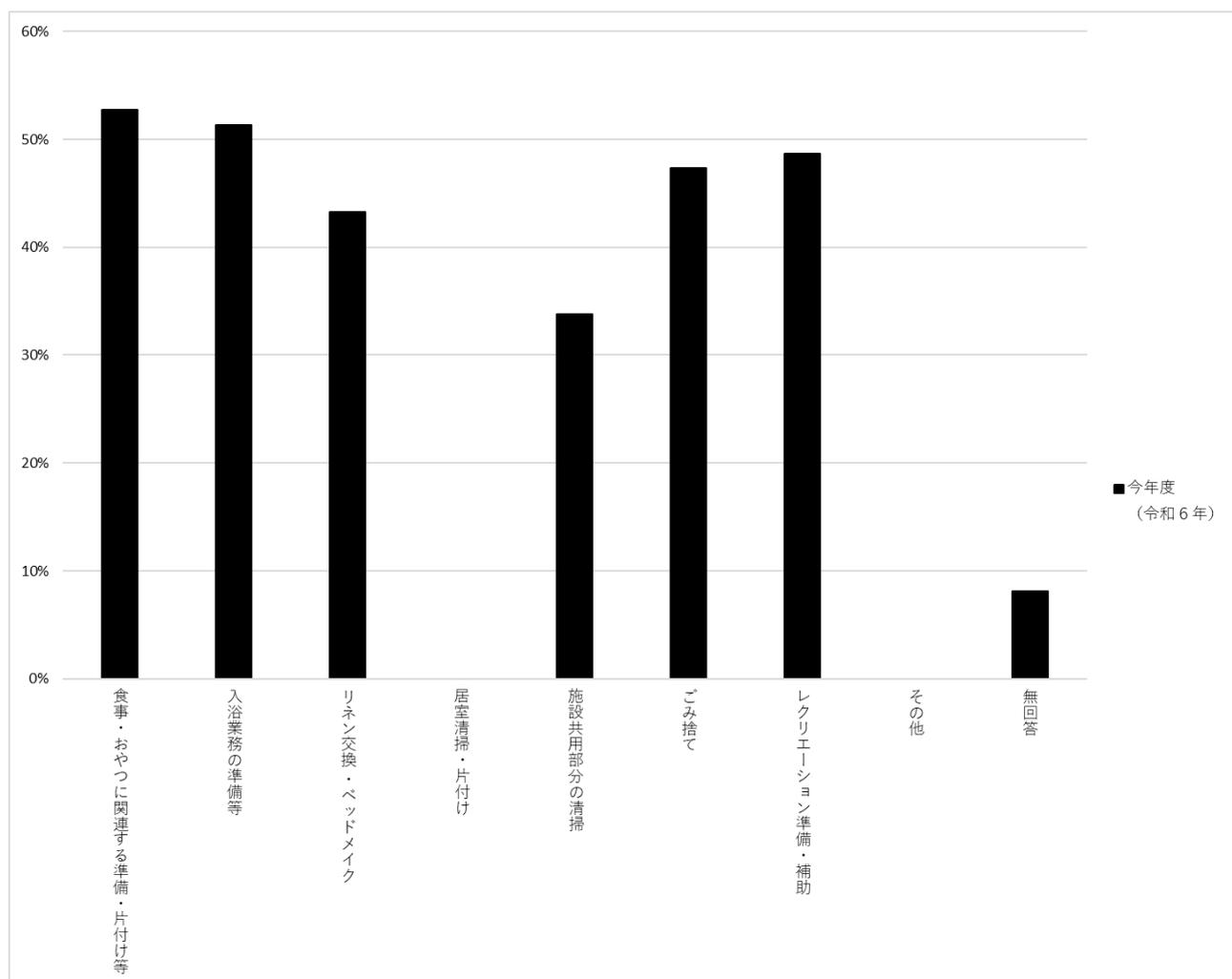
※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

カ. 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-34 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務:過年度比較実証全体

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
今年度(令和6年)	人数(人)	39	38	32	0	25	35	36	0	6	74
	割合	53%	51%	43%	0%	34%	47%	49%	0%	8%	-



※該当する項目をすべて選択する設問。

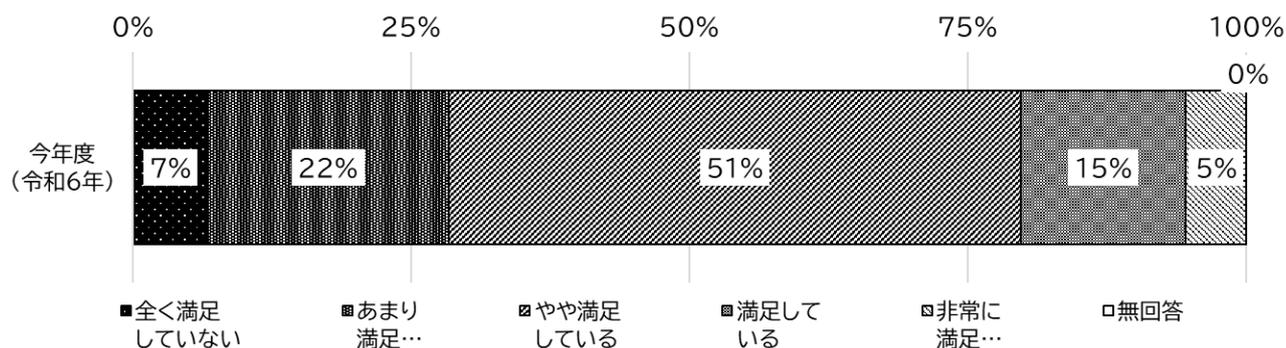
※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

## キ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-35 全体的な満足度評価：過年度比較実証全体

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
機器・テクノロジー等の導入や機器・テクノロジー等を使ったケアに、どれくらい満足していますか？	今年度 (令和6年)	人数(人)	5	16	38	11	4	0	74
		割合	7%	22%	51%	15%	5%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

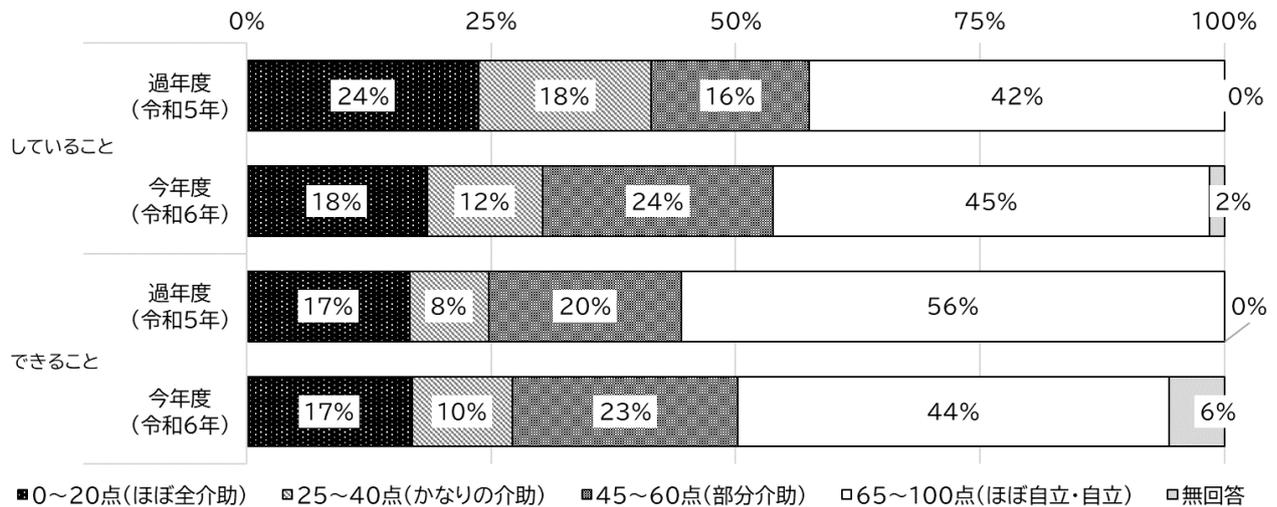
#### (4) 利用者向けアンケート調査結果

##### ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-36 日常生活動作(ADL)(Barthel Index):過年度比較実証全体

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	過年度(令和5年)	人数(人)	47	35	32	84	0	198
		割合	24%	18%	16%	42%	0%	100%
	今年度(令和6年)	人数(人)	36	23	46	87	3	195
		割合	18%	12%	24%	45%	2%	100%
できること	過年度(令和5年)	人数(人)	33	16	39	110	0	198
		割合	17%	8%	20%	56%	0%	100%
	今年度(令和6年)	人数(人)	33	20	45	86	11	195
		割合	17%	10%	23%	44%	6%	100%

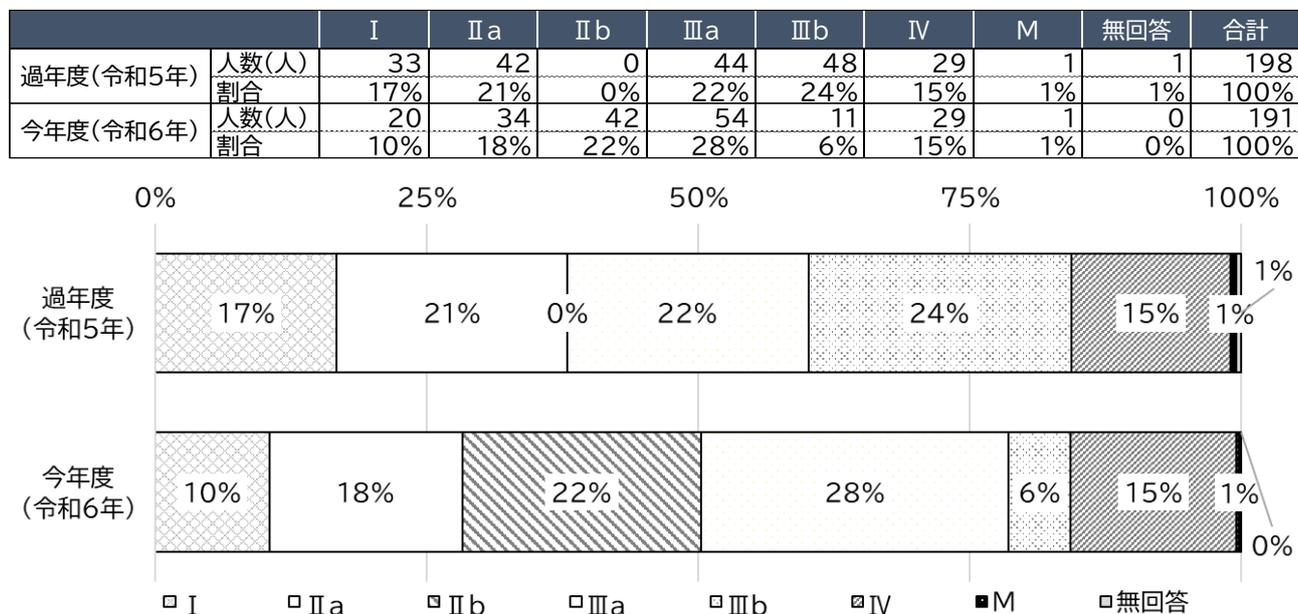


※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

### イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

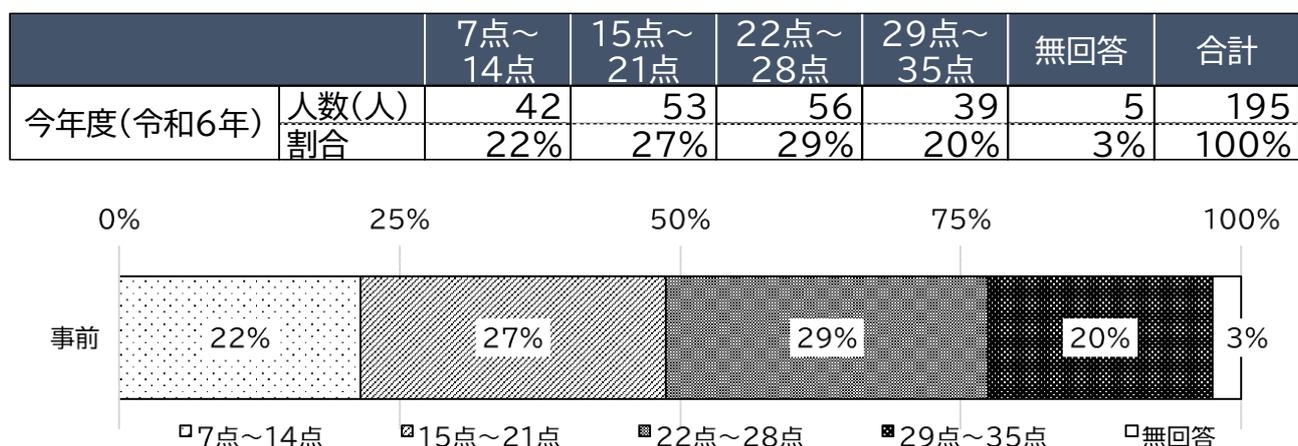
図表 VI-37 認知症高齢者の日常生活自立度:過年度比較実証全体



### ウ. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

生活・認知機能尺度の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-38 生活・認知機能尺度:過年度比較実証全体

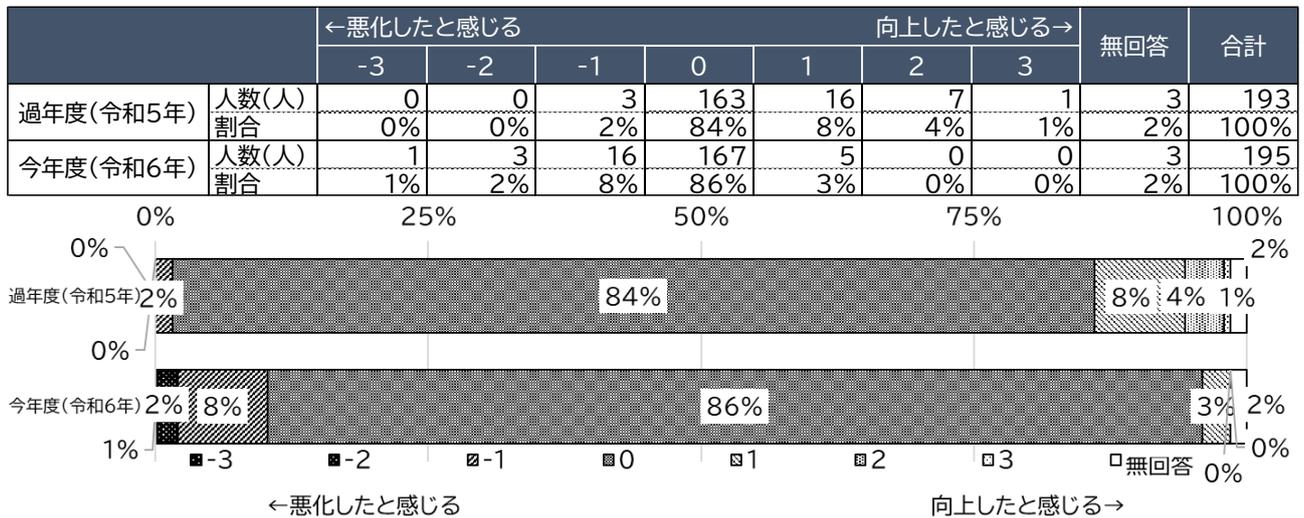


※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

## 工. 認知機能変化の総合的な評価

認知機能変化の総合的な評価に関する過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-39 認知機能変化の総合的な評価:過年度比較実証全体



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

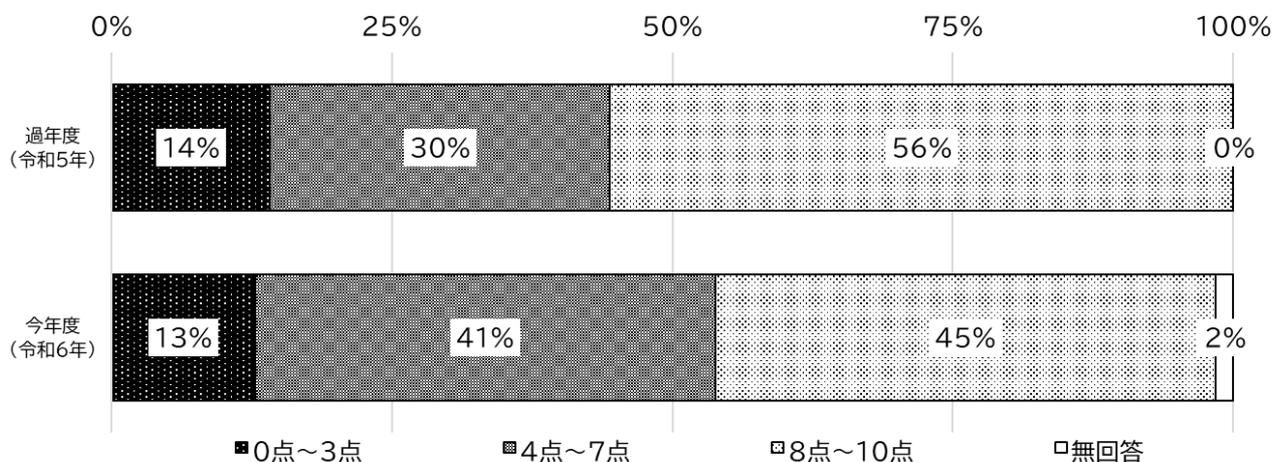
※過年度(令和5年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

## オ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-40 Vitality Index:過年度比較実証全体

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	28	60	110	0	198
	割合	14%	30%	56%	0%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	25	80	87	3	195
	割合	13%	41%	45%	2%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

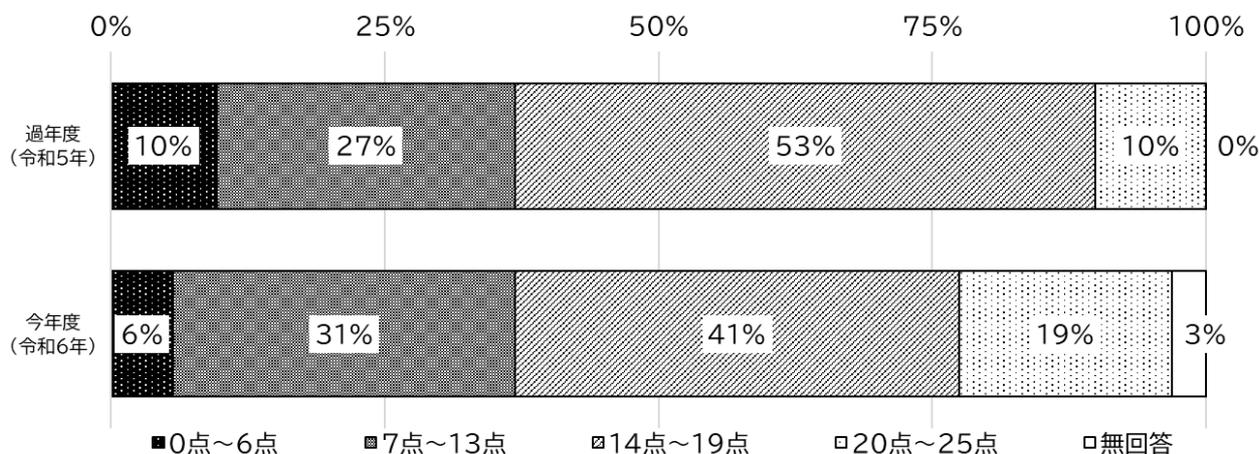
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

## カ. QOL の変化(WHO-5)

WHO-5 の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-41 WHO-5:過年度比較実証全体

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
過年度(令和5年)	人数(人)	19	54	105	20	0	198
	割合	10%	27%	53%	10%	0%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	11	61	79	38	6	195
	割合	6%	31%	41%	19%	3%	100%



過

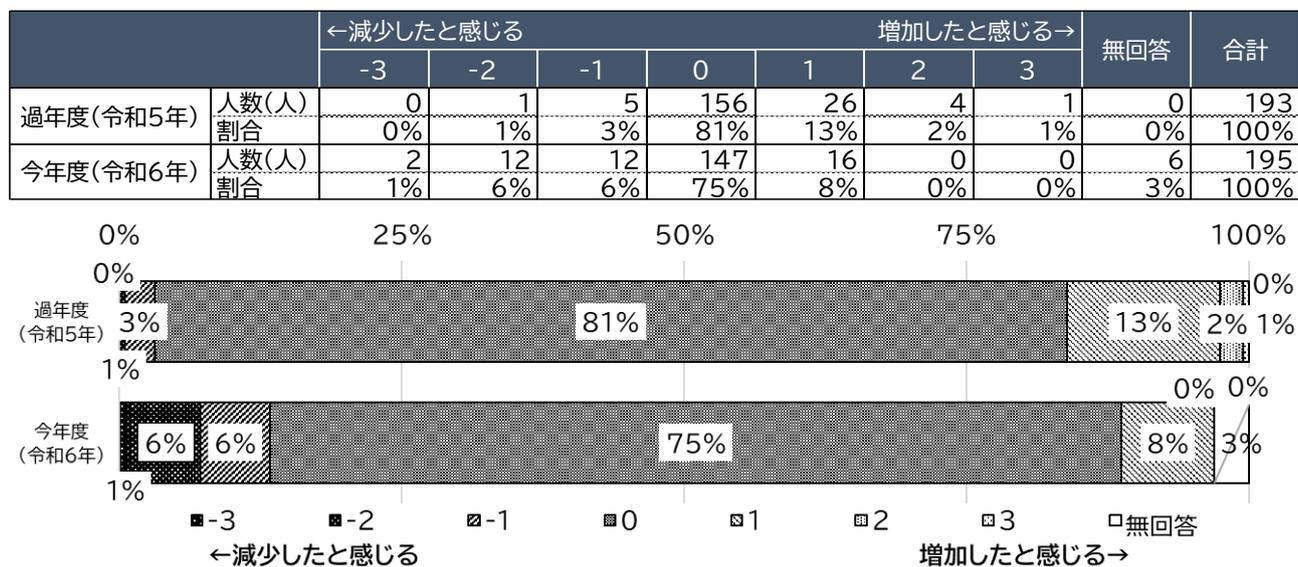
※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

## キ. QOL 変化の総合的な評価

QOL 変化の総合的な評価に関する過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-42 QOL 変化の総合的な評価: 過年度比較実証全体



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

※過年度(令和 5 年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

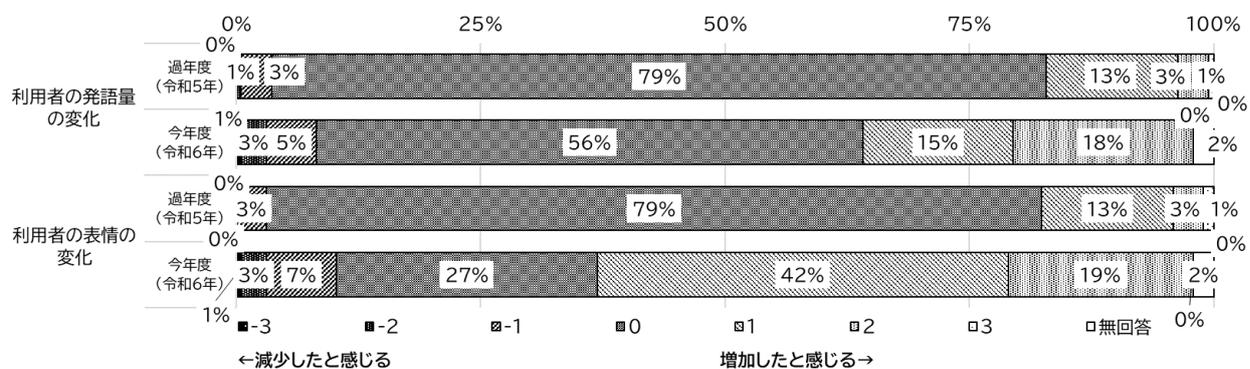
## ク. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化に関する過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

利用者の発語量の変化に関して、増加したと感じる割合が、17%(過年度)から 33%(今年度)に増加した。また、利用者の表情の変化は、増加したと感じる割合が、16%(過年度)から 61%(今年度)に増加した。

図表 VI-43 コミュニケーションの変化:過年度比較実証全体

			←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者の発語量の変化	過年度 (令和5年)	人数(人)	0	1	6	153	26	6	1	0	193		
		割合	0%	1%	3%	79%	13%	3%	1%	0%	100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人)	1	5	10	109	30	36	0	4	195		
		割合	1%	3%	5%	56%	15%	18%	0%	2%	100%		
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	過年度 (令和5年)	人数(人)	0	0	6	153	26	6	2	0	193		
		割合	0%	0%	3%	79%	13%	3%	1%	0%	100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人)	1	5	14	52	82	37	0	4	195		
		割合	1%	3%	7%	27%	42%	19%	0%	2%	100%		

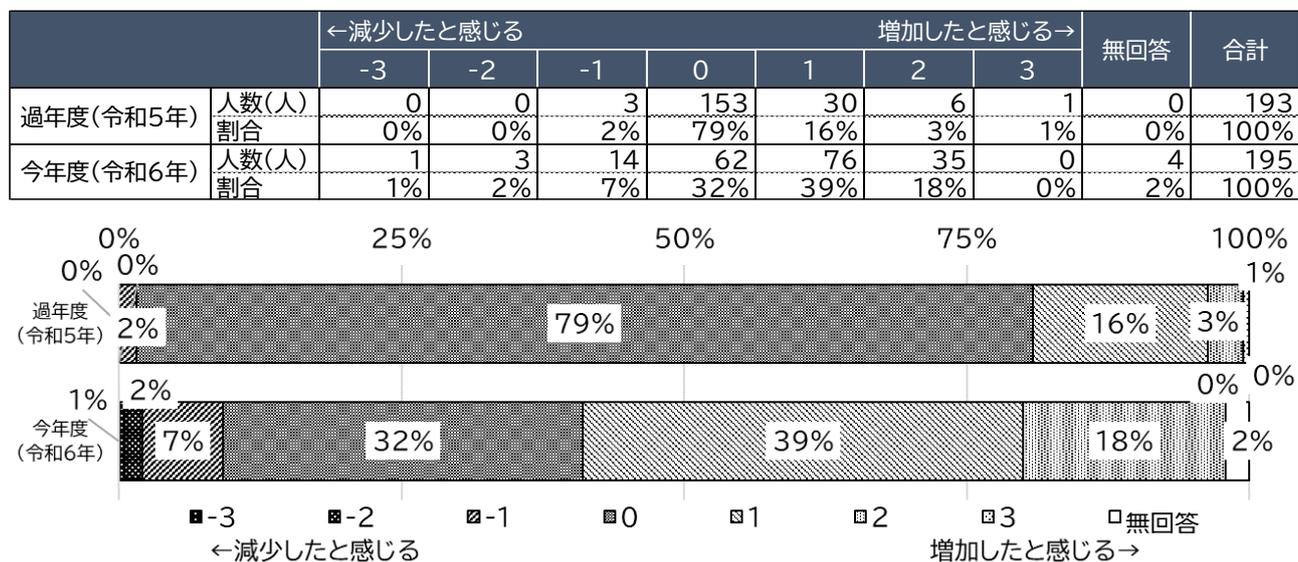


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

## ケ. コミュニケーション変化の総合的な評価

コミュニケーション変化の総合的な評価の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-44 コミュニケーション変化の総合的な評価：過年度比較実証全体



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

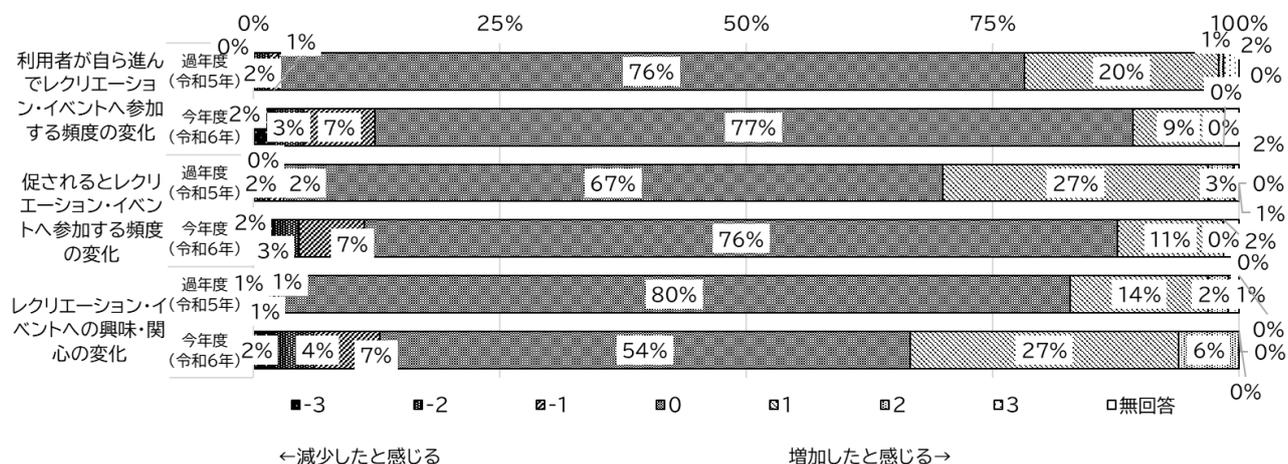
※過年度(令和5年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

## コ. 社会参加の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

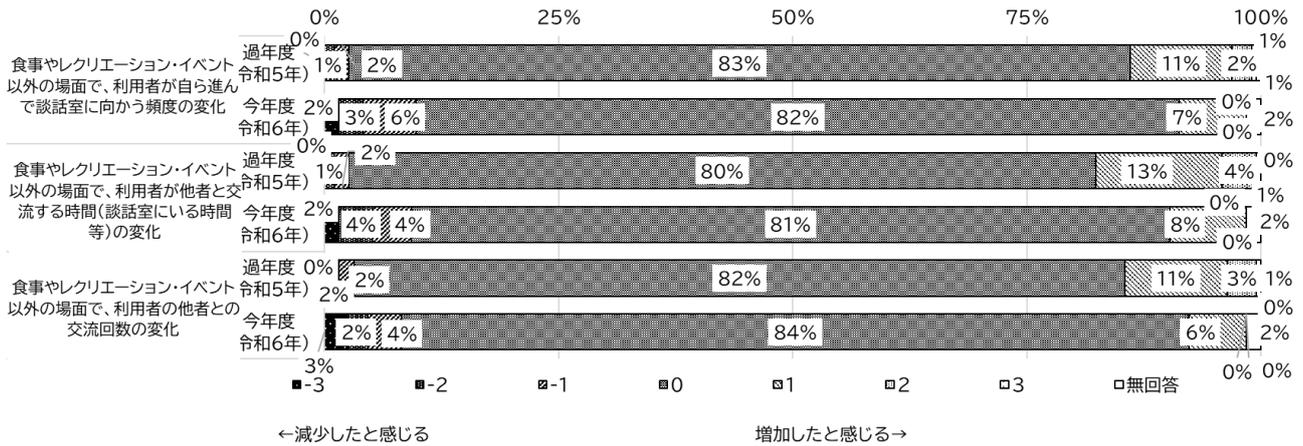
図表 VI-45 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化：過年度比較実証全体

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	過年度 (令和5年)	人数(人) 割合	0 0%	3 2%	2 1%	146 76%	38 20%	1 1%	3 2%	0 0%	193 100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人) 割合	4 2%	6 3%	14 7%	150 77%	18 9%	0 0%	0 0%	3 2%	195 100%		
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	過年度 (令和5年)	人数(人) 割合	0 0%	3 2%	3 2%	129 67%	52 27%	5 3%	1 1%	0 0%	193 100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人) 割合	4 2%	5 3%	13 7%	149 76%	21 11%	0 0%	0 0%	3 2%	195 100%		
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	過年度 (令和5年)	人数(人) 割合	1 1%	2 1%	2 1%	155 80%	27 14%	4 2%	2 1%	0 0%	193 100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人) 割合	4 2%	8 4%	13 7%	105 54%	53 27%	12 6%	0 0%	0 0%	195 100%		



図表 VI-46 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化：過年度比較実証全体

			←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	過年度 (令和5年)	人数(人) 割合	0 0%	2 1%	3 2%	161 83%	21 11%	4 2%	1 1%	1 1%	193 100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人) 割合	3 2%	5 3%	11 6%	159 82%	14 7%	0 0%	0 0%	3 2%	195 100%		
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	過年度 (令和5年)	人数(人) 割合	0 0%	2 1%	3 2%	154 80%	26 13%	7 4%	1 1%	0 0%	193 100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人) 割合	3 2%	7 4%	8 4%	158 81%	16 8%	0 0%	0 0%	3 2%	195 100%		
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	過年度 (令和5年)	人数(人) 割合	0 0%	3 2%	3 2%	159 82%	21 11%	6 3%	1 1%	0 0%	193 100%		
	今年度 (令和6年)	人数(人) 割合	5 3%	4 2%	7 4%	164 84%	12 6%	0 0%	0 0%	3 2%	195 100%		



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

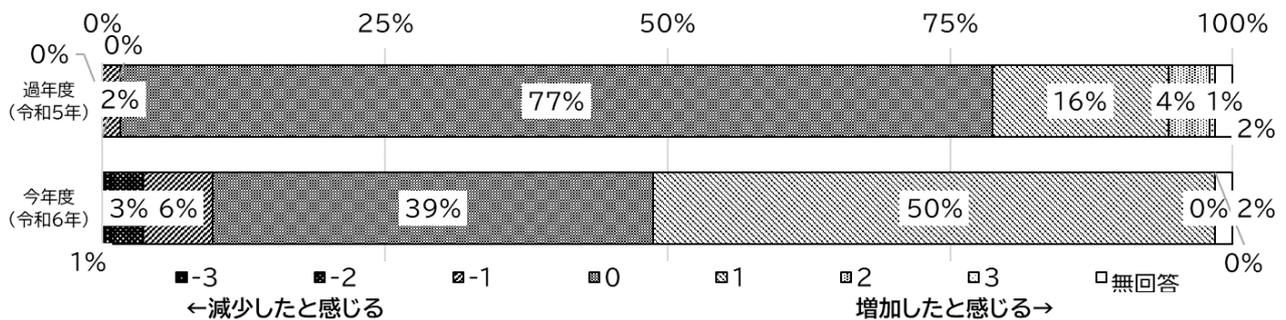
※過年度(令和 5 年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

### サ. 社会参加の変化の総合的な評価

社会参加の変化の総合的な評価に関する過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-47 社会参加の変化の総合的な評価:過年度比較実証全体

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2			3
過年度(令和5年)	人数(人)	0	0	3	149	30	7	1	3	193
	割合	0%	0%	2%	77%	16%	4%	1%	2%	100%
今年度(令和6年)	人数(人)	2	5	12	76	97	0	0	3	195
	割合	1%	3%	6%	39%	50%	0%	0%	2%	100%



過年度 n=193

今年度 n=195

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

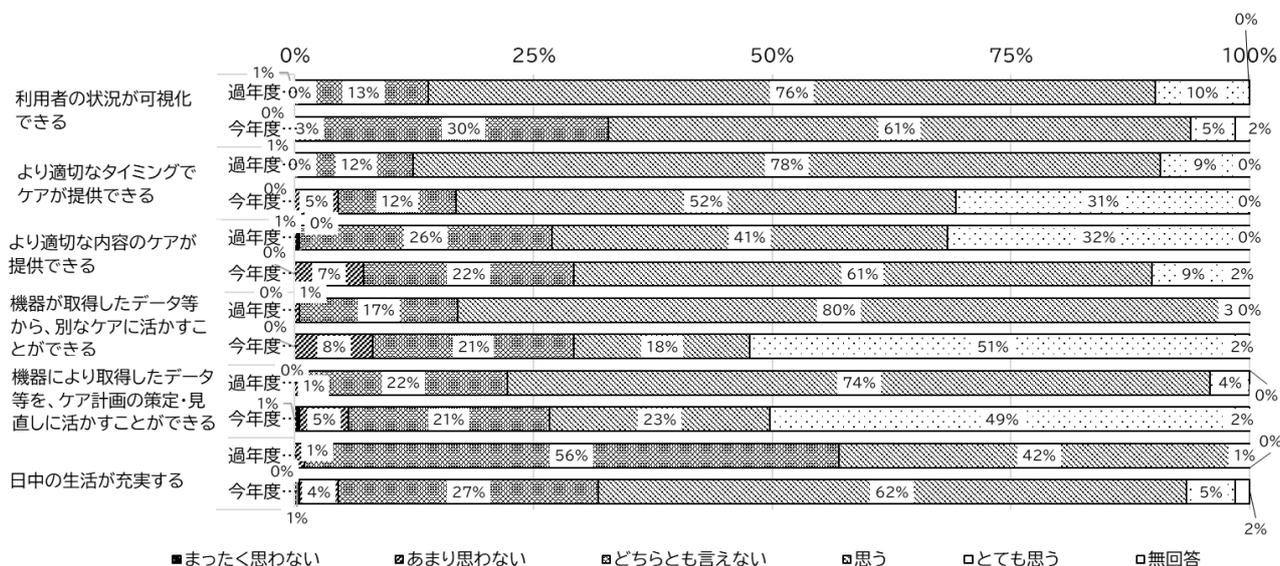
※過年度(令和 5 年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

## シ. ケアの変更

ケアの変更の過年度比較実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-48 ケアの変更:過年度比較実証全体

		まったく 思わない	あまり 思わない	どちらとも 言えない	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	過年度 (令和5年)	人数(人) 1	0	26	147	19	0	193
	割合	1%	0%	13%	76%	10%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	今年度 (令和6年)	人数(人) 0	5	59	119	9	3	195
	割合	0%	3%	30%	61%	5%	2%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	過年度 (令和5年)	人数(人) 1	0	23	151	18	0	193
	割合	1%	0%	12%	78%	9%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	今年度 (令和6年)	人数(人) 0	9	24	102	60	0	195
	割合	0%	5%	12%	52%	31%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	過年度 (令和5年)	人数(人) 1	0	51	80	61	0	193
	割合	1%	0%	26%	41%	32%	0%	100%
日中の生活が充実する	今年度 (令和6年)	人数(人) 0	14	43	118	17	3	195
	割合	0%	7%	22%	61%	9%	2%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	過年度 (令和5年)	人数(人) 0	1	32	154	6	0	193
	割合	0%	1%	17%	80%	3%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	今年度 (令和6年)	人数(人) 0	16	41	36	99	3	195
	割合	0%	8%	21%	18%	51%	2%	100%
日中の生活が充実する	過年度 (令和5年)	人数(人) 0	1	42	142	8	0	193
	割合	0%	1%	22%	74%	4%	0%	100%
日中の生活が充実する	今年度 (令和6年)	人数(人) 1	10	41	45	95	3	195
	割合	1%	5%	21%	23%	49%	2%	100%
日中の生活が充実する	過年度 (令和5年)	人数(人) 0	2	108	81	2	0	193
	割合	0%	1%	56%	42%	1%	0%	100%
日中の生活が充実する	今年度 (令和6年)	人数(人) 1	8	53	120	10	3	195
	割合	1%	4%	27%	62%	5%	2%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

## (5) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の 5 項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

### ① 実証の結果について

図表 VI-49 実証の結果について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>直接介護については、利用者への排泄介助を定時誘導・介助から利用者個々への対応に見直したことで時間が減ってしまったと考えられる。そのため、直接介護の時間は減ったが効率化された認識である。</u></li> <li>・ <u>間接業務については、施設内の清掃業務の実施頻度を見直したことで時間が減ったと考えられる。</u></li> </ul>
	実証全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>もう少し良い結果が出て欲しかった。新たな課題が見つかった良い機会になった。</u></li> </ul>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>テクノロジーを入れていること、職員の意識が向上している点が要因で直接介護の時間が増加したと考えている。</u></li> <li>・ <u>コミュニケーションツールが定着してきているため、連絡調整等の時間が増えた。</u></li> </ul>
	職員向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>心理的負担が大きい職員がいることの要因として、昔の文化にとられている職員もいることが考えられる。継続して変革を推進する必要があると認識している。</u></li> </ul>
介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>昨年からタイムスタディの項目が集約化されたことで、振り分ける業務の判断がつかず、「その他の間接業務」に割り振られる業務が多くなってしまったことで、間接業務の時間が増えてしまったと考えられる。(実際に間接業務のうち約 47.4%が「その他の間接業務」に割り振られていた。)</u></li> <li>・ <u>また、本実証の期間に試験的に早番の人員を 1 名削減して取り組んでみたが、1 人減ったことで間接業務の負担が大きくなってしまったと考えられる。</u></li> </ul>
	職員向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>早番の人員を 1 名削減したことの負担が大きかったことがアンケートの結果にも表れたと考えられる。</u></li> <li>・ <u>ただ、施設として新しい取組に様々挑戦していることを踏まえると、モチベーションは想定よりも横ばいで推移したと感じた。</u></li> <li>・ (やりがいについて当実証で測っているが)何をもってやりがいと感じるのかについては、個人差があると考えている。変化に弱い介護職員が多いと感じているが、考え方次第である点は、経営層から伝えている。</li> <li>・ <u>職員にとって ICT 導入時に不安・不満が高まる傾向があったが、時間が経てばポジティブな捉え方に変わってくる傾向にある。</u></li> </ul>
	利用者向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>利用者が一定数入れ替わってしまっていたことが影響していると考えられる。</u></li> </ul>

② 実証時発生した課題とその対応について

図表 VI-50 実証時発生した課題とその対応について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	職員について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>タイムスタディの記入方法についてマニュアルを作成したが上手く伝わっていなかった点がある。</u></li> <li>・ <u>業務の分類が馴染まない場合や入浴介助の項目が分類になかったため、間違っただけに記入した方もいた。</u></li> <li>・ <u>多忙のため、後から1時間程度まとめて記入した方もいた。</u></li> </ul>
	施設として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>実証時に退職のタイミングと重なったことや職員の勤務可能時間に制限があったため、職員の人数がいるにもかかわらず業務が上手く回らなかった。</u></li> </ul>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	職員について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に課題なし。<u>非常に前向きに取り組んでいただいた。</u></li> </ul>
	利用者について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に課題はなし。<u>一律の介護ではなく、利用者個別のケアが実施された。</u></li> </ul>
介護付有料老人ホームすこやか・北新横浜	職員について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験的に人員を減らしたことによる負担はあったが、それ以外には特段課題はなかった。</li> </ul>
	利用者について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特にトラブル等はなかった。</li> </ul>
	施設として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>スマートフォン上でコミュニケーションツールを試しているが、一方向のコミュニケーションとなっており、効果的な活用について考える余地がある。</u></li> </ul>

### ③ 委員会の開催について

図表 VI-51 委員会の開催について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回程度、ICT・ロボット委員会を開催。</li> <li>・現場のリーダー、副施設長等の管理職が参加。</li> <li>・本実証についても事前に検討した。実証に反対される方はおらず、前回は実証に対して腑に落ちていない管理職の方もいたが、今回は特段フォローすることなく調査を受け入れていただいた。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上に関しては月に1回の職員会議にて必ず議題に組み込まれている。それに加え、<u>週一のフロア会議では白熱した議論があり、日々生産性向上を図っている。</u></li> <li>・<u>フロア会議の出席者は増えてきており、職員のやる気が高まっている。</u></li> <li>・会議録については、当日中にコミュニケーションツールに掲載している。1人1台スマートフォンを支給しているため、会議録を全員に周知出来ている。</li> </ul>
介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上の委員会については3か月に1回開催。</li> <li>・管理職、看護職員、ケアリーダー、介護職員が参加。</li> <li>・本実証での取組内容だけでなく、本実証以外にも生産性向上に関する複数のタスクについても話し合った。</li> </ul>

### ④ 実証目的に対する達成状況について

図表 VI-52 実証目的に対する達成状況について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>時間が経過することで生産性向上への熱量が下がってしまい、空いた時間をうまく活用できなかった。</u></li> <li>・<u>最初は業務時間時間減少を実感していたが、1,2ヶ月経過して慣れてくると、忙しいと感じやすくなったように思う。(忙しいの閾値が下がった。)</u></li> </ul>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>オペレーションの再構築は必要であるが、生産性向上の取組自体は継続できそう。</u></li> <li>・職員の生産性向上の熱量が下がらないように工夫したい。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>残業の改善については、以前は特に専門職の残業が多い状態があったが、減っている。</u></li> <li>・<u>ただ、主任クラスの残業時間が他の職員より多くなっているため、改善の余地がある。</u>主任クラスでないといけない仕事以外は、手分けしてやっていく認識は広がっている。</li> </ul>
	利用者の観点(ケアの質に対する効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>一律の介護から個別介護に移行できてきており、一例として、安眠を妨害しないケア等が実現できている。</u></li> </ul>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>ハード面は揃ってきており、生産性向上の土台はできている。</u></li> <li>・<u>介護職員の意識としては発展途上であると感じている。まだまだ</u></li> </ul>

施設名	カテゴリ	主なご意見
	対効果等)	<u>だ、これまで与えられた役割のみをこなそうとしている状態があるため、業務が効率化されることによって役割が増えることに抵抗感のある職員もいる。</u>
介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>徐々にではあるが、職員も新しい取組に慣れてきており、効率化されていることを実感している。</u></li> <li>・ <u>取組に熱心な職員に業務負担が集中してしまうことが課題であると認識している。</u></li> <li>・ <u>また、管理職からトップダウン的に取り組んでいるが、今後はもっと現場職員の自主性に任せるべきであると認識している。</u></li> <li>・ <u>特定施設であるため看護職員が常にいることもあり、看護師への業務の依存度が高いと思われる。今後は役割分担を進め、介護職員ができることも増やしていく必要があると考えている。</u></li> </ul>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>特例的柔軟化を直ぐに適用するのは難しそうだが、3:1 よりも少ない人員配置に近づけていきたいとは考えている。</u></li> <li>・ <u>ただし、4月から外国人労働者を多く受け入れる予定であるため、オペレーション変更があると想定している。</u></li> </ul>

⑤ 生産性向上に取り組む特定施設における人員配置基準の柔軟化の届け出について

図表 VI-53 生産性向上に取り組む特定施設における人員配置基準の柔軟化の届け出について

施設名	主なご意見
介護付有料老人ホームさわやか宗像館	・ <u>届出を行う方向で進めたい。ただ、現場の所感を見た上で、一方通行的な対応にならないようにしたい。</u>
介護付有料老人ホームアミカの郷川口	・ <u>前向きに検討しているが、現時点では未定である。</u>
介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>将来的には届出を行いたいと考えている。</u></li> <li>・ <u>ただ、現時点では厳しいと考えており、届出を行う際には法人内の他の施設と足並みを揃えて対応したい。</u></li> </ul>

### 3. 実証結果(新規実証)

#### (1) 利用者・職員概要

##### ア. 利用者概要

図表 VI-54 利用者概要:新規実証全体 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	34	218	0	252
	割合	13%	87%	0%	100%

図表 VI-55 利用者概要:新規実証全体 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	1	8	10	29	67	84	53	0	252
	割合	0%	3%	4%	12%	27%	33%	21%	0%	100%

図表 VI-56 利用者概要:新規実証全体 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	62	65	44	30	19	29	3	0	252
	割合	25%	26%	17%	12%	8%	12%	1%	0%	100%

図表 VI-57 利用者概要:新規実証全体 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	4	14	44	92	37	18	6	5	32	0	252
	割合	2%	6%	17%	37%	15%	7%	2%	2%	13%	0%	100%

##### イ. 職員概要

図表 VI-58 職員概要:新規実証全体 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	30	77	0	107
	割合	28%	72%	0%	100%

図表 VI-59 職員概要:新規全体 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	1	27	20	20	28	5	6	0	107
	割合	1%	25%	19%	19%	26%	5%	6%	0%	100%

図表 VI-60 職員概要:新規実証全体 職種

		介護福祉士	介護職員(介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ職(機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	50	38	6	0	1	1	11	0	107
	割合	47%	36%	6%	0%	1%	1%	10%	0%	100%

図表 VI-61 職員概要:新規実証全体 役職

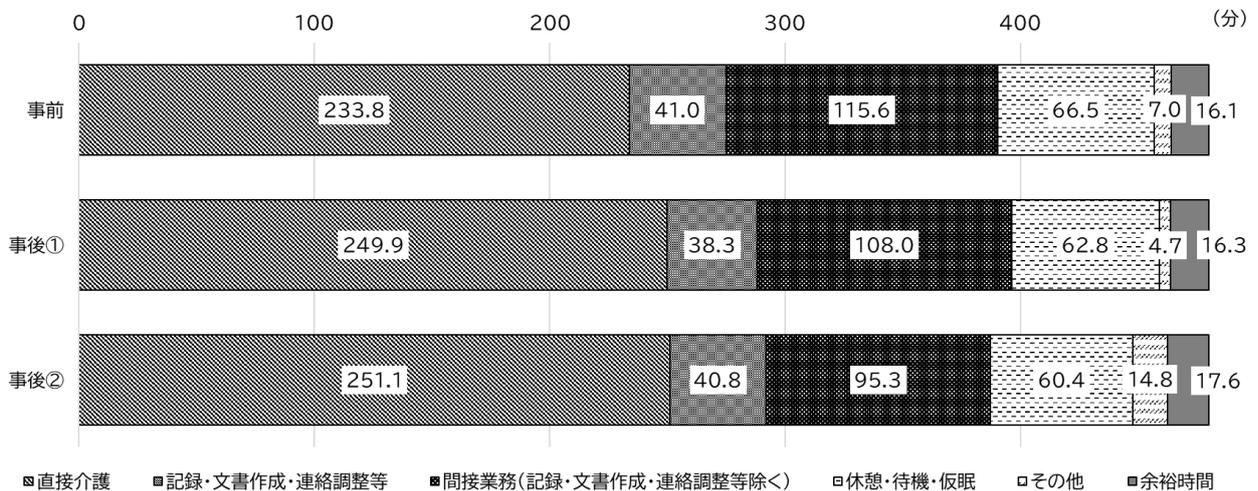
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	12	81	14	0	107
	割合	0%	11%	76%	13%	0%	100%

## (2) タイムスタディ調査結果

介護職員のタイムスタディ調査の結果の新規実証全体の結果は以下の通り。

直接介護に充てる時間は、事前調査では 233.8 分であったのに対し、事後①では 249.9 分、事後②では 251.1 分といずれも増加した。

図表 VI-62 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり):新規実証全体



事前調査 n=91  
 事後調査①n=86  
 事後調査②n=87

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

※事後調査①・②において、Qライン等(和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を図った介護職員)やサポーターが担った直接介護以外の業務は集計から除外した。

### (3) 職員向けアンケート調査結果

※事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

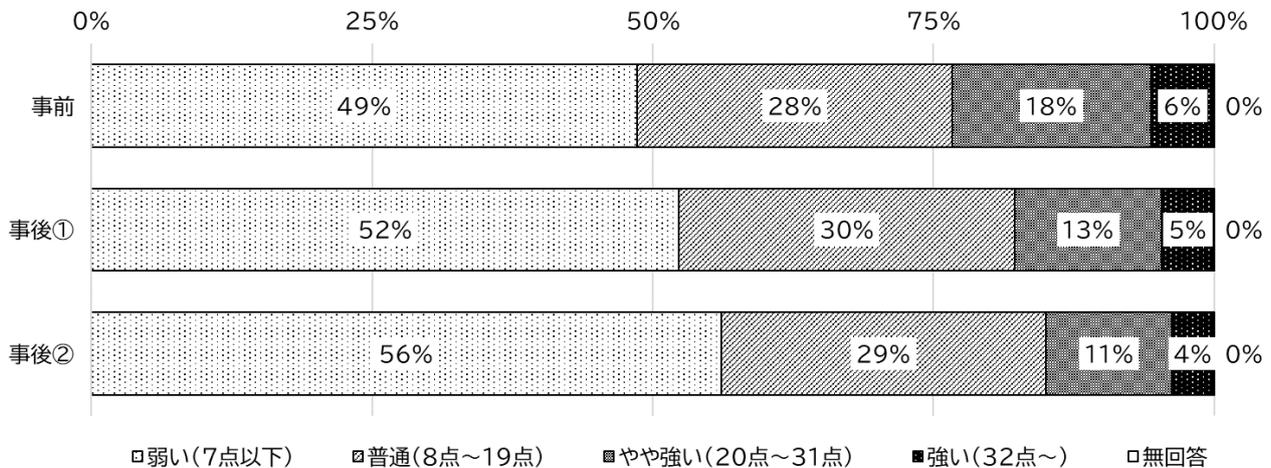
#### ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の新規実証全体の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では 49%であったのに対し、事後①では 52%に増加した。事後②では、ストレス反応が「弱い」割合が 56%であり、事前調査と比べ 7 ポイント、事後①と比べ 3 ポイント増加した。

図表 VI-63 SRS-18:新規実証全体

		7点以下	8点~19点	20点~31点	32点~	無回答	合計
事前	人数(人)	52	30	19	6	0	107
	割合	49%	28%	18%	6%	0%	100%
事後①	人数(人)	56	32	14	5	0	107
	割合	52%	30%	13%	5%	0%	100%
事後②	人数(人)	60	31	12	4	0	107
	割合	56%	29%	11%	4%	0%	100%

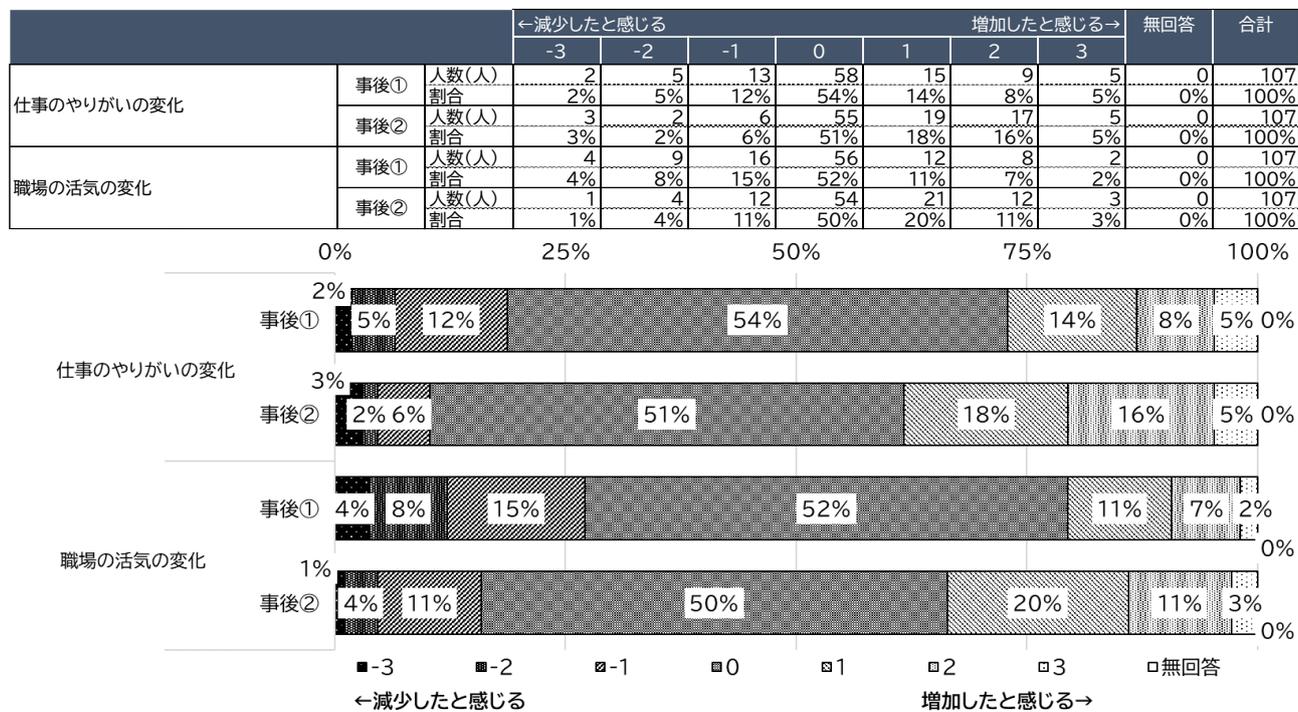


※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」~「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0~7点を「弱い」、8~19 点を「普通」、20~31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

## イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-64 生産性向上の取組によるモチベーションの変化:新規実証全体



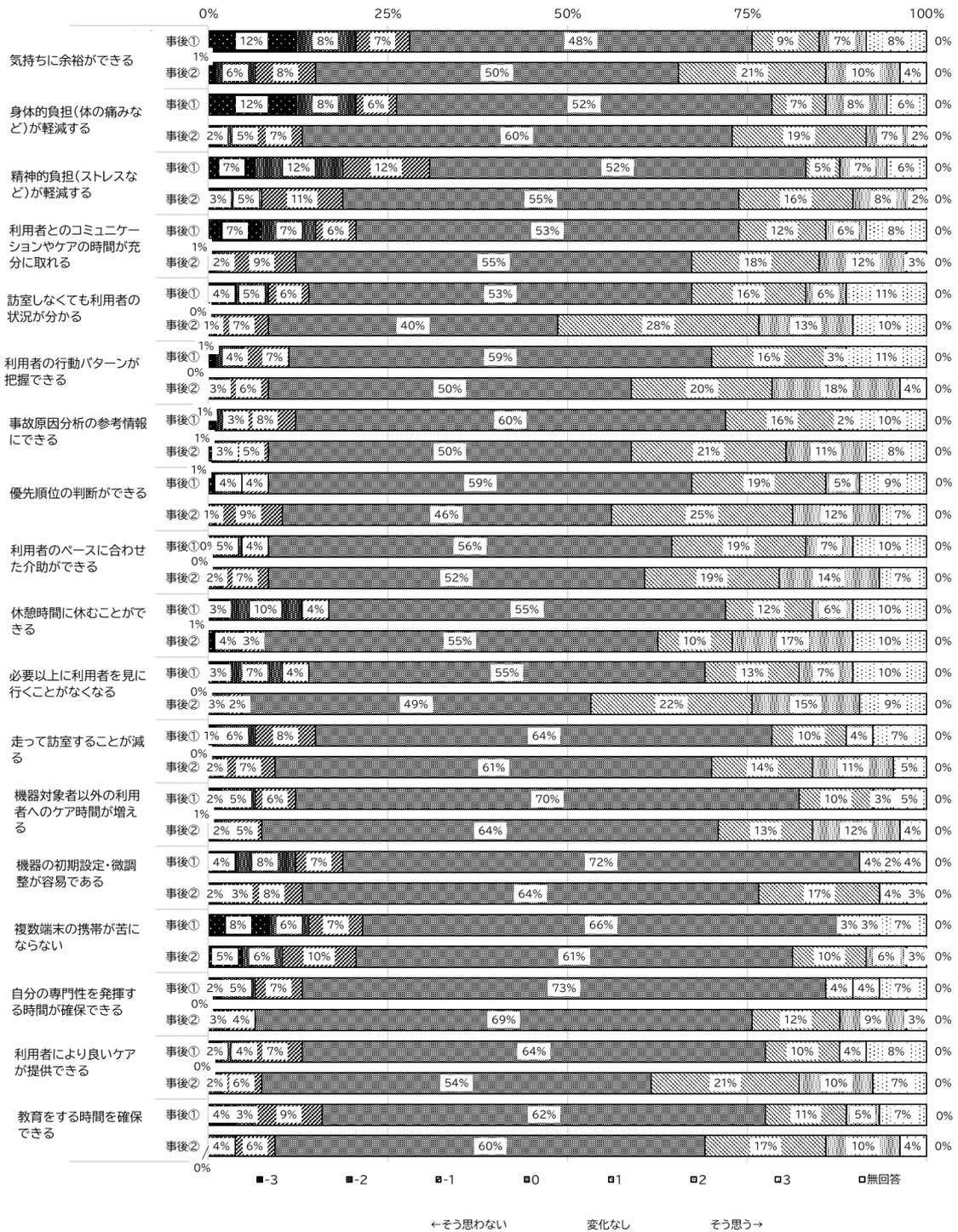
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

## ウ. 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

生産性向上の取組による職員や施設業務の変化の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-65 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化:新規実証全体

		←そう思わない							無回答	合計	
		変化なし									
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	13 12%	9 8%	8 7%	51 48%	10 9%	7 7%	9 8%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 1%	6 6%	9 8%	54 50%	22 21%	11 10%	4 4%	0 0%	107 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	13 12%	9 8%	6 6%	56 52%	8 7%	9 8%	6 6%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	5 5%	7 7%	64 60%	20 19%	7 7%	2 2%	0 0%	107 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	7 7%	13 12%	13 12%	56 52%	5 5%	7 7%	6 6%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 3%	5 5%	12 11%	59 55%	17 16%	9 8%	2 2%	0 0%	107 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	事後①	人数(人) 割合	8 7%	8 7%	6 6%	57 53%	13 12%	6 6%	9 8%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 1%	2 2%	10 9%	59 55%	19 18%	13 12%	3 3%	0 0%	107 100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	4 4%	5 5%	6 6%	57 53%	17 16%	6 6%	12 11%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 1%	8 7%	43 40%	30 28%	14 13%	11 10%	0 0%	107 100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	1 1%	4 4%	7 7%	63 59%	17 16%	3 3%	12 11%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	3 3%	6 6%	54 50%	21 20%	19 18%	4 4%	0 0%	107 100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	1 1%	3 3%	9 8%	64 60%	17 16%	2 2%	11 10%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 1%	3 3%	5 5%	54 50%	23 21%	12 11%	9 8%	0 0%	107 100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	1 1%	4 4%	4 4%	63 59%	20 19%	5 5%	10 9%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 1%	10 9%	49 46%	27 25%	13 12%	7 7%	0 0%	107 100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	5 5%	4 4%	60 56%	20 19%	7 7%	11 10%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	2 2%	7 7%	56 52%	20 19%	15 14%	7 7%	0 0%	107 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	3 3%	11 10%	4 4%	59 55%	13 12%	6 6%	11 10%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 1%	4 4%	3 3%	59 55%	11 10%	18 17%	11 10%	0 0%	107 100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	3 3%	8 7%	4 4%	59 55%	14 13%	8 7%	11 10%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	3 3%	2 2%	52 49%	24 22%	16 15%	10 9%	0 0%	107 100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	1 1%	6 6%	9 8%	68 64%	11 10%	4 4%	8 7%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	2 2%	8 7%	65 61%	15 14%	12 11%	5 5%	0 0%	107 100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	2 2%	5 5%	6 6%	75 70%	11 10%	3 3%	5 5%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 1%	2 2%	5 5%	68 64%	14 13%	13 12%	4 4%	0 0%	107 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	4 4%	9 8%	7 7%	77 72%	4 4%	2 2%	4 4%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 2%	3 3%	9 8%	68 64%	18 17%	4 4%	3 3%	0 0%	107 100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	9 8%	6 6%	8 7%	71 66%	3 3%	3 3%	7 7%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 5%	6 6%	11 10%	65 61%	11 10%	6 6%	3 3%	0 0%	107 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	2 2%	5 5%	7 7%	78 73%	4 4%	4 4%	7 7%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	3 3%	4 4%	74 69%	13 12%	10 9%	3 3%	0 0%	107 100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	2 2%	4 4%	8 7%	69 64%	11 10%	4 4%	9 8%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	2 2%	6 6%	58 54%	22 21%	11 10%	8 7%	0 0%	107 100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	4 4%	3 3%	10 9%	66 62%	12 11%	5 5%	7 7%	0 0%	107 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	4 4%	6 6%	64 60%	18 17%	11 10%	4 4%	0 0%	107 100%



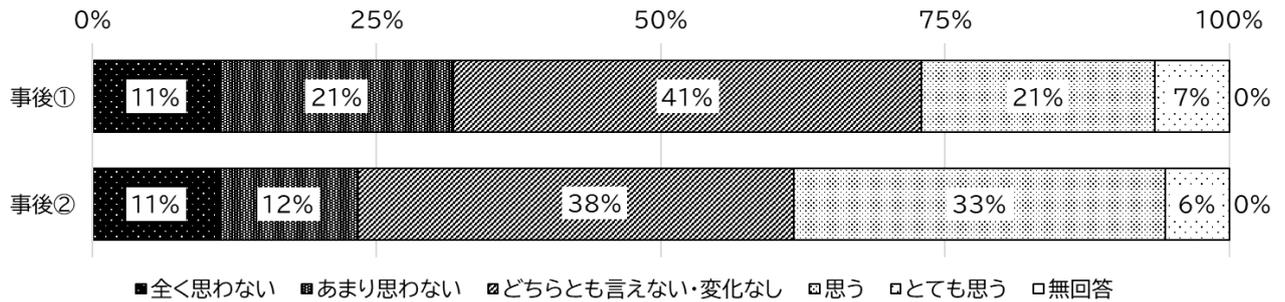
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

## エ. 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり

生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感に関する新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-66 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感：新規実証全体

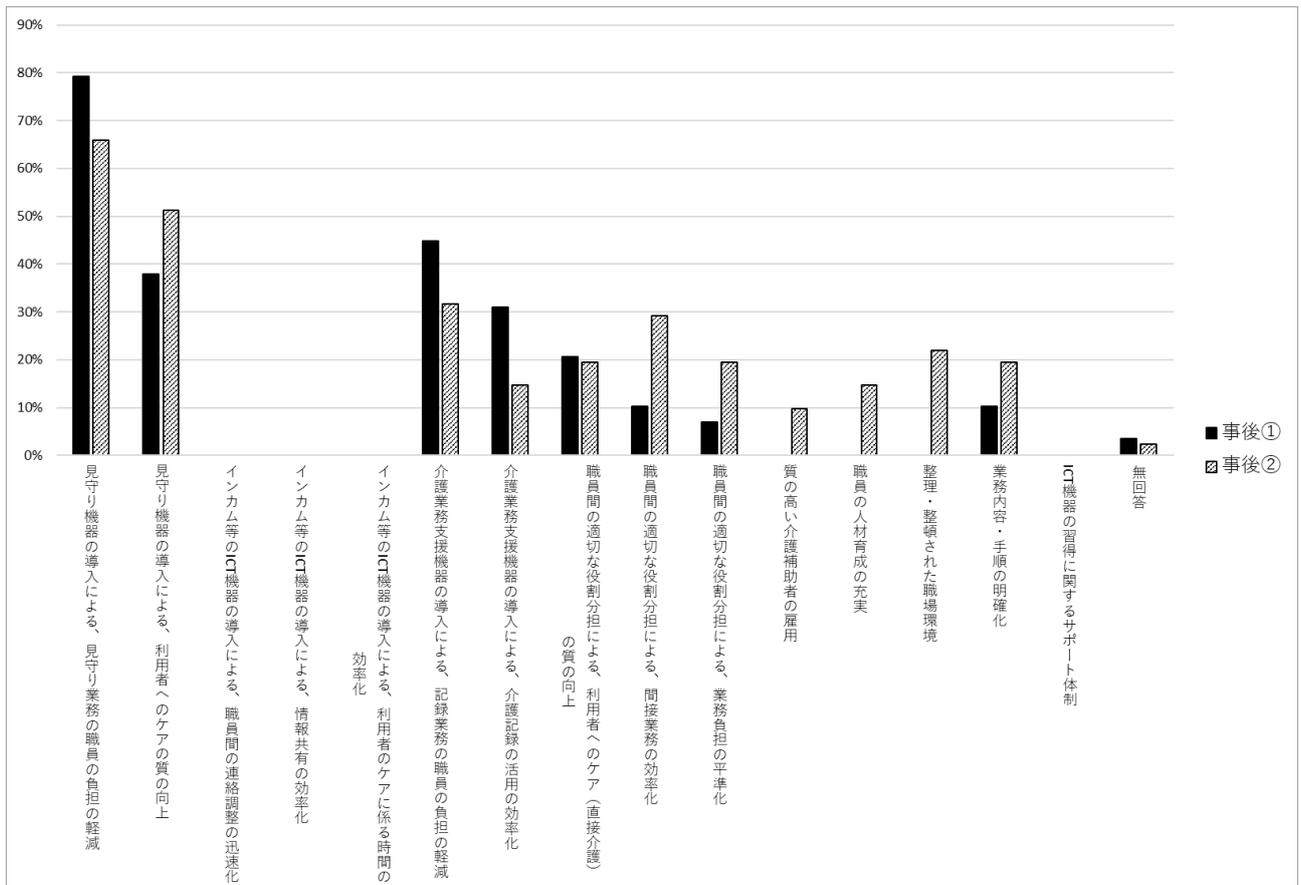
		全く思わ ない	あまり思わ ない	どちらとも 言えない・ 変化なし	思う	とても思 う	無回答	合計	
働きやすい職場環境の実感を持っている	事後①	人数(人)	12	22	44	22	7	0	107
		割合	11%	21%	41%	21%	7%	0%	100%
	事後②	人数(人)	12	13	41	35	6	0	107
		割合	11%	12%	38%	33%	6%	0%	100%



※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

図表 VI-67 「思う」または「とても思う」と回答した場合、その実感を持つことができた要因(5つ):新規実証全体

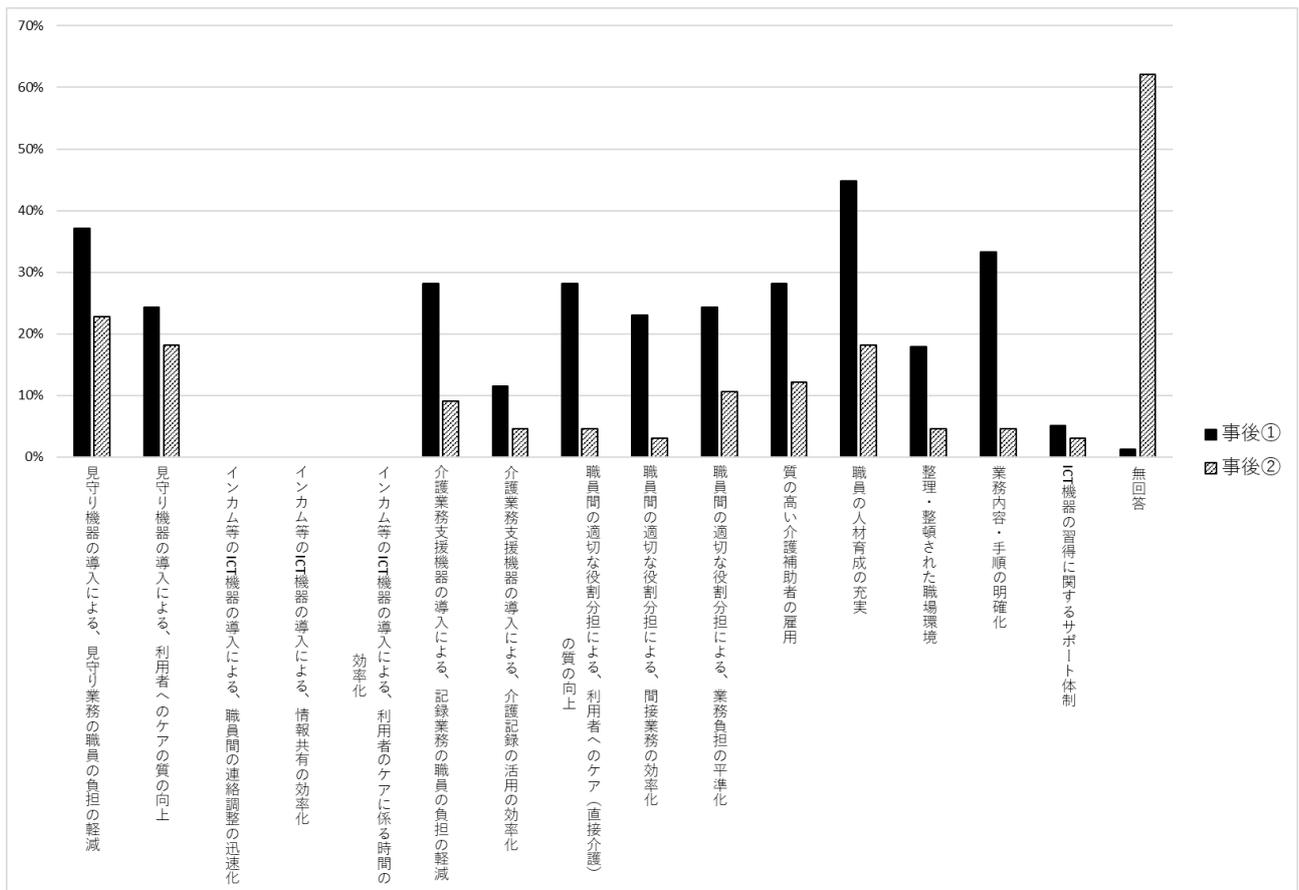
		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他				無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	見守り機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICCT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICCT機器の導入による、利用者へのケアに係る時間の効率化	インカム等のICCT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制					
事後①	人数(人)	23	11	0	0	0	13	9	6	3	2	0	0	0	3	0	1	29				
	割合	79%	38%	0%	0%	0%	45%	31%	21%	10%	7%	0%	0%	10%	0%	3%	3%					
事後②	人数(人)	27	21	0	0	0	13	6	8	12	8	4	6	9	8	0	1	41				
	割合	66%	51%	0%	0%	0%	32%	15%	20%	29%	20%	10%	15%	22%	20%	0%	2%					



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

図表 VI-68 「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要と思う項目(5つ):新規実証全体

		テクノロジーの導入					職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他					無回答(人)	回答者合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	見守り機器の導入による、見守り機器の導入による、利用者へのケアの質の向上	インカム等のICT機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者へのケアに係る時間の効率化	介護業務支援機器の導入による、記録業務の職員への負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境		
事後①	人数(人)	29	19	0	0	0	22	9	22	18	19	22	35	14	26	4	1	78
	割合	37%	24%	0%	0%	0%	28%	12%	28%	23%	24%	28%	45%	18%	33%	5%	1%	
事後②	人数(人)	15	12	0	0	0	6	3	3	2	7	8	12	3	3	2	41	66
	割合	23%	18%	0%	0%	0%	9%	5%	5%	3%	11%	12%	18%	5%	5%	3%	62%	



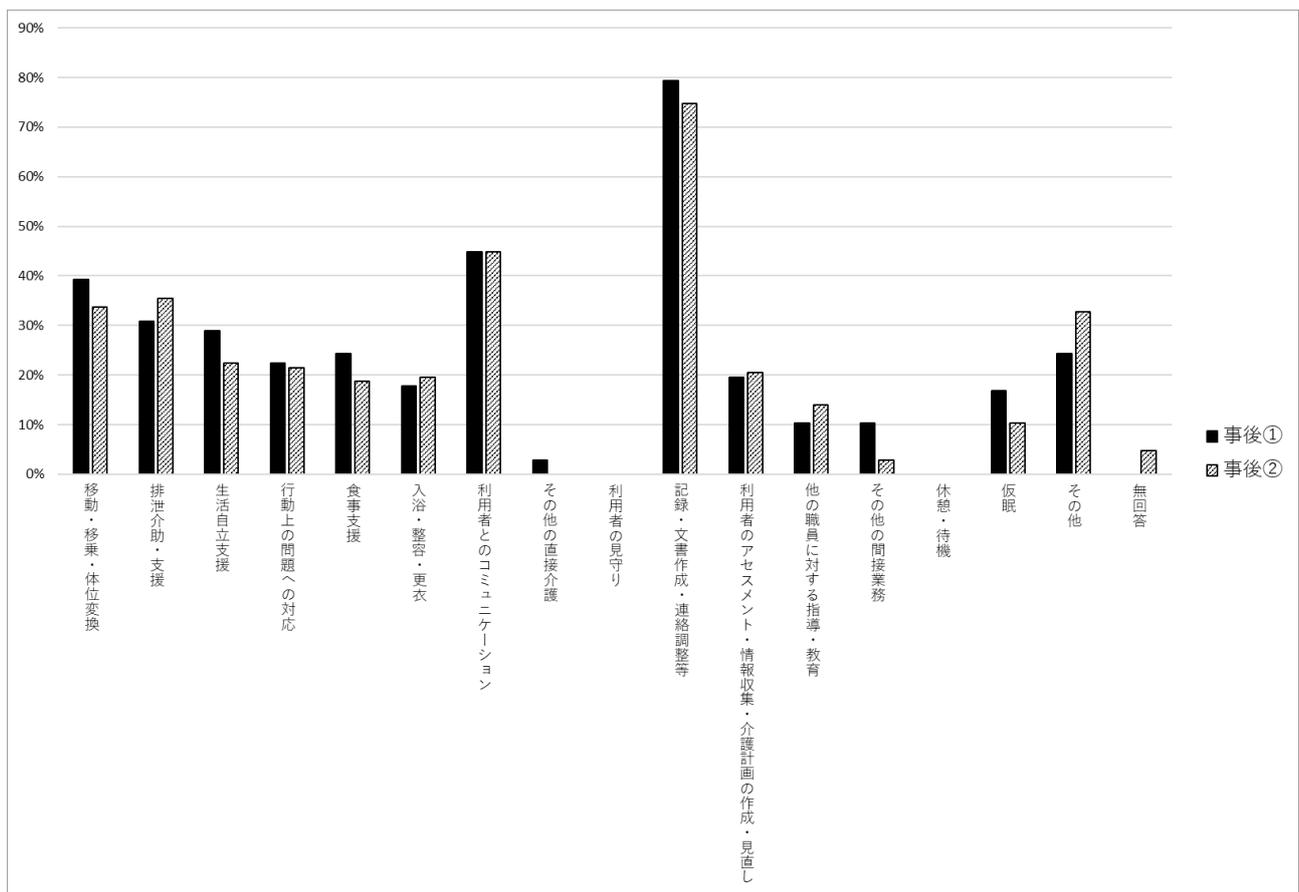
※該当する項目を最大5つ選択する設問。

## オ. 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間

職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-69 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間:新規実証全体

	人数(人)	直接介護									間接業務					休憩		その他	無回答(人)	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	利用者の見守り	記録・文書作成・連絡調整等	報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠				
事後①	42	33	31	24	26	19	48	3	0	85	21	11	11	0	18	26	0	107		
事後②	36	38	24	23	20	21	48	0	0	80	22	15	3	0	11	35	5	107		
	割合	39%	31%	29%	22%	24%	18%	45%	3%	0%	79%	20%	10%	10%	0%	17%	24%	0%	5%	
	割合	34%	36%	22%	21%	19%	20%	45%	0%	0%	75%	21%	14%	3%	0%	10%	33%	5%	-	



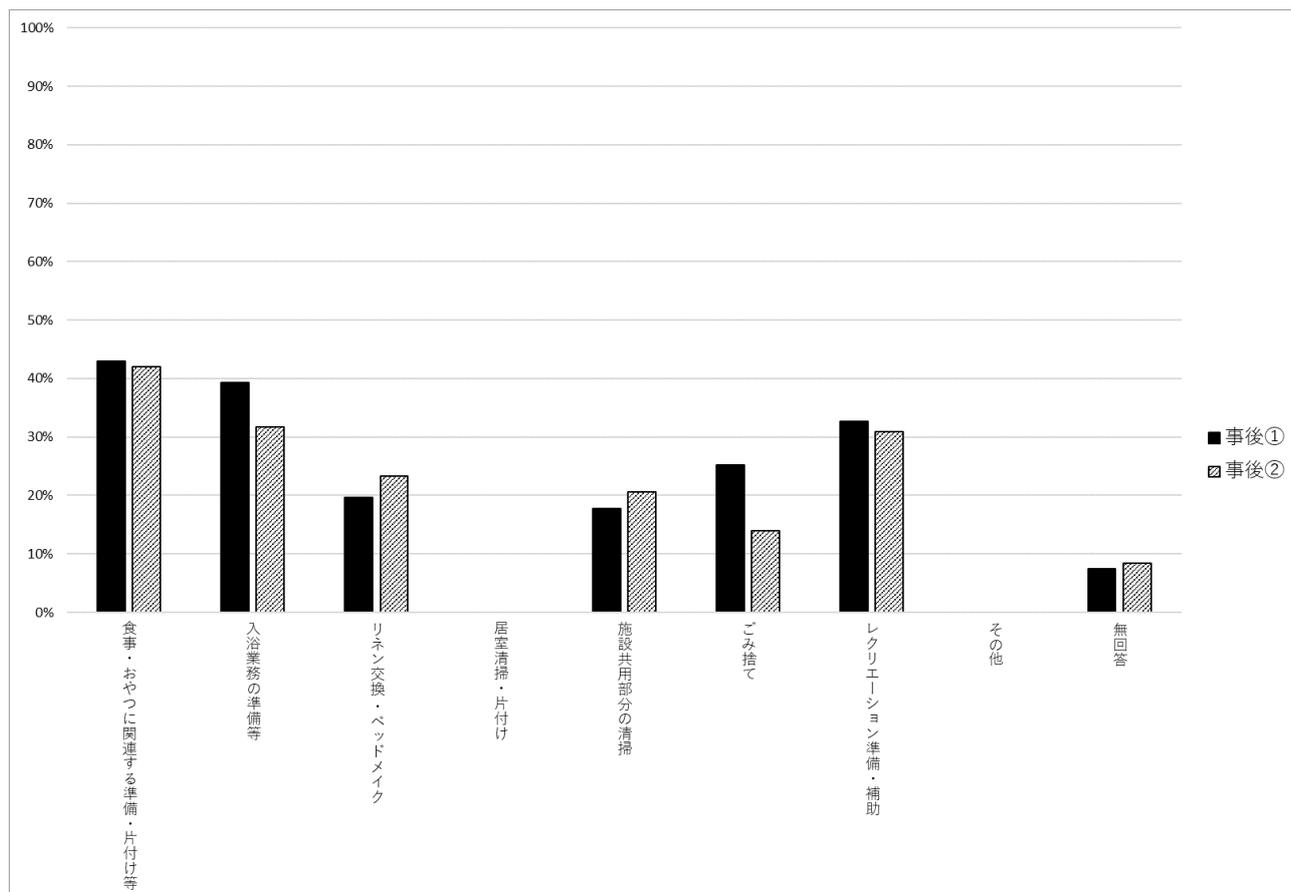
※該当する項目をすべて選択する設問。

## カ. 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-70 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務:新規実証全体

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	46	42	21	0	19	27	35	0	8	107
	割合	43%	39%	20%	0%	18%	25%	33%	0%	7%	-
事後②	人数(人)	45	34	25	0	22	15	33	0	9	107
	割合	42%	32%	23%	0%	21%	14%	31%	0%	8%	-



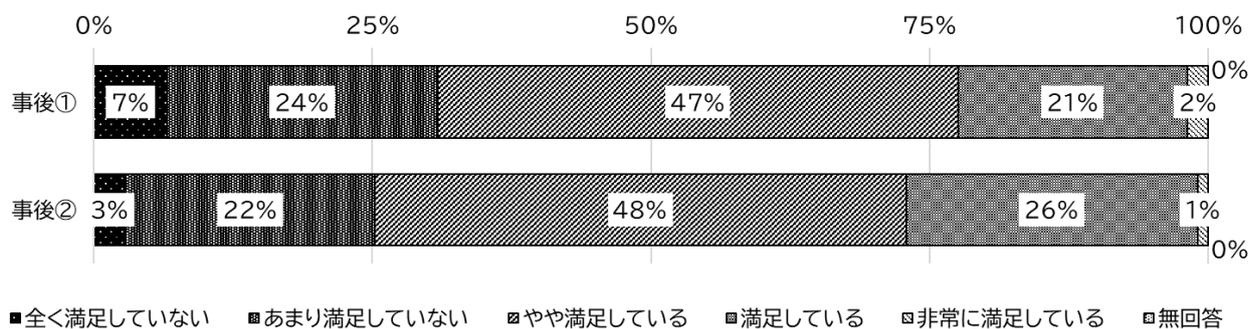
※該当する項目をすべて選択する設問。

## キ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-71 全体的な満足度評価:新規実証全体

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
生産性向上の取組(見守り機器の導入、職 員間の適切な役割分担(タスク・シフト/ シェア)等)に、どれくらい満足していま すか？	事後①	人数(人)	7	26	50	22	2	0	107
		割合	7%	24%	47%	21%	2%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	24	51	28	1	0	107
		割合	3%	22%	48%	26%	1%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

#### (4) 利用者向けアンケート調査結果

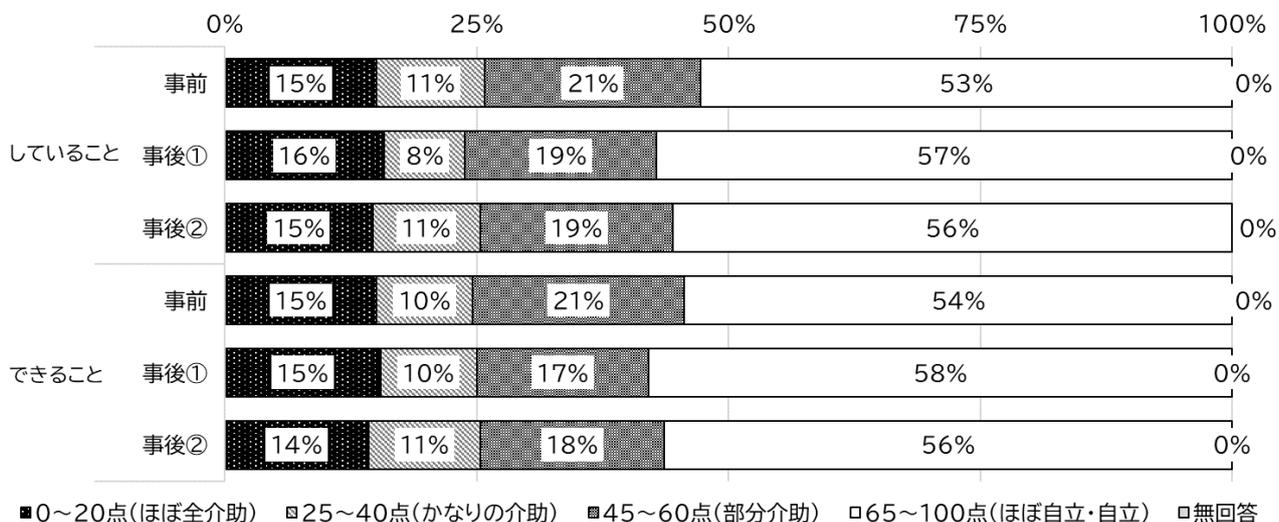
※事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

##### ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-72 日常生活動作(ADL)(Barthel Index) :新規実証全体

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	38	27	54	133	0	252
		割合	15%	11%	21%	53%	0%	100%
	事後①	人数(人)	40	20	48	144	0	252
		割合	16%	8%	19%	57%	0%	100%
	事後②	人数(人)	37	27	48	140	0	252
		割合	15%	11%	19%	56%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	38	24	53	137	0	252
		割合	15%	10%	21%	54%	0%	100%
	事後①	人数(人)	39	24	43	146	0	252
		割合	15%	10%	17%	58%	0%	100%
	事後②	人数(人)	36	28	46	142	0	252
		割合	14%	11%	18%	56%	0%	100%



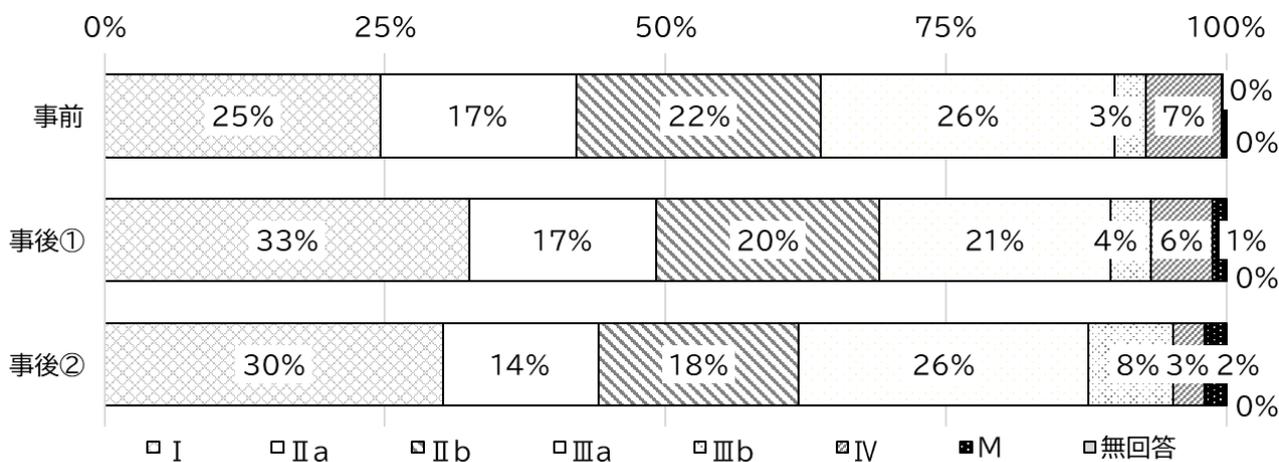
※事前調査または事後調査①・②で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

## イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-73 認知症高齢者の日常生活自立度:新規実証全体

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	62	44	55	66	7	17	1	0	252
	割合	25%	17%	22%	26%	3%	7%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	82	42	50	52	9	14	3	0	252
	割合	33%	17%	20%	21%	4%	6%	1%	0%	100%
事後②	人数(人)	76	35	45	65	19	7	5	0	252
	割合	30%	14%	18%	26%	8%	3%	2%	0%	100%

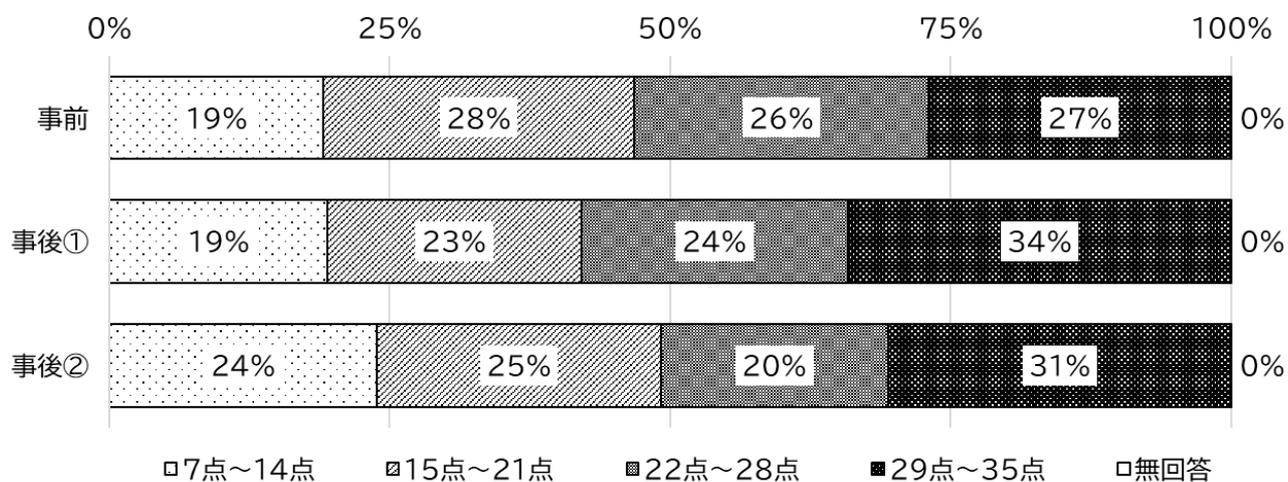


### ウ. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

生活・認知機能尺度の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-74 生活・認知機能尺度:新規実証全体

		7点~ 14点	15点~ 21点	22点~ 28点	29点~ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	48	70	66	68	0	252
	割合	19%	28%	26%	27%	0%	100%
事後①	人数(人)	49	57	60	86	0	252
	割合	19%	23%	24%	34%	0%	100%
事後②	人数(人)	60	64	51	77	0	252
	割合	24%	25%	20%	31%	0%	100%



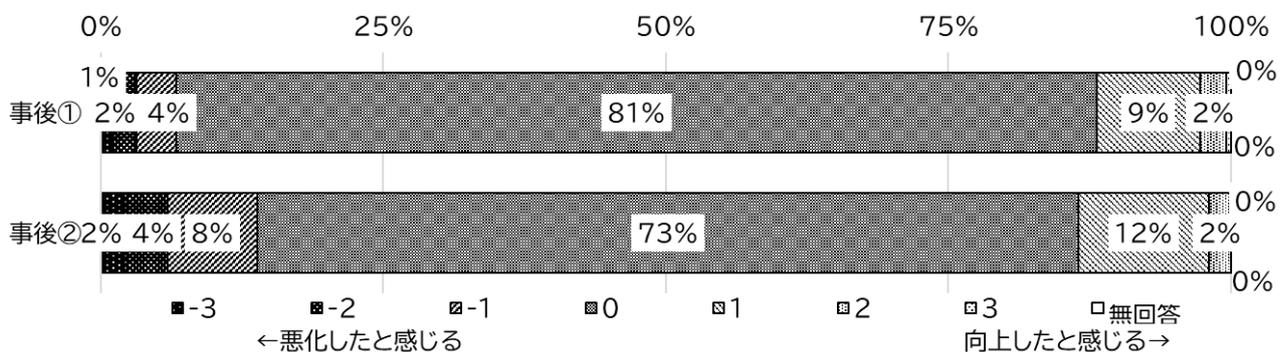
※事前調査または事後調査で、各7項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

## 工. 認知機能変化の総合的な評価

認知機能変化の総合的な評価の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-75 認知機能変化の総合的な評価:新規実証全体

		←悪化したと感じる			向上したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
事後①	人数(人)	3	5	9	205	23	6	1	0	252
	割合	1%	2%	4%	81%	9%	2%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	6	9	20	183	29	5	0	0	252
	割合	2%	4%	8%	73%	12%	2%	0%	0%	100%



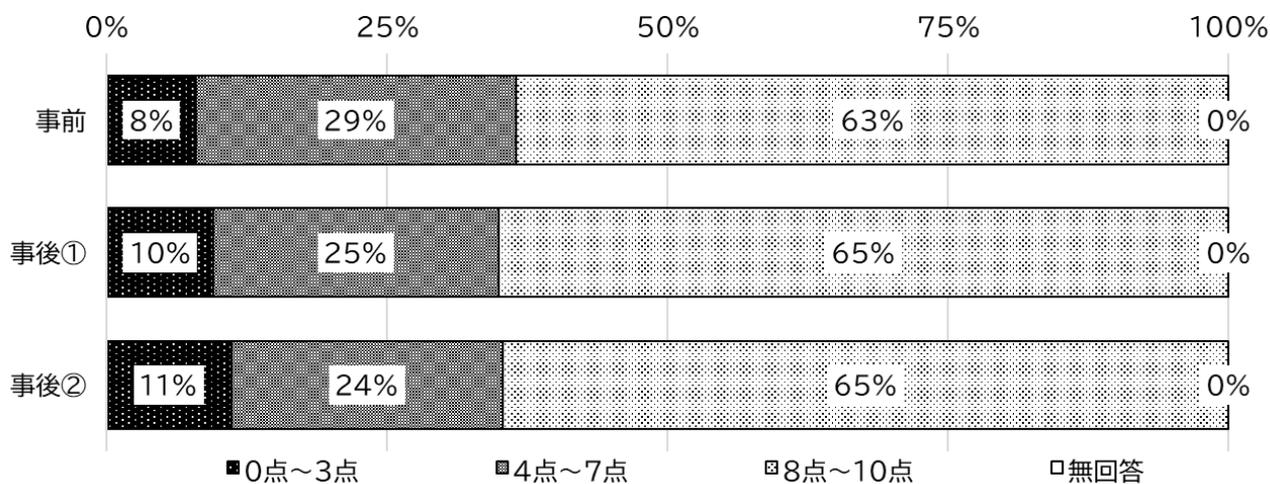
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

## オ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-76 Vitality Index:新規実証全体

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	20	72	160	0	252
	割合	8%	29%	63%	0%	100%
事後①	人数(人)	24	64	164	0	252
	割合	10%	25%	65%	0%	100%
事後②	人数(人)	28	61	163	0	252
	割合	11%	24%	65%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

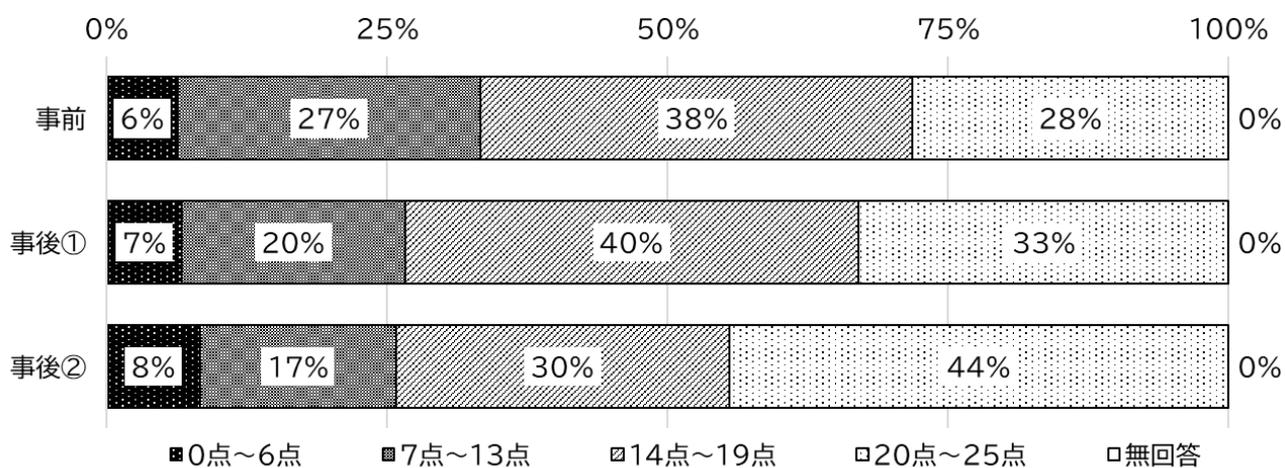
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

## カ. QOL の変化(WHO-5)

WHO-5 の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-77 WHO-5:新規実証全体

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	16	68	97	71	0	252
	割合	6%	27%	38%	28%	0%	100%
事後①	人数(人)	17	50	102	83	0	252
	割合	7%	20%	40%	33%	0%	100%
事後②	人数(人)	21	44	75	112	0	252
	割合	8%	17%	30%	44%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

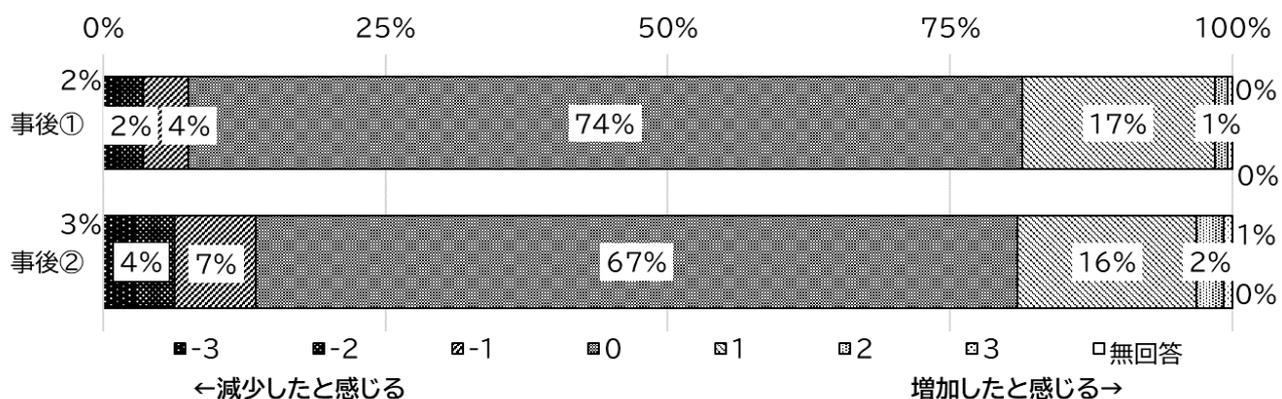
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

### キ. QOL 変化の総合的な評価

QOL 変化の総合的な評価の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-78 QOL 変化の総合的な評価:新規実証全体

		←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
事後①	人数(人)	4	5	10	186	43	3	1	0	252
	割合	2%	2%	4%	74%	17%	1%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	7	9	18	170	40	6	2	0	252
	割合	3%	4%	7%	67%	16%	2%	1%	0%	100%



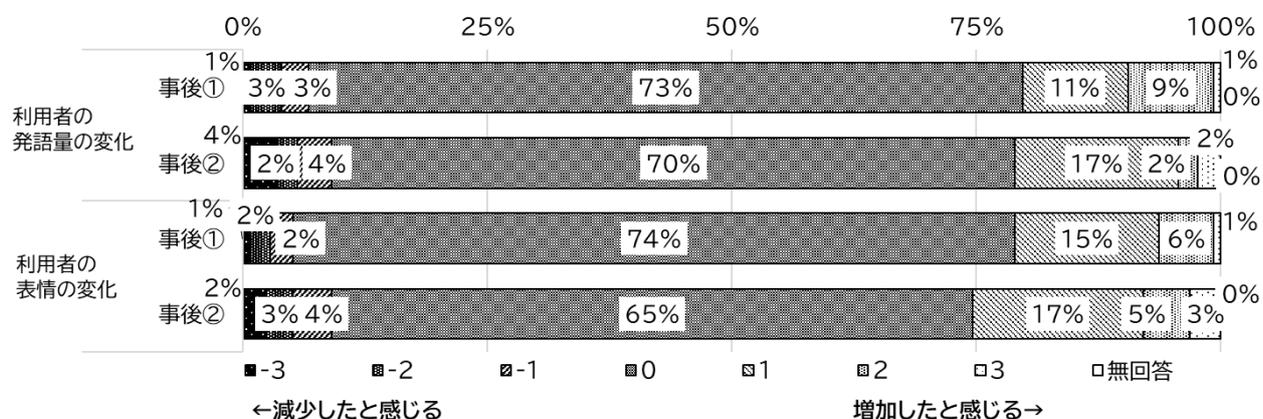
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

## ク. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-79 コミュニケーションの変化：新規実証全体

			←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	2	8	7	184	27	22	2	0	252	
		割合	1%	3%	3%	73%	11%	9%	1%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	9	5	9	176	42	5	6	0	252	
		割合	4%	2%	4%	70%	17%	2%	2%	0%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	2	5	6	186	37	14	2	0	252	
		割合	1%	2%	2%	74%	15%	6%	1%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	6	7	10	165	44	12	8	0	252	
		割合	2%	3%	4%	65%	17%	5%	3%	0%	100%	



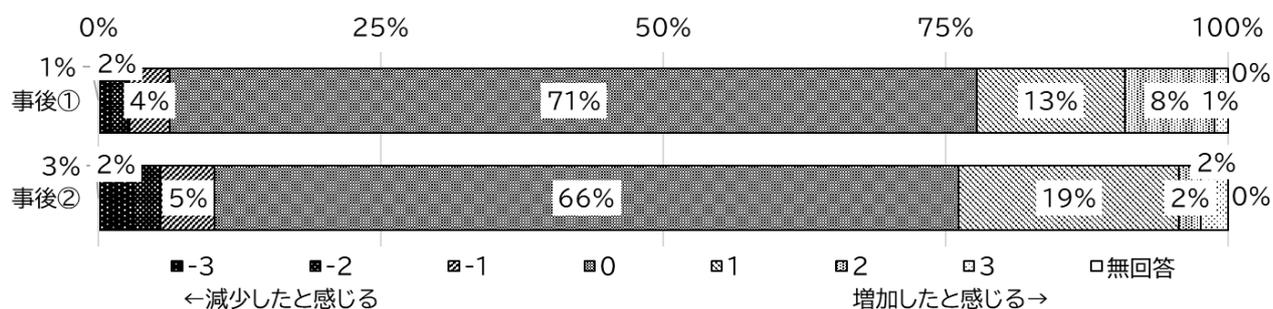
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

## ケ. コミュニケーション変化の総合的な評価

コミュニケーション変化の総合的な評価の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-80 コミュニケーション変化の総合的な評価:新規実証全体

		←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
事後①	人数(人)	3	4	9	180	33	20	3	0	252
	割合	1%	2%	4%	71%	13%	8%	1%	0%	100%
事後②	人数(人)	8	6	12	166	49	5	6	0	252
	割合	3%	2%	5%	66%	19%	2%	2%	0%	100%



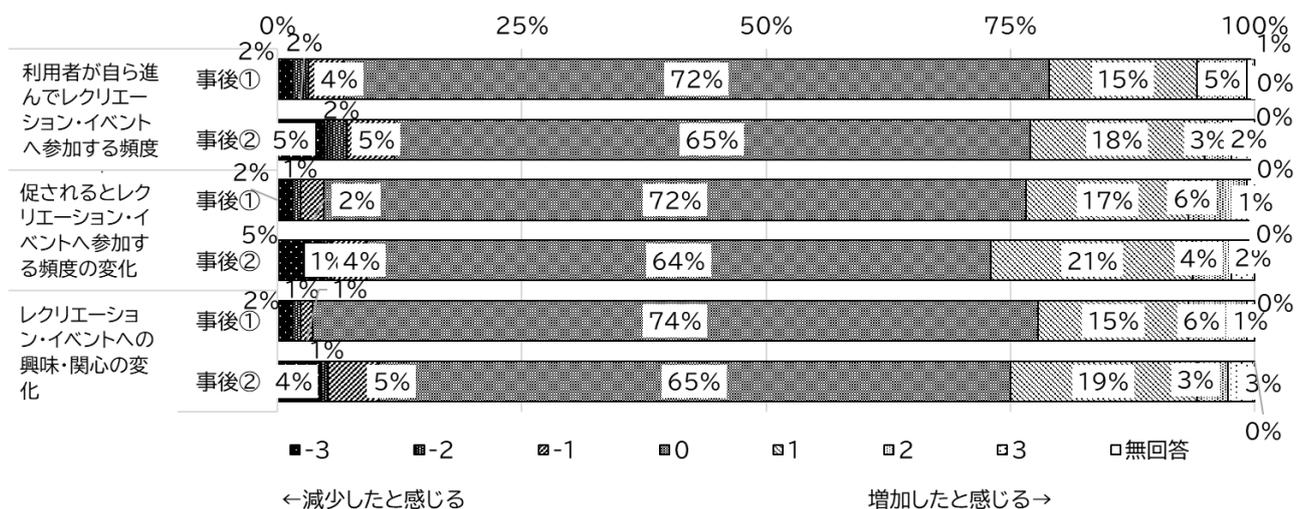
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

## コ. 社会参加の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-81 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化:新規実証全体

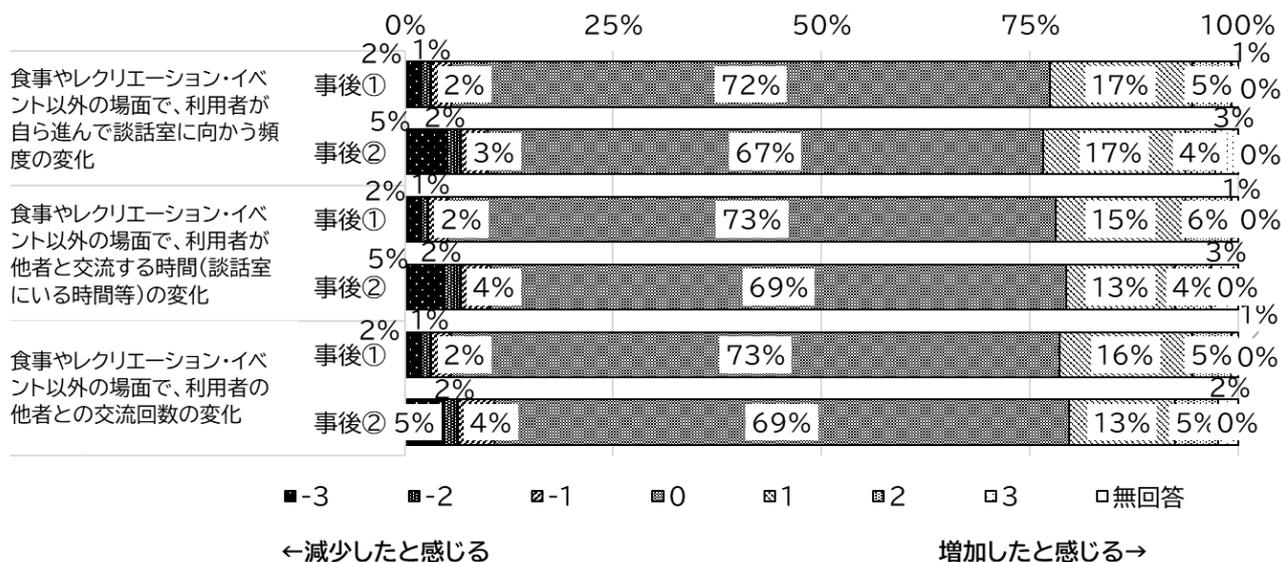
			←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	4	4	9	182	38	13	2	0	252		
		割合	2%	2%	4%	72%	15%	5%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	12	6	12	164	45	7	6	0	252		
		割合	5%	2%	5%	65%	18%	3%	2%	0%	100%		
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	4	2	6	181	42	15	2	0	252		
		割合	2%	1%	2%	72%	17%	6%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	12	2	9	161	52	10	6	0	252		
		割合	5%	1%	4%	64%	21%	4%	2%	0%	100%		
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	4	2	3	187	39	15	2	0	252		
		割合	2%	1%	1%	74%	15%	6%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	11	2	13	163	48	8	7	0	252		
		割合	4%	1%	5%	65%	19%	3%	3%	0%	100%		



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VI-82 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化:新規実証全体

			←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	5	3	6	181	43	12	2	0	252	
		割合	2%	1%	2%	72%	17%	5%	1%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	13	4	8	168	43	9	7	0	252	
		割合	5%	2%	3%	67%	17%	4%	3%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	5	2	6	184	39	14	2	0	252	
		割合	2%	1%	2%	73%	15%	6%	1%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	12	5	9	174	33	11	8	0	252	
		割合	5%	2%	4%	69%	13%	4%	3%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	5	3	6	184	40	12	2	0	252	
		割合	2%	1%	2%	73%	16%	5%	1%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	12	4	11	174	32	13	6	0	252	
		割合	5%	2%	4%	69%	13%	5%	2%	0%	100%	



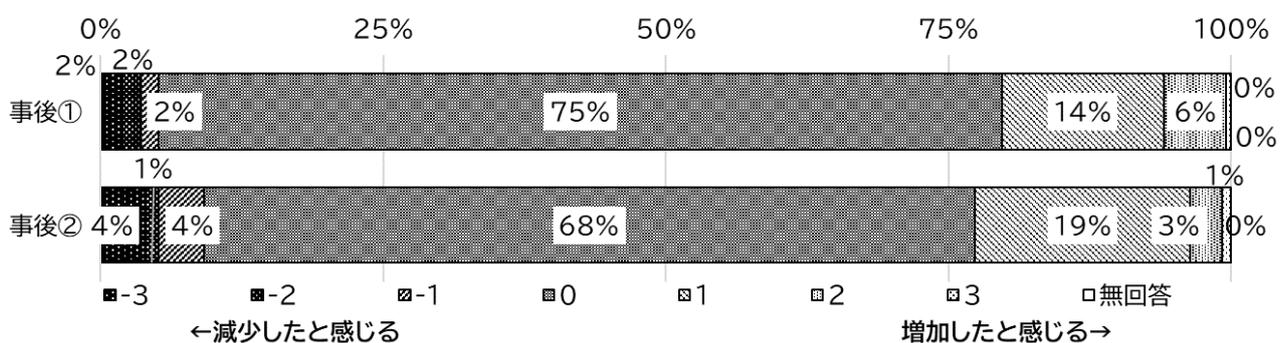
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

### サ. 社会参加の変化の総合的な評価

社会参加の変化の総合的な評価に関する新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-83 社会参加の変化の総合的な評価:新規実証全体

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2			3
事後①	人数(人)	5	4	4	188	36	14	1	0	252
	割合	2%	2%	2%	75%	14%	6%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	10	3	10	172	48	7	2	0	252
	割合	4%	1%	4%	68%	19%	3%	1%	0%	100%



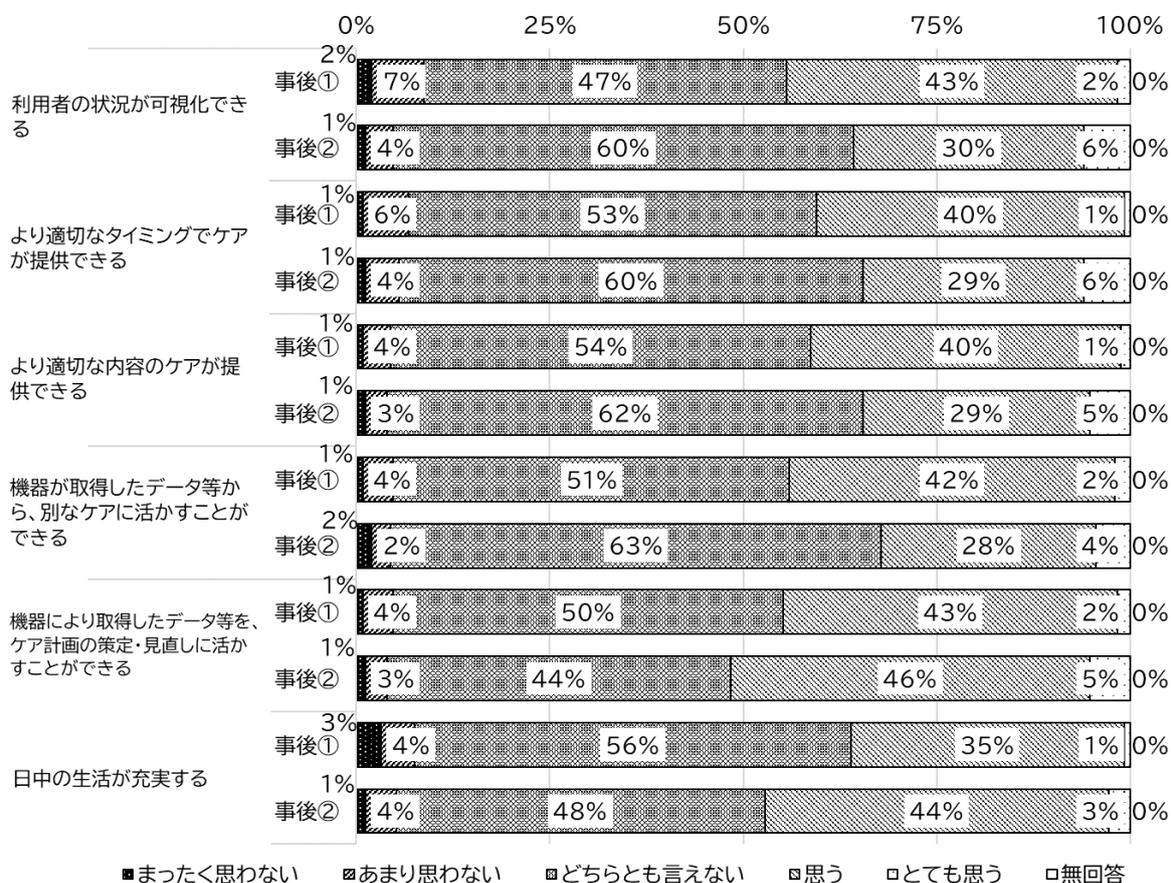
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

## シ. ケアの変更

ケアの変更の新規実証全体の結果は以下の通り。

図表 VI-84 ケアの変更:新規実証全体

		まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計	
利用者の状況が可視化できる	事後①	人数(人)	5	17	118	108	4	0	252
		割合	2%	7%	47%	43%	2%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	9	150	75	15	0	252
		割合	1%	4%	60%	30%	6%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供 できる	事後①	人数(人)	2	15	133	100	2	0	252
		割合	1%	6%	53%	40%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	11	151	72	15	0	252
		割合	1%	4%	60%	29%	6%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供でき る	事後①	人数(人)	2	9	137	101	3	0	252
		割合	1%	4%	54%	40%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	7	155	74	13	0	252
		割合	1%	3%	62%	29%	5%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別 なケアに活かすことができる	事後①	人数(人)	2	10	129	106	5	0	252
		割合	1%	4%	51%	42%	2%	0%	100%
	事後②	人数(人)	5	6	160	70	11	0	252
		割合	2%	2%	63%	28%	4%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケ ア計画の策定・見直しに活かすこと ができる	事後①	人数(人)	2	10	127	109	4	0	252
		割合	1%	4%	50%	43%	2%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	7	112	117	13	0	252
		割合	1%	3%	44%	46%	5%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人)	8	11	142	89	2	0	252
		割合	3%	4%	56%	35%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	10	120	112	7	0	252
		割合	1%	4%	48%	44%	3%	0%	100%



※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

## (5) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の 5 項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

### ① 実証の結果について

図表 VI-85 実証の結果について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>分業されたので、直接介護だけの業務の場合、介護に集中できる効果があったようだ。</u></li> </ul>
	利用者向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>QOL が向上したのは、空いた時間でレクリエーションや理学療法士の介入ができ、自立支援が推進されたことが主な要因と考えられる。</u></li> </ul>
チャーム南田辺	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>調査を重ねるごとに、職員同士での声かけが増加し、業務効率的に進められるようになったことで直接介護の割合が増加したと考える。</u></li> <li>・ <u>また、間接業務を行う職員を設けたことで、その他の職員は直接介護へ従事しやすくなったことも要因として考えられる。</u></li> </ul>
	利用者向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>QOL の向上について、体操に参加する利用者が増えたことが要因として考えられる。</u></li> <li>・ <u>また、体操への参加を含め活動量が増えたことで気持ちが前向きになり、日々の生活の中で楽しいことが見つけられるようになったことも要因として考えられる。</u></li> <li>・ <u>職員が効率よく動けるようになったことで時間的な余裕ができ、入居様に対して良い効果が出たのではないかと考えられる。</u></li> </ul>
チャーム西宮用海町	職員向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>以前は、介護職員が食事提供や食器洗い等も一連の業務として実施していたが、間接介護と分業するようになったことで、心理的負担は軽減したと聞いている。</u></li> <li>・ <u>導入時はネガティブな反応だったが、傾聴に充てられる時間が増え、職員からポジティブな意見が聞かれた。</u></li> <li>・ <u>役割分担をしたことで、直接介護を中心に担う職員が状況を見つづ、ケアのタイミングをコントロールできるようになったことをポジティブに捉えていた。</u></li> </ul>
特定有料老人ホームリバーティーハウスあさくら	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>サポーターを確保するまでの人員を確保できなかった。</u></li> <li>・ <u>サービス提供としては良い形であったと認識している。直接介護が増えたことについては現場職員にフィードバックすることで、やりがいの醸成に繋げたい。</u></li> </ul>
特定施設入居者生活介護 虹の夢津	利用者向けアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>記録者が変わってしまい、QOL の評価基準がぶれてしまった。</u></li> </ul>
介護付有料老人ホームアズハイム三郷	調査全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>業務効率化により、前倒しでアセスメントなどの実施ができた。</u></li> </ul>

② 実証時発生した課題とその対応について

図表 VI-86 実証時発生した課題とその対応について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	職員について	・ <u>介護職員と間接職員の分けをしたことがないため、円滑にオペレーションができるか不安だったが、実際やってみて、余計なことを考えずに直接介護に集中できる</u> といった声が聞かれた。
チャーム南田辺	職員について	・ <u>最初は業務負担の偏りを理由に職員の中で不満が上がることもあり、「間接業務ラインの職員にも直接介護をやってもらっても良いのでは？」という意見があった。そのため、実際に上手く業務が回るまで3、4カ月程度要した。</u>
	利用者について	・ <u>間接業務ラインの職員として勤務していても他の職員と同じユニフォームを着ているため、利用者からの見分けがつかず声を掛けられることが多々あり対応に苦慮した。</u>
チャーム西宮用海町	職員について	・ <u>間接業務だけ担うラインを設けたが、最初は業務負荷の偏りから不満が挙がることもあったが、皿洗いや洗濯を介護助手に任せることができると、役割が明確になり、ありがたいとの声が出るようになった。</u> ・ <u>定型的な業務の効率化は可能である。</u> ・ <u>一方で、臨時対応には課題が残る。</u>
	利用者について	・ <u>同じ服を着ているため、利用者からはわかりづらく、ケアを頼まれても、他の職員を呼ばなければならないのが難しかった。</u>
特定有料老人ホームリバーティーハウスあさくら	利用者について	・ <u>特定の利用者だが、認知度によって見守り機器の取り外しや電源を消す行為などが見られた。</u>
	施設について	・ <u>サーバーエラーになることが何度か発生した。その際、再起動や調整が必要になりバンダーとやり取りが発生した。</u>
特定施設入居者生活介護 虹の夢津	利用者について	・ <u>実証期間中にヒヤリハットが1件発生した。事前調査時に見守り機器を止めていたことで、移乗介助が必要な方の発見が遅れてしまった。</u>
介護付有料老人ホームアズハイム三郷	施設について	・ <u>フロアの業務繁忙の格差を職員間でどのように埋めて行くかに苦労した。</u> ・ <u>配置される職員のレベル格差をなくすため、インカムでの連絡調整で埋めるように工夫したが、困難なところもあった。</u>

### ③ 委員会の開催について

図表 VI-87 委員会の開催について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設長・管理者、介護職員(リーダークラス)、介護職、看護職、ケアマネジャーが参加して実施している。</li> </ul>
チャーム南田辺	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会は施設内で月に1回、全社的に月に1回実施。</li> <li>委員会には生産性向上の責任者は毎回参加し、その他にはサブリーダー等が参加し、合計で5、6名程度である。</li> <li>最終的な目標は定まっていたため、実証での取組について職員の声を聞き、職員に落とし込むまでの話し合いを実施した。</li> <li>タブレット(記録システム)での申し送り・紙での配布だけでなく、口頭での発信を実施した(口頭での周知がより浸透しやすいと感じた。)</li> </ul>
チャーム西宮用海町	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会は施設内で月に1回、全社的に月に1回実施。</li> <li>委員会には生産性向上の責任者は毎回参加し、その他にはサブリーダーと他1、2名程度が参加。</li> <li>全社的な委員会はオンラインで開催し、事例紹介、発表やグループワークを行うことで悩みごとを共有している。<u>現在の課題としては、興味のあるテーマだけ参加することや、忙しいから参加できないことなどである。</u></li> <li>委員会に参加していない職員への周知は、社内で使っているシステム上に議事録をアップし、普段使っているタブレットから閲覧できるようにした。また、動き方の変更は重要事項なので、別途書面で職員に通知した。</li> </ul>
特定有料老人ホームリバティーハウスあさくら	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会は月に1回開催。</li> <li>介護現場のユニットリーダー、副施設長、相談員、看護師、栄養士、理学療法士、ケアマネジャーが参加。</li> <li>委員会に出席していない職員への周知方法は、会議録の回覧のほか、チャットツール上の掲示板機能を使用した議事録添付と機器使用の補足説明を行った。</li> </ul>
特定施設入居者生活介護 虹の夢津	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会は月に1回開催。</li> <li>管理者、介護職のリーダー層が参加。</li> <li>タイムスタディを実施し業務を効率化することで空いた時間を何に使うか、退勤、休憩取得時等の職員同士の声掛けを実施していくこと等を話し合った。</li> <li>検討結果については、朝礼で目的や大事なルールは口頭で説明し、会議録の回覧や、ルールについては定着するまで書面に貼付していた。</li> </ul>
介護付有料老人ホームアズハイム三郷	委員会の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>全職種を対象としているが、全員が参加することは困難。</u></li> <li>介護、看護、清掃職員、施設長が参加して打合せを実施した。どのように質を落とさず実施できるかということ本部と話しあった。</li> <li>PC上の記録ソフト、業務スケジュールの紙への貼り出しや朝礼・夕礼にて、複数回の情報共有を行った。</li> </ul>

④ 実証目的に対する達成状況について

図表 VI-88 実証目的に対する達成状況について

施設名	カテゴリ	主なご意見
介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	・ <u>夜勤者は、有給休暇を取得できるように変化した。</u>
	利用者の観点(ケアの質に対する効果等)	・ <u>スマートフォンにアプリを入れたことで、利用者の状態を随時遠隔で確認でき、異変に気付くのが早くなった。また、睡眠の状況から、転倒予想ができ、それを共有することで転倒予防につながった。</u>
チャーム南田辺	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>残業については、普段よりは減少していると感じている。要因として、実証期間中は声掛けをしていたため、業務が効率化されたことが挙げられる。</u></li> <li>・ <u>間接業務について、業務内容によって今やることなのか、誰がやるべきなのか職員主体で話し合ったことで、徐々に職員の負担は減ったと感じている。</u></li> <li>・ 本実証をきっかけに、更なる業務効率化を目指したい。法人内には洗濯を外注しているホームもあるため、今後は更なる負担軽減のために検討したい。</li> </ul>
	利用者の観点(ケアの質に対する効果等)	・ <u>QOL の変化も含め、職員が効率よく動けるようになったことで時間的な余裕ができ、入居者様に対して良い効果が出たのではないかと考えられる。</u>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>職員間の負担が偏っていたため、見つめなおす機会になって良かった。</u></li> <li>・ 現時点で課題はない。今後入職される職員にも周知していきたい。</li> <li>・ <u>今後もオペレーションを継続していきたい。職員としても動きやすく業務効率化の効果を実感したため、最も良いオペレーションであったと感じている。</u></li> </ul>
チャーム西宮用海町	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	・ <u>タイムスタディ調査に慣れないこともあり、分単位で漏れがないよう丁寧に入力しデータをクリーニングすることに時間を要してしまい、残業につながってしまった。</u>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)	・ <u>施設が3階建てであることから、間接業務の担当職員のフロア間の行き来が非効率的であった。</u>
特定有料老人ホームリバーティーハウスあさくら	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>夜勤者が階を跨いで巡回する必要があったが、見守り機器を使用することで、その時間帯にシフト作成やアセスメント記録などの入力を行うことができた。</u></li> <li>・ <u>見守り機器を使用し始めてから、夜間の業務時間にコールが重なった場合も、優先順位が決められた。</u></li> </ul>

施設名	カテゴリ	主なご意見
	利用者の観点(ケアの質に対する効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り機器を使用することで、利用者のお昼寝の状況がわかり、日中寝すぎていることで夜間に頻回に起きることが把握できた。</li> </ul>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り機器を使用したことで、転倒事故の検証につながった。具体的には、転倒した方の夜間の離床時間を把握できた事例があった。</li> </ul>
特定施設入居者生活介護 虹の夢津	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が重複して訪室することが減った。</li> <li>・また、主観的ではあるが、残業は減っていると感じる。</li> <li>・<u>インカムについて実証期間は頑張って使っていたが、その後、元々使っていない職員は使わなくなった。</u></li> <li>・そのため、インカム活用ルール、機器を持つ・持たないの方がいたため、朝礼等でもつ目的を改めて周知し、ルールとともに、必ず使わないといけないという状況を作っている。</li> </ul>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>インカムを使うことで、誰がどこにいるかなど把握できる状況ができるようになった。</u></li> <li>・<u>実証を通してインカムのルールを作ったことで、職員を呼びやすくなり、心理的にも安心感ができた。</u></li> <li>・今後は、記録業務などを業務時間内にやっていけるように進めていく必要があると感じている。</li> <li>・<u>今後も実証時のオペレーションを継続できそうと感じている。</u></li> <li>・全員がしっかり機器を活用することができるようになると、介護の質の維持にも繋がっていくと考える。</li> <li>・<u>スマートフォンとピッチが1つに集約できていないため、今後はナースコールをスマートフォン対応にしなければならないと認識している。</u></li> <li>・<u>記録の入力がスマートフォンだと使いにくい。音声入力を活用してみたい。</u></li> </ul>
介護付有料老人ホーム アズハイム三郷	職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しいフロアに配置される職員にとっては、定時で帰宅できたという喜びの声があった。</li> <li>・<u>入浴、温食、食事提供のタイミングの差を設けて実施するなどにより、職員の休憩を取りやすくなった。</u></li> </ul>
	利用者の観点(ケアの質に対する効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>ケアの中身について、排泄介助の抜け漏れなどがあったほか、定時で実施している体位交換が抜けてしまったことがあった。</u></li> <li>・<u>利用者への対応について、リアルタイムでどこまで対応しきれているのかが把握しきれなかった。</u></li> </ul>
	施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>当施設が実証に選ばれたということで、喜ぶ職員がいた。</u></li> <li>・<u>日常で実施していくには今の材料をどんなに駆使しても、旗を振る人がいないとうまくオペレーションを回していくことが難しい。</u></li> </ul>

⑤ 生産性向上に取り組む特定施設における人員配置基準の柔軟化の届け出について

図表 VI-89 生産性向上に取り組む特定施設における人員配置基準の柔軟化の届け出について

施設名	主なご意見
介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	・前向きに検討しているが、現時点で未定である。
チャーム南田辺	・法人の方針としては前向きに考えているが、施設としてはまず 3:1 を目指していきたい。
チャーム西宮用海町	・届け出ることとし、実際に自治体と調整を開始している。
特定有料老人ホームリバティーハウスあさくら	・現時点では検討していない。
特定施設入居者生活介護 虹の夢 津	・未定である。
介護付有料老人ホームアズハイム三郷	・未定である。 ・生産性向上推進体制加算(Ⅰ)届出済である。

#### 4. 実証結果(共通)

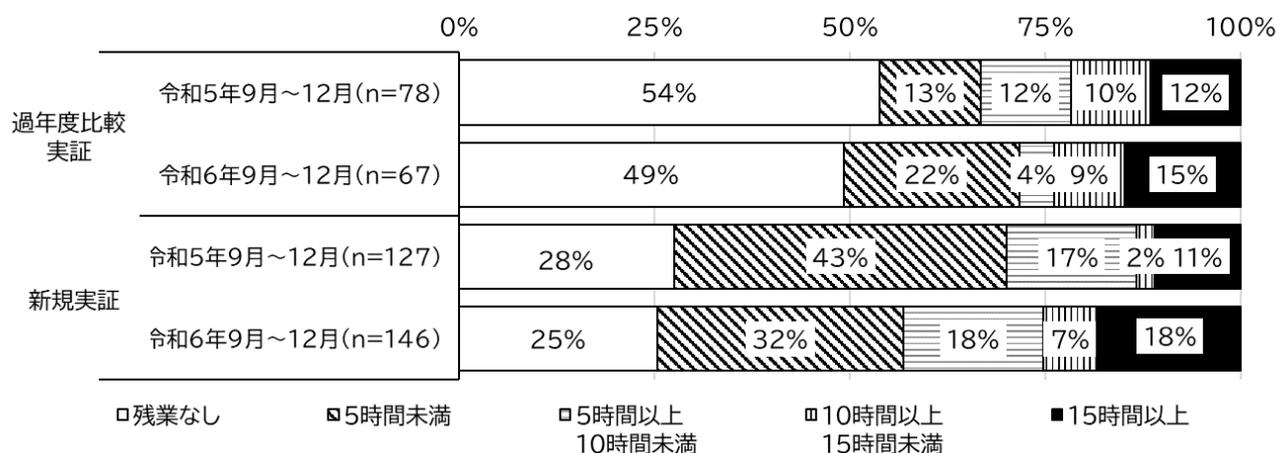
##### (1) 労働時間等調査

###### ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、実証パターン別の集計結果は以下の通り。

図表 VI-90 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間(実証パターン別)

実証パターン		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間	
過年度比較実証	令和5年9月~12月(n=78)	人数(人) 割合	42 54%	10 13%	9 12%	8 10%	9 12%	4.98
	令和6年9月~12月(n=67)	人数(人) 割合	33 49%	15 22%	3 4%	6 9%	10 15%	5.32
	令和5年9月~12月(n=127)	人数(人) 割合	35 28%	54 43%	21 17%	3 2%	14 11%	5.04
	令和6年9月~12月(n=146)	人数(人) 割合	37 25%	46 32%	26 18%	10 7%	27 18%	6.86



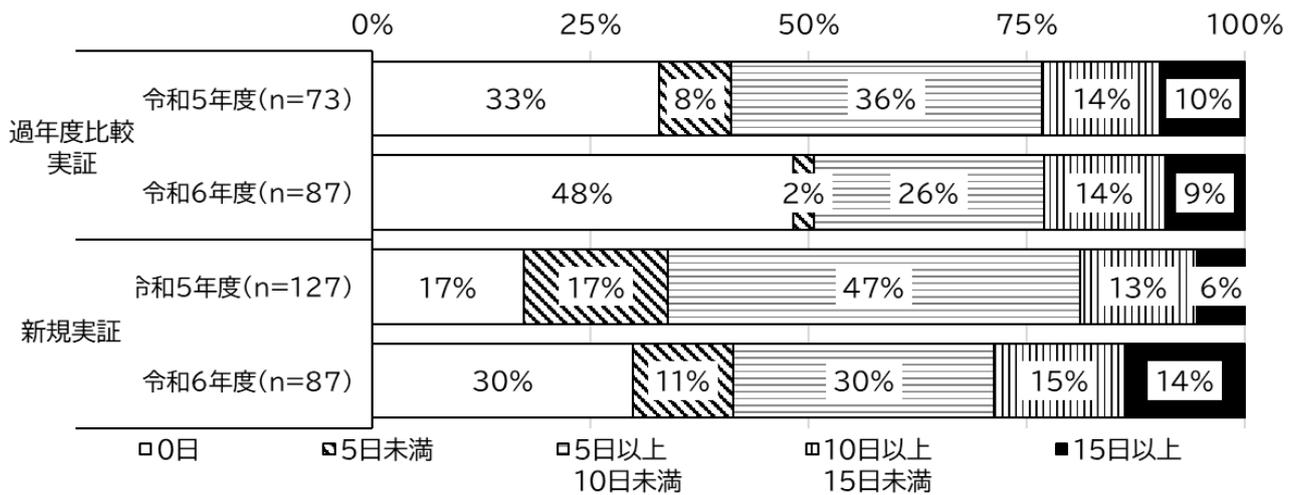
###### イ. 職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数について、実証パターン別の集計結果は以下の通り。

なお、令和6年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 VI-91 有給休暇の取得状況の変化(実証パターン別)

実証パターン		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数	
過年度比較実証	令和5年度(n=73)	人数(人) 割合	24 33%	6 8%	26 36%	10 14%	7 10%	5.30
	令和6年度(n=87)	人数(人) 割合	42 48%	2 2%	23 26%	12 14%	8 9%	5.57
	令和5年度(n=127)	人数(人) 割合	22 17%	21 17%	60 47%	17 13%	7 6%	5.92
	令和6年度(n=87)	人数(人) 割合	26 30%	10 11%	26 30%	13 15%	12 14%	6.89

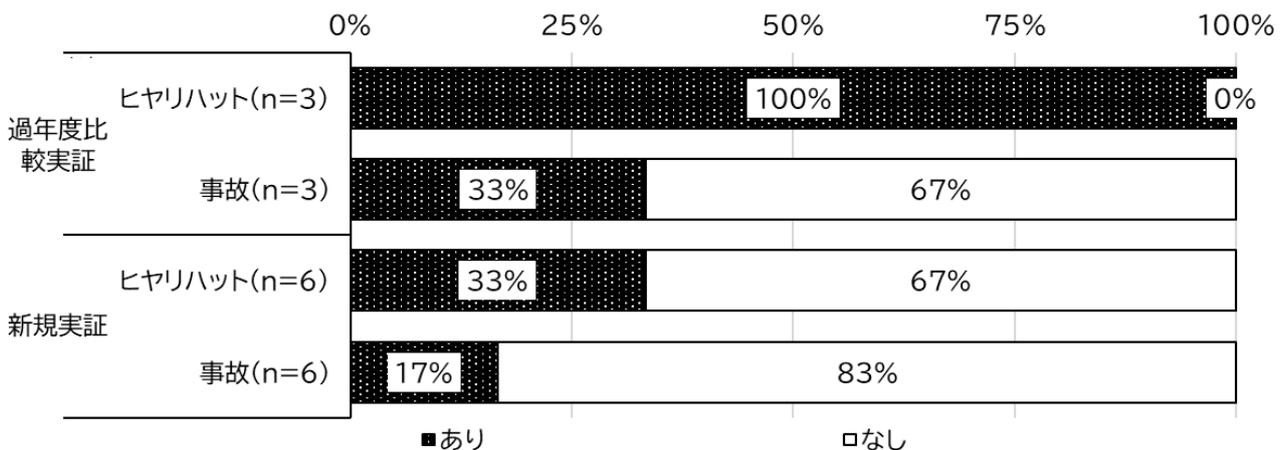


### ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故について、実証パターン別の結果は以下の通り。

図表 VI-92 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無(実証パターン別)

実証パターン			あり	なし
過年度比較実証	ヒヤリハット	施設数(件)	3	0
		割合	100%	0%
事故		施設数(件)	1	2
		割合	33%	67%
新規実証	ヒヤリハット	施設数(件)	2	4
		割合	33%	67%
事故		施設数(件)	1	5
		割合	17%	83%



図表 VI-93 実証期間中のヒヤリハットの内容・再発防止策

実証パターン	内容	再発防止策
過年度比較実証	見守り機器のエラーが出ていたが、ネットワークの影響による一時的なものと考え放置していたら、一向に改善せず後ほど確認を行うと電源コードが本人様より抜かれているのを発見した。	機器窓口担当者がいないから、対応が出来ないと決めつけずにエラーが確認された場合には、まず機器の電源が入っているか、ネットワーク干渉がないかを確認する。

実証パターン	内容	再発防止策
過年度比較実証	10時31分頃、ベッドの離床センサー反応で訪室したところ床に尻をついた状態で居室ドア方向に移動されている状態。ベッドは低床セットで床にはマット敷だが自らベッドに降りられていた。受傷なし。	離床センサー(眠りスキャン)のベッド上覚醒や起き上がりのアラーム設定しておらず、離床のみであり、最小のタイムラグで訪室出来るようセッティング変更する。常時音声チャイムに反応出来る設定をする。
過年度比較実証	3階から1階にエレベーターを一人で利用された。普段は車いす、外出時は歩行器をご利用。3階、1階ともに即時職員が本人を確認して同行したがエレベーター内は1人のみであり転倒などはなかったが安全確保不十分であった。	外出時はお迎え到着確認後、声掛けし職員同行誘導、お迎えの方への引継ぎを職員共通認識で対応する。
過年度比較実証	薬のセットミス	再確認しセット、確認者の徹底と確認の流れの見直し
過年度比較実証	センサーの設置ミス	センサーの設定を忘れてしまったため、利用者が歩いたことに気づかなかった。倒せずに済んだが部屋を出る際に確認する。
新規実証	発汗あり確認すると衣類を巻きこまれている。	職員が介入し定期的に適切な服装か確認する。
新規実証	非常階段のドアを開けようとする。	非常階段付近へ開閉センサーを設置し安全に留意する。
新規実証	居室ベッド付近での転倒あり。	ベッド柵が通常の場合ではなかった為大回りし転倒した可能性あり。再度、職員に柵の位置の確認を周知する。
新規実証	コールあり。居室内トイレにて車椅子からずり落ちたと洗面台と便器の間で長坐位になられている。	車椅子座席にビニール袋を敷いており前のめりになった際に車椅子からずり落ちたと思われる。ビニール袋でなく滑り止めマットレスを使用し再発防止に努める。
新規実証	要介護5 女性 移乗介助全介助の利用者 16:45 夕食の誘導に訪室すると自ら起き上がろうとベッドから足を下ろし起き上がろうとされていた。	普段から低床、ベッド柵は真ん中に行っている。実証期間中で見守り機器を停止していたため、特に再発防止策については検討なし。

## (2) 人員配置に係る調査結果

実証対象である9施設について、事前調査(オペレーション変更前)、事後調査(オペレーション変更後)の人員配置について確認をした。

事後調査において、3:1よりも少ない人員配置については下線と太字で示している。

図表 VI-94 人員配置に係る調査結果

No	施設名	実証パターン	事前	事後			
			人員配置	人員配置 Qライン等 含む(※1)	人員配置 Qライン等 除外(※2)	入居 数換 算値	在籍人員 (常勤換 算)
1	介護付有料老人ホームさわやか宗像館	過年度比較実証	2.90:1 (※3)	2.98:1	サポーター 導入なし	49.4	16.6
2	介護付有料老人ホームアミカの郷川口	過年度比較実証	2.83:1 (※3)	<u>3.02:1</u> ※概数	<u>3.37:1</u>	86.5	25.7
3	介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	過年度比較実証	2.67:1 (※3)	2.94:1	サポーター 導入なし	45.8	15.6
4	介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘	新規実証	2.29:1	2.80:1	<u>3.08:1</u>	56.8	18.4
5	チャーム南田辺	新規実証	2.74:1	2.82:1	2.99:1	51.8	17.3
6	チャーム西宮用海町	新規実証	2.80:1	<u>3.10:1</u>	<u>3.44:1</u>	63.8	18.6
7	特定有料老人ホームリパティールハウスあさくら	新規実証	2.50:1	2.47:1	サポーター 導入なし	41.4	16.7
8	特定施設入居者生活介護 虹の夢 津	新規実証	3.00:1	<u>3.10:1</u>	<u>3.10:1</u>	55.8	18.0
9	介護付有料老人ホームアズハイム三郷	新規実証	2.60:1	<u>3.14:1</u>	<u>3.16:1</u>	58.0	18.3

※1 Qライン等とは、令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を図った(Qライン相当)、または試行的な取組として、一時的にラインから外れて待機(又は間接業務に従事)していた介護職員(サポーター)を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

※2 入居換算値/{(常勤介護・看護職員)+(実証5日間における非常勤介護職員の総業務時間)-(Qライン等やサポーターが担った直接介護以外の時間)}

※3 過年度比較実証については、令和6年6~7月頃の値を記載。

## 5. 実証結果(実証施設別結果概要)

### (1) 介護付有料老人ホームさわやか宗像館

#### 結果概要：施設 No.1 (過年度比較実証)

##### 1. 職員情報

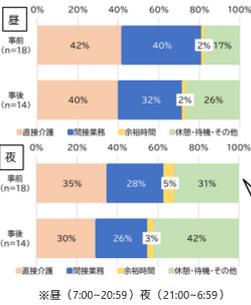
###### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別(人)	全体	男	女
	16	6	10
職種(人)	介護福祉士	介護職員(介護福祉士以外)	看護職
	3	13	0
経験年数(平均)	年代(平均)※	派遣・パート比率	
	5.5	32.4	0%

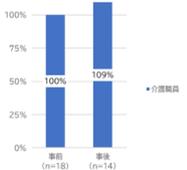
※年代(平均)は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

##### 3. 実証による効果

###### ■職員向けタイムスタディ調査



###### ■総業務時間の変化



- フォームガンを使用して、浴室掃除に要する人員・時間が大幅に削減できた。
- 利用者への排泄介助を定時誘導・介助から利用者個々への対応に見直し、排泄介助の実働時間を削減した。

##### 2. 事業所情報

###### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
55	1.87	15%

###### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	(※)

###### ■人員配置 (※) 介護助手や令和4年度検証におけるQラインに相当する職員の設定なし

事前 ※本年度調査実施前の令和6年6~7月頃の値	事後
2.90:1	2.98:1

##### 4. 職員や利用者の変化や声

※事前は令和5年度事前調査の結果を使用

心理的負担は点数が低い群が減少し、QOLは点数が高い群が増加

###### ■職員の心理的負担評価の変化



###### ■利用者におけるQOLの変化



###### ■ヒアリング結果

- 心理的負担に関して、最初は効率化による業務時間減少を実感していたが、業務改善によって忙しさへの関心が下がってしまい、忙しいと感じやすくなったように思う。
- 今年度の実証の時期が一時的に人手が不足していたため、サポーターの配置ができず、個々の職員の業務時間が増加してしまった。

### (2) 介護付有料老人ホームアミカの郷川口

#### 結果概要：施設 No.2 (過年度比較実証)

##### 1. 職員情報

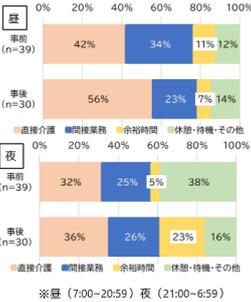
###### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別(人)	全体	男	女
	35	16	19
職種(人)	介護福祉士	介護職員(介護福祉士以外)	看護職
	14	16	5
経験年数(平均)	年代(平均)※	派遣・パート比率	
	5.3	40.6	8.6%

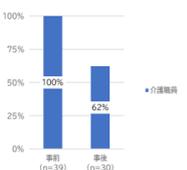
※年代(平均)は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

##### 3. 実証による効果

###### ■職員向けタイムスタディ調査



###### ■総業務時間の変化



- 様々なテクノロジーを導入したことによる業務の効率化、スタッフの意識の向上、介護助手の活用等ができた。

##### 2. 事業所情報

###### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
102	2.49	6%

###### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	○

###### ■人員配置

事前 ※本年度調査実施前の令和6年6~7月頃の値	事後 ※概数 Qライン等(※)含む	事後 Qライン等除外
2.83:1	3.02:1	3.37:1

※Qライン等とは、令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り扱うよう業務分任を回った(Qライン相当)、または試行的な取組として、一時的にラインから外れて待機(又は間接業務に従事)していた介護職員(サポーター)を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

##### 4. 職員や利用者の変化や声

※事前は令和5年度事前調査の結果を使用

心理的負担は点数が低い群が減少し、QOLは点数が高い群が増加

###### ■職員の心理的負担評価の変化



###### ■利用者におけるQOLの変化



###### ■ヒアリング結果

- 以前は、特に専門職の残業が多い状態があったが、改善された。
- 一律の介護から個別介護に移行できてきており、一例として、安眠を妨害しないケア等が実現できている。

### (3) 介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜

#### 結果概要：施設 No.3 (過年度比較実証)

##### 1. 職員情報

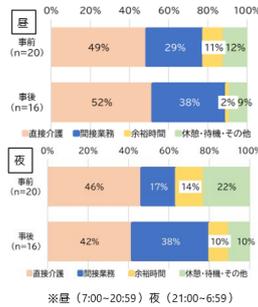
###### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別 (人)	全体	男	女
	23	9	14
職種 (人)	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員
	8	11	4
経験年数 (平均)	年代 (平均) ※	派遣・パート比率	
6.6	45.7	4.3%	

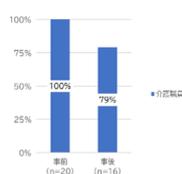
※年代 (平均) は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

##### 3. 実証による効果

###### ■職員向けタイムスタディ調査



###### ■総業務時間の変化



● 早番を1ライン減らして実証を実施したが、その分余裕時間が減少し、各職員において間接業務に要する時間が増えてしまった。

##### 2. 事業所情報

###### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
54	2.21	12%

###### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	○

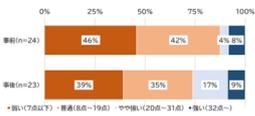
###### ■人員配置 (※) 令和4年度検証におけるQラインに相当する職員の設定なし

事前 ※本年度調査実施直前の令和4年6~7月頃の値	事後
2.67:1	2.94:1

##### 4. 職員や利用者の変化や声

※事前は令和5年度事前調査の結果を使用  
心理的負担は点数が低い群が減少し、QOLは点数が高い群が増加

###### ■職員の心理的負担評価の変化



###### ■利用者におけるQOLの変化



###### ■ヒアリング結果

- 心理的負担については、早番番1ライン減らしたことによる一時的な業務負担増加が要因と考えられる。
- 徐々にではあるが、職員も新しい取組に慣れてきており、効率化されていることを実感している。熱心な職員に業務負担が集中してしまっていることが課題である。

### (4) 介護付有料老人ホームみんなの家・土呂栄光荘

#### 結果概要：施設 No.4 (新規実証)

##### 1. 職員情報

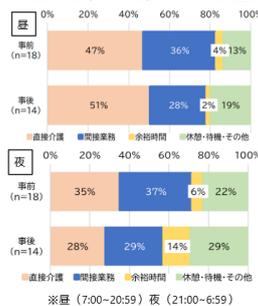
###### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別 (人)	全体	男	女
	15	4	11
職種 (人)	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員
	2	13	0
経験年数 (平均)	年代 (平均) ※	派遣・パート比率	
6.5	45.3	40%	

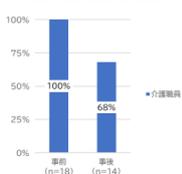
※年代 (平均) は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

##### 3. 実証による効果

###### ■職員向けタイムスタディ調査



###### ■総業務時間の変化



● 直接介護を担う職員と間接業務を担う職員に分業されたことで、マルチタスクから解放されそれぞれが業務に集中できた。

##### 2. 事業所情報

###### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
63	2.05	10%

###### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	(※)

###### ■人員配置 (※) 令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を回った (Qライン相当)

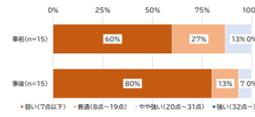
事前	事後 Qライン等 (※) 含む	事後 Qライン等除外
2.29:1	2.80:1	3.08:1

※Qライン等とは、令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を回った (Qライン相当)、または試行的な取組として、一時的にラインから外れて待機 (又は間接業務に従事) していた介護職員 (サポート) を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

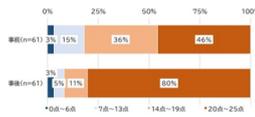
##### 4. 職員や利用者の変化や声

心理的負担では点数が低い群が増加し、QOLは点数が高い群が増加

###### ■職員の心理的負担評価の変化



###### ■利用者におけるQOLの変化



###### ■ヒアリング結果

- 有給休暇が取得しやすくなった。
- 利用者のQOLが向上した主な要因は、業務効率化によってできた時間で、レクリエーションやの実施やPTの介入ができ、自立支援が推進されたことが考えられる。

# (5) チャーム南田辺

## 結果概要：施設 No.5 (新規実証)

### 1. 職員情報

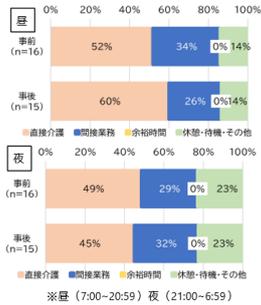
#### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別 (人)	全体	男	女
	21	12	9
職種 (人)	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員
	11	7	3
経験年数 (平均)	年代 (平均) ※	派遣・パート比率	
7.0	38.1		4.8

※年代 (平均) は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

### 3. 実証による効果

#### ■職員向けタイムスタディ調査



#### ■総業務時間の変化



● 調査を重ねるごとに職員同士での声かけが増加し、業務効率的に進められるようになったことや、間接業務を行う職員を設けたことで、その他の職員は直接介護へ従事しやすくなった。

### 2. 事業所情報

#### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
64	1.93	18%

#### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	(※)

(※) 4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を回った (Qライン相当)

#### ■人員配置

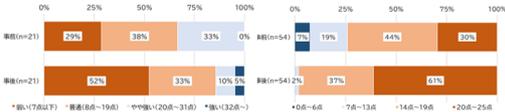
事前	事後 Qライン等 (※) 含む	事後 Qライン等除外
2.74:1	2.82:1	2.99:1

※Qライン等とは、令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を回った (Qライン相当)、または試行的な取組として、一時的にラインから外れて待機 (又は間接業務に従事) していた介護職員 (サポーター) を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

### 4. 職員や利用者の変化や声

心理的負担では点数が低い群が増加し、QOLは点数が高い群が増加

#### ■職員の心理的負担評価の変化



#### ■ヒアリング結果

- 職員間の負担が偏っていたため、見つめなおす機会になって良かった。
- 職員が効率よく動けるようになったことで時間的な余裕ができ、利用者のQOLに対して良い効果が出たのではないかと考えられる。
- 体感に参加いただく利用者が増えたことQOLが向上したと考えられる。

# (6) チャーム西宮用海町

## 結果概要：施設 No.6 (新規実証)

### 1. 職員情報

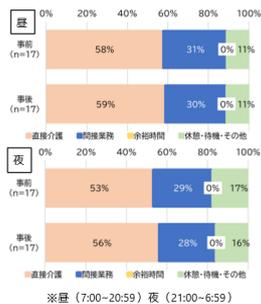
#### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別 (人)	全体	男	女
	35	9	26
職種 (人)	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員
	15	17	3
経験年数 (平均)	年代 (平均) ※	派遣・パート比率	
6.7	39.1		17.1%

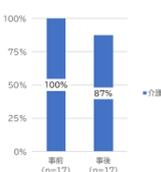
※年代 (平均) は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

### 3. 実証による効果

#### ■職員向けタイムスタディ調査



#### ■総業務時間の変化



● 役割分担をしたことで、直接介護を中心に担う職員が状況を見つつ、ケアのタイミングをコントロールできるようになった。

### 2. 事業所情報

#### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
79	1.96	26%

#### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	(※)

(※) 4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を回った (Qライン相当)

#### ■人員配置

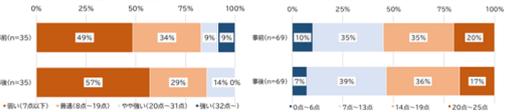
事前	事後 Qライン等 (※) 含む	事後 Qライン等除外
2.80:1	3.10:1	3.44:1

※Qライン等とは、令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を回った (Qライン相当)、または試行的な取組として、一時的にラインから外れて待機 (又は間接業務に従事) していた介護職員 (サポーター) を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

### 4. 職員や利用者の変化や声

心理的負担では点数が低い群が増加し、QOLは大きな変化はなし

#### ■職員の心理的負担評価の変化



#### ■ヒアリング結果

- 以前は、介護職員が食事提供や食器洗いも一連の業務として実施していたが、間接介護と分業するようになったことで、心理的負担は軽減した。
- 役割分担をしたことで、直接介護を主に担う職員が状況を見てケアのタイミングをコントロールできるようになった。

## (7) 特定有料老人ホームリバティーハウスあさくら

### 結果概要：施設 No.7 (新規実証)

#### 1. 職員情報

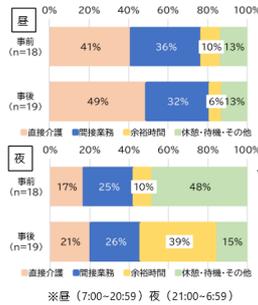
##### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別 (人)	全体	男	女
	15	2	13
職種 (人)	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職
	8	7	0
経験年数 (平均)	年代 (平均) ※	派遣・パート比率	
10.7	34	6.7%	

※年代 (平均) は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

#### 3. 実証による効果

##### ■職員向けタイムスタディ調査



#### 2. 事業所情報

##### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
49	1.81	17%

##### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	(※)

##### ■人員配置 (※) 介護助手や令和4年度検証におけるQラインに相当する職員の設定なし

事前	事後
2.50:1	2.47:1

#### 4. 職員や利用者の変化や声

心理的負担では点数が高い群が減少し、QOLは点数が低い群が減少

##### ■職員の心理的負担評価の変化

##### ■利用者におけるQOLの変化



##### ■ヒアリング結果

- 見守り機器を使用し始めてから、夜間の業務時間にコールが重なった場合も、優先順位が決められた。
- 見守り機器を使用することで、利用者のお昼寝の状況がわかり、日中寝すぎていることで夜間に頻回に起きていることが把握できた。

## (8) 特定施設入居者生活介護 虹の夢津

### 結果概要：施設 No.8 (新規実証)

#### 1. 職員情報

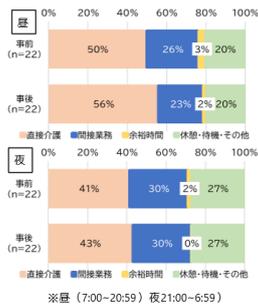
##### ■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別 (人)	全体	男	女
	21	3	18
職種 (人)	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職
	14	7	0
経験年数 (平均)	年代 (平均) ※	派遣・パート比率	
5.4	34.2	9.5%	

※年代 (平均) は回答のあった年代をもとに平均値を計算していることに留意

#### 3. 実証による効果

##### ■職員向けタイムスタディ調査



#### 2. 事業所情報

##### ■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
60	2.50	10%

##### ■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	○

##### ■人員配置

事前	事後 Qライン等 (※) 含む	事後 Qライン等除外
3.00:1	3.10:1	3.10:1

※Qライン等とは、令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り扱うよう業務分担を回った (Qライン相当)、または部分的な職組として、一時的にラインから外れて待機 (又は間接業務に従事) していた介護職員 (サポーター) を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

#### 4. 職員や利用者の変化や声

心理的負担では大きな変化はなく、QOLは点数が低い群が増加※

##### ■職員の心理的負担評価の変化

##### ■利用者におけるQOLの変化



##### ■ヒアリング結果

- インカムを使うことで、誰がどこにいるかなど把握できる状況ができるようになった。
- インカムのルールを作ったことで職員を呼びやすくなり、心理的な安心感が生まれた。

(9) 介護付有料老人ホームアズハイム三郷

結果概要：施設 No.9 (新規実証)

1. 職員情報

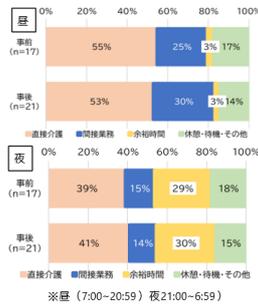
■実証フロアにおける性別・職種等の情報

性別 (人)	全体	男	女
	21	7	14
職種 (人)	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員
	7	14	0
経験年数 (平均)	年代 (平均) ※	派遣・パート比率	
3.0	27.6	0%	

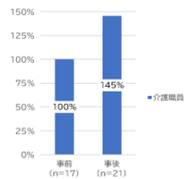
※年代 (平均) は回答のあった年代を右に平均値を計算していることに留意

3. 実証による効果

■職員向けタイムスタディ調査



■総業務時間の変化



●業務効率化により、従来より前倒してケア提供のためのアセスメント等を実施ができた。

2. 事業所情報

■施設・入居者の情報

居室数	平均要介護度	要支援者の割合
62	2.53	0%

■実証において使用した機器/介護助手等

見守り支援	情報通信機器	介護記録	介護助手
○	○	○	○

■人員配置

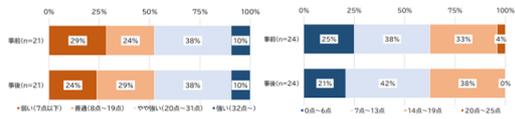
事前	事後 Qライン等 (※) 含む	事後 Qライン等除外
2.60:1	3.14:1	3.16:1

※Qライン等とは、令和4年度検証と同様に介護職員のうち一定数を間接業務に集中して取り組むよう業務分担を回った (Qライン相当)、または巡回的な取組として、一時的にラインから外れて待機 (又は間接業務に従事) していた介護職員 (サポーター) を指す。なお、一時的に待機していた介護職員の待機時間は人員配置に算入していない。

4. 職員や利用者の変化や声

心理的負担では大きな変化はなく、QOLは点数が低い群が減少

■職員の心理的負担評価の変化 ■利用者におけるQOLの変化



■ヒアリング結果

- 心理的負担に関しては、職員ごとに仕事へのやりがいを感じるものさしが違うことが一因であると考えられる。
- 忙しいフロアに配置される職員が定時に帰宅できたため、喜びの声があった。

## VII. 実証結果:①-2【生産性向上】

### 1. 実証概要

#### (1) 実証目的

令和6年度介護報酬改定で新設した「生産性向上推進体制加算(Ⅰ)あるいは(Ⅱ)」を算定した又は算定要件を満たす等、「働きやすい職場環境づくり」に積極的に取り組む施設系サービス等において、介護サービスの質の維持・向上、職員の負担軽減、効率的な人員配置の実現等の観点から評価検討に資するデータを整備する。

#### (2) 実証仮説

生産性向上推進体制加算(Ⅰ)・(Ⅱ)算定要件充足の前後でどのような変化が生じたのかを明らかにすることで、実証施設における取組の継続性や他施設への横展開におけるオペレーション上の要点を把握・発見することが可能となる。

- ① テクノロジー、いわゆる介護助手導入によって間接業務時間(訪室回数の削減、職員間の情報連携、記録時間等)が削減される
- ② その結果、職員の総業務時間及び当該時間に含まれる超過勤務時間が減り、職員の負担も軽減される
- ③ 一方、介護サービスの質は確保され、総業務時間に占める直接介護の時間の割合は増える
- ④ 同時に超過勤務時間の減少やテクノロジー、いわゆる介護助手を含めた役割分担による職員の負担軽減によって、職員が働きやすい環境となる

#### (3) 実証機器

本実証に使用した機器は以下の3種類とした。

図表 VII-1 実証で使用した機器(見守り機器)

No.	メーカー名	機器名	機器タイプ別の区分※
1	パラマウントベッド株式会社	眠りSCAN	バイタルタイプ
2	株式会社バイオシルバー	aams	バイタルタイプ

図表 VII-2 実証で使用した機器(インカム)

No.	メーカー名	機器名
1	株式会社レントシーバー	特定小電力トランシーバーMS50

(4) 対象施設

図表 VII-3 実証対象施設

No.	施設名	施設種別	生産性向上体制 推進加算 算定状況(※1)	定員	職員数	レンタル 機器	実証対 象 エリア
1	地域密着型特別養護老人ホームささづ苑	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(I)算定	22	99	-	2ユニット
2	特別養護老人ホームひまわり・安城	介護老人福祉施設	(I)算定	120	105	-	6ユニット
3	グループホームおおきな木	認知症対応型共同生活介護	(I)算定	18	19	-	事前:2ユニット 事後:1ユニット
4	特別養護老人ホーム 六甲の館	介護老人福祉施設	(I)算定	70	48	-	2階フロア
5	小規模多機能型居宅介護グリーンヒル八千代台	小規模多機能型居宅介護	(I)算定	29	20	見守り機器 (眠りSCAN)	小規模 全9床
6	地域密着型特別養護老人ホーム桜花苑きらり	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(I)算定	20	15	-	20床
7	特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム	介護老人福祉施設	(I)算定	90	151	-	一部エリア
8	ショートステイ 鈴鹿グリーンホーム 翠風	短期入所生活介護	(I)算定	20	22	-	一部エリア
9	介護老人保健施設みどり苑	介護老人保健施設	(II)算定 ※実証終了後に (I)算定	100	116	インカム	一般棟
10	特別養護老人ホーム塩屋さくら苑	介護老人福祉施設	(II)算定	80	50	インカム	3階4ユニット
11	特別養護老人ホーム YMBT	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(II)算定	29	45	見守り機器 (眠りSCAN)	3階・4階全エリア
12	グループホーム 大空	認知症対応型共同生活介護	(II)算定 ※実証終了後に (I)算定	9	22	インカム	全エリア
13	特別養護老人ホーム桜花苑	介護老人福祉施設	(II)算定	62	58	見守り機器 (眠りSCAN)	1階、2階の両フロア

No.	施設名	施設種別	生産性向上体制 推進加算 算定状況(※1)	定員	職員数	レンタル 機器	実証対 象 エリア
14	特別養護老人 ホームあさくら 苑	介護老人福 祉施設	(Ⅱ)算定	76	48	見守り機器 (aams)	1階フ ロア(1 ~3丁 目)
15	地域密着型特 別養護老人 ホーム セント・ ケアおおの	地域密着型 介護老人福 祉施設入所 者生活介護	(Ⅱ)算定	29	53	インカム	特養エ リア
16	介護老人保健 施設アルボース	介護老人保 健施設	(Ⅱ)算定	100	114	インカム 見守り機器 (眠りSCAN)	老健ユ ニット
17	特別養護老人 ホーム桜川陽だ まり館	介護老人福 祉施設	未算定	50	52	見守り機器 (眠りSCAN)	全エリ ア
18	特別養護老人 ホーム 芦花 ホーム	介護老人福 祉施設	未算定	107	76	見守り機器 (眠りSCAN)	20名 単位の 棟2つ
19	特別養護老人 ホーム ラ・ フォート河内長 野	介護老人福 祉施設	未算定 ※実証終了後に (Ⅱ)算定	50	28	-	1階エ リア
20	介護老人保健 施設夢の里	介護老人保 健施設	未算定	94	89	-	2階、3 階フロ ア

※1 生産性向上推進体制加算の算定状況は事前調査時点を掲載

## (5) 実証方法

### ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。事前調査終了後、オペレーション変更や機器導入からおおよそ1~2 か月後に、事後調査①を実施し、事後調査①からおおよそ1か月後に事後調査②を実施。

図表 VII-4 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和6年7月のうち平日5日間 (過年度比較を行う施設は、令和2~5年度調査使用のため実施なし)
事後調査①	令和6年10月~11月のうち平日5日間
事後調査②	令和6年12月~令和7年1月のうち平日5日間
ヒアリング調査	令和7年2月

※新型コロナウイルス感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

## イ. 各調査の概要

実証結果の把握は、実証の事前と事後で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「訪室回数記録調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 VII-5 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
① タイムスタディ調査	実証対象のユニット/フロアで担当された職員の方全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答方法:自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入)</li> <li>・ 調査スケジュール:事前(オペレーション変更前)1 回、事後(オペレーション変更後、レンタル機器導入後)2 回の計 3 回、それぞれ5日分実施。各日の勤務職員全員が回答</li> <li>・ 調査実施の時間帯:1 日中</li> </ul>
② 職員向けアンケート調査	実証対象のユニット/フロアで担当された職員の方全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答方式:自記式</li> <li>・ 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前 1 回、事後 2 回実施。職員 1 名につき1回のみ回答</li> </ul>
③ 利用者向けアンケート調査	調査対象者として選定された利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答方式:自記式</li> <li>※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼</li> <li>・ 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前 1 回、事後 2 回実施。利用者 1 名につき1回のみ回答</li> </ul>
④ 訪室回数記録調査	調査対象者として選定された利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答方式:自記式</li> <li>※各利用者の担当職員が調査期間中に回答。</li> <li>・ 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前 1 回、事後 2 回実施。</li> <li>・ 調査実施の時間帯:21 時～7 時</li> </ul>
⑤ ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査方法:WEB 会議による聞き取り</li> <li>・ 調査スケジュール:実証終了後に 1 回実施</li> </ul>

## ウ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更

介護ロボットや介護助手を活用したケアの質の向上、業務負担軽減や生産性向上を目的としたオペレーションの工夫・変更の検討を行った。

図表 VII-6 オペレーション変更票のまとめ 見守り機器(既に導入済み)

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
加算(Ⅰ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器からインカムへの知らせが重なるケースが多く、経験が少ない職員は慌ててしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応する優先順位について資料を作成し、新人を中心に周知・遵守を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優先順位付けにより、落ち着いた対応ができるようになり、職員の心理的負担軽減に繋げる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で見守り機器の機能の活用状況に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用できている職員と出来ていない職員の両者へヒアリングを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能の活用により、サービスの質の向上、事故防止に努める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>離床センサーからのタイムラグがあり、現場に駆けつけるとすでに体動が見られていることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者に合わせて、個別でセンサー設定(通知を離床から覚醒に変更など)や音設定を変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予期せぬ転倒等の事故予防に努め、誰の通知かの確認を容易にして職員負担を軽減する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の午前睡・午後睡の時は、スマートフォンを所持している職員がおらず、急変時や転倒転落時にすぐに対応できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンを12台追加購入予定。各フロアでスマートフォン4台が支給され、日勤帯でも常時スマートフォンを所持するように変更。マニュアルの配布や定例の中での使い方周知によって、スムーズに使いこなせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中、急変時の早期発見と転倒転落リスクの軽減を図る。フロア担当の職員の身体的・心理的負担の軽減を目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故またはヒヤリハット発生時等、記録動画の活用には至っておらず、再発防止策を講じるにあたっては根拠の不足である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメント委員会内にて、記録動画の確認の着眼点等を明確化し、全員に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録動画の活用により、事故発生原因の把握と根拠に基づいた再発防止策の発信に繋げる事を目指す。</li> </ul>
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤職員における訪室の業務負担が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時の巡視ではなく、見守り機器の活用により、利用者の状態に応じた訪室とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤時間帯の職員の精神的負担軽減を図る。</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能が活かしきれていない。</li> <li>認知症の方が、センサーを外す・隠す・コンセントを抜く等してしまう場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>センサーの位置を利用者ごとに調整して、訪室を適正化する。センサーを電池式に交換して対策する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器の機能を十分に活かし、職員の業務負担を軽減する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器の通知設定のルールが曖昧となっている。</li> <li>巡視時にスマートフォンで通知確認を行っているが、通知が多く確認作業は増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器のルールを見直し、定期巡視の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器の効率的な仕様により、夜勤職員の精神的、身体的負担軽減につなげる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>センサー型を既に導入しているが、全床設置ではない為、夜間巡回が定期的に行われている。</li> <li>緊急リスクの回避や原因を調べるのには適していないため、原因不明事故が発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カメラ型の見守り機器を全床導入し、巡回ではなくタブレット越しで確認し、適宜訪室する形に変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不要な訪室を削減し、職員の負担軽減及び対応が必要な利用者に関わる時間の確保、利用者のプライベート空間の確保及び、ベッドサイドでのインシデント・事故の原因検証に活用する。</li> </ul>
未算定(レンタル無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>センサー型の見守り機器を導入していたが、職員が機器を使いこなせておらず、機器の通知の度に訪室しており、職員に負担がかかっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カメラ型の見守り機器も導入し、対象エリア全体に見守り機器を設置。職員に使用方法等を定期的に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不必要な訪室を減らし、利用者様の眠りを妨げない状態を目指す。</li> <li>モニター、日誌を用いて、利用者様の日々の状態観察ができる状態を目指す。</li> </ul>

図表 VII-7 オペレーション変更票のまとめ 見守り機器(新規導入)

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間の訪室によって利用者が覚醒してしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を導入し、定期巡視の代用とした。また、介護記録ソフトに、<u>見守り機器のデータを取り込み、利用者の睡眠状態の把握に活用する。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の睡眠状態も把握でき、職員の心理的負担の軽減に繋げる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を一部導入し、夜間見守り支援機器を活用しているが、さらに導入・活用を進めて訪室回数を削減したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常を感知した際に職員が様子を見に行くというオペレーションへの変更をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡視にかかる時間等を削減し、記録等の間接業務に充てる時間を確保し、介護職員の負担軽減を図る。</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄タイミングの調整ができておらず、訪室回数の減少につなげられていないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を全床導入し、定時巡視の訪室回数を減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の中途覚醒を減らし、頓服の服用を減らす。</li> <li>職員の負担軽減を目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間帯において、巡視が頻回であり、職員の負担となっている。利用者の状態も落ち着いている中では不要な訪室により睡眠を妨げることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器の導入により、モニター越しに利用者の状態が確認できるため定期巡回の回数を削減。睡眠の状態を確認し、ケア方針の検討をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不要な訪室削減により職員の負担軽減。また、利用者の睡眠状態の観察と覚醒時間に合わせてケアの介入ができるため、個別ケアに繋がることを目指す。</li> </ul>
未算定(レンタル有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネオスケア 5 台を導入しているが、定期巡視に加えた訪室を減らしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レンタルで、実施工エリア全床に見守り機器を導入する。</li> <li>定期巡視以外の時間は見守り機器で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の心理的・時間的負担の軽減と利用者の安全を担保する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤職員における訪室の業務負担が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪室に替えて機器による確認とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を導入し、不要な訪室削減による職員の業務中断や疲労感の減少を図る。また、不要な訪室による利用者の睡眠クオリティの低下の防止を図る。</li> </ul>

図表 VII-8 オペレーション変更票のまとめ 介護記録ソフト(既に導入済み)

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
加算(Ⅰ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声入力可能な記録ソフトを活用しているが通信不良や操作に慣れない等で十分に使いこなせていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信不良時の対応や操作方法について ICT 委員会でマニュアルを整備し、周知をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信不良時の対応が周知されたが、一部対処方法が確立していない箇所があり引き続き業者ともやり取りしながら改善を目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員によって記録の内容や記録を活用したケア内容に統一されておらず、入力ミスもあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトの様式を活用した記録を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録内容を平準化することで、ケアの質の向上、業務効率化、記録のミスの削減を目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し送りについてノートを使用していたが、システムの申し送り機能の二重記録がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 か月の試用期間を経て、記録を完全にペーパーレス化した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム上で閲覧確認をし、過去の記録を検索で閲覧することで申し送りのミスを防ぐ。</li> <li>記録にかかる時間を削減する。</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトのユーザーインターフェースがシンプルでなく、見づらいため、入力に時間がかかる。</li> <li>重要項目の記録がされておらず、現状の課題に対する評価(説明根拠)に繋がらない。</li> <li>施設外での情報確認時、電話での確認や印刷物の持出で対応している。</li> <li>施設に戻ってからの記録作成のため時間外が発生する場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声入力型の介護記録ソフトに変更。マニュアルの配布や定例での使い方周知によって、使用者がスムーズに使いこなせるようにする。</li> <li>重要項目にマーキングし、各対応者が必読するよう工夫。未記録があった場合は当日出勤者内で再確認をする体制を構築。</li> <li>介護職員はノートPCで記録する。共用ノートPCが2台あり、不便はない。</li> <li>タブレット端末は看護師が基本使用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録時間の減少で生じる時間は、利用者とのレクリエーションに充てる。</li> <li>記録漏れを防ぐことにより、利用者の課題に対して適切な評価が可能となる。</li> <li>通院時の情報共有を円滑にするとともに、記録作成による時間外勤務の削減、印刷の手間や印刷物の管理等の手間を削減。職員が利用者に対してかけられる時間を増やす。</li> </ul>
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトは導入しているが、ペーパーレス化が実現できていない。</li> <li>介護記録ソフトと眠りスキャンの情報を上手く活用できていない。介護記録ソフトはデータとして活用しているものの、眠りスキャンのデータと連動できていない。</li> <li>職員が慣れるまでに時間がかかっている。</li> <li>手書き記録が多く、職員の休憩時間が取れないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日誌等について介護記録ソフトへ入力・確認とする。</li> <li>また、申し送りについても、担当者の対面・メモ等を介したやり取りではなく、介護記録ソフトを介した情報共有とした。</li> <li>ユニットのリーダー会議にて活用方法について勉強会を実施。分からないことはメーカーに確認する。</li> <li>施設独自でマニュアル作成し、より簡易的に入力できるようにルール化する。</li> <li>介護ソフトに入力する人を固定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録業務の効率化を目指す。</li> <li>介護記録ソフトと眠りスキャンを連携し、より良い情報の取得、共有を目指す。</li> <li>記録の時間を短縮し、職員の休憩が十分に取れることを目指す。</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設外での情報確認時、電話での確認や印刷物の持出で対応している。</li> <li>施設に戻ってからの記録作成のため時間外が発生する場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用し、施設外で記録閲覧・情報収集や記録をする運用を始めた。</li> <li>持ち出しのアナウンスをし、定着に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院時の情報共有を円滑にするとともに、記録作成による時間外勤務の削減、印刷の手間や印刷物の管理等の手間を削減。職員が利用者に対してかけられる時間を増やす。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンを利用した入力の一部のみ実施しているが、通院時の情報収集等には使用できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通院時、特に夜間の救急搬送時等に機器を持参し、情報収集をしやすいようにする。</li> <li>隙間時間に入力できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外出先でも情報収集を迅速に行えるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末での記録は導入しているが、記入漏れがあり、記入確認をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録しながら、記録漏れがないような仕組みを作り、後日記録の確認する手間時間を削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の記録時間の短縮、見直し業務をする時間の短縮を目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトが医療機関向けのものであり、介護施設との互換性がなく、PC入力が不慣れな職員にとって入力作業が負担になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護施設に合ったソフト導入を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録、申し送りの効率化と職員の業務時間を削減し、負担を減らす。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトの機能を最大限に活用できていない。</li> <li>職員により記入時間にムラがあり、転記作業も多く見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT連動の記録ソフトに変更し、夜間記録を自動化する。</li> <li>1人1台程度のタブレットを支給し、記録を各自可能にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録時間を削減し、記録内容を質の高いものに昇華させ根拠に基づいた科学的介護を実践・記録する。</li> </ul>
未算定(レンタル有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録ソフトへの情報の記載方法が職員によってマチマチで、正確に情報共有がなされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護記録情報をソフトにて一元管理するように変更する。文章テンプレートの作成など入力支援機能を運用していくことで情報の記載方法を統一化し、情報共有の効率化と、入力にかかる時間の短縮を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の効率化、省力化により、利用者への直接介護に係る時間を増やすことを目指す。</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
未算定(レンタル無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフト間の相互関係がなく会社側も対応していないため、同じ入力が必要になり、時間を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトからのサジェストを利用し、短文での入力とする。</li> <li>定型文を使用することで入力に係る時間を減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務労力を最低限に抑え、職員の業務負担を軽減する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録業務のために十分な時間が取れず、記録がされていない場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録時間短縮のため、定型文を作成し、これを用いて記録業務を行う。日中の職員配置を検討し、業務の効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録作業の効率化を図り、空いた時間を利用者のケアに充てる。</li> </ul>

図表 VII-9 オペレーション変更票のまとめ インカム等の ICT 機器(既に導入済み)

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
加算(I)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時に、他フロアの職員の協力が必要な場合に、一斉連絡がとれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムで全体連絡ができるように、Wi-Fi 環境等を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故発生時に、その場を離れることなく速やかに応援要請、情報共有し、スムーズに協力体制が確保することで、夜勤者の身体的・精神的負担軽減を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内職員への連絡事項や情報共有が迅速に伝わらない課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器のチャット機能を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡調整の業務の効率化を目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリを使用しているため、タイムラグがある。</li> <li>Wi-Fi 環境の混雑状況により動きが変動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設が広くないため、全員ではなくユニットリーダーのみに使用に変更する。</li> <li>施設外でも活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりリアルタイム性の高い対応を実現することで、利用者の安全性確保に寄与する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時には電話で対応しているが応答までに時間を要し、初動が遅れてしまうケースがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムの使用場面や伝達内容と応答方法について職員間で共有し、簡潔な情報交換、緊急性の伝達と応援要請を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムを使用する事で発信者・受信者との確実な情報交換と共有を図る。</li> <li>また効率的で迅速な応援体制を実現化する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声入力の介護記録ソフトにてインカムの代用をしていたが、タイムラグが生じる。</li> <li>音声入力では長文が上手く反映されない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>急ぎの連絡は内線電話やインカムを使用するなど、特徴に応じた使い分けを確立する。</li> <li>長文の記録は PC で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録の入力や連絡が効率よくできるように目指す。</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナースコール受信用 PHS・チャットツールの活用方法・情報共有の内容(情報の過多)が職員間で相違があった。</li> </ul>	<p>直接入力する。話してから記録終了までの時間を調整する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報とツールの使用は周知し、マニュアル作成の取組中。</li> <li>インカムで、夜勤の際や別フロアの対話を実施した。情報の流し先の適正化中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PHS・チャットツールの使用方法や活用方法について、全職員が一定の水準を担保し、情報の伝達がスムーズかつ過不足なく実行できるようにする。</li> </ul>
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムを導入しているが、十分に活用が出来ていない。</li> <li>各フロア3台導入されているも、細かいルールが未整備である。</li> <li>フロアを跨ぐ等の通信が実施できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が常に着用し、全ユニットの情報が聞こえる状況に慣れる。</li> <li>骨伝導式のインカムを勤務者全員に新たに導入した。</li> <li>通信状況を改善し、連携をスムーズにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニット間の情報共有や互助の関係を密に持つ。</li> <li>応援しやすい体制を作る。</li> <li>応援体制構築や情報共有をスムーズに実施し、無駄な動線を解消し、業務の効率化を図る。</li> </ul>
未算定(レンタル無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報伝達の聞き漏らしが心配である。</li> <li>職員はインカムはある程度使いこなしているが、不具合発生時の対応が上手くできない。</li> <li>またインカムを持ち忘れる職員も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムを使用する事で、見守り対応や急変時対応、事故発生時の対応など応援が必要な時にインカムにて情報の伝達、共有を行う。</li> <li>不具合発生時には、情報共有を行い、管理職が不在の場合も職員間で対応ができる状態を作る。</li> <li>インカムは出勤時必ず所持することを声掛けする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り対応や急変時対応、事故発生時の対応など応援が必要な時に、その場を離れることなく、速やかに応援依頼や情報伝達、共有が行える。スムーズな協力体制が確保でき、夜勤職員の身体的・精神的負担の軽減を図る。</li> <li>インカムを使いこなし、緊急時には迅速な連絡交換と対応ができる状態を目指す。</li> </ul>

図表 VII-10 オペレーション変更票のまとめ インカム等の ICT 機器(新規導入)

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムの使用が徹底できておらず、使用する職員としない職員が存在していることもあり、インカムを利活用できていない。また、入浴介助時に使用できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムの使用徹底に繋がるマニュアルの作成、同一の勤務時間内にすべての介護職員等が情報共有できるアプリ等の情報収集を行い、現場の報・連・相の効率化を図る。新たに防水機能付きのインカムを5台レンタル導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無駄のない効率的な情報共有により、移動等の無駄な時間を削減したり、事故防止につなげたりすることで、サービスの質の向上を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムの使用方針が決まっていないため、使用方法にばらつきがある。職員もインカムを付けながら使用することに慣れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用方法のマニュアルを作成し明確化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インカムを活用することで、介護業務中に電話などに対応する割り込み業務を減らす。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロアが異なる職員同士のコミュニケーションが迅速にできず、緊急時の初動が遅れてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロアが異なる場合はインカムでコミュニケーションをとるように周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人手が必要な時にすぐに職員が駆けつけることで、迅速な対応ができる状態を目指す。</li> </ul>

図表 VII-11 オペレーション変更票のまとめ 適切な役割分担(既に導入済み)

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じた効果
加算(Ⅰ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手は雇用しているが、業務の切り分けが不十分な点がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割分担の介護職員の専門性を活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務内容を見直し、食事の配膳、環境整備等を介護助手が担当するようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理について介護職員も行う場面があり、見守りが不十分なことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理員にも声かけ等軽度の見守り対応を依頼する。</li> <li>調理員がいない場合は、湯せん調理のキットを導入する。</li> <li>事務員も介護基礎研修を受講し、見守りに協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員の動線を確保し、負担を軽減する。</li> <li>介護職員が介護業務へ専念できる環境をつくる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務分担されているが、介護職と介助職員(介護職の資格を持たない介護職員)内での情報(実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確実に業務が遂行出来るよう情報共有を図り、当日ないし近日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の共有により、介護職員と介助職員間(介護職の資格を持たない介護職員)の温度差を少なくし、風通し</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じた効果
	情)共有が成されておらず、取組やモチベーションに温度差が見られる。	中の状況について共有する時間を設ける。	の良い職場の実現を目指す。
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員、介護補助職員、美化担当職員を配置しているが、業務が統一・標準化されておらず、ユニットを跨いでの協力ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの職種に応じた業務について見直しを行い、業務の統一・標準化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職が専門分野で能力を発揮できるよう、介護職員以外でもできるような業務をその他の職員に振り分け、介護職員の業務負担を軽減する。それにより削減できた時間を有効に活用し、サービスの質の向上につなげる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手と介護職では役割分担があいまいな箇所があり、業務効率がよくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務手順を作成し、職員・助手で業務分担する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の明確化と、介護助手でも今後介護士を目指す意向がある人には指導を行い、利用者には負担をかけず、安全に生活して頂くことを目指す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方を中心に介護助手を雇用しているが、若返りが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元利用者家族の方を含む地域の方々を2、3人雇用する。</li> <li>介護助手に、食事、洗濯、掃除、見守り、ごみ捨て等を継続的に分担する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の見直しをして、介護職員の負担を軽減化する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手への業務依頼内容の追加・整理について検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職種ごとの仕事内容を知る機会を設け、時間ごとの業務状況(余裕があるか、応援が必要か)を把握する。</li> <li>業務を見える化し、重複・類似業務の確認、担当業務内容を再調整し、効率化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手による間接業務の実施と介護士による直接業務の実施の棲み分けをより明確化し、利用者に対してより丁寧なオペレーションを実施できるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手がいる日・いない日、いるフロア・いないフロア間で連携が取れていないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の階に介護助手が出勤していれば、ヘルプに行く体制を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な役割分担により、職員の身体的・精神的業務負担軽減につなげる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接業務の一部は介護職員が行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手を2名体制とし、複数フロアの間接業務を分担する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員の間接業務をタスクシフトすることにより、記録業務や直接ケアを行う時間を確保し、業務の質向上につなげる。</li> </ul>

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じた効果
未算定(レンタル有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員数が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手 5 名を雇用し、業務分担の最適化に向け改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護人材不足を補っていきたい。</li> <li>職員が利用者と接する時間が増え、満足度が高まることを期待する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の業務を軽減するために介護助手を雇用しているが、業務分担が難しく、効率的な運用ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護補助職を想定した業務を切り分け、シーツ交換、食事の後片付け・ゴミ回収・掃除等の間接介護補助業務として実施するよう変更する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な運用により介護職員の業務負担を減らし、利用者のケアを充実させる。また介護助手の方にとってもやりがいのある仕事として継続的に従事してもらえるようにする。</li> </ul>
未算定(レンタル無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各介護助手の業務内容を職員が把握できておらず、急な介護助手の欠員の際、職員が代わりに業務を担うことが十分に出来ていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡ノートを作成し、介護助手・職員間情報を共有する。 また予定業務内容とシフトを見える化し、介護助手・職員間でも共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員と介護助手が業務内容を把握し、業務改善等を相談しやすい環境を目指す。</li> </ul>

図表 VII-12 オペレーション変更票のまとめ 適切な役割分担(新規導入)

施設分類	A.抱えている課題	B. 課題解決のための工夫・変更	C.工夫・変更の目的 ※本実証を通じて目指す効果
未算定(レンタル無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員の身体介護以外の業務負担が多くなってきたため、介護助手を募集している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護助手を 8 名採用し、環境整備や食事関係のサポートを中心に業務分担する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員の業務負担を減らす。</li> <li>入居者が担当職員と関わる時間を増やし、日常生活を活性化・充実させる。</li> </ul>

## (6) 調査項目

### ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査では、オペレーション変更の事前1回と事後2回で調査を行った。タイムスタディ調査の項目のうち、「直接介護」とは、「移動・移乗・体位変換」「排泄介助・支援」「生活自立支援」「行動上の問題への対応」「機能訓練・リハビリテーション・医療的処置」「その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)」を指し、「間接業務」とは、「巡回・移動」「記録・文書作成・連絡調整等」「利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し」「介護ロボット・ICT 機器の準備・使用・確認」「その他の間接業務(機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)、画面確認、片付け作業等)」を指すものとした。

以下に事前と事後の調査項目を示す。事前と事後の実証で調査項目は共通とした。

図表 VII-13 新規および追加実証の調査項目(事前と事後で共通)

No.	分類	Sub-No.	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・移乗・体位変換
		2	排泄介助・支援
		3	生活自立支援(※2)
		4	行動上の問題への対応(※3)
		5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
B	間接業務	7	巡回・移動
		8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		10	介護ロボット・ICT 機器の準備・使用・確認(※5)
		11	その他の間接業務(※6)
C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
D	その他	13	その他
E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、使用(直接介護において使用する場合を除く)  
画面確認、片付け作業等

※6 レクリエーションの準備等

## イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、調査項目を事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18 に基づく))を実施した。加えて事後では、生産性向上の取組(見守り機器の導入等)によるモチベーションの変化、生産性向上の取組(見守り機器の導入等)による職員や施設業務の変化、生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくりの評価、職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間、本実証の業務以外で役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務、全体的な満足度評価とした。

## ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、調査項目を事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的影響・意欲、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。

## エ. 訪室回数調査

訪室回数記録調査では、調査項目は、事前と事後で共通とし、目的別の訪室回数(「定時巡視」、「利用者の離床」、「不穏な動きの確認」、「容態変化」、「排せつの確認・対応」)を 1 時間ごとに記録することとした。

図表 VII-14 ア～エの調査内容の整理

No.	調査分類	調査項目
ア	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施した業務時間(分)を 10 分刻みで自記(勤務 5 日間分)</li> <li>●直接介護、間接業務、休憩、その他、余裕時間の分類で計 15 項目</li> </ul>
イ	職員向け調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員概要(年齢、職種、役職、経験年数等)</li> <li>●心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 SRS-18)</li> <li>●生産性向上の取組によるモチベーションの変化</li> <li>●生産性向上の取組による職員や施設業務の変化</li> <li>●生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくりの評価</li> <li>●職員間の適切な役割分担により増やすことができた時間</li> <li>●業務以外で役割分担が可能と考えられる業務</li> <li>●全体的な満足度評価</li> </ul>
ウ	利用者向け調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者概要(性別・年齢・要介護度・障害高齢者の日常生活自立度)</li> <li>●ADL(Barthel Index)</li> <li>●認知機能(認知症高齢者の日常生活自立度、DBD13)</li> <li>●心理的影響・意欲(Vitality Index)</li> <li>●QOL(WHO-5)</li> <li>●利用者のコミュニケーションの変化</li> <li>●利用者の社会参加の変化</li> <li>●ケア内容の変更</li> <li>●利用者からの意見等</li> </ul>
エ	訪室回数記録調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訪室回数(夜勤5日間分)</li> </ul>

## オ. ヒアリング調査

ヒアリング調査は、事後の実証終了後、WEB 会議で実施した。ヒアリング対象者は施設管理者や施設における本実証の責任者とし、調査項目は以下とした。

図表 VII-15 ヒアリング調査の項目

No	分類	項目
ア	生産性向上に係る取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オペレーション変更内容と達成状況</li> <li>●生産性向上を検討する体制</li> <li>●複数の機器・オペレーション変更を組み合わせた取組</li> <li>●生産性向上のための取組に係る課題</li> <li>●生産性向上の取組による経営面への効果</li> <li>●生産性向上推進体制加算への意見</li> </ul>
イ	各調査結果についての解釈 ※施設ごとの集計結果を提示し、要因についてヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●タイムスタディ調査</li> <li>●訪室回数調査               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 定期巡視の回数</li> <li>➢ 見守り機器を活用した訪室の工夫</li> </ul> </li> <li>●職員への効果・反応               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 心理的負担の変化</li> <li>➢ モチベーション</li> <li>➢ テクノロジー等を活用したケアへの満足度</li> </ul> </li> <li>●利用者への効果、生活の質の変化               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 利用者の状態</li> <li>➢ 生産性向上の取組による利用者への影響</li> </ul> </li> </ul>

### (7) 集計分類と施設の対応調査項目

実証結果のうち、タイムスタディ調査、職員向けアンケート調査「心理的負担の評価」、訪室回数調査においては、過年度の実証における事前調査のデータを用いた施設(過年度比較実証)と、令和6年度事前調査データを用いた施設(新規実証)の2パターンに分けられる。どちらのパターンも事後①②調査は令和6年度実施データを用いる。

調査によって、過年度比較実証あるいは新規実証の対象が異なるため、以下では各調査ごとに、活用する事前調査データを掲載する。

職員向けアンケート調査の「心理的負担の評価」以外と利用者向けアンケート調査は全ての施設が本年度の事前調査データを活用する。

また、調査データの集計にあたり、本テーマでは生産性向上推進体制加算(Ⅰ)・(Ⅱ)の算定有無、未算定施設における本実証での機器レンタル有無によって施設を以下の4つに分類した。

- (1) 加算(Ⅰ)算定
- (2) 加算(Ⅱ)算定
- (3) 未算定(レンタル有)
- (4) 未算定(レンタル無)

図表 VII-16 各調査の事前調査データ一覧(新規は本実証期間にて事前調査を実施)

No.	施設名	施設種別	集計分類	タイムスタディ調査	職員向けアンケート調査	訪室回数調査	利用者向けアンケート調査
1	地域密着型特別養護老人ホームささづ苑	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	加算(I)算定	R4年度	R3年度	R3年度	新規
2	特別養護老人ホームひまわり・安城	介護老人福祉施設	加算(I)算定	R5年度	R5年度	新規	新規
3	グループホームおおきな木	認知症対応型共同生活介護	加算(I)算定	R4年度	R4年度	新規	新規
4	特別養護老人ホーム六甲の館	介護老人福祉施設	加算(I)算定	R5年度	R4年度	R4年度	新規
5	小規模多機能型居宅介護グリーンヒル八千代台	小規模多機能型居宅介護	加算(I)算定	新規	新規	新規	新規
6	地域密着型特別養護老人ホーム桜花苑きらり	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	加算(I)算定	新規	R2年度	新規	新規
7	特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム	介護老人福祉施設	加算(I)算定	新規	新規	新規	新規
8	ショートステイ 鈴鹿グリーンホーム 翠風	短期入所生活介護	加算(I)算定	新規	新規	新規	新規
9	介護老人保健施設みどり苑	介護老人保健施設	加算(II)算定	新規	R2年度	R3年度	新規
10	特別養護老人ホーム塩屋さくら苑	介護老人福祉施設	加算(II)算定	新規	R3年度	R3年度	新規
11	特別養護老人ホームYMBT	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	加算(II)算定	R4年度	R4年度	新規	新規
12	グループホーム大空	認知症対応型共同生活介護	加算(II)算定	新規	新規	新規	新規
13	特別養護老人ホーム桜花苑	介護老人福祉施設	加算(II)算定	R4年度	R4年度	新規	新規
14	特別養護老人ホームあさくら苑	介護老人福祉施設	加算(II)算定	新規	R5年度	R5年度	新規
15	地域密着型特別養護老人ホーム セント・ケアおおの	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	加算(II)算定	R3年度	R3年度	新規	新規
16	介護老人保健施設アルボース	介護老人保健施設	加算(II)算定	R2年度	R2年度	新規	新規
17	特別養護老人ホーム桜川陽だまり館	介護老人福祉施設	未算定(レンタル有)	新規	新規	新規	新規
18	特別養護老人ホーム芦花ホーム	介護老人福祉施設	未算定(レンタル有)	新規	R3年度	R3年度	新規
19	特別養護老人ホームラ・フォート河内長野	介護老人福祉施設	未算定(レンタル無)	新規	新規	新規	新規
20	介護老人保健施設夢の里	介護老人保健施設	未算定(レンタル無)	新規	新規	新規	新規

## 2. 実証結果(過年度比較実証)

過年度比較においては、過年度の事前調査(令和2年度～5年度)と事後調査(令和6年度)の間で結果を比較する。対象設問はタイムスタディ調査、職員向けアンケート調査のうち「心理的負担の評価」、訪室回数調査である。職員向けアンケート調査のその他の設問と、利用者向けアンケート調査は全施設共に、令和6年度実施の調査データを使用する。

また、事前調査(令和2年度～5年度)と事後調査(今年度)の間での職員や利用者の入れ替わりによる不一致は考慮せず、それぞれの時点における回答者全員を対象とした。

### (1) タイムスタディ調査結果

#### ア. 施設概要

図表 VII-17 施設概要:過年度比較

No.	施設名	施設種別	生産性向上体制推進加算取得状況	定員	職員数	レンタル機器	過年度調査
1	地域密着型特別養護老人ホームささづ苑	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(I)算定	22	99	-	R4年度
2	特別養護老人ホームひまわり・安城	介護老人福祉施設	(I)算定	120	105	-	R5年度
3	グループホームおおきな木	認知症対応型共同生活介護	(I)算定	18	19	-	R4年度
4	特別養護老人ホーム六甲の館	介護老人福祉施設	(I)算定	70	48	-	R5年度
5	特別養護老人ホームYMBT	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(II)算定	29	45	見守り機器(眠りSCAN)	R4年度
6	特別養護老人ホーム桜花苑	介護老人福祉施設	(II)算定	62	58	見守り機器(眠りSCAN)	R4年度
7	地域密着型特別養護老人ホーム セント・ケアおおの	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(II)算定	29	53	インカム	R3年度
8	介護老人保健施設アルボース	介護老人保健施設	(II)算定	100	114	インカム 見守り機器(眠りSCAN)	R2年度

## イ. 調査結果

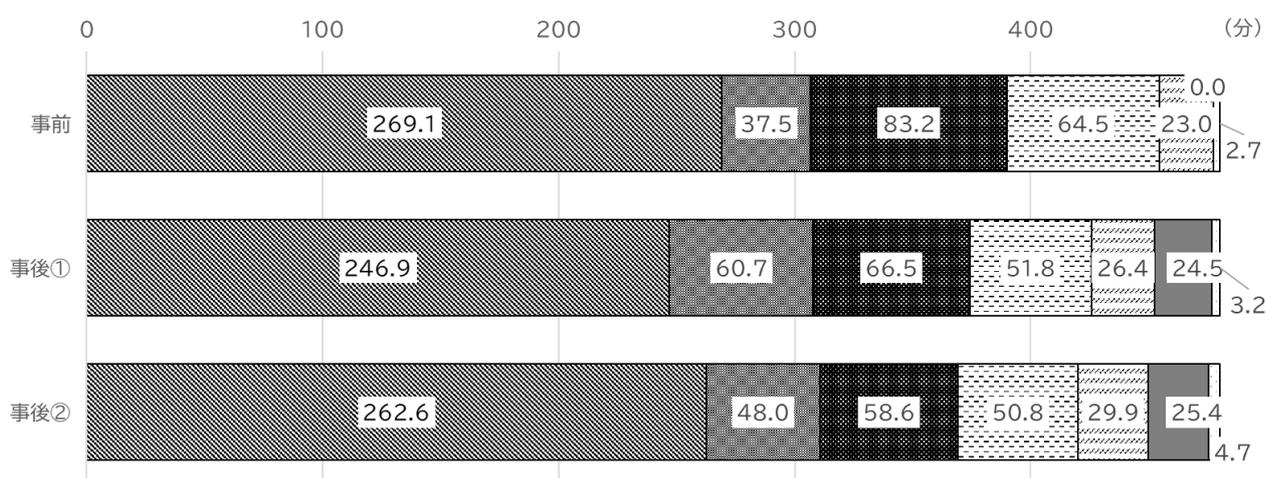
全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

全体では、直接介護時間は事前調査から事後調査②にかけては微減(6.5 分)。一方、事後調査①から事後調査②にかけては増加(15.7 分)。一方、間接業務は事前から事後調査②にかけては減少(24.6 分)した。

全体と加算(Ⅰ)算定、加算(Ⅱ)算定では、事前調査から事後調査①②にかけて直接介護が減少した。ヒアリング調査を踏まえると、当時と本年度の対象利用者の要介護度等の影響等が要因と考えられる。

図表 VII-18 過年度比較・全体  
タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

		直接介護						間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・機器の準備・使用・確認	介護ロボット・ICT機器	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
事前	時間(分) 割合	39.3 8%	70.9 15%	25.1 5%	2.2 0%	2.8 1%	128.9 27%	12.0 3%	37.5 8%	10.2 2%	1.5 0%	59.4 12%	64.5 13%	23.0 5%	0.0 0%	2.7 1%	480	
事後①	時間(分) 割合	32.6 7%	68.3 14%	42.3 9%	5.4 1%	4.7 1%	93.5 19%	14.0 3%	60.7 13%	1.8 0%	3.9 1%	46.8 10%	51.8 11%	26.4 6%	24.5 5%	3.2 1%	480	
事後②	時間(分) 割合	35.9 7%	72.8 15%	57.2 12%	6.9 1%	4.7 1%	85.1 18%	8.2 2%	48.0 10%	2.1 0%	7.5 2%	40.9 9%	50.8 11%	29.9 6%	25.4 5%	4.7 1%	480	



■直接介護 ■記録・文書作成・連絡調整等 ■間接業務(記録・文書作成・連絡調整等除く) □休憩・待機・仮眠 □その他 ■余裕時間 □未記入

事前 n=109、事後①n=108、事後②n=115

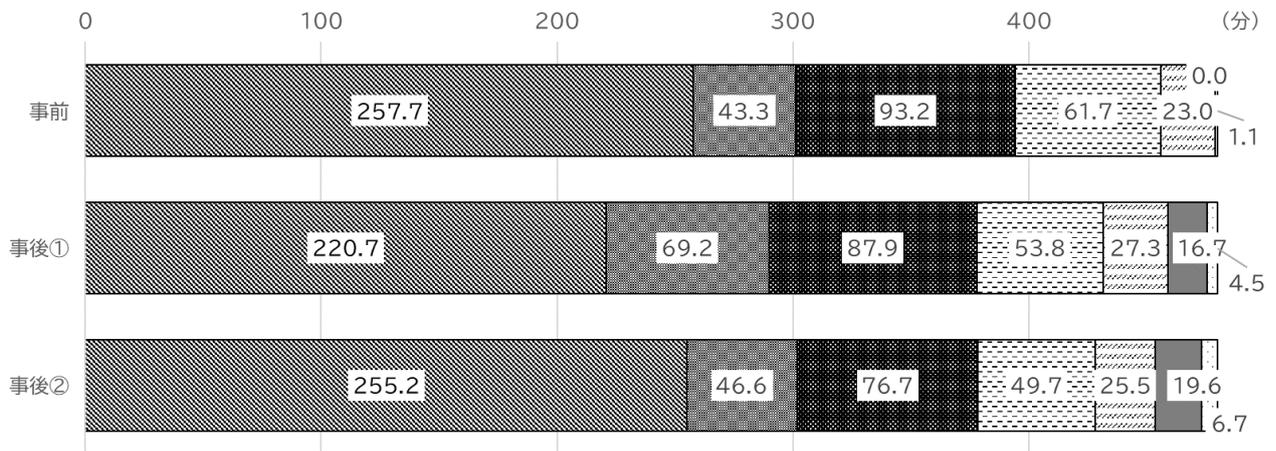
※「直接介護・機能訓練・リハビリテーション・医療的処置」と「間接業務・利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し」は調査票の記載名から一部省略し、等書きに修正。

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 VII-19 過年度比較・加算(Ⅰ)算定  
タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

		直接介護						間接業務					休憩		余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	介護ロボットの準備・使用・確認	利用者のアセスメント	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠			
事前	時間(分)	36.4	65.8	30.4	4.5	3.2	117.5	16.6	43.3	3.5	2.3	70.7	61.7	23.0	0.0	1.1	480
	割合	8%	14%	6%	1%	1%	24%	3%	9%	1%	0%	15%	13%	5%	0%	0%	100%
事後①	時間(分)	29.1	75.1	55.2	6.5	7.2	47.5	18.2	69.2	1.4	5.0	63.3	53.8	27.3	16.7	4.5	480
	割合	6%	16%	12%	1%	2%	10%	4%	14%	0%	1%	13%	11%	6%	3%	1%	100%
事後②	時間(分)	35.8	75.3	64.9	8.3	7.8	63.1	10.2	46.6	1.3	8.3	56.8	49.7	25.5	19.6	6.7	480
	割合	7%	16%	14%	2%	2%	13%	2%	10%	0%	2%	12%	10%	5%	4%	1%	100%

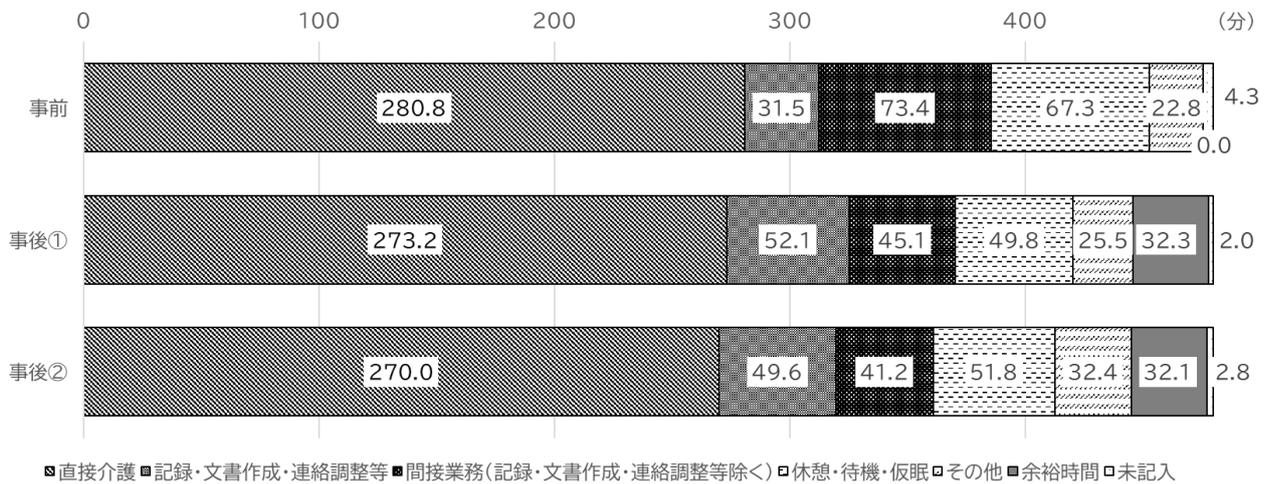


■直接介護 ■記録・文書作成・連絡調整等 ■間接業務(記録・文書作成・連絡調整等除く) □休憩・待機・仮眠 □その他 ■余裕時間 □未記入

事前 n=45  
事後① n=56  
事後② n=60

図表 VII-20 過年度比較・加算(Ⅱ)算定  
 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

		直接介護						間接業務						休憩		未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・介護の準備・使用・確認	介護ロボット・ICT機器	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他		
事前	時間(分)	42.1	75.7	19.8	0.0	2.3	140.7	7.4	31.5	16.8	0.8	48.4	67.3	22.8	0.0	4.3	480
	割合	9%	16%	4%	0%	0%	29%	2%	7%	3%	0%	10%	14%	5%	0%	1%	100%
事後①	時間(分)	36.1	61.6	29.4	4.3	2.3	139.5	9.7	52.1	2.2	2.8	30.4	49.8	25.5	32.3	2.0	480
	割合	8%	13%	6%	1%	0%	29%	2%	11%	0%	1%	6%	10%	5%	7%	0%	100%
事後②	時間(分)	36.5	70.4	49.1	5.7	1.5	106.8	6.4	49.6	2.9	7.1	24.8	51.8	32.4	32.1	2.8	480
	割合	8%	15%	10%	1%	0%	22%	1%	10%	1%	1%	5%	11%	7%	7%	1%	100%



事前 n=64  
 事後① n=52  
 事後② n=55

(2) 職員向けアンケート調査結果

ア. 施設概要

図表 VII-21 施設概要:過年度比較

No.	施設名	施設種別	生産性向上 体制推進加 算取得状況	定員	職員数	レンタル 機器	過年度調 査
1	地域密着型特別養 護老人ホームささ づ苑	地域密着型 介護老人福 祉施設入所 者生活介護	(Ⅰ)算定	22	99	-	R3 年度
2	特別養護老人ホー ムひまわり・安城	介護老人福 祉施設	(Ⅰ)算定	120	105	-	R5 年度
3	グループホームお おきな木	認知症対応 型共同生活 介護	(Ⅰ)算定	18	19	-	R4 年度
4	特別養護老人ホー ム 六甲の館	介護老人福 祉施設	(Ⅰ)算定	70	48	-	R4 年度
5	地域密着型特別養 護老人ホーム桜花 苑きらり	地域密着型 介護老人福 祉施設入所 者生活介護	(Ⅰ)算定	20	15	-	R2 年度
6	介護老人保健施設 みどり苑	介護老人保 健施設	(Ⅱ)算定	100	116	インカム	R2 年度
7	特別養護老人ホー ム塩屋さくら苑	介護老人福 祉施設	(Ⅱ)算定	80	50	インカム	R3 年度
8	特別養護老人ホー ム YMBT	地域密着型 介護老人福 祉施設入所 者生活介護	(Ⅱ)算定	29	45	見守り機 器(眠りS CAN)	R4 年度
9	特別養護老人ホー ム桜花苑	介護老人福 祉施設	(Ⅱ)算定	62	58	見守り機 器(眠りS CAN)	R4 年度
10	特別養護老人ホー ムあさくら苑	介護老人福 祉施設	(Ⅱ)算定	76	48	見守り機 器(aam s)	R5 年度
11	地域密着型特別養 護老人ホーム セ ント・ケアおおの	地域密着型 介護老人福 祉施設入所 者生活介護	(Ⅱ)算定	29	53	インカム	R3 年度
12	介護老人保健施設 アルボース	介護老人保 健施設	(Ⅱ)算定	100	114	インカム 見守り機 器(眠りS CAN)	R2 年度
13	特別養護老人ホー ム 芦花ホーム	介護老人福 祉施設	未算定(レン タル有)	107	76	見守り機 器(眠りS CAN)	R3 年度

## イ. 職員概要

図表 VII-22 職員概要:過年度比較・全体 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	40	71	0	111
	割合	36%	64%	0%	100%

図表 VII-23 職員概要:過年度比較・加算(Ⅰ)算定 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	9	24	0	33
	割合	27%	73%	0%	100%

図表 VII-24 職員概要:過年度比較・加算(Ⅱ)算定 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	30	45	0	75
	割合	40%	60%	0%	100%

図表 VII-25 職員概要:過年度比較・未算定(レンタル有) 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	2	0	3
	割合	33%	67%	0%	100%

図表 VII-26 職員概要:過年度比較・全体 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	3	18	25	27	28	7	3	0	111
	割合	3%	16%	23%	24%	25%	6%	3%	0%	100%

図表 VII-27 職員概要:過年度比較・加算(Ⅰ)算定 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	2	4	8	8	8	3	0	0	33
	割合	6%	12%	24%	24%	24%	9%	0%	0%	100%

図表 VII-28 職員概要:過年度比較・加算(Ⅱ)算定 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	1	14	16	17	20	4	3	0	75
	割合	1%	19%	21%	23%	27%	5%	4%	0%	100%

図表 VII-29 職員概要:過年度比較・未算定(レンタル有) 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	1	2	0	0	0	0	3
	割合	0%	0%	33%	67%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-30 職員概要:過年度比較・全体 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能 訓練指導 員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	86	15	3	1	0	0	6	0	111
	割合	77%	14%	3%	1%	0%	0%	5%	0%	100%

図表 VII-31 職員概要:過年度比較・加算(I)算定 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能 訓練指導 員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	31	2	0	0	0	0	0	0	33
	割合	94%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-32 職員概要:過年度比較・加算(II)算定 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能 訓練指導 員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	52	13	3	1	0	0	6	0	75
	割合	69%	17%	4%	1%	0%	0%	8%	0%	100%

図表 VII-33 職員概要:過年度比較・未算定(レンタル有) 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能 訓練指導 員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-34 職員概要:過年度比較・全体 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	26	83	2	0	111
	割合	0%	23%	75%	2%	0%	100%

図表 VII-35 職員概要:過年度比較・加算(Ⅰ)算定 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	7	26	0	0	33
	割合	0%	21%	79%	0%	0%	100%

図表 VII-36 職員概要:過年度比較・加算(Ⅱ)算定 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	18	55	2	0	75
	割合	0%	24%	73%	3%	0%	100%

図表 VII-37 職員概要:過年度比較・未算定(レンタル有) 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	2	0	0	3
	割合	0%	33%	67%	0%	0%	100%

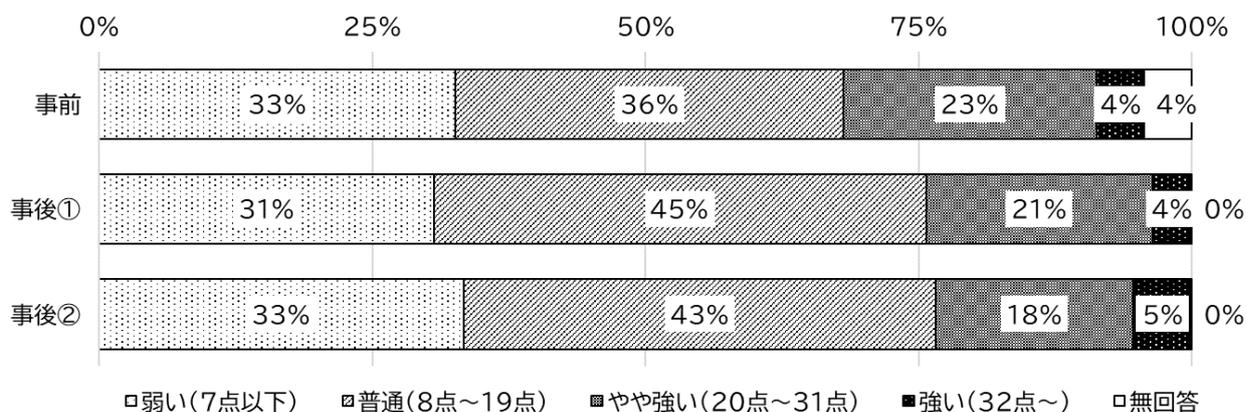
## ウ. 心理的負担評価(SRS-18)

全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

全体では、職員の「心理的負担」は「弱い」の割合はほぼ変化がないが、「やや強い」、「強い」の割合は事前から事後調査②に掛けて微減(4%)した。

図表 VII-38 過年度比較・全体 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

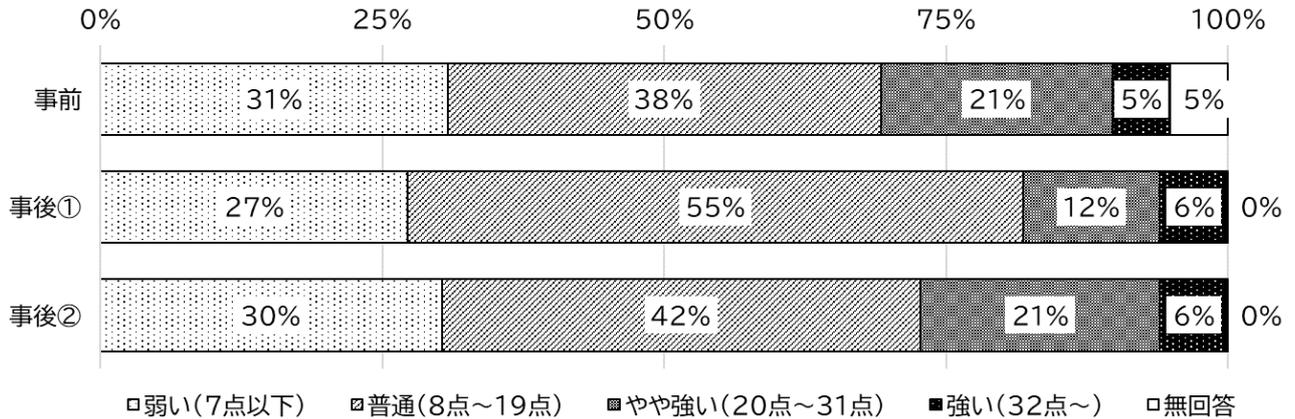
		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	45	49	32	6	6	138
	割合	33%	36%	23%	4%	4%	100%
事後①	人数(人)	34	50	23	4	0	111
	割合	31%	45%	21%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	37	48	20	6	0	111
	割合	33%	43%	18%	5%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

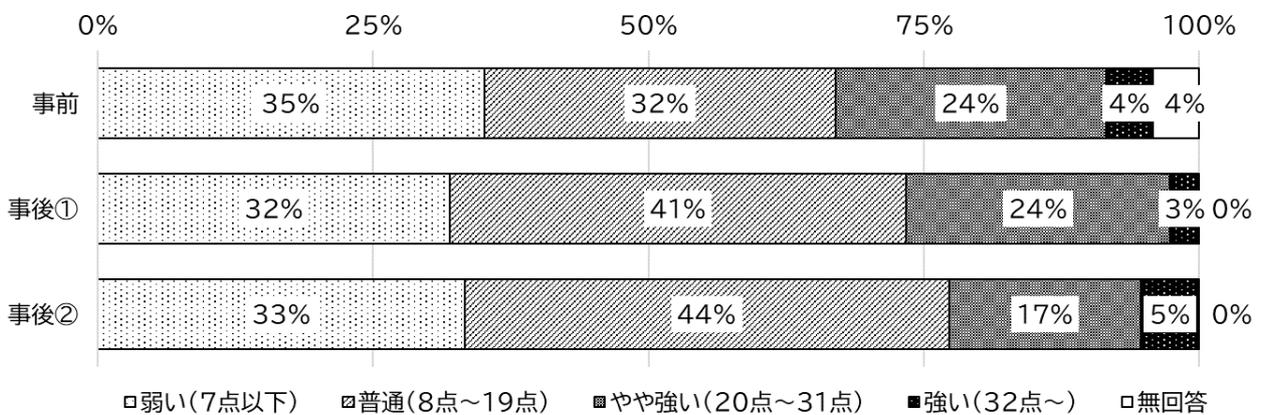
図表 VII-39 過年度比較・加算(I)算定 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	12	15	8	2	2	39
	割合	31%	38%	21%	5%	5%	100%
事後①	人数(人)	9	18	4	2	0	33
	割合	27%	55%	12%	6%	0%	100%
事後②	人数(人)	10	14	7	2	0	33
	割合	30%	42%	21%	6%	0%	100%



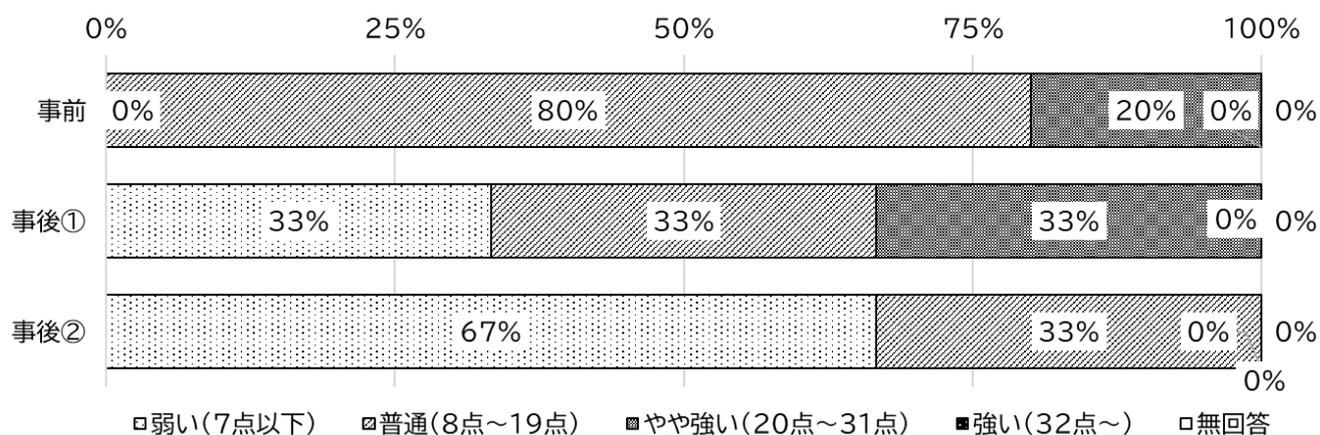
図表 VII-40 過年度比較・加算(II)算定 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	33	30	23	4	4	94
	割合	35%	32%	24%	4%	4%	100%
事後①	人数(人)	24	31	18	2	0	75
	割合	32%	41%	24%	3%	0%	100%
事後②	人数(人)	25	33	13	4	0	75
	割合	33%	44%	17%	5%	0%	100%



図表 VII-41 過年度比較・未算定(レンタル有) 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	0	4	1	0	0	5
	割合	0%	80%	20%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	1	1	0	0	3
	割合	33%	33%	33%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合	67%	33%	0%	0%	0%	100%



### (3) 訪室回数調査結果

#### ア. 施設概要

図表 VII-42 施設概要:過年度比較

No.	施設名	施設種別	生産性向上体制推進加算取得状況	定員	職員数	レンタル機器	過年度調査
1	地域密着型特別養護老人ホームささづ苑	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(I)算定	22	99	-	R4 年度
2	特別養護老人ホーム 六甲の館	介護老人福祉施設	(I)算定	70	48	-	R5 年度
3	介護老人保健施設みどり苑	介護老人保健施設	(II)算定	100	116	インカム	R3 年度
4	特別養護老人ホーム 塩屋さくら苑	介護老人福祉施設	(II)算定	80	50	インカム	R3 年度
5	特別養護老人ホームあさくら苑	介護老人福祉施設	(II)算定	76	48	見守り機器(Aams)	R5 年度
6	特別養護老人ホーム 芦花ホーム	介護老人福祉施設	未算定(レンタル有)	107	76	見守り機器(眠りSCAN)	R3 年度

## イ. 調査結果

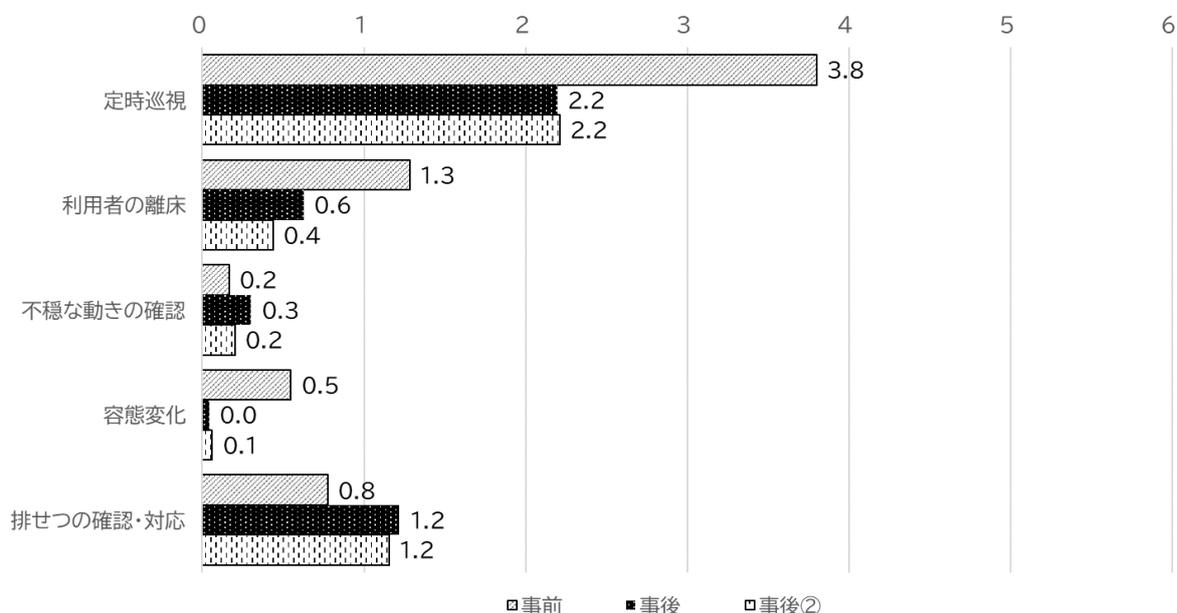
全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

全体では、定期巡視の回数は事前調査から事後調査①②にかけて減少(1.6回)した。

加算(Ⅰ)(Ⅱ)算定施設では、訪室による定期巡視は基本せず、見守り機器の検知をもとに訪室する施設も見られた。

図表 VII-43 過年度比較・全体 訪室回数調査の結果

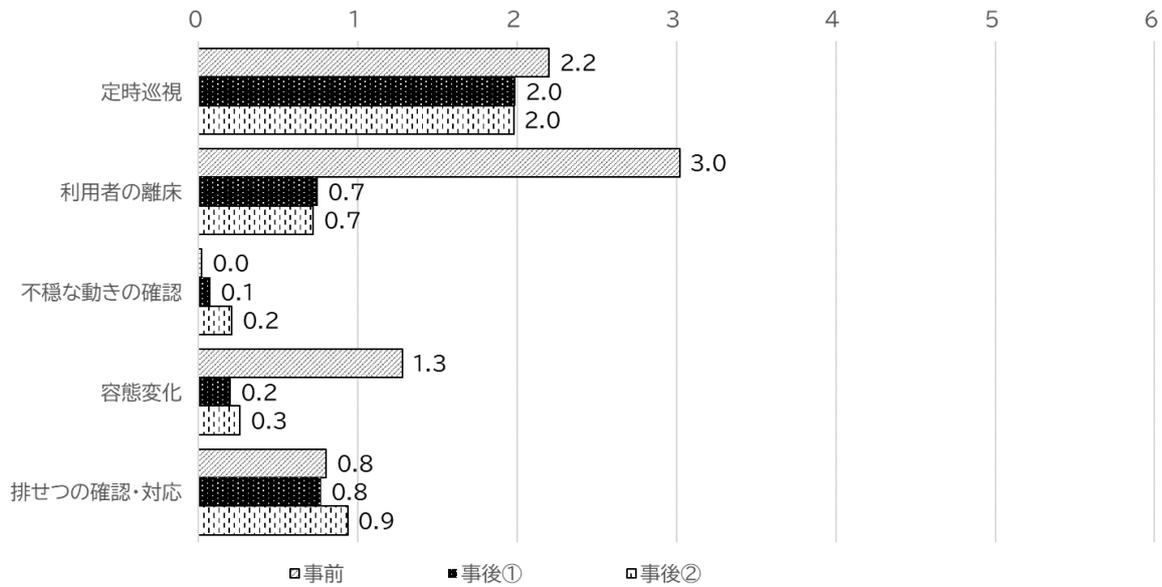
	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	3.8	1.3	0.2	0.5	0.8
事後	2.2	0.6	0.3	0.0	1.2
事後②	2.2	0.4	0.2	0.1	1.2



※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

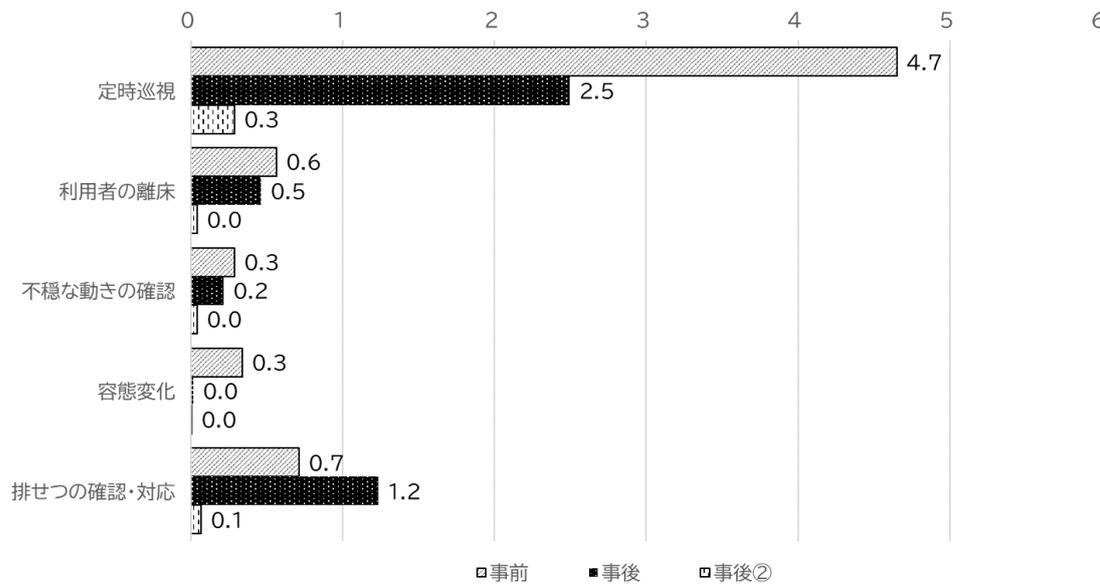
図表 VII-44 過年度比較・加算(I)算定 訪室回数調査の結果

	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	2.2	3.0	0.0	1.3	0.8
事後①	2.0	0.7	0.1	0.2	0.8
事後②	2.0	0.7	0.2	0.3	0.9



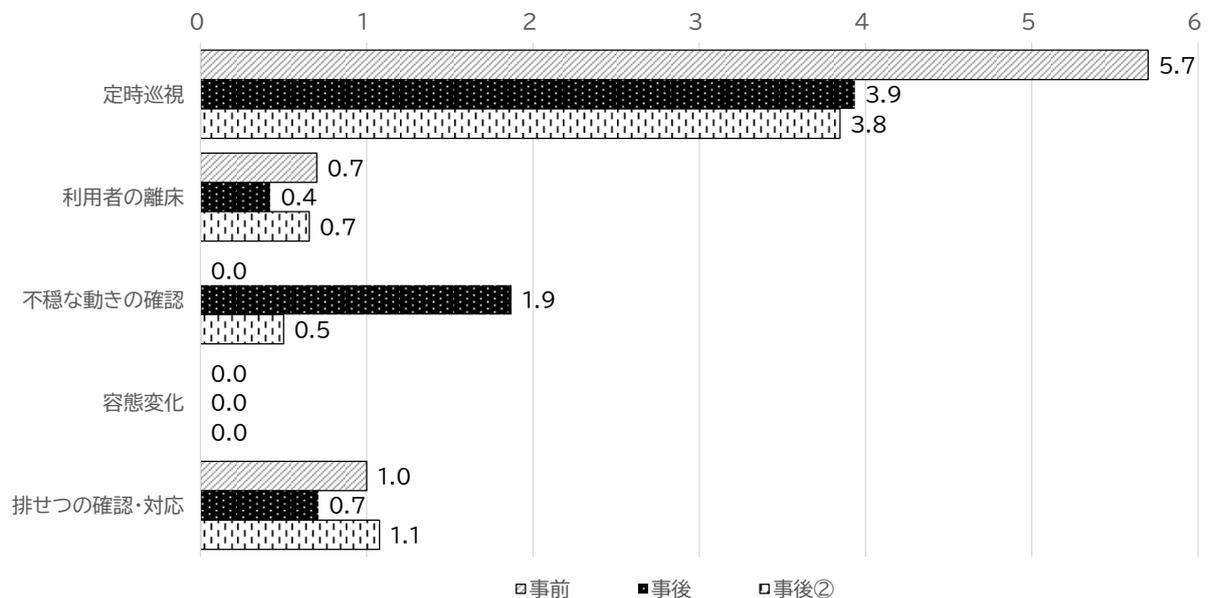
図表 VII-45 過年度比較・加算(Ⅱ)算定 訪室回数調査の結果

	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	4.7	0.6	0.3	0.4	0.7
事後	3.6	0.2	0.3	0.0	1.1
事後②	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



図表 VII-46 過年度比較・未算定(レンタル有) 訪室回数調査の結果

	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	5.7	0.7	0.0	0.0	1.0
事後	3.9	0.4	1.9	0.0	0.7
事後②	3.8	0.7	0.5	0.0	1.1



### 3. 実証結果(新規実証)

#### (1) タイムスタディ調査結果

##### ア. 施設概要

図表 VII-47 施設概要:新規・全体

No.	施設名	施設種別	生産性向上体制推進加算取得状況	定員	職員数	レンタル機器
1	小規模多機能型居宅介護グリーンヒル八千代台	小規模多機能型居宅介護	(I)算定	29	20	-
2	地域密着型特別養護老人ホーム桜花苑きらり	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(I)算定	20	15	-
3	特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム	介護老人福祉施設	(I)算定	90	151	-
4	ショートステイ 鈴鹿グリーンホーム 翠風	短期入所生活介護	(I)算定	20	22	-
5	介護老人保健施設みどり苑	介護老人保健施設	(II)算定	100	116	インカム
6	特別養護老人ホーム塩屋さくら苑	介護老人福祉施設	(II)算定	80	50	インカム
7	グループホーム大空	認知症対応型共同生活介護	(II)算定	9	22	インカム
8	特別養護老人ホームあさくら苑	介護老人福祉施設	(II)算定	76	48	見守り機器(aams)
9	特別養護老人ホーム桜川陽だまり館	介護老人福祉施設	未算定(レンタル有)	50	52	見守り機器(眠りSCAN)
10	特別養護老人ホーム芦花ホーム	介護老人福祉施設	未算定(レンタル有)	107	76	見守り機器(眠りSCAN)
11	特別養護老人ホームラ・フォート河内長野	介護老人福祉施設	未算定(レンタル無)	50	28	-
12	介護老人保健施設夢の里	介護老人保健施設	未算定(レンタル無)	94	89	-

## イ. 調査結果

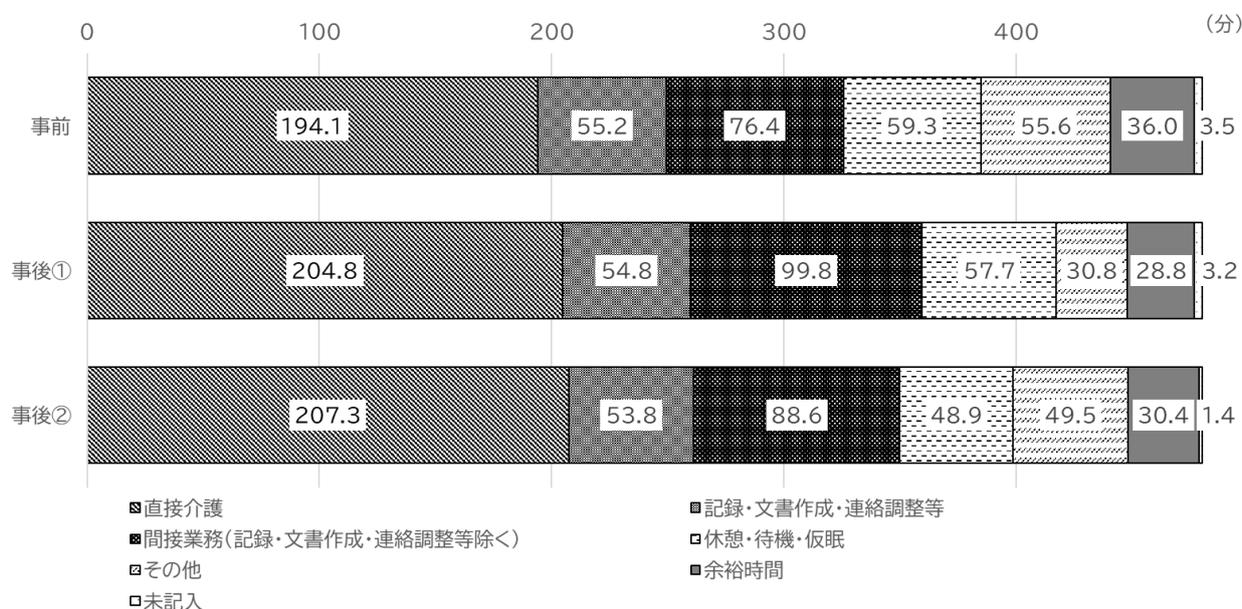
全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

全体では、直接介護時間は事前調査から事後調査②にかけては増加(13.2 分)した。一方、間接業務は事前調査から事後調査②にかけては増加(12.2 分)した。ヒアリング調査を踏まえると、直接介護に掛ける時間が増加したが、一部施設では機器導入やオペレーション変更の慣れや職員への教育に時間をかけており、特に事後①の間接業務時間のうち「その他の間接業務」が増加したと考えられる。

また、未算定(レンタル無)では事前調査から事後調査②にかけて直接介護が大幅に増加した要因として、ヒアリング調査を踏まえると、一部施設において(レンタルとは関係なく)インカム等を導入し、職員間のコミュニケーションが取れ、利用者対応が即応できるようになったこと等が考えられる。

図表 VII-48 新規実証・全体 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480 分)あたり)

		直接介護						間接業務					休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	機器の準備・使用・確認	介護ロボット・ICT	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
事前	時間(分)	23.2	52.4	33.6	6.9	9.1	68.8	11.2	55.2	6.7	6.1	52.4	59.3	55.6	36.0	3.5	480	
	割合	5%	11%	7%	1%	2%	14%	2%	11%	1%	1%	11%	12%	12%	7%	1%	100%	
事後①	時間(分)	22.8	47.9	32.9	4.4	3.3	93.5	12.8	54.8	7.1	2.2	77.6	57.7	30.8	28.8	3.2	480	
	割合	5%	10%	7%	1%	1%	19%	3%	11%	1%	0%	16%	12%	6%	6%	1%	100%	
事後②	時間(分)	25.8	48.3	34.7	4.2	2.8	91.5	13.2	53.8	7.0	2.1	66.4	48.9	49.5	30.4	1.4	480	
	割合	5%	10%	7%	1%	1%	19%	3%	11%	1%	0%	14%	10%	10%	6%	0%	100%	



事前 n=200

事後① n=193

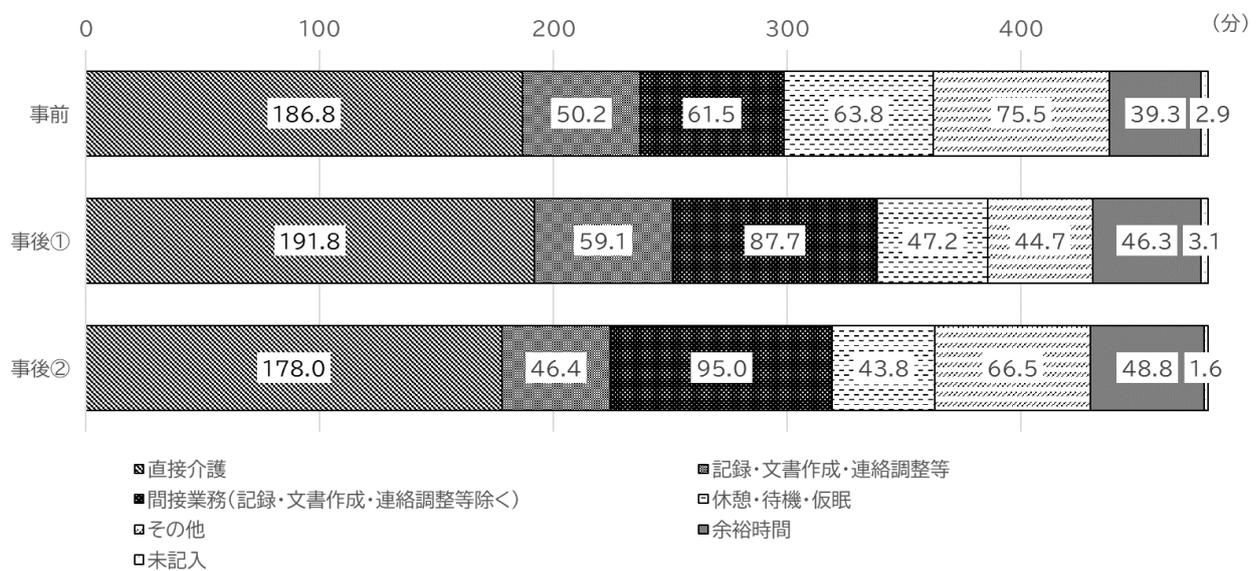
事後② n=189

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 VII-49 新規実証・加算(Ⅰ)算定 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

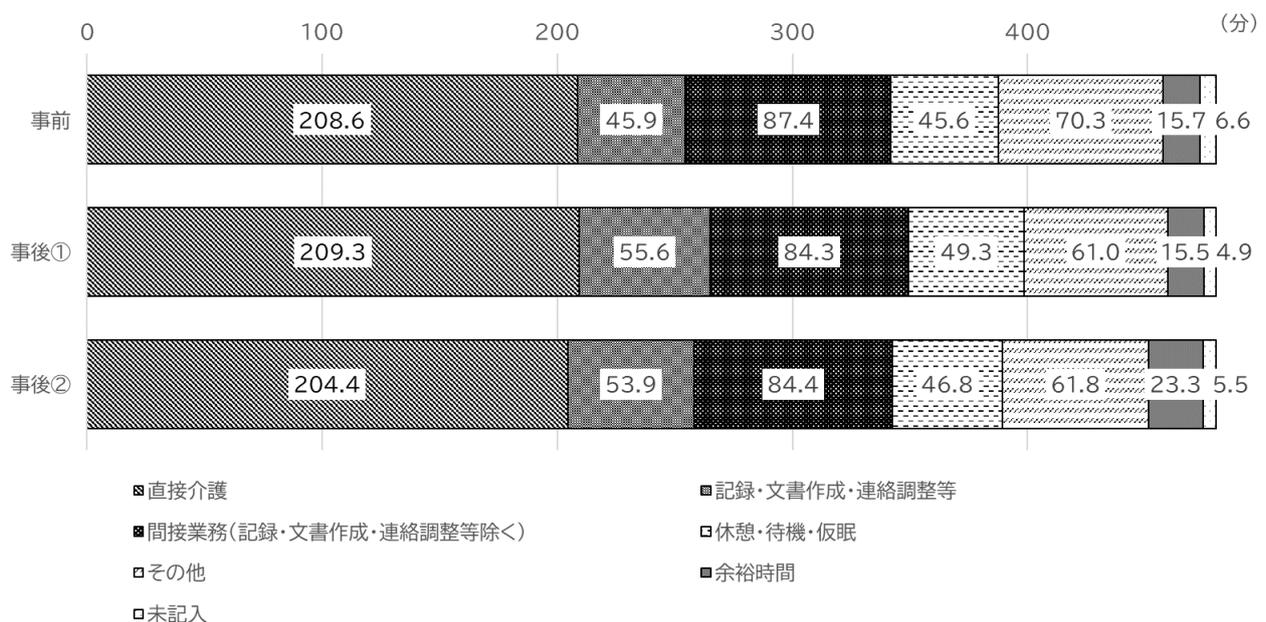
		直接介護						間接業務						休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	画の作成・見直し	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画	介護ロボットの準備・使用・確認	介護ロボットの準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠				
事前	時間(分)	15.8	42.1	27.8	8.1	6.5	86.5	8.6	50.2	3.6	3.3	3.3	46.0	63.8	75.5	39.3	2.9	480	
	割合	3%	9%	6%	2%	1%	18%	2%	10%	1%	1%	1%	10%	13%	16%	8%	1%	100%	
事後①	時間(分)	19.9	37.0	24.3	5.6	4.8	100.2	13.4	59.1	5.9	3.4	3.4	65.0	47.2	44.7	46.3	3.1	480	
	割合	4%	8%	5%	1%	1%	21%	3%	12%	1%	1%	1%	14%	10%	9%	10%	1%	100%	
事後②	時間(分)	19.2	37.4	23.8	4.5	4.1	89.0	12.5	46.4	6.9	2.7	2.7	72.8	43.8	66.5	48.8	1.6	480	
	割合	4%	8%	5%	1%	1%	19%	3%	10%	1%	1%	1%	15%	9%	14%	10%	0%	100%	



事前 n=55  
 事後① n=55  
 事後② n=52

図表 VII-50 新規実証・加算(Ⅱ)算定 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

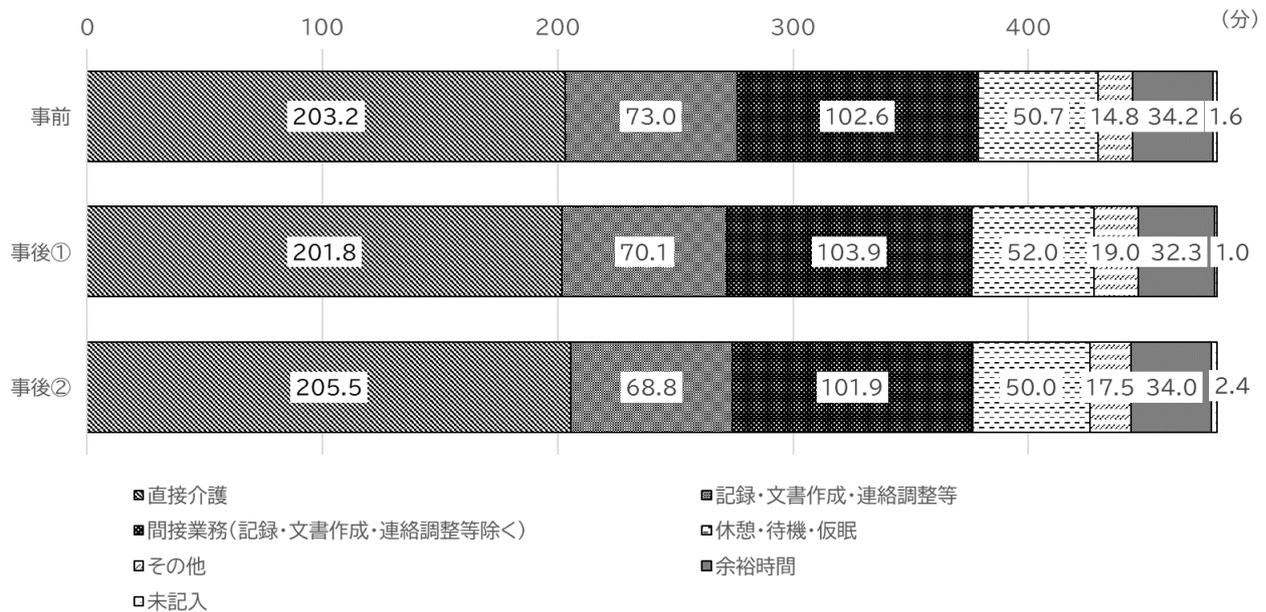
		直接介護						間接業務						休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	画の作成・見直し	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画	介護ロボットの準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠					
事前	時間(分)	30.7	50.4	46.4	5.1	12.6	63.4	8.1	45.9	10.0	8.0	61.4	45.6	70.3	15.7	6.6	480		
	割合	6%	11%	10%	1%	3%	13%	2%	10%	2%	2%	13%	9%	15%	3%	1%	100%		
事後①	時間(分)	31.5	49.9	55.4	6.3	7.3	58.9	8.2	55.6	5.9	12.2	58.0	49.3	61.0	15.5	4.9	480		
	割合	7%	10%	12%	1%	2%	12%	2%	12%	1%	3%	12%	10%	13%	3%	1%	100%		
事後②	時間(分)	28.5	47.2	57.5	6.4	9.5	55.3	7.0	53.9	8.7	11.8	56.9	46.8	61.8	23.3	5.5	480		
	割合	6%	10%	12%	1%	2%	12%	1%	11%	2%	2%	12%	10%	13%	5%	1%	100%		



事前 n=84  
 事後① n=79  
 事後② n=78

図表 VII-51 新規実証・未算定(レンタル有) タイムスタディ調査の結果  
(介護職員1人1日(480分)あたり)

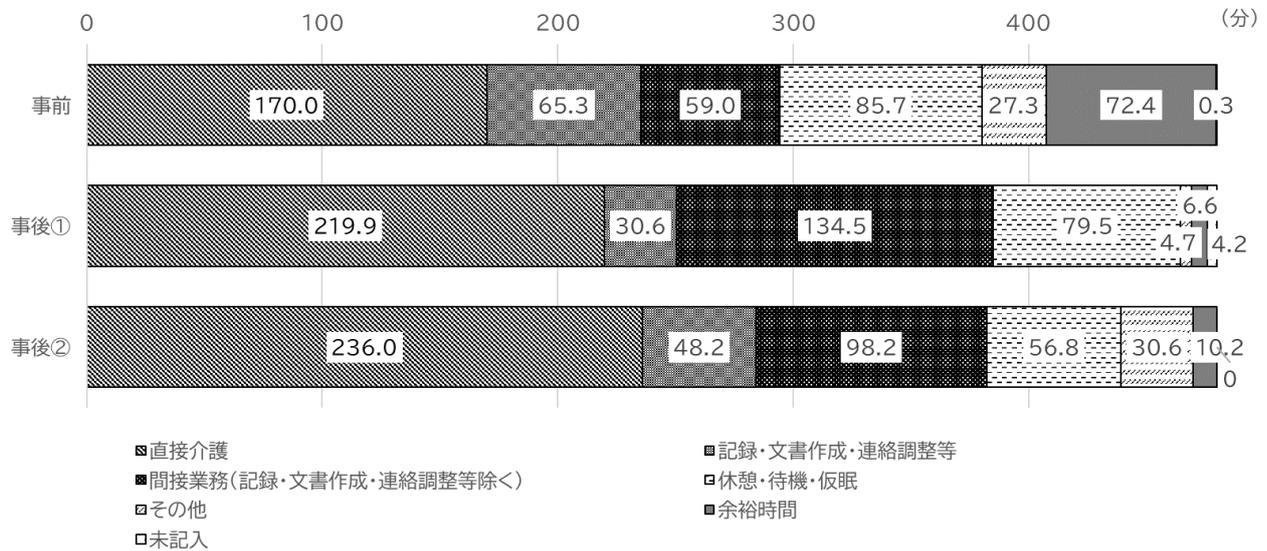
		直接介護						間接業務						休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	介護ロボットの準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他				
事前	時間(分)	21.1	53.7	30.5	8.6	10.0	79.1	17.7	73.0	9.2	2.5	73.3	50.7	14.8	34.2	1.6	480		
	割合	4%	11%	6%	2%	2%	16%	4%	15%	2%	1%	15%	11%	3%	7%	0%	100%		
事後①	時間(分)	24.1	55.3	25.9	7.2	6.3	82.9	19.2	70.1	14.4	2.1	68.2	52.0	19.0	32.3	1.0	480		
	割合	5%	12%	5%	2%	1%	17%	4%	15%	3%	0%	14%	11%	4%	7%	0%	100%		
事後②	時間(分)	28.2	55.7	23.6	7.2	5.6	85.3	16.6	68.8	12.2	2.6	70.5	50.0	17.5	34.0	2.4	480		
	割合	6%	12%	5%	1%	1%	18%	3%	14%	3%	1%	15%	10%	4%	7%	0%	100%		



事前 n=44  
事後①n=44  
事後②n=44

図表 VII-52 新規実証・未算定(レンタル無) タイムスタディ調査の結果  
(介護職員1人1日(480分)あたり)

		直接介護						間接業務						休憩		その他	余裕時間	未記入	合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	介護ロボットの準備・使用・確認	介護ロボットの準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他				
事前	時間(分)	24.9	75.7	22.6	6.4	6.3	34.0	16.0	65.3	3.4	11.5	28.0	85.7	27.3	72.4	0.3	480		
	割合	5%	16%	5%	1%	1%	7%	3%	14%	1%	2%	6%	18%	6%	15%	0%	100%		
事後①	時間(分)	24.2	55.5	49.0	1.2	0.6	89.5	3.3	30.6	6.9	0.6	123.6	79.5	4.7	6.6	4.2	480		
	割合	5%	12%	10%	0%	0%	19%	1%	6%	1%	0%	26%	17%	1%	1%	1%	100%		
事後②	時間(分)	31.7	52.1	58.5	1.0	0.5	92.1	8.1	48.2	6.3	0.8	82.9	56.8	30.6	10.2	0.0	480		
	割合	7%	11%	12%	0%	0%	19%	2%	10%	1%	0%	17%	12%	6%	2%	0%	100%		



事前 n=17  
 事後① n=15  
 事後② n=15

## (2) 職員向けアンケート調査結果

### ア. 施設概要

「心理的負担評価」は過年度比較と新規に分けて集計した。その他の設問については事後調査①、②のみ集計しており、「4. 実証結果(共通)」に掲載する。

図表 VII-53 施設概要:新規実証・全体

No.	施設名	施設種別	生産性向上体制 推進加算取得状 況	定員	職員数	レンタル 機器	心理的負担 評価の事前 データ
1	小規模多機能型居 宅介護グリーンヒル 八千代台	小規模多機能 型在宅介護	(I)算定	29	20	見守り機 器(眠りS CAN)	新規
2	特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム	介護老人福祉 施設	(I)算定	90	151	-	新規
3	ショートステイ 鈴鹿 グリーンホーム 翠 風	短期入所生活 介護	(I)算定	20	22	-	新規
4	グループホーム大空	認知症対応型 共同生活介護	(II)算定 ※実証終了後に (I)算定	9	22	インカム	新規
5	特別養護老人ホーム 桜川陽だまり館	介護老人福祉 施設	未算定(レンタル 有)	50	52	見守り機 器(眠りS CAN)	新規
6	特別養護老人ホーム ラ・フォート河内長 野	介護老人福祉 施設	未算定(レンタル 有) ※実証終了後に (II)算定	50	28	-	新規
7	介護老人保健施設 夢の里	介護老人保健 施設	未算定(レンタル 無)	94	89	-	新規

### イ. 職員概要

図表 VII-54 職員概要:新規実証・全体 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	15	66	0	81
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 VII-55 職員概要:新規実証・加算(I)算定 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	6	20	0	26
	割合	23%	77%	0%	100%

図表 VII-56 職員概要:新規実証・加算(Ⅱ)算定 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	15	0	16
	割合	6%	94%	0%	100%

図表 VII-57 職員概要:新規実証・未算定(レンタル有) 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	5	23	0	28
	割合	18%	82%	0%	100%

図表 VII-58 職員概要:新規・未算定(レンタル無) 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	3	8	0	11
	割合	27%	73%	0%	100%

図表 VII-59 職員概要:新規実証・全体 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	1	13	19	15	11	8	8	6	81
	割合	1%	16%	23%	19%	14%	10%	10%	7%	100%

図表 VII-60 職員概要:新規実証・加算(Ⅰ)算定 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	8	9	1	1	1	1	26
	割合	0%	19%	31%	35%	4%	4%	4%	4%	100%

図表 VII-61 職員概要:新規実証・加算(Ⅱ)算定 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	1	3	4	6	2	16
	割合	0%	0%	0%	6%	19%	25%	38%	13%	100%

図表 VII-62 職員概要:新規実証・未算定(レンタル有) 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	1	6	5	3	7	3	1	2	28
	割合	4%	21%	18%	11%	25%	11%	4%	7%	100%

図表 VII-63 職員概要:新規実証・未算定(レンタル無) 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	6	2	0	0	0	1	11
	割合	0%	18%	55%	18%	0%	0%	0%	9%	100%

図表 VII-64 職員概要:新規実証・全体 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	49	22	2	0	0	0	0	8	81
	割合	60%	27%	2%	0%	0%	0%	0%	10%	100%

図表 VII-65 職員概要:新規実証・加算(I)算定 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	14	8	2	0	0	0	0	2	26
	割合	54%	31%	8%	0%	0%	0%	0%	8%	100%

図表 VII-66 職員概要:新規実証・加算(II)算定 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	7	3	0	0	0	0	0	6	16
	割合	44%	19%	0%	0%	0%	0%	0%	38%	100%

図表 VII-67 職員概要:新規実証・未算定(レンタル有) 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	19	9	0	0	0	0	0	0	28
	割合	68%	32%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-68 職員概要:新規実証・未算定(レンタル無) 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	9	2	0	0	0	0	0	0	11
	割合	82%	18%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-69 職員概要:新規実証・全体 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	16	57	1	7	81
	割合	0%	20%	70%	1%	9%	100%

図表 VII-70 職員概要:新規実証・加算(I)算定 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	18	0	3	26
	割合	0%	19%	69%	0%	12%	100%

図表 VII-71 職員概要:新規実証・加算(Ⅱ)算定 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	12	0	3	16
	割合	0%	6%	75%	0%	19%	100%

図表 VII-72 職員概要:新規実証・未算定(レンタル有) 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	21	1	1	28
	割合	0%	18%	75%	4%	4%	100%

図表 VII-73 職員概要:新規実証・未算定(レンタル無) 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	6	0	0	11
	割合	0%	45%	55%	0%	0%	100%

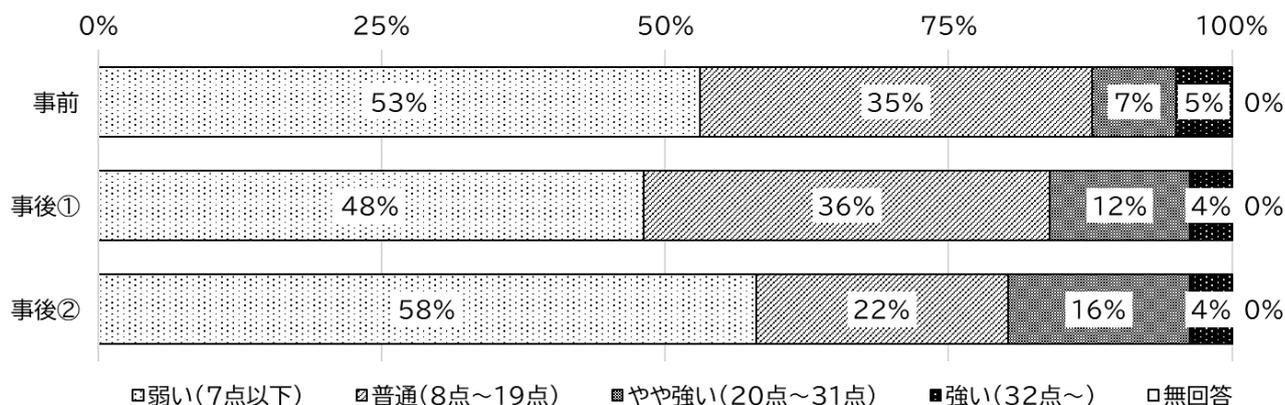
## ウ. 心理的負担評価(SRS-18)

全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

全体では、職員の「心理的負担」は「弱い」の割合が事前調査時点で半数以上であり、事後調査②にかけて微増(5%)。一方、「やや強い」、「強い」の割合は事前から事後②に掛けて微増加(8%)した。ヒアリング調査を踏まえると、一部施設では、一部施設では利用者の変化(看取りやそれに伴う利用者入れ替え等)に伴い、職員負担が増加したと考えられる。

図表 VII-74 新規実証・全体 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

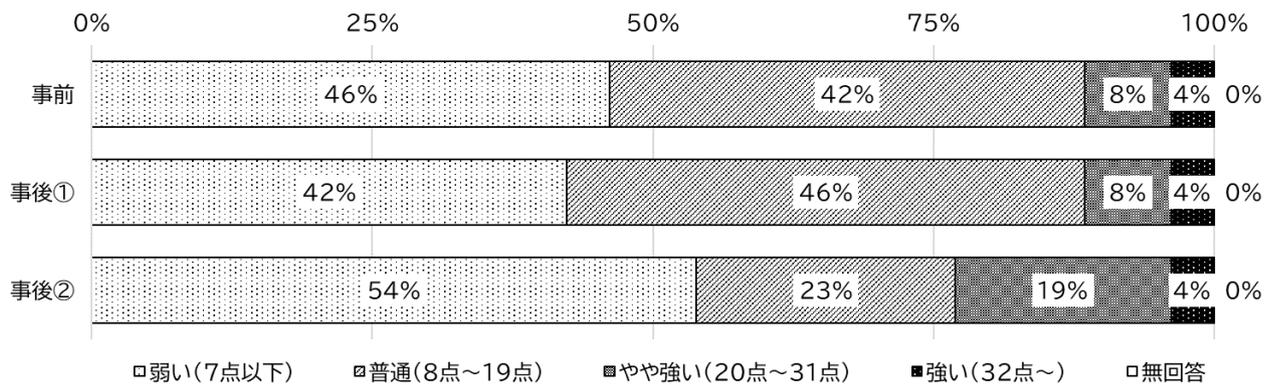
		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	43	28	6	4	0	81
	割合	53%	35%	7%	5%	0%	100%
事後①	人数(人)	39	29	10	3	0	81
	割合	48%	36%	12%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	47	18	13	3	0	81
	割合	58%	22%	16%	4%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18 項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

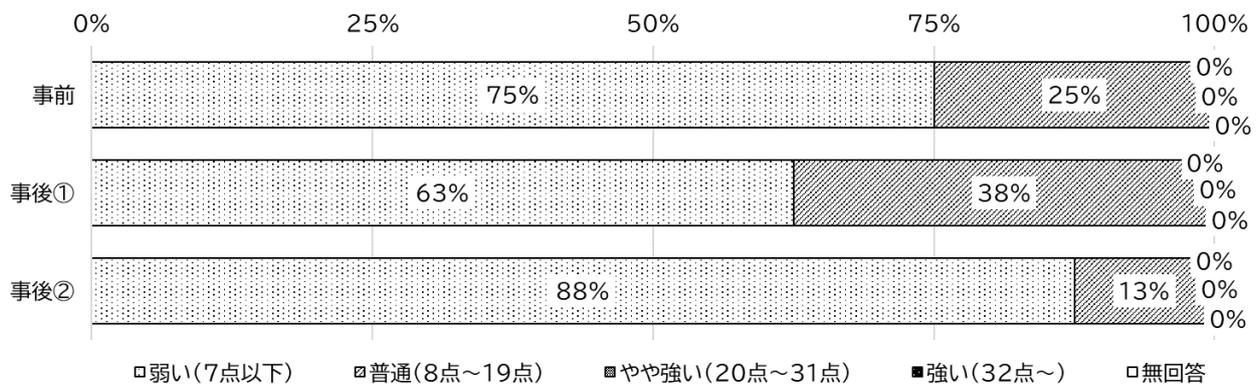
図表 VII-75 新規実証・加算(I)算定 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	12	11	2	1	0	26
	割合	46%	42%	8%	4%	0%	100%
事後①	人数(人)	11	12	2	1	0	26
	割合	42%	46%	8%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	14	6	5	1	0	26
	割合	54%	23%	19%	4%	0%	100%



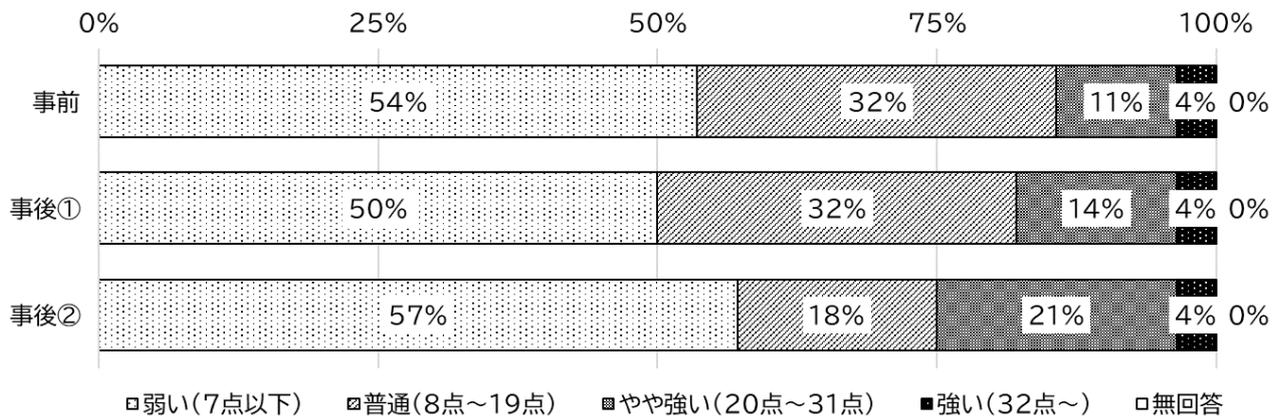
図表 VII-76 新規実証・加算(II)算定 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	12	4	0	0	0	16
	割合	75%	25%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	10	6	0	0	0	16
	割合	63%	38%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	14	2	0	0	0	16
	割合	88%	13%	0%	0%	0%	100%



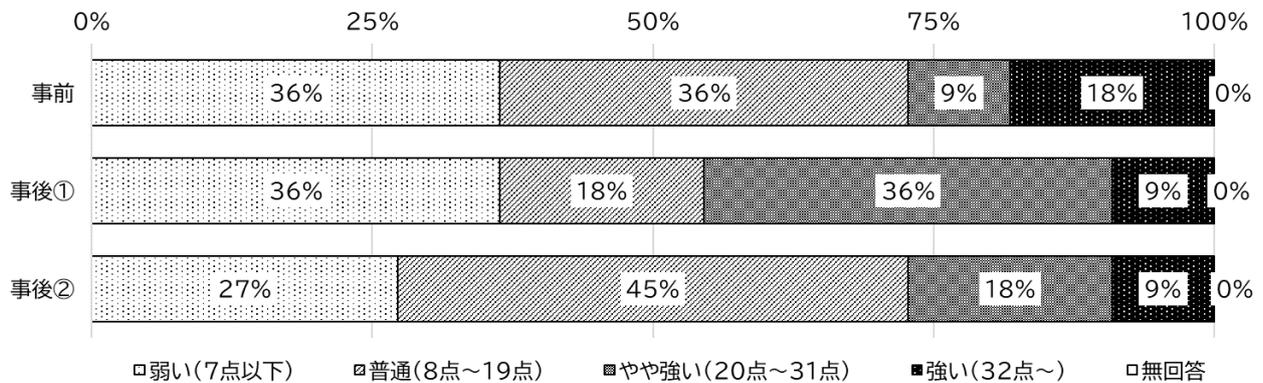
図表 VII-77 新規実証・未算定(レンタル有) 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	15	9	3	1	0	28
	割合	54%	32%	11%	4%	0%	100%
事後①	人数(人)	14	9	4	1	0	28
	割合	50%	32%	14%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	16	5	6	1	0	28
	割合	57%	18%	21%	4%	0%	100%



図表 VII-78 新規実証・未算定(レンタル無) 心理的負担評価(SRS-18)調査の結果

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	4	4	1	2	0	11
	割合	36%	36%	9%	18%	0%	100%
事後①	人数(人)	4	2	4	1	0	11
	割合	36%	18%	36%	9%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	5	2	1	0	11
	割合	27%	45%	18%	9%	0%	100%



### (3) 訪室回数調査結果

#### ア. 施設概要

図表 VII-79 施設概要:新規実証・全体

No.	施設名	施設種別	生産性向上 体制推進加 算取得状況	定員	職員数	レンタル 機器
1	特別養護老人ホームひまわり・安城	介護老人福祉施設	(I)算定	120	105	-
2	グループホームおおきな木	認知症対応型共同生活介護	(I)算定	18	19	-
3	小規模多機能型居宅介護グリーンヒル八千代台	小規模多機能型居宅介護	(I)算定	29	20	-
4	地域密着型特別養護老人ホーム桜花苑きらり	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(I)算定	20	15	-
5	特別養護老人ホーム 鈴鹿グリーンホーム	介護老人福祉施設	(I)算定	90	151	-
6	ショートステイ 鈴鹿グリーンホーム 翠風	短期入所生活介護	(I)算定	20	22	-
7	特別養護老人ホーム YMBT	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(II)算定	29	45	見守り機器(眠りSCAN)
8	グループホーム大空	認知症対応型共同生活介護	(II)算定	9	22	インカム
9	特別養護老人ホーム桜花苑	介護老人福祉施設	(II)算定	62	58	見守り機器(眠りSCAN)
10	地域密着型特別養護老人ホーム セント・ケアおおの	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	(II)算定	29	53	インカム
11	介護老人保健施設アルボース	介護老人保健施設	(II)算定	100	114	インカム 見守り機器(眠りSCAN)
12	特別養護老人ホーム桜川陽だまり館	介護老人福祉施設	未算定(レンタル有)	50	52	見守り機器(眠りSCAN)
13	特別養護老人ホーム ラ・フォート河内長野	介護老人福祉施設	未算定(レンタル無)	50	28	-
14	介護老人保健施設夢の里	介護老人保健施設	未算定(レンタル無)	94	89	-

## イ. 調査結果

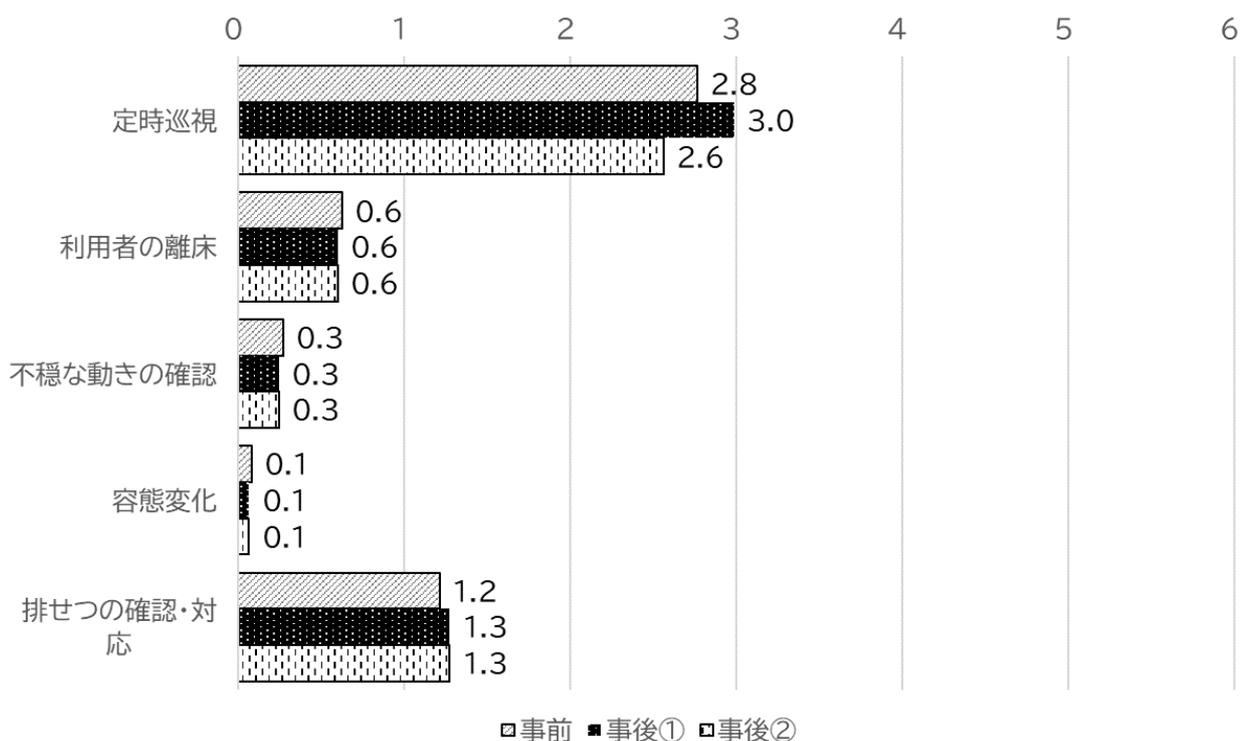
全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

全体では、定期巡視の回数は事前調査から事後①調査にかけて微増(0.2 回)した。一方、事後①調査から事後②調査にかけて減少(0.4 回)した。

未算定(レンタル無)施設では事前調査から事後①②調査にかけて定期巡視の回数が増加した。ヒアリング調査を踏まえると、一部施設にて(レンタルとは関係なく)見守り機器を導入し、事後①②調査では見守り機器の検知がある度に訪室し、それを定期巡視と代えていたため回数が増えたと考えられる。

図表 VII-80 新規実証実証・全体 訪室回数調査の結果

	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	2.8	0.6	0.3	0.1	1.2
事後①	3.0	0.6	0.3	0.1	1.3
事後②	2.6	0.6	0.3	0.1	1.3



事前 n=1,516

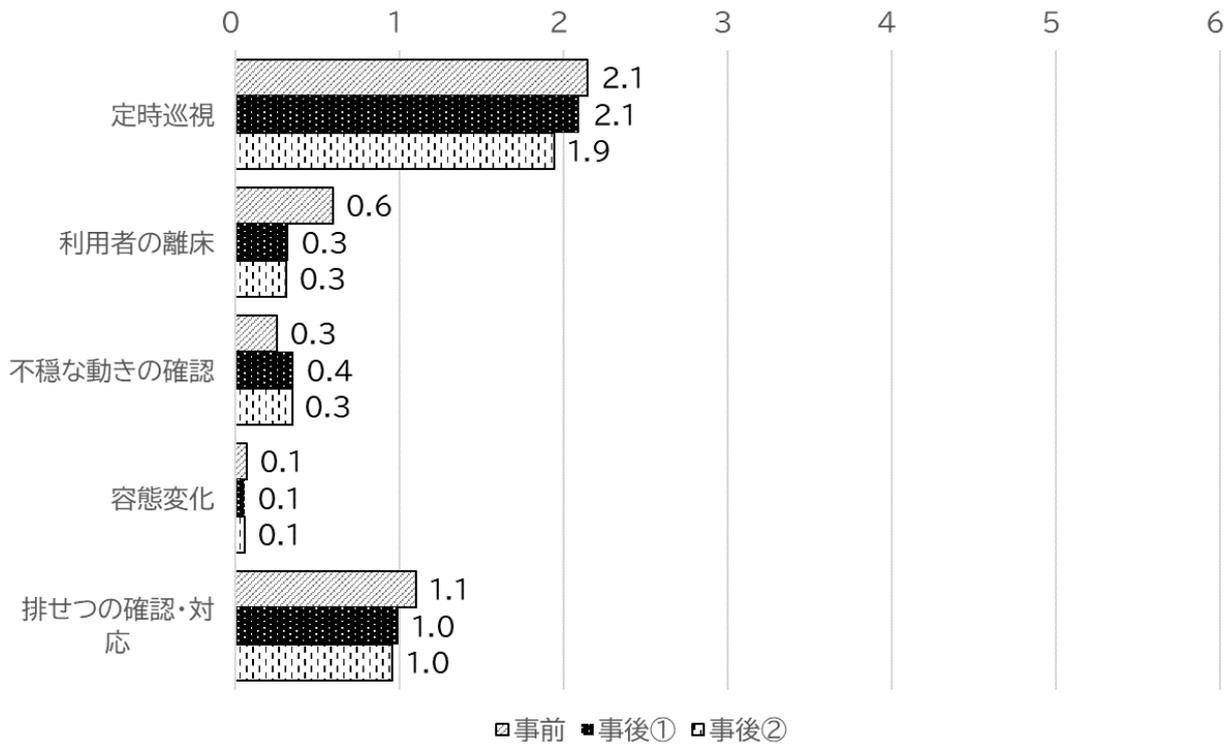
事後①n=1,302

事後②n=1,302

※事前・事後ともに訪室回数記録調査に1つでも回答があったのべ利用者数(1日1人で計算)を分母とし、21時～翌7時(夜間帯)の回数が集計対象。グラフ中の数値は小数点第一位までを記載。

図表 VII-81 新規実証・加算(Ⅰ)算定 訪室回数調査の結果

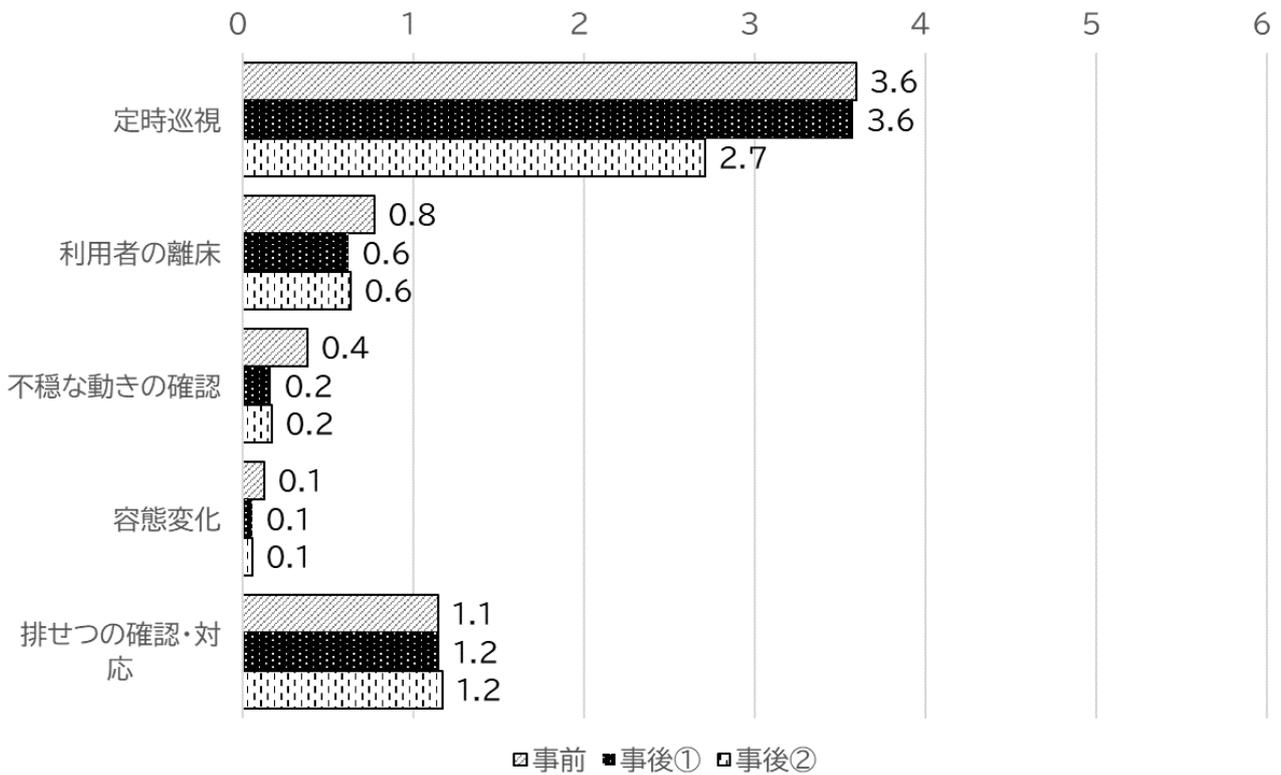
	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	2.1	0.6	0.3	0.1	1.1
事後①	2.1	0.3	0.4	0.1	1.0
事後②	1.9	0.3	0.3	0.1	1.0



事前 n=611  
 事後①n=547  
 事後②n=566

図表 VII-82 新規実証・加算(Ⅱ)算定 訪室回数調査の結果

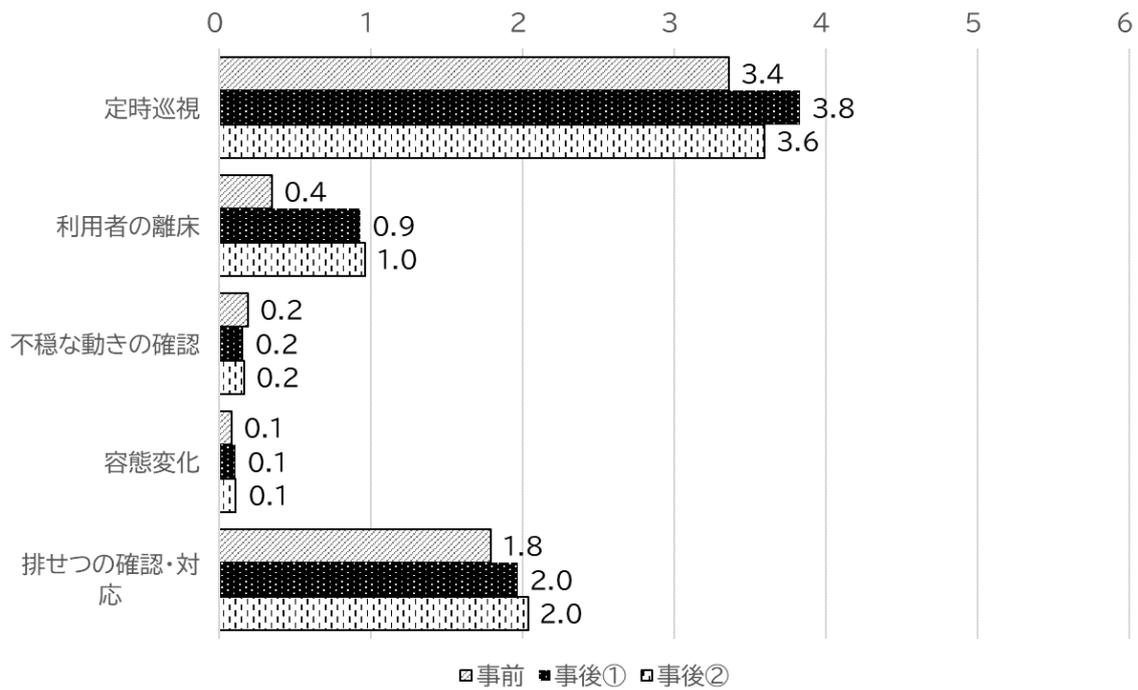
	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	3.6	0.8	0.4	0.1	1.1
事後①	3.6	0.6	0.2	0.1	1.2
事後②	2.7	0.6	0.2	0.1	1.2



事前 n=479  
 事後①n=439  
 事後②n=432

図表 VII-83 新規実証・未算定(レンタル有) 訪室回数調査の結果

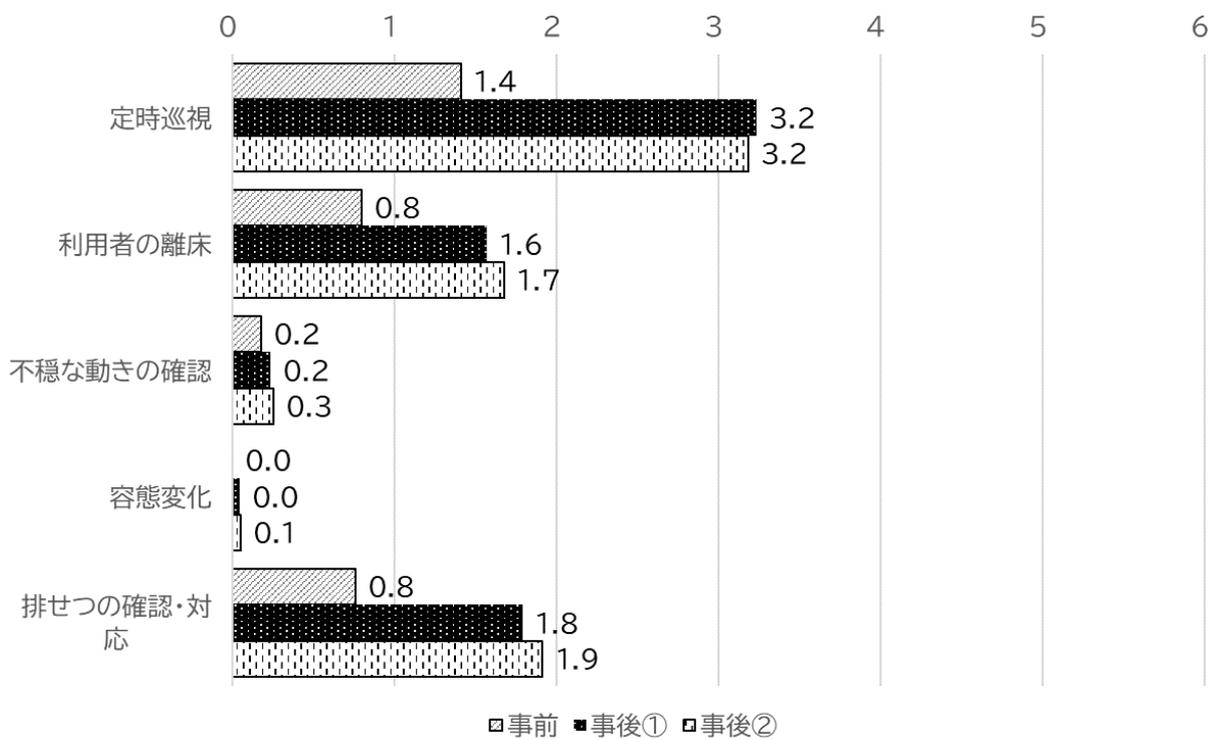
	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	3.4	0.4	0.2	0.1	1.8
事後①	3.8	0.9	0.2	0.1	2.0
事後②	3.6	1.0	0.2	0.1	2.0



事前 n=285  
 事後①n=253  
 事後②n=245

図表 VII-84 新規・未算定(レンタル無) 訪室回数調査の結果

	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応
事前	1.4	0.8	0.2	0.0	0.8
事後①	3.2	1.6	0.2	0.0	1.8
事後②	3.2	1.7	0.3	0.1	1.9



事前 n=141  
 事後①n=63  
 事後②n=59

#### 4. 実証結果(共通)

職員向けアンケート調査の「心理的負担の評価」以外の設問と利用者向けアンケート調査は全ての施設が本年度の事前調査データを活用しており、以下に全体及び集計分類ごとの結果を掲載する。

##### (1) 職員向けアンケート調査結果

###### ア. 職員概要

図表 VII-85 職員概要:全体 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	54	137	1	192
	割合	28%	71%	1%	100%

図表 VII-86 職員概要:加算(I)算定 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	15	44	0	59
	割合	25%	75%	0%	100%

図表 VII-87 職員概要:加算(II)算定 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	30	60	1	91
	割合	33%	66%	1%	100%

図表 VII-88 職員概要:未算定(レンタル有) 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	6	25	0	31
	割合	19%	81%	0%	100%

図表 VII-89 職員概要:未算定(レンタル無) 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	3	8	0	11
	割合	27%	73%	0%	100%

図表 VII-90 職員概要:全体 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	4	31	43	42	39	15	10	8	192
	割合	2%	16%	22%	22%	20%	8%	5%	4%	100%

図表 VII-91 職員概要:加算(I)算定 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	2	9	16	17	8	4	1	2	59
	割合	3%	15%	27%	29%	14%	7%	2%	3%	100%

図表 VII-92 職員概要:加算(Ⅱ)算定 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	1	14	15	18	23	8	8	4	91
	割合	1%	15%	16%	20%	25%	9%	9%	4%	100%

図表 VII-93 職員概要:未算定(レンタル有) 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	1	6	5	5	7	3	1	3	31
	割合	3%	19%	16%	16%	23%	10%	3%	10%	100%

図表 VII-94 職員概要:未算定(レンタル無) 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	6	2	0	0	0	1	11
	割合	0%	18%	55%	18%	0%	0%	0%	9%	100%

図表 VII-95 職員概要:全体 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	134	35	4	1	0	1	6	11	192
	割合	70%	18%	2%	1%	0%	1%	3%	6%	100%

図表 VII-96 職員概要:加算(Ⅰ)算定 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	45	9	2	0	0	0	0	3	59
	割合	76%	15%	3%	0%	0%	0%	0%	5%	100%

図表 VII-97 職員概要:加算(Ⅱ)算定 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	58	15	2	1	0	0	3	12	91
	割合	64%	16%	2%	1%	0%	0%	3%	13%	100%

図表 VII-98 職員概要:未算定(レンタル有) 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	22	9	0	0	0	0	0	0	31
	割合	71%	29%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-99 職員概要:未算定(レンタル無) 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	9	2	0	0	0	0	0	0	11
	割合	82%	18%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 VII-100 職員概要:全体 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	43	137	2	10	192
	割合	0%	22%	71%	1%	5%	100%

図表 VII-101 職員概要:加算(Ⅰ)算定 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	12	43	0	4	59
	割合	0%	20%	73%	0%	7%	100%

図表 VII-102 職員概要:加算(Ⅱ)算定 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	19	65	0	7	91
	割合	0%	21%	71%	0%	8%	100%

図表 VII-103 職員概要:未算定(レンタル有) 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	6	23	1	1	31
	割合	0%	19%	74%	3%	3%	100%

図表 VII-104 職員概要:未算定(レンタル無) 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	5	6	0	0	11
	割合	0%	45%	55%	0%	0%	100%

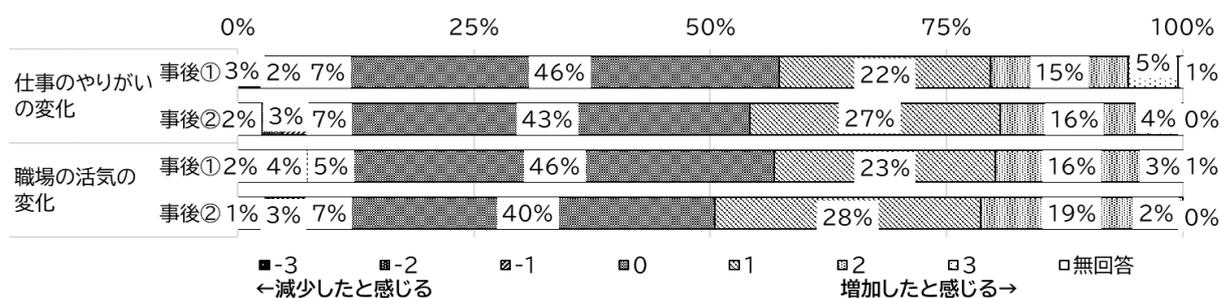
## イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

全体では、職員による「機器導入による仕事のやりがいの変化」は事後調査①から事後調査②にかけて「増加したと感じる(1~3)」と回答した割合が微増(5%)した。「機器導入による職場の活気の変化」も事後調査①から事後調査②にかけて「増加したと感じる(1~3)」と回答した割合が微増(7%)した。

図表 VII-105 全体 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる						増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	5	3	13	89	43	28	10	1	192		
		割合	3%	2%	7%	46%	22%	15%	5%	1%	100%		
	事後②	人数(人)	3	6	13	82	51	30	7	0	192		
		割合	2%	3%	7%	43%	27%	16%	4%	0%	100%		
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	3	8	9	89	45	31	6	1	192		
		割合	2%	4%	5%	46%	23%	16%	3%	1%	100%		
	事後②	人数(人)	2	5	14	76	54	37	4	0	192		
		割合	1%	3%	7%	40%	28%	19%	2%	0%	100%		

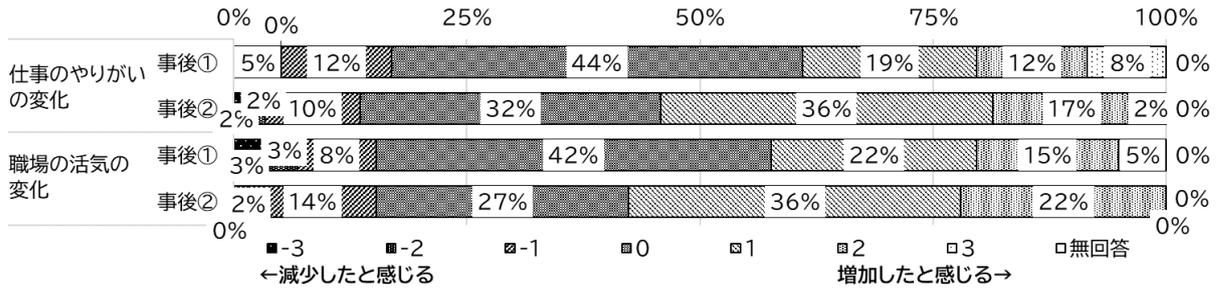


※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

※過年度(令和5年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

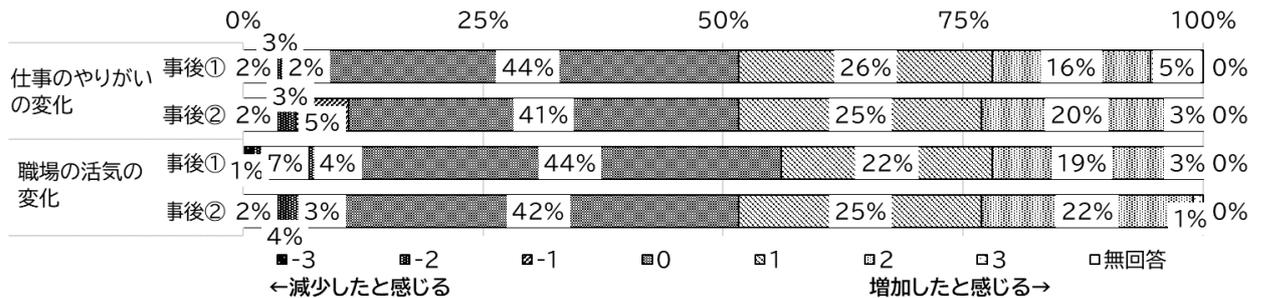
図表 VII-106 加算(Ⅰ)算定 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	3	0	7	26	11	7	5	0	59
		割合	5%	0%	12%	44%	19%	12%	8%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	6	19	21	10	1	0	59
		割合	2%	2%	10%	32%	36%	17%	2%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	2	2	5	25	13	9	3	0	59
		割合	3%	3%	8%	42%	22%	15%	5%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	8	16	21	13	0	0	59
		割合	0%	2%	14%	27%	36%	22%	0%	0%	100%



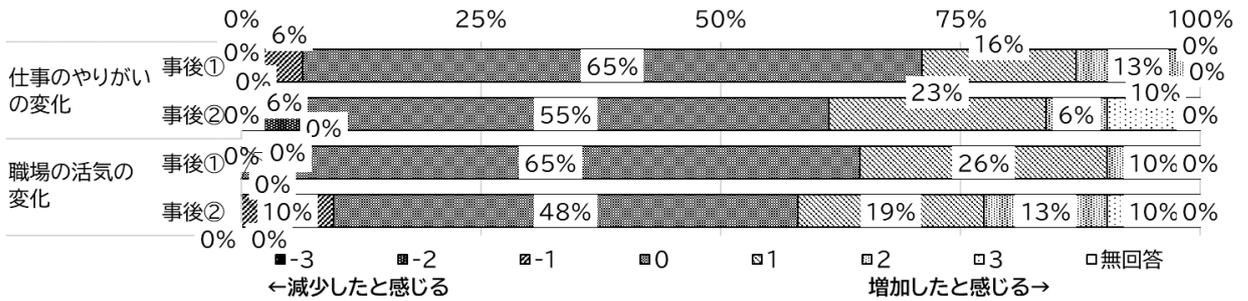
図表 VII-107 加算(Ⅱ)算定 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	2	3	2	40	24	15	5	0	91
		割合	2%	3%	2%	44%	26%	16%	5%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	3	5	37	23	18	3	0	91
		割合	2%	3%	5%	41%	25%	20%	3%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	1	6	4	40	20	17	3	0	91
		割合	1%	7%	4%	44%	22%	19%	3%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	4	3	38	23	20	1	0	91
		割合	2%	4%	3%	42%	25%	22%	1%	0%	100%



図表 VII-108 未算定(レンタル有) 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	2	20	5	4	0	0	31
		割合	0%	0%	6%	65%	16%	13%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	17	7	2	3	0	31
		割合	0%	6%	0%	55%	23%	6%	10%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	20	8	3	0	0	31
		割合	0%	0%	0%	65%	26%	10%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	3	15	6	4	3	0	31
		割合	0%	0%	10%	48%	19%	13%	10%	0%	100%

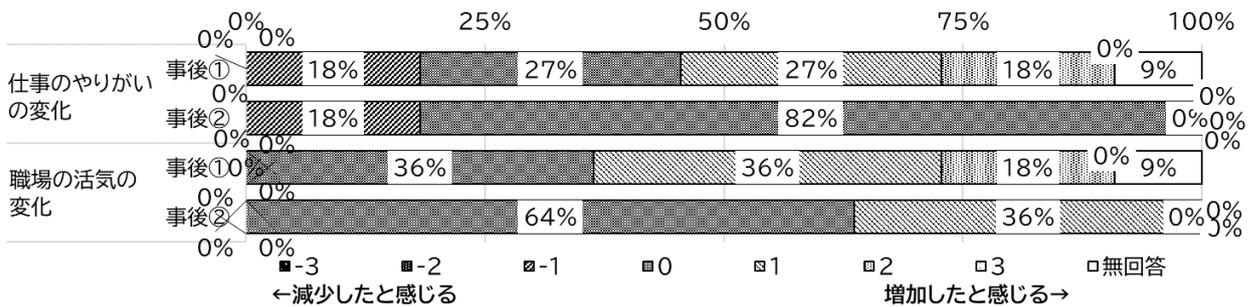


事後① n=31

事後② n=31

図表 VII-109 未算定(レンタル無) 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	2	3	3	2	0	1	11
		割合	0%	0%	18%	27%	27%	18%	0%	9%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	9	0	0	0	0	11
		割合	0%	0%	18%	82%	0%	0%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	4	4	2	0	1	11
		割合	0%	0%	0%	36%	36%	18%	0%	9%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	7	4	0	0	0	11
		割合	0%	0%	0%	64%	36%	0%	0%	0%	100%



## ウ. 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

図表 VII-110 全体 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

		←そう思わない		変化なし			→そう思う			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	3 2%	6 3%	20 10%	72 38%	50 26%	24 13%	16 8%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 3%	4 2%	18 9%	66 34%	60 31%	34 18%	5 3%	0 0%	192 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	3 2%	11 6%	16 8%	98 51%	32 17%	20 10%	11 6%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	9 5%	6 3%	17 9%	83 43%	39 20%	31 16%	7 4%	0 0%	192 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	4 2%	17 9%	21 11%	79 41%	41 21%	20 10%	9 5%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	9 5%	14 7%	14 7%	80 42%	43 22%	26 14%	6 3%	0 0%	192 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	6 3%	14 7%	12 6%	76 40%	49 26%	26 14%	8 4%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	7 4%	6 3%	14 7%	84 44%	55 29%	20 10%	6 3%	0 0%	192 100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	3 2%	4 2%	18 9%	64 33%	42 22%	27 14%	33 17%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 1%	2 1%	12 6%	52 27%	53 28%	46 24%	25 13%	0 0%	192 100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	3 2%	11 6%	54 28%	64 33%	38 20%	21 11%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 1%	2 1%	9 5%	55 29%	68 35%	42 22%	14 7%	0 0%	192 100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	4 2%	12 6%	67 35%	50 26%	43 22%	15 8%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 1%	2 1%	4 2%	68 35%	61 32%	38 20%	18 9%	0 0%	192 100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	1 1%	3 2%	9 5%	61 32%	60 31%	36 19%	21 11%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 1%	1 1%	7 4%	65 34%	60 31%	36 19%	21 11%	0 0%	192 100%
利用者のベースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	5 3%	13 7%	51 27%	61 32%	42 22%	19 10%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 1%	5 3%	6 3%	65 34%	54 28%	51 27%	9 5%	0 0%	192 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	7 4%	4 2%	16 8%	81 42%	34 18%	19 10%	30 16%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	5 3%	6 3%	10 5%	94 49%	32 17%	24 13%	21 11%	0 0%	192 100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	3 2%	1 1%	17 9%	72 38%	41 21%	28 15%	29 15%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 2%	1 1%	10 5%	70 36%	52 27%	34 18%	22 11%	0 0%	192 100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	5 3%	2 1%	15 8%	82 43%	50 26%	25 13%	12 6%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 2%	3 2%	7 4%	83 43%	57 30%	27 14%	11 6%	0 0%	192 100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	2 1%	3 2%	11 6%	94 49%	61 32%	18 9%	2 1%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 2%	2 1%	5 3%	113 59%	43 22%	22 11%	4 2%	0 0%	192 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	3 2%	9 5%	22 11%	113 59%	29 15%	12 6%	3 2%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 2%	7 4%	29 15%	112 58%	27 14%	10 5%	4 2%	0 0%	192 100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	9 5%	16 8%	28 15%	94 49%	26 14%	11 6%	7 4%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	13 7%	12 6%	24 13%	93 48%	36 19%	11 6%	3 2%	0 0%	192 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	1 1%	4 2%	12 6%	117 61%	42 22%	12 6%	3 2%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 2%	5 3%	14 7%	116 60%	38 20%	14 7%	2 1%	0 0%	192 100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	1 1%	1 1%	10 5%	78 41%	58 30%	36 19%	7 4%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 2%	4 2%	5 3%	72 38%	67 35%	33 17%	7 4%	0 0%	192 100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	3 2%	5 3%	10 5%	106 55%	42 22%	23 12%	2 1%	1 1%	192 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 2%	4 2%	7 4%	107 56%	46 24%	21 11%	4 2%	0 0%	192 100%

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

※過年度(令和5年)の事前調査で同様の項目を調査していないため、過年度の事後調査の結果を使用している。

図表 VII-111 加算(Ⅰ)算定 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

				←そう思わない 変化なし そう思う→							無回答	合計
				-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	2	1	8	23	17	4	4	0	59	
	割合		3%	2%	14%	39%	29%	7%	7%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	1	8	15	21	11	1	0	59	
	割合		3%	2%	14%	25%	36%	19%	2%	0%	100%	
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	4	4	24	12	10	4	0	59	
	割合		2%	7%	7%	41%	20%	17%	7%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	4	2	6	16	18	10	3	0	59	
	割合		7%	3%	10%	27%	31%	17%	5%	0%	100%	
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	6	7	22	16	6	1	0	59	
	割合		2%	10%	12%	37%	27%	10%	2%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	3	8	4	17	23	3	1	0	59	
	割合		5%	14%	7%	29%	39%	5%	2%	0%	100%	
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	2	7	3	16	22	6	3	0	59	
	割合		3%	12%	5%	27%	37%	10%	5%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	2	7	14	27	5	2	0	59	
	割合		3%	3%	12%	24%	46%	8%	3%	0%	100%	
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	1	1	6	25	11	9	6	0	59	
	割合		2%	2%	10%	42%	19%	15%	10%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	3	18	19	12	7	0	59	
	割合		0%	0%	5%	31%	32%	20%	12%	0%	100%	
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	0	0	3	18	23	12	3	0	59	
	割合		0%	0%	5%	31%	39%	20%	5%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	0	3	18	22	14	1	0	59	
	割合		2%	0%	5%	31%	37%	24%	2%	0%	100%	
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	0	2	2	22	14	15	4	0	59	
	割合		0%	3%	3%	37%	24%	25%	7%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	20	21	14	4	0	59	
	割合		0%	0%	0%	34%	36%	24%	7%	0%	100%	
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	0	1	3	19	22	9	5	0	59	
	割合		0%	2%	5%	32%	37%	15%	8%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	2	19	22	10	6	0	59	
	割合		0%	0%	3%	32%	37%	17%	10%	0%	100%	
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	0	0	4	19	20	13	3	0	59	
	割合		0%	0%	7%	32%	34%	22%	5%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	1	2	19	21	14	2	0	59	
	割合		0%	2%	3%	32%	36%	24%	3%	0%	100%	
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	3	3	7	19	14	7	6	0	59	
	割合		5%	5%	12%	32%	24%	12%	10%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	4	7	22	14	6	4	0	59	
	割合		3%	7%	12%	37%	24%	10%	7%	0%	100%	
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	1	0	4	23	15	10	6	0	59	
	割合		2%	0%	7%	39%	25%	17%	10%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	0	2	20	24	8	4	0	59	
	割合		2%	0%	3%	34%	41%	14%	7%	0%	100%	
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	1	0	5	27	15	10	1	0	59	
	割合		2%	0%	8%	46%	25%	17%	2%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	2	1	23	25	4	3	0	59	
	割合		2%	3%	2%	39%	42%	7%	5%	0%	100%	
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	0	1	1	30	22	5	0	0	59	
	割合		0%	2%	2%	51%	37%	8%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	1	30	22	5	1	0	59	
	割合		0%	0%	2%	51%	37%	8%	2%	0%	100%	
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	2	2	8	36	7	4	0	0	59	
	割合		3%	3%	14%	61%	12%	7%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	2	10	32	15	0	0	0	59	
	割合		0%	3%	17%	54%	25%	0%	0%	0%	100%	
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	2	6	5	32	9	4	1	0	59	
	割合		3%	10%	8%	54%	15%	7%	2%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	3	1	10	25	17	3	0	0	59	
	割合		5%	2%	17%	42%	29%	5%	0%	0%	100%	
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	1	2	4	35	11	6	0	0	59	
	割合		2%	3%	7%	59%	19%	10%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	1	4	32	17	4	0	0	59	
	割合		2%	2%	7%	54%	29%	7%	0%	0%	100%	
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	1	0	3	24	18	13	0	0	59	
	割合		2%	0%	5%	41%	31%	22%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	2	2	1	15	26	13	0	0	59	
	割合		3%	3%	2%	25%	44%	22%	0%	0%	100%	
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	2	2	3	28	13	11	0	0	59	
	割合		3%	3%	5%	47%	22%	19%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	1	1	3	28	19	7	0	0	59	
	割合		2%	2%	5%	47%	32%	12%	0%	0%	100%	

図表 VII-112 加算(Ⅱ)算定 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

				←そう思わない							無回答	合計
				変化なし								
				-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	1	5	8	33	24	13	7	0	91	
	割合	1%	5%	9%	36%	26%	14%	8%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	2	8	35	27	16	1	0	91	
	割合	2%	2%	9%	38%	30%	18%	1%	0%	100%		
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	4	9	50	17	6	4	0	91	
	割合	1%	4%	10%	55%	19%	7%	4%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	3	9	47	11	16	3	0	91	
	割合	2%	3%	10%	52%	12%	18%	3%	0%	100%		
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	1	9	8	37	22	9	5	0	91	
	割合	1%	10%	9%	41%	24%	10%	5%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	3	4	8	44	14	15	3	0	91	
	割合	3%	4%	9%	48%	15%	16%	3%	0%	100%		
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	2	6	5	38	19	18	3	0	91	
	割合	2%	7%	5%	42%	21%	20%	3%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	3	6	47	18	12	3	0	91	
	割合	2%	3%	7%	52%	20%	13%	3%	0%	100%		
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	2	2	6	27	19	15	20	0	91	
	割合	2%	2%	7%	30%	21%	16%	22%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	2	6	27	24	20	11	0	91	
	割合	1%	2%	7%	30%	26%	22%	12%	0%	100%		
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	0	1	4	24	30	18	14	0	91	
	割合	0%	1%	4%	26%	33%	20%	15%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	2	3	29	29	18	9	0	91	
	割合	1%	2%	3%	32%	32%	20%	10%	0%	100%		
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	0	2	3	30	28	21	7	0	91	
	割合	0%	2%	3%	33%	31%	23%	8%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	2	2	34	27	17	8	0	91	
	割合	1%	2%	2%	37%	30%	19%	9%	0%	100%		
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	1	1	6	25	29	20	9	0	91	
	割合	1%	1%	7%	27%	32%	22%	10%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	1	4	31	26	19	8	0	91	
	割合	2%	1%	4%	34%	29%	21%	9%	0%	100%		
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	0	4	5	23	26	22	11	0	91	
	割合	0%	4%	5%	25%	29%	24%	12%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	2	3	34	19	28	3	0	91	
	割合	2%	2%	3%	37%	21%	31%	3%	0%	100%		
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	4	1	5	44	13	9	15	0	91	
	割合	4%	1%	5%	48%	14%	10%	16%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	3	1	2	52	11	12	10	0	91	
	割合	3%	1%	2%	57%	12%	13%	11%	0%	100%		
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	2	0	7	37	18	11	16	0	91	
	割合	2%	0%	8%	41%	20%	12%	18%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	1	1	5	38	15	18	13	0	91	
	割合	1%	1%	5%	42%	16%	20%	14%	0%	100%		
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	3	2	5	42	24	9	6	0	91	
	割合	3%	2%	5%	46%	26%	10%	7%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	3	1	4	45	19	17	2	0	91	
	割合	3%	1%	4%	49%	21%	19%	2%	0%	100%		
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	2	2	7	40	31	8	1	0	91	
	割合	2%	2%	8%	44%	34%	9%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	2	3	58	14	11	1	0	91	
	割合	2%	2%	3%	64%	15%	12%	1%	0%	100%		
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	0	2	9	56	17	7	0	0	91	
	割合	0%	2%	10%	62%	19%	8%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	3	9	59	8	7	3	0	91	
	割合	2%	3%	10%	65%	9%	8%	3%	0%	100%		
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	1	7	16	46	12	5	4	0	91	
	割合	1%	8%	18%	51%	13%	5%	4%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	5	10	9	46	13	6	2	0	91	
	割合	5%	11%	10%	51%	14%	7%	2%	0%	100%		
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	0	2	6	55	23	3	2	0	91	
	割合	0%	2%	7%	60%	25%	3%	2%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	4	6	58	11	9	1	0	91	
	割合	2%	4%	7%	64%	12%	10%	1%	0%	100%		
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	0	1	5	36	27	16	6	0	91	
	割合	0%	1%	5%	40%	30%	18%	7%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	2	2	39	26	15	5	0	91	
	割合	2%	2%	2%	43%	29%	16%	5%	0%	100%		
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	0	3	5	52	21	9	1	0	91	
	割合	0%	3%	5%	57%	23%	10%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	2	2	3	55	15	12	2	0	91	
	割合	2%	2%	3%	60%	16%	13%	2%	0%	100%		

図表 VII-113 未算定(レンタル有) 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

			←そう思わない		変化なし			→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 10%	12 39%	7 23%	4 13%	5 16%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	0 0%	1 3%	11 35%	10 32%	5 16%	3 10%	0 0%	31 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 3%	2 6%	3 10%	18 58%	2 6%	3 10%	2 6%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 10%	0 0%	1 3%	14 45%	7 23%	5 16%	1 3%	0 0%	31 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	2 6%	0 0%	4 13%	18 58%	3 10%	1 3%	3 10%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	3 10%	0 0%	2 6%	13 42%	6 19%	5 16%	2 6%	0 0%	31 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	1 3%	1 3%	2 6%	18 58%	5 16%	2 6%	2 6%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	2 6%	1 3%	0 0%	17 55%	8 26%	2 6%	1 3%	0 0%	31 100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	5 16%	10 32%	9 29%	3 10%	4 13%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	0 0%	3 10%	5 16%	7 23%	12 39%	3 10%	0 0%	31 100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	3 10%	9 29%	9 29%	7 23%	2 6%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 10%	6 19%	13 42%	7 23%	2 6%	0 0%	31 100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	6 19%	13 42%	7 23%	4 13%	1 3%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 6%	11 35%	11 35%	5 16%	2 6%	0 0%	31 100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	0 0%	14 45%	8 26%	4 13%	4 13%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 3%	12 39%	9 29%	6 19%	3 10%	0 0%	31 100%
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 10%	8 26%	13 42%	4 13%	3 10%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	1 3%	8 26%	12 39%	6 19%	2 6%	0 0%	31 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	4 13%	14 45%	5 16%	3 10%	5 16%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 3%	15 48%	5 16%	5 16%	5 16%	0 0%	31 100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	6 19%	11 35%	7 23%	5 16%	2 6%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	0 0%	3 10%	10 32%	10 32%	5 16%	2 6%	0 0%	31 100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	1 3%	0 0%	3 10%	12 39%	9 29%	4 13%	2 6%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 6%	10 32%	11 35%	4 13%	4 13%	0 0%	31 100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 6%	20 65%	6 19%	3 10%	0 0%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 3%	19 61%	5 16%	5 16%	1 3%	0 0%	31 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	0 0%	2 6%	3 10%	19 61%	4 13%	1 3%	2 6%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 3%	0 0%	6 19%	16 52%	4 13%	3 10%	1 3%	0 0%	31 100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	3 10%	2 6%	4 13%	14 45%	5 16%	2 6%	1 3%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	4 13%	0 0%	4 13%	16 52%	5 16%	1 3%	3 10%	0 0%	31 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	22 71%	6 19%	2 6%	1 3%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 6%	20 65%	7 23%	1 3%	1 3%	0 0%	31 100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	14 45%	10 32%	6 19%	1 3%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 6%	13 42%	10 32%	5 16%	1 3%	0 0%	31 100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 3%	22 71%	5 16%	2 6%	1 3%	0 0%	31 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 3%	1 3%	19 61%	6 19%	2 6%	2 6%	0 0%	31 100%

図表 VII-114 未算定(レンタル無) 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

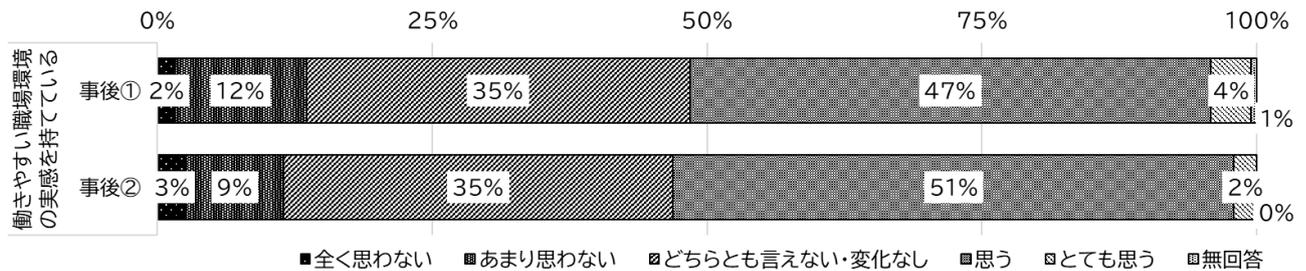
				←そう思わない						→		無回答	合計
				変化なし						そう思う			
				-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	割合	0	0	1	4	2	3	0	1	11	
				0%	0%	9%	36%	18%	27%	0%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	1	1	5	2	2	0	0	11	
				0%	9%	9%	45%	18%	18%	0%	0%	100%	
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	割合	0	1	0	6	1	1	1	1	11	
				0%	9%	0%	55%	9%	9%	9%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	1	1	6	3	0	0	0	11	
				0%	9%	9%	55%	27%	0%	0%	0%	100%	
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	割合	0	2	2	2	0	4	0	1	11	
				0%	18%	18%	18%	0%	36%	0%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	2	0	6	0	3	0	0	11	
				0%	18%	0%	55%	0%	27%	0%	0%	100%	
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	割合	1	0	2	4	3	0	0	1	11	
				9%	0%	18%	36%	27%	0%	0%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	1	0	1	6	2	1	0	0	11	
				9%	0%	9%	55%	18%	9%	0%	0%	100%	
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人)	割合	0	1	1	2	3	0	3	1	11	
				0%	9%	9%	18%	27%	0%	27%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	2	3	2	4	0	11	
				0%	0%	0%	18%	27%	18%	36%	0%	100%	
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人)	割合	0	1	1	3	2	1	2	1	11	
				0%	9%	9%	27%	18%	9%	18%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	2	4	3	2	0	11	
				0%	0%	0%	18%	36%	27%	18%	0%	100%	
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人)	割合	0	0	1	2	1	3	3	1	11	
				0%	0%	9%	18%	9%	27%	27%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	3	2	2	4	0	11	
				0%	0%	0%	27%	18%	18%	36%	0%	100%	
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人)	割合	0	0	0	3	1	3	3	1	11	
				0%	0%	0%	27%	9%	27%	27%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	3	3	1	4	0	11	
				0%	0%	0%	27%	27%	9%	36%	0%	100%	
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人)	割合	0	1	1	1	2	3	2	1	11	
				0%	9%	9%	9%	18%	27%	18%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	4	2	3	2	0	11	
				0%	0%	0%	36%	18%	27%	18%	0%	100%	
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	割合	0	0	0	4	2	0	4	1	11	
				0%	0%	0%	36%	18%	0%	36%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	1	0	5	2	1	2	0	11	
				0%	9%	0%	45%	18%	9%	18%	0%	100%	
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人)	割合	0	1	0	1	1	2	5	1	11	
				0%	9%	0%	9%	9%	18%	45%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	2	3	3	3	0	11	
				0%	0%	0%	18%	27%	27%	27%	0%	100%	
走って訪室することが減る	事後①	人数(人)	割合	0	0	2	1	2	2	3	1	11	
				0%	0%	18%	9%	18%	18%	27%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	5	2	2	2	0	11	
				0%	0%	0%	45%	18%	18%	18%	0%	100%	
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人)	割合	0	0	1	4	2	2	1	1	11	
				0%	0%	9%	36%	18%	18%	9%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	1	0	0	6	2	1	1	0	11	
				9%	0%	0%	55%	18%	9%	9%	0%	100%	
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人)	割合	1	3	2	2	1	0	1	1	11	
				9%	27%	18%	18%	9%	0%	9%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	2	4	5	0	0	0	0	11	
				0%	18%	36%	45%	0%	0%	0%	0%	100%	
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人)	割合	3	1	3	2	0	0	1	1	11	
				27%	9%	27%	18%	0%	0%	9%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	1	1	1	6	1	1	0	0	11	
				9%	9%	9%	55%	9%	9%	0%	0%	100%	
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	割合	0	0	2	5	2	1	0	1	11	
				0%	0%	18%	45%	18%	9%	0%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	2	6	3	0	0	0	11	
				0%	0%	18%	55%	27%	0%	0%	0%	100%	
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	割合	0	0	2	4	3	1	0	1	11	
				0%	0%	18%	36%	27%	9%	0%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	5	5	0	1	0	11	
				0%	0%	0%	45%	45%	0%	9%	0%	100%	
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	割合	1	0	1	4	3	1	0	1	11	
				9%	0%	9%	36%	27%	9%	0%	9%	100%	
	事後②	人数(人)	割合	0	0	0	5	6	0	0	0	11	
				0%	0%	0%	45%	55%	0%	0%	0%	100%	

## エ. 生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり

全体及び全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

図表 VII-115 全体 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感

			全く思わ ない	あまり思わ ない	どちらとも 言えない・ 変化なし	思う	とても思 う	無回答	合計
働きやすい職場環境の実感を持 ている	事後①	人数(人)	3	23	67	91	7	1	192
		割合	2%	12%	35%	47%	4%	1%	100%
	事後②	人数(人)	5	17	68	98	4	0	192
		割合	3%	9%	35%	51%	2%	0%	100%

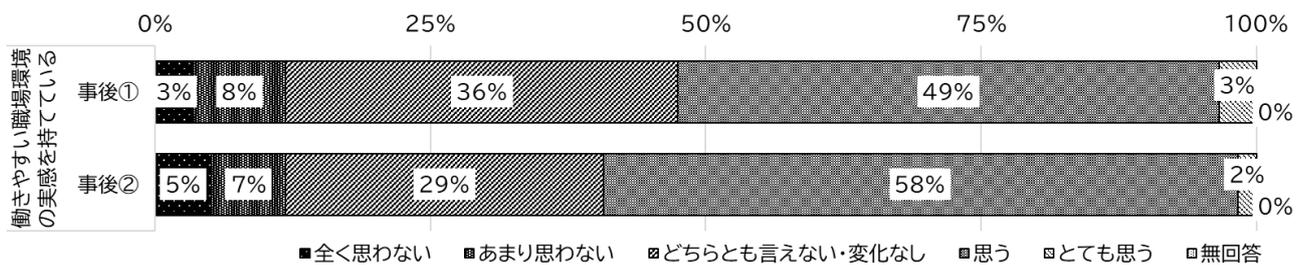


※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

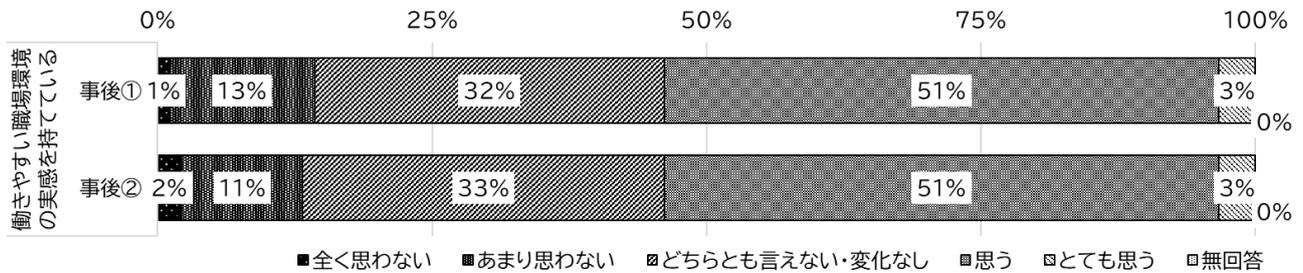
図表 VII-116 加算(I)算定 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感

			全く思わ ない	あまり思わ ない	どちらとも 言えない・ 変化なし	思う	とても思 う	無回答	合計
働きやすい職場環境の実感を持 ている	事後①	人数(人)	2	5	21	29	2	0	59
		割合	3%	8%	36%	49%	3%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	4	17	34	1	0	59
		割合	5%	7%	29%	58%	2%	0%	100%



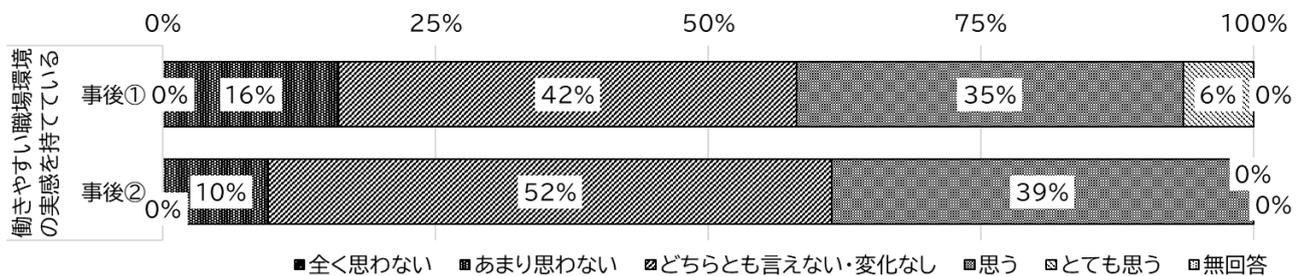
図表 VII-117 加算(Ⅱ)算定 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感

			全く思わ ない	あまり思わ ない	どちらとも 言えない・ 変化なし	思う	とても思 う	無回答	合計
働きやすい職場環境の実感を持 てている	事後①	人数(人)	1	12	29	46	3	0	91
		割合	1%	13%	32%	51%	3%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	10	30	46	3	0	91
		割合	2%	11%	33%	51%	3%	0%	100%



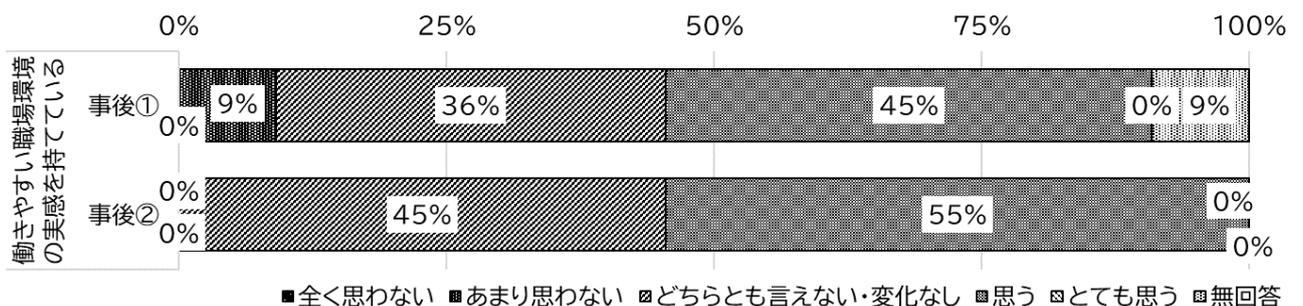
図表 VII-118 未算定(レンタル有) 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感

			全く思わ ない	あまり思わ ない	どちらとも 言えない・ 変化なし	思う	とても思 う	無回答	合計
働きやすい職場環境の実感を持 てている	事後①	人数(人)	0	5	13	11	2	0	31
		割合	0%	16%	42%	35%	6%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	3	16	12	0	0	31
		割合	0%	10%	52%	39%	0%	0%	100%



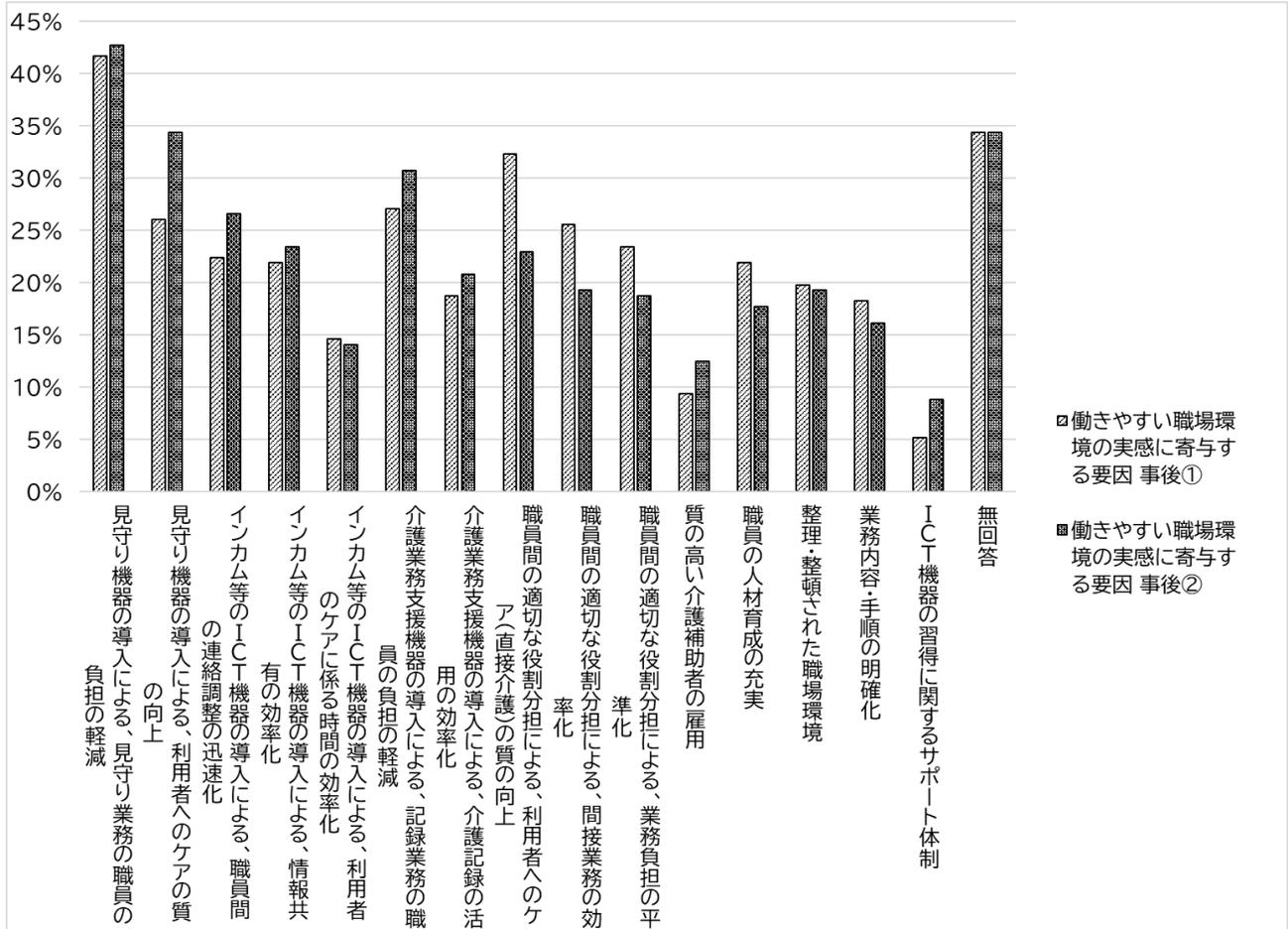
図表 VII-119 未算定(レンタル無) 生産性向上の取組による働きやすい職場環境の実感

			全く思わ ない	あまり思わ ない	どちらとも 言えない・ 変化なし	思う	とても思 う	無回答	合計
働きやすい職場環境の実感を持 てている	事後①	人数(人)	0	1	4	5	0	1	11
		割合	0%	9%	36%	45%	0%	9%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	5	6	0	0	11
		割合	0%	0%	45%	55%	0%	0%	100%



図表 VII-120 全体「思う」または「とても思う」と回答した場合、その実感が持つことができた要因(5つ)

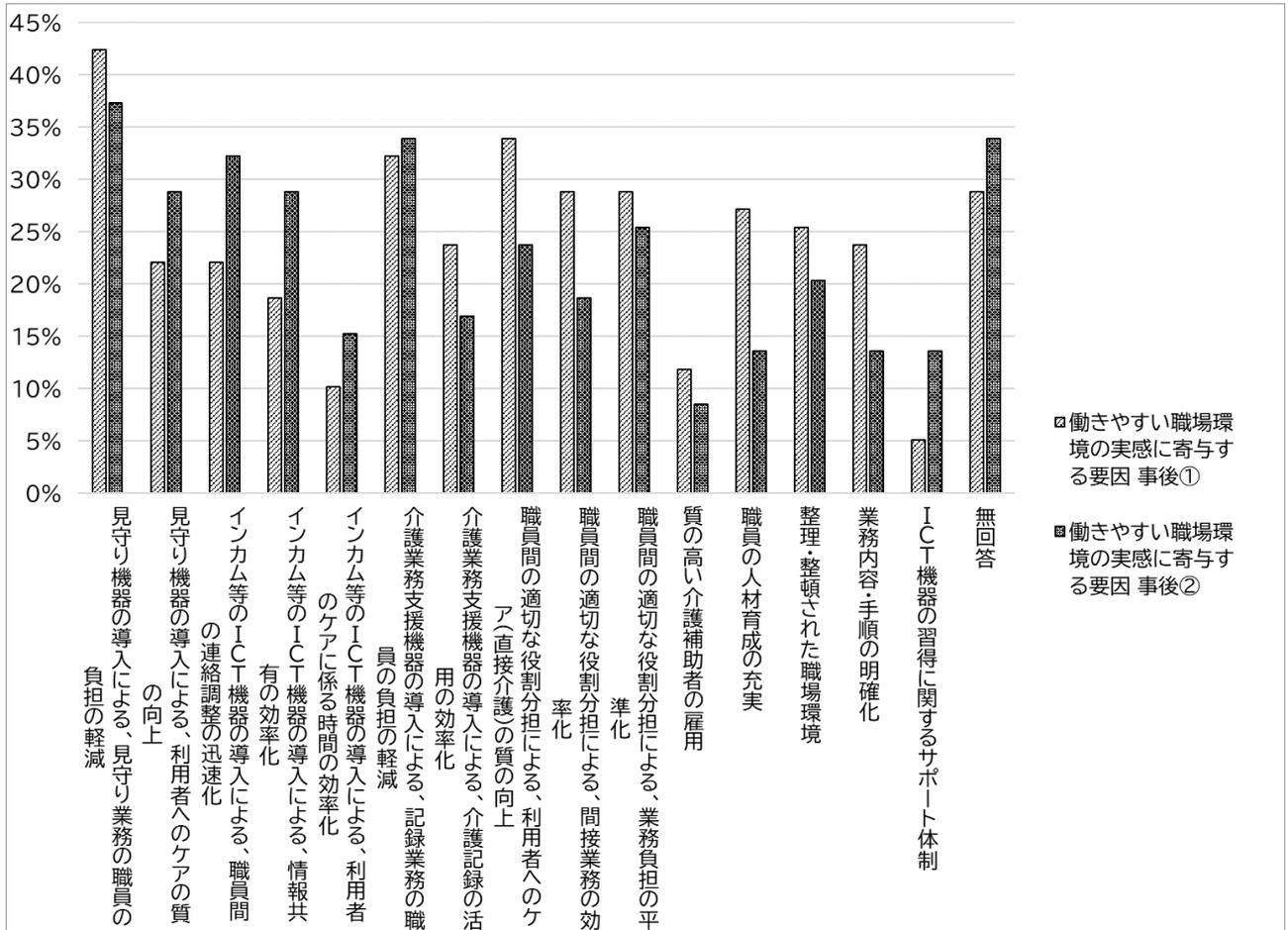
		テクノロジーの導入							職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シエア)					その他					無回答(人)	合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの向上	見守り機器の導入による、職員間の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者へのケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、記録業務の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケア(面接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制			
事後①	人数(人) 割合	80 42%	50 26%	43 22%	42 22%	28 15%	52 27%	36 19%	62 32%	49 26%	45 23%	18 9%	42 22%	38 20%	35 18%	10 5%	66 34%	192		
事後②	人数(人) 割合	82 43%	66 34%	51 27%	45 23%	27 14%	59 31%	40 21%	44 23%	37 19%	36 19%	24 13%	34 18%	27 19%	31 16%	17 9%	66 34%	192		



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

図表 VII-121 加算(I)算定「思う」または「とても思う」と回答した場合、その実感が持つことができた要因(5つ)

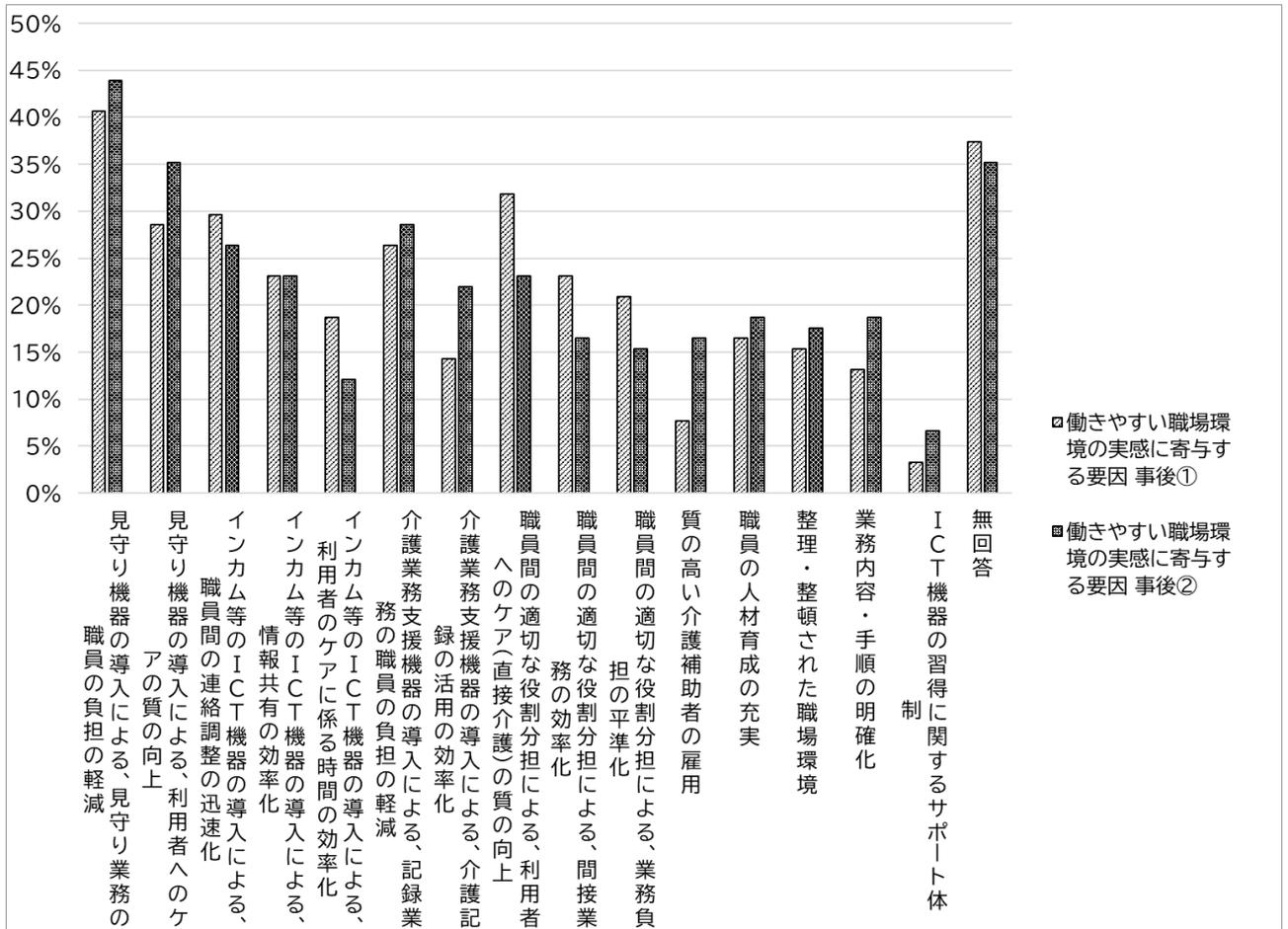
		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)				その他				無回答(人)	合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの向上	見守り機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、記録業務の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制				
事後①	人数(人) 割合	25 42%	13 22%	13 22%	11 19%	6 10%	19 32%	14 24%	20 34%	17 29%	17 29%	7 12%	16 27%	15 25%	14 24%	3 5%	17 29%	59			
事後②	人数(人) 割合	22 37%	17 29%	19 32%	17 29%	9 15%	20 34%	10 17%	14 24%	11 19%	15 25%	5 8%	8 14%	12 20%	8 14%	8 14%	20 34%	59			



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

図表 VII-122 加算(Ⅱ)算定「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要と思う項目(5つ)

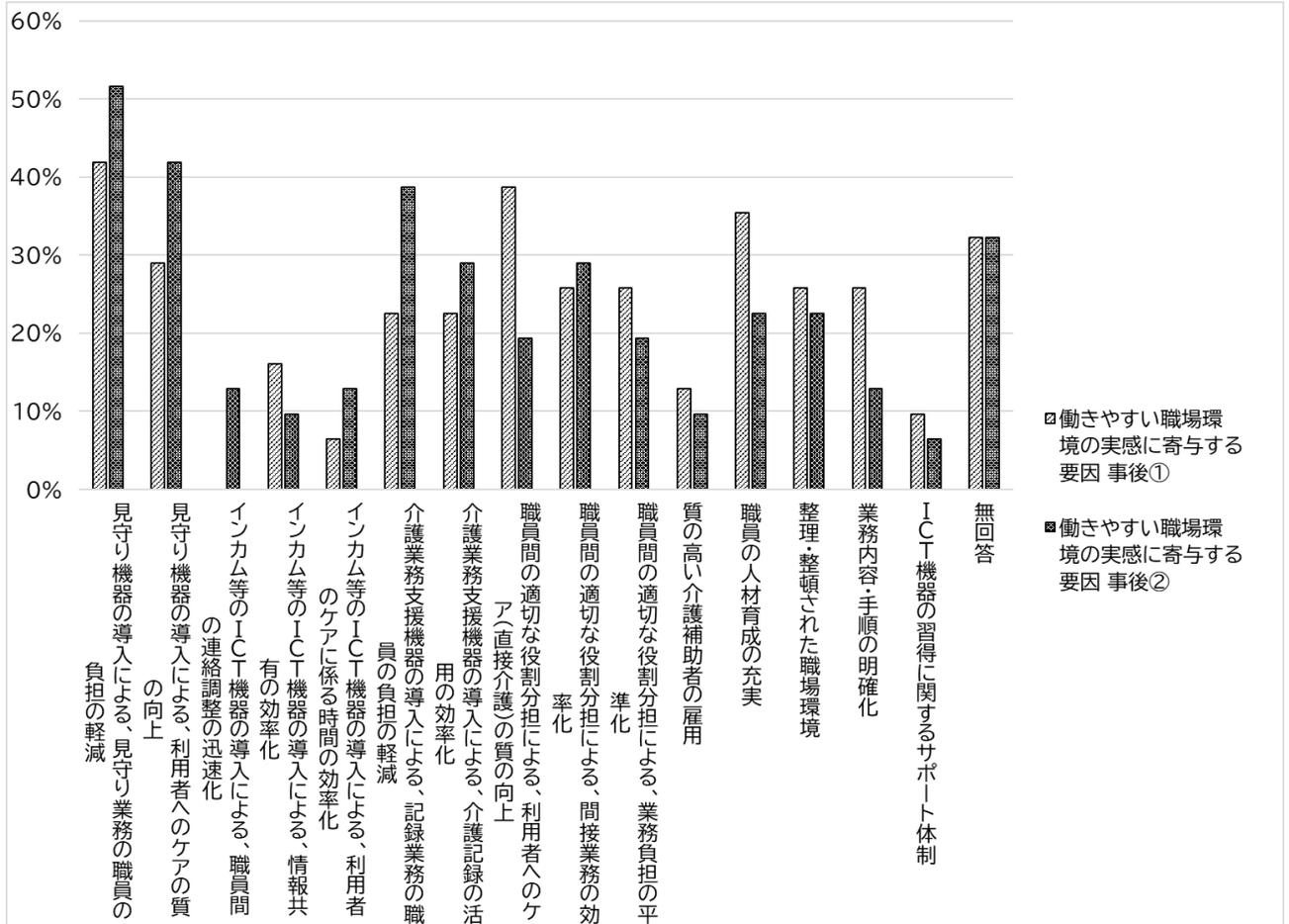
	テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他					無回答(人)	合計(人)
	見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの向上	見守り機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制			
事後①	人数(人) 割合	37 41%	26 29%	27 30%	21 23%	17 19%	24 26%	13 14%	29 32%	21 23%	19 21%	7 8%	15 16%	14 15%	12 13%	3 3%	34 37%	91				
事後②	人数(人) 割合	40 44%	32 35%	24 26%	21 23%	11 12%	26 29%	20 22%	21 23%	15 16%	14 15%	15 16%	17 19%	17 18%	17 19%	6 7%	32 35%	91				



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

図表 VII-123 未算定(レンタル有)「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要と思う項目(5つ)

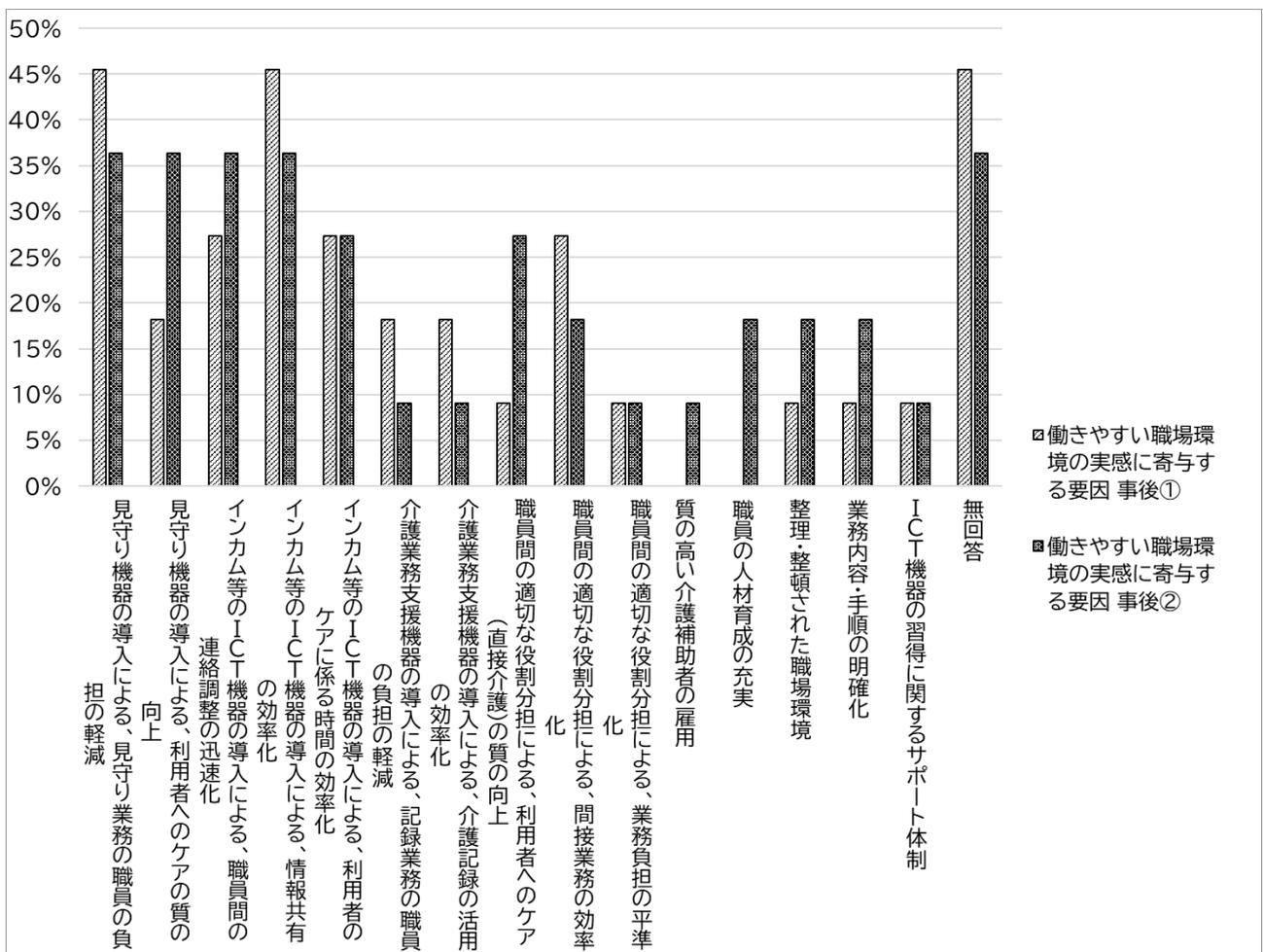
		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)					その他					無回答(人)	合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの向上	見守り機器の導入による、利用者へのケアの向上	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者のケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、記録業務の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制						
事後①	人数(人)	13	9	0	5	2	7	7	12	8	8	4	11	8	8	3	10	31					
	割合	42%	29%	0%	16%	6%	23%	23%	39%	26%	26%	13%	35%	26%	26%	10%	32%						
事後②	人数(人)	16	13	4	3	4	12	9	6	9	6	3	7	7	4	2	10	31					
	割合	52%	42%	13%	10%	13%	39%	29%	19%	29%	19%	10%	23%	23%	13%	6%	32%						



※該当する項目を最大5つ選択する設問。

図表 VII-124 未算定(レンタル無)「全く思わない」、「あまり思わない」または「どちらとも言えない・変化なし」と回答した場合、働きやすい職場環境に必要と思う項目(5つ)

		テクノロジーの導入										職員間の適切な役割分担 (タスク・シフト/シェア)				その他				無回答(人)	合計(人)
		見守り機器の導入による、見守り業務の職員の負担の軽減	見守り機器の導入による、利用者へのケアの向上	見守り機器の導入による、職員間の連絡調整の迅速化	インカム等のICT機器の導入による、情報共有の効率化	インカム等のICT機器の導入による、利用者へのケアに係る時間の効率化	インカム等のICT機器の導入による、記録業務の職員の負担の軽減	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	介護業務支援機器の導入による、介護記録の活用効率化	職員間の適切な役割分担による、利用者へのケア(直接介護)の質の向上	職員間の適切な役割分担による、間接業務の効率化	職員間の適切な役割分担による、業務負担の平準化	質の高い介護補助者の雇用	職員の人材育成の充実	整理・整頓された職場環境	業務内容・手順の明確化	ICT機器の習得に関するサポート体制				
事後①	人数(人) 割合	5 45%	2 18%	3 27%	5 45%	3 27%	2 18%	2 18%	1 9%	3 27%	1 9%	0 0%	0 0%	1 9%	1 9%	1 9%	5 45%	11			
事後②	人数(人) 割合	4 36%	4 36%	4 36%	4 36%	3 27%	1 9%	1 9%	3 27%	2 18%	2 18%	1 9%	2 18%	2 18%	2 18%	1 9%	4 36%	11			



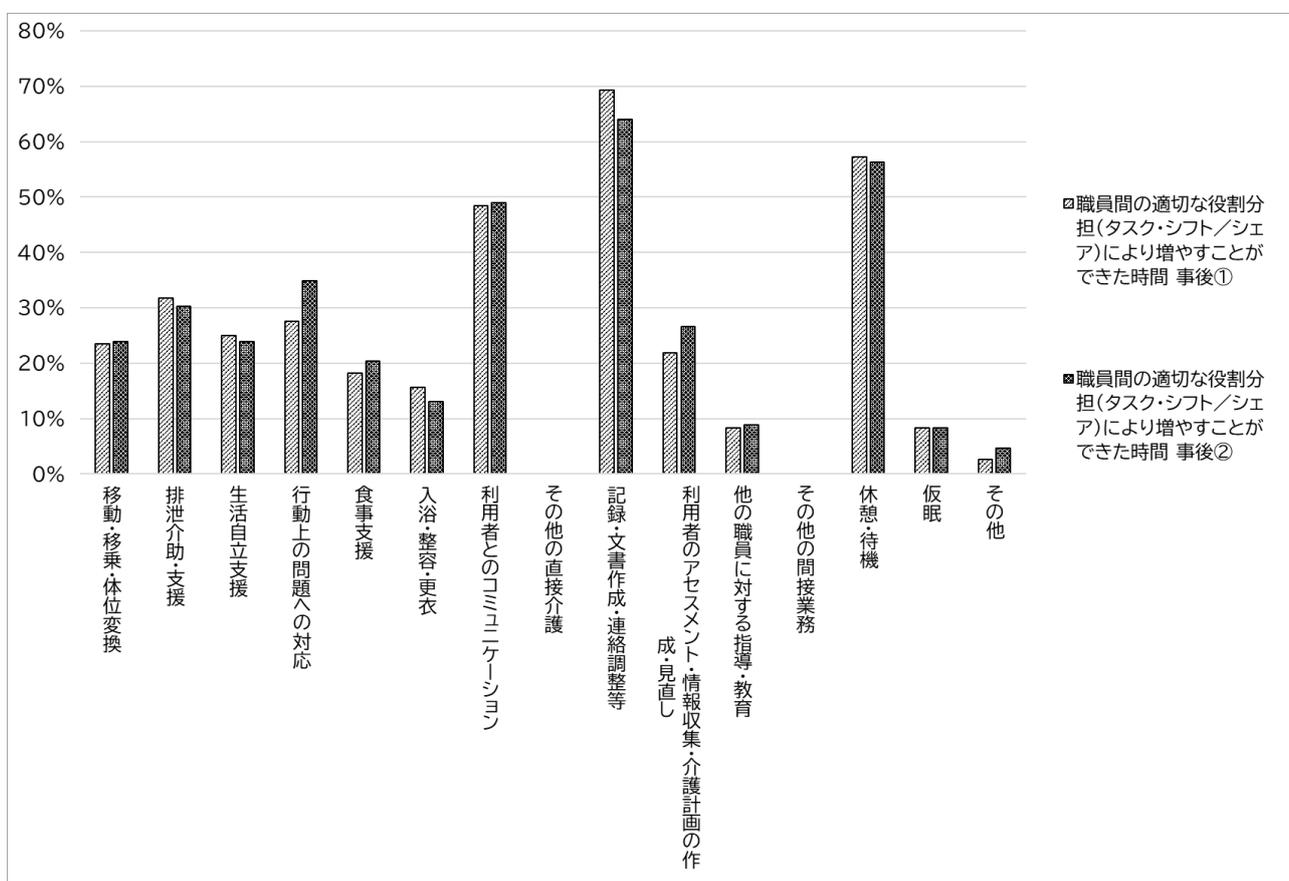
※該当する項目を最大5つ選択する設問。

## オ. 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間

全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

図表 VII-125 全体 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間

		直接介護								間接業務				休憩		その他	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者へのアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠		
事後①	人数(人)	45	61	48	53	35	30	93	0	133	42	16	0	110	16	5	192
	割合	23%	32%	25%	28%	18%	16%	48%	0%	69%	22%	8%	0%	57%	8%	3%	100%
事後②	人数(人)	46	58	46	67	39	25	94	0	123	51	17	0	108	16	9	192
	割合	24%	30%	24%	35%	20%	13%	49%	0%	64%	27%	9%	0%	56%	8%	5%	100%

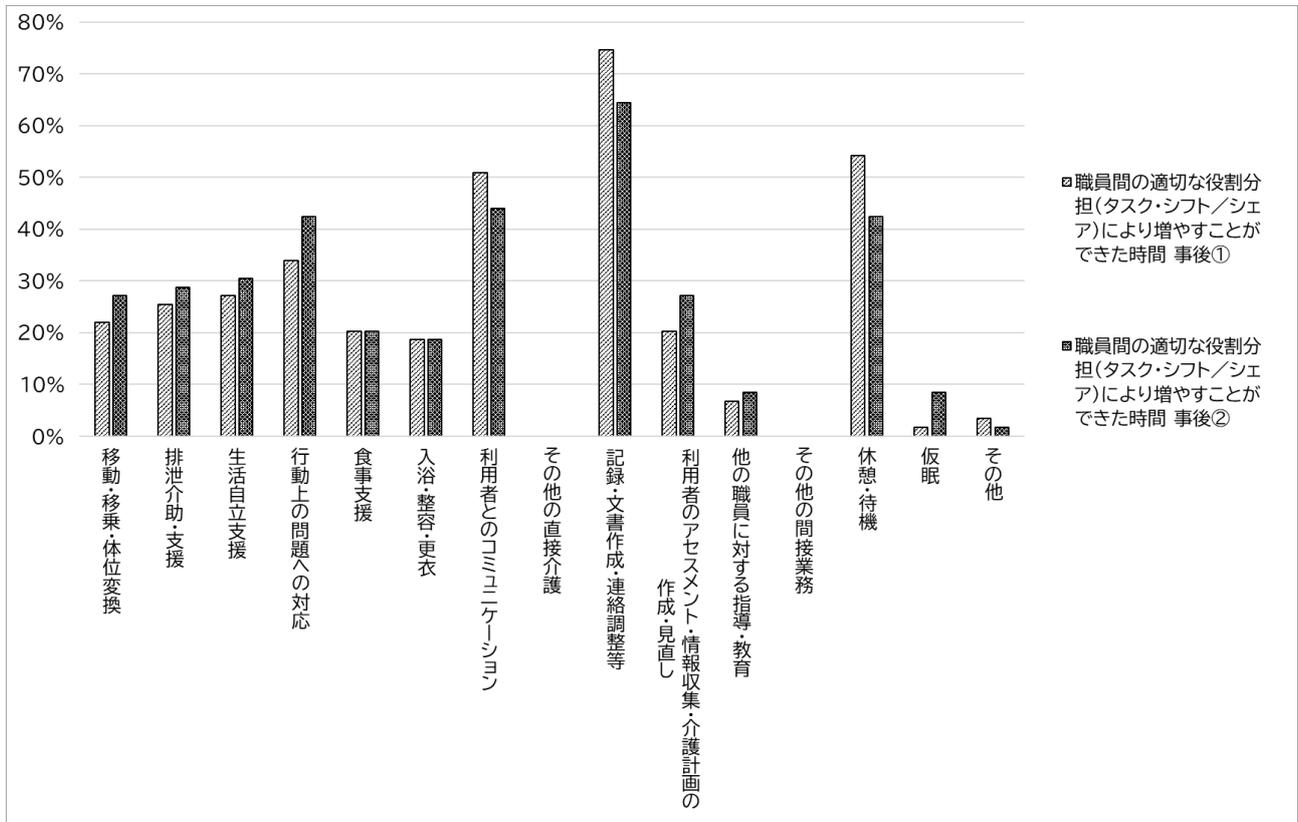


※該当する項目をすべて選択。

※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計した。

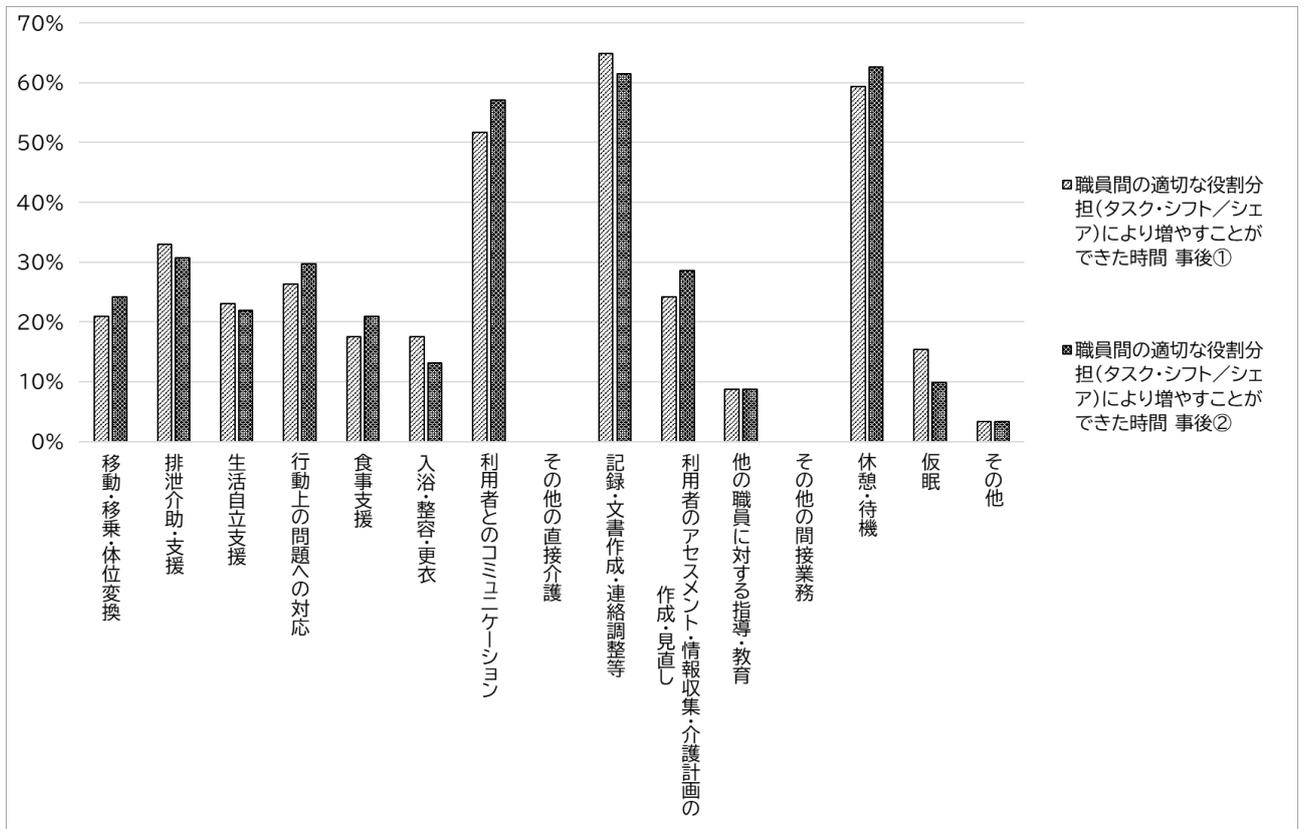
図表 VII-126 加算(I)算定 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により  
増やすことができた時間

		直接介護								間接業務				休憩		その他	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠		
事後①	人数(人)	13	15	16	20	12	11	30	0	44	12	4	0	32	1	2	59
	割合	22%	25%	27%	34%	20%	19%	51%	0%	75%	20%	7%	0%	54%	2%	3%	100%
事後②	人数(人)	16	17	18	25	12	11	26	0	38	16	5	0	25	5	1	59
	割合	27%	29%	31%	42%	20%	19%	44%	0%	64%	27%	8%	0%	42%	8%	2%	100%



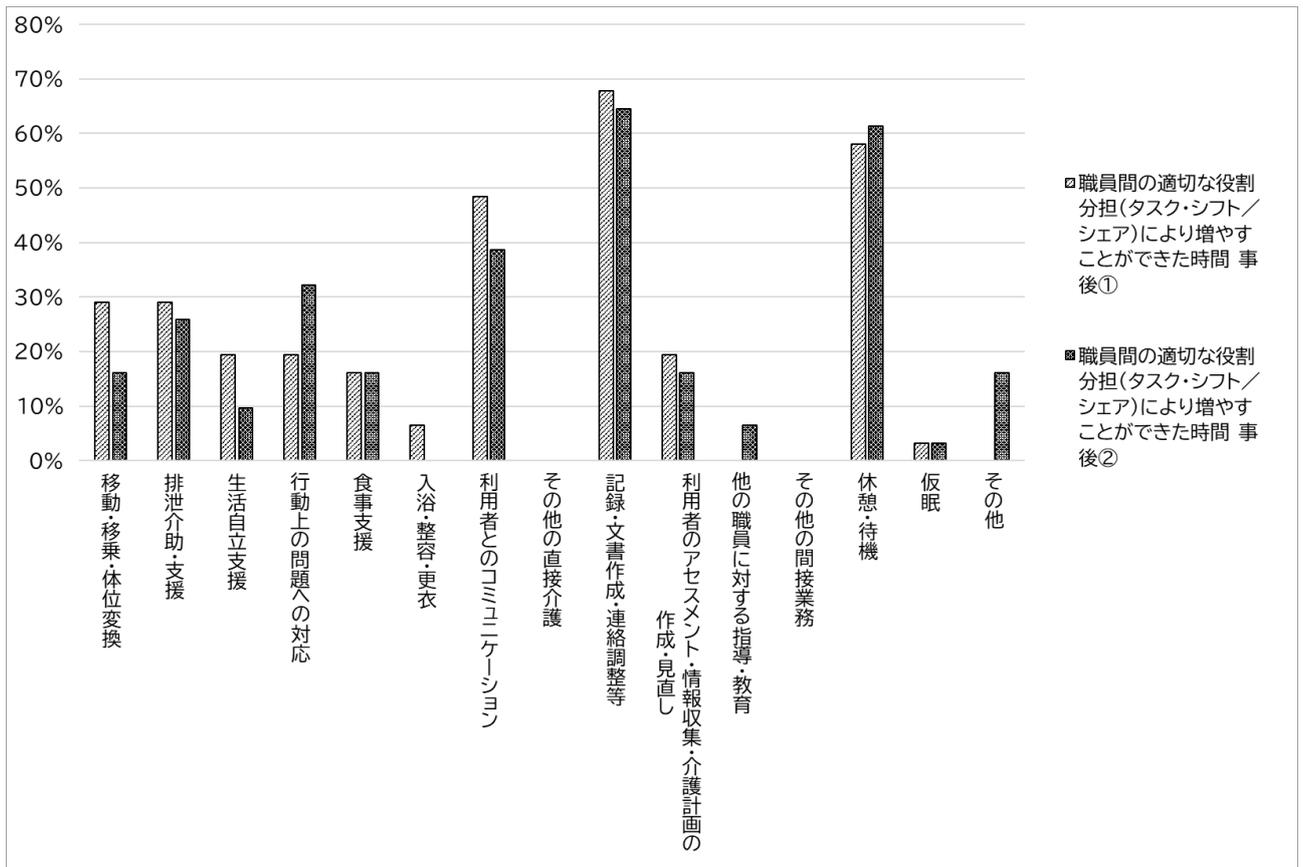
図表 VII-127 加算(Ⅱ)算定 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により  
増やすことができた時間

		直接介護								間接業務				休憩		その他	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠		
事後①	人数(人)	19	30	21	24	16	16	47	0	59	22	8	0	54	14	3	91
	割合	21%	33%	23%	26%	18%	18%	52%	0%	65%	24%	9%	0%	59%	15%	3%	100%
事後②	人数(人)	22	28	20	27	19	12	52	0	56	26	8	0	57	9	3	91
	割合	24%	31%	22%	30%	21%	13%	57%	0%	62%	29%	9%	0%	63%	10%	3%	100%



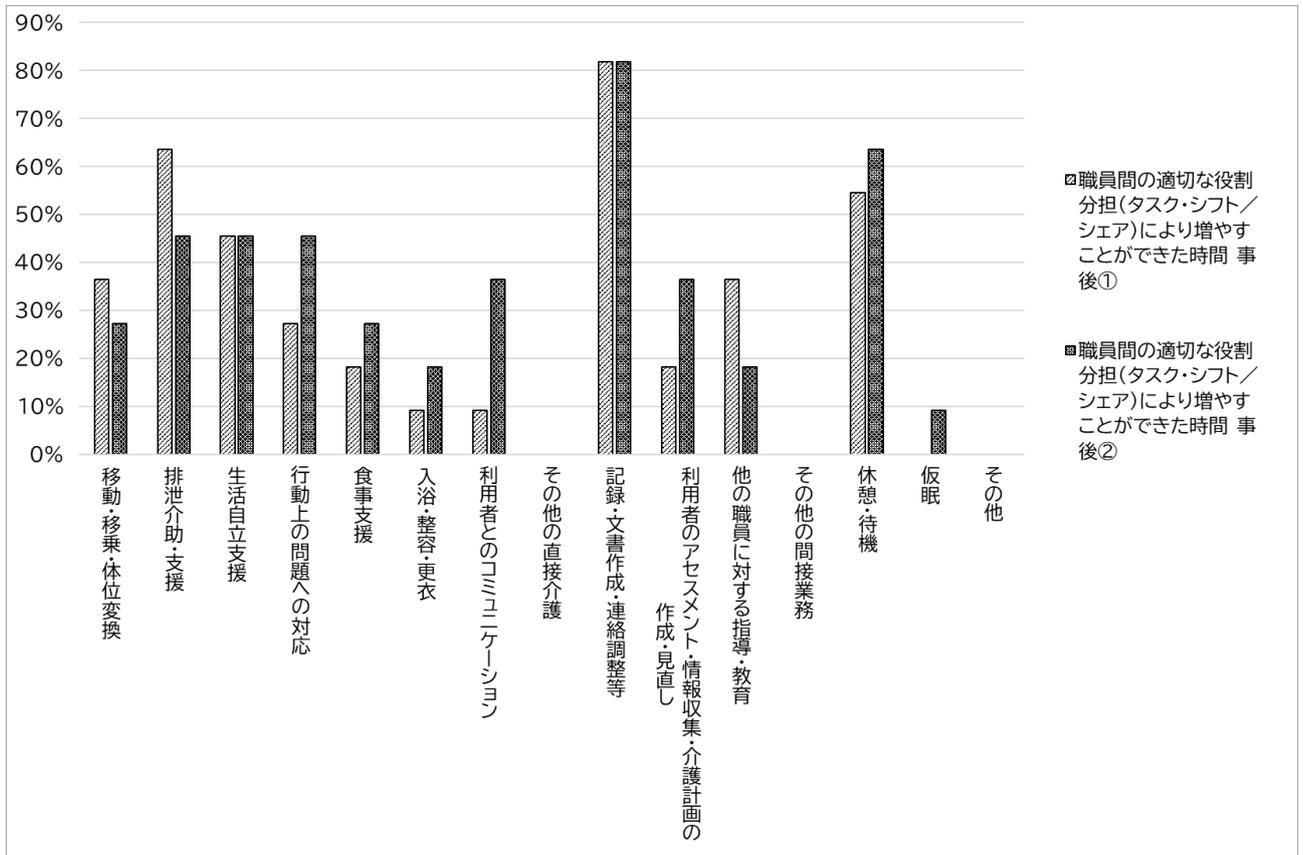
図表 VII-128 未算定(レンタル有) 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間

		直接介護								間接業務				休憩			合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	
事後①	人数(人)	9	9	6	6	5	2	15	0	21	6	0	0	18	1	0	31
	割合	29%	29%	19%	19%	16%	6%	48%	0%	68%	19%	0%	0%	58%	3%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	8	3	10	5	0	12	0	20	5	2	0	19	1	5	31
	割合	16%	26%	10%	32%	16%	0%	39%	0%	65%	16%	6%	0%	61%	3%	16%	100%



図表 VII-129 未算定(レンタル無) 職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間

	人数(人)	直接介護								間接業務				休憩		その他	合計(人)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠		
事後①	4	7	5	3	2	1	1	0	9	2	4	0	6	0	0	11	
	割合	36%	64%	45%	27%	18%	9%	9%	0%	82%	18%	36%	0%	55%	0%	100%	
事後②	3	5	5	5	3	2	4	0	9	4	2	0	7	1	11		
	割合	27%	45%	45%	45%	27%	18%	36%	0%	82%	36%	18%	0%	64%	9%	100%	

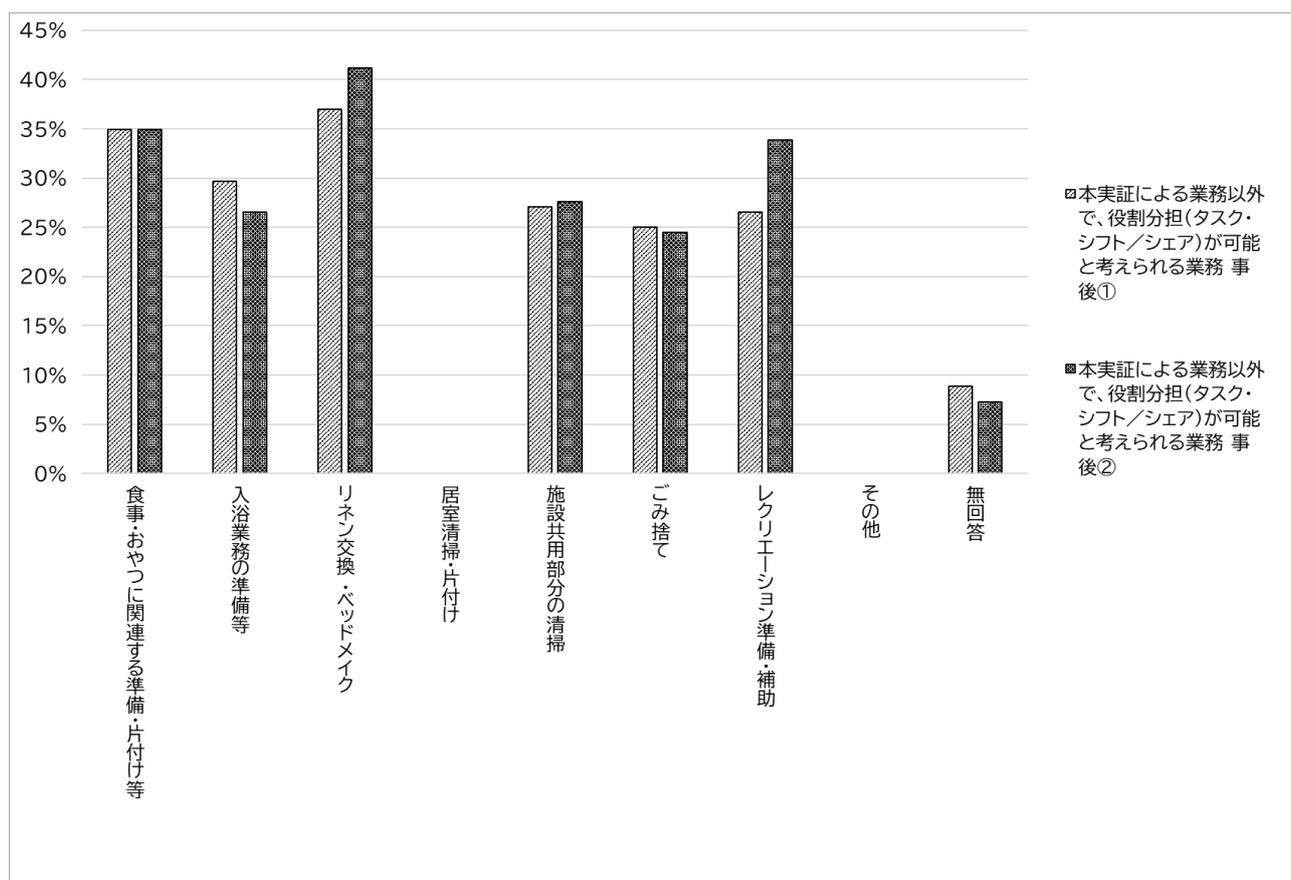


カ. 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

図表 VII-130 全体 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	67	57	71	0	52	48	51	0	17	192
	割合	35%	30%	37%	0%	27%	25%	27%	0%	9%	-
事後②	人数(人)	67	51	79	0	53	47	65	0	14	192
	割合	35%	27%	41%	0%	28%	24%	34%	0%	7%	-

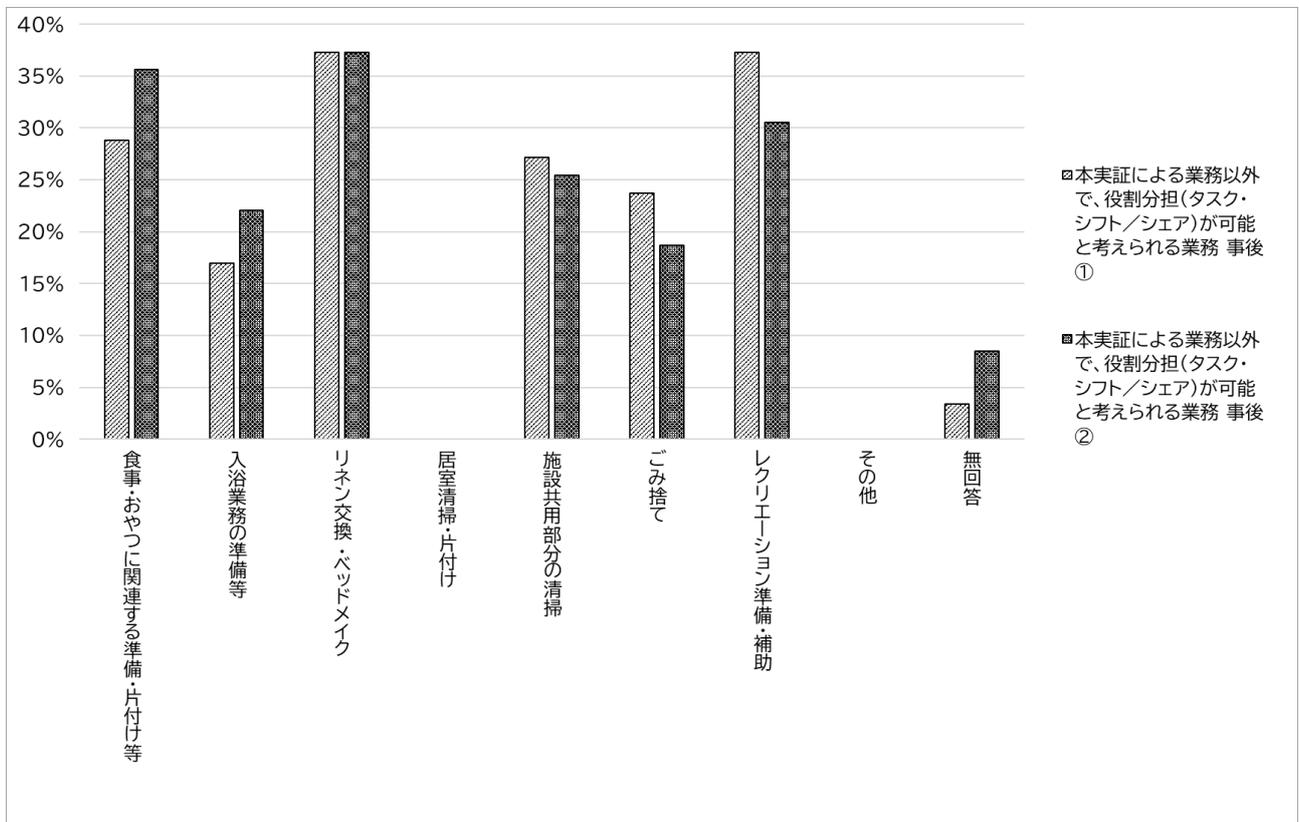


※該当する項目をすべて選択。

※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計。

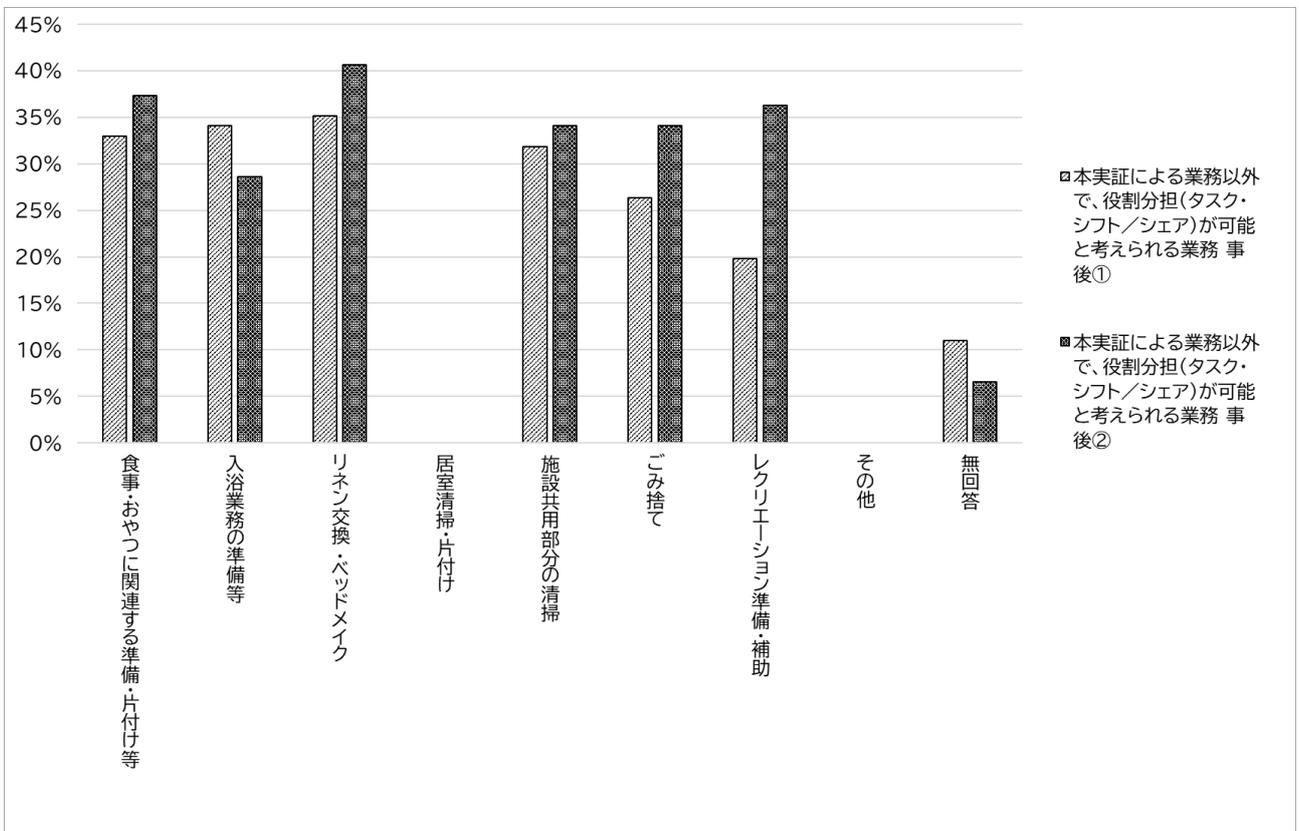
図表 VII-131 加算(Ⅰ)算定 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換 ク・ベッドメイ	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	17	10	22	0	16	14	22	0	2	59
	割合	29%	17%	37%	0%	27%	24%	37%	0%	3%	-
事後②	人数(人)	21	13	22	0	15	11	18	0	5	59
	割合	36%	22%	37%	0%	25%	19%	31%	0%	8%	-



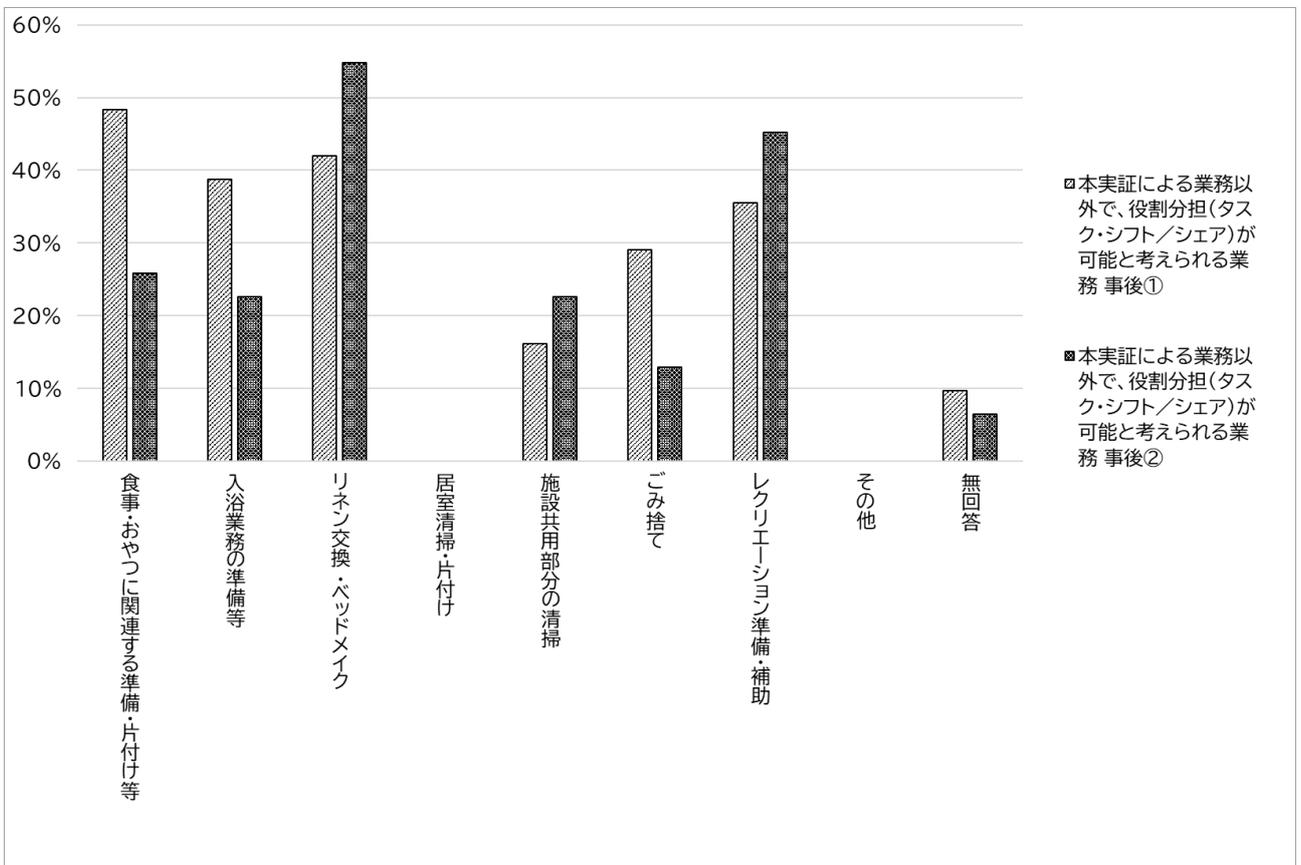
図表 VII-132 加算(Ⅱ)算定 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイ	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	30	31	32	0	29	24	18	0	10	91
	割合	33%	34%	35%	0%	32%	26%	20%	0%	11%	-
事後②	人数(人)	34	26	37	0	31	31	33	0	6	91
	割合	37%	29%	41%	0%	34%	34%	36%	0%	7%	-



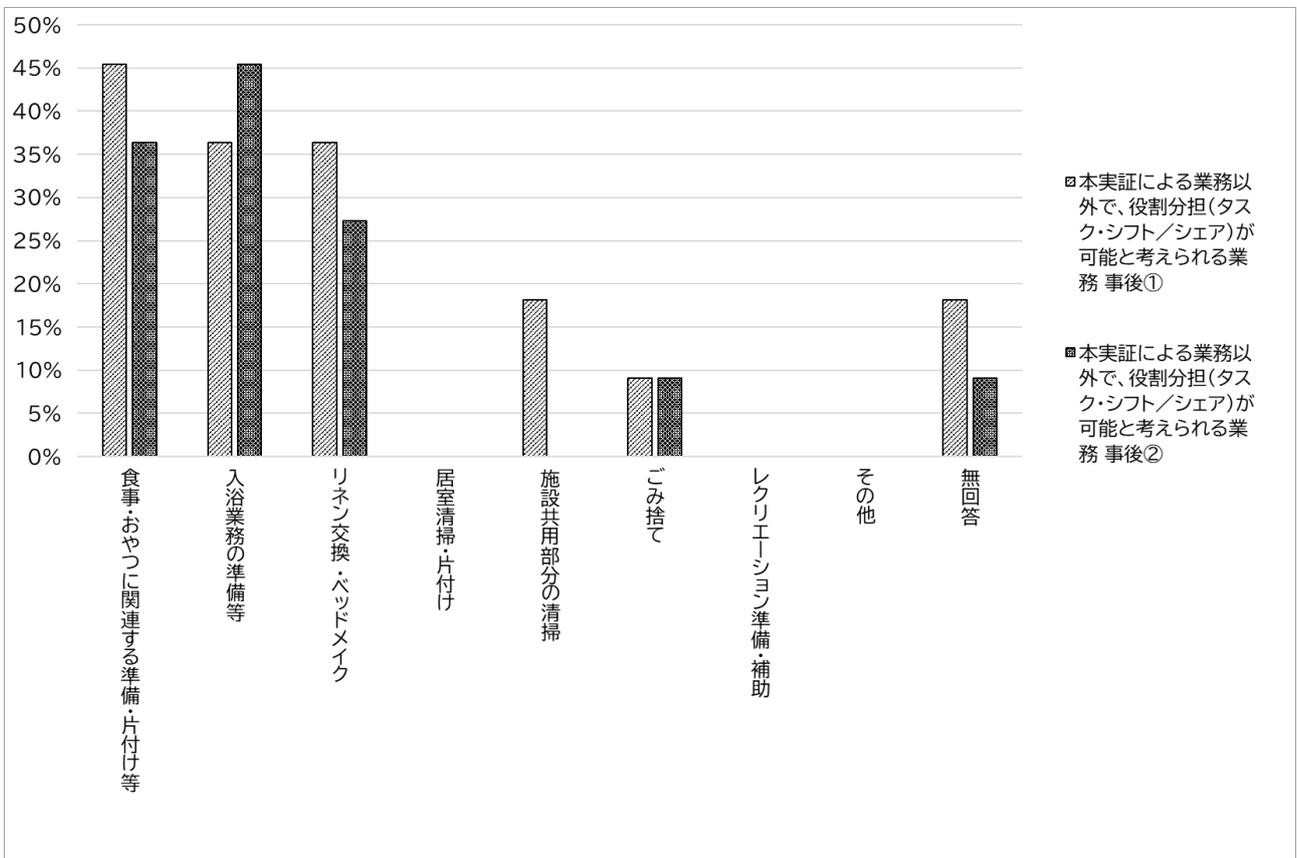
図表 VII-133 未算定(レンタル有) 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	15	12	13	0	5	9	11	0	3	31
	割合	48%	39%	42%	0%	16%	29%	35%	0%	10%	-
事後②	人数(人)	8	7	17	0	7	4	14	0	2	31
	割合	26%	23%	55%	0%	23%	13%	45%	0%	6%	-



図表 VII-134 未算定(レンタル無) 本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務

		食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換 ク・ベッドメイ	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他	無回答(人)	合計(人)
事後①	人数(人)	5	4	4	0	2	1	0	0	2	11
	割合	45%	36%	36%	0%	18%	9%	0%	0%	18%	-
事後②	人数(人)	4	5	3	0	0	1	0	0	1	11
	割合	36%	45%	27%	0%	0%	9%	0%	0%	9%	-

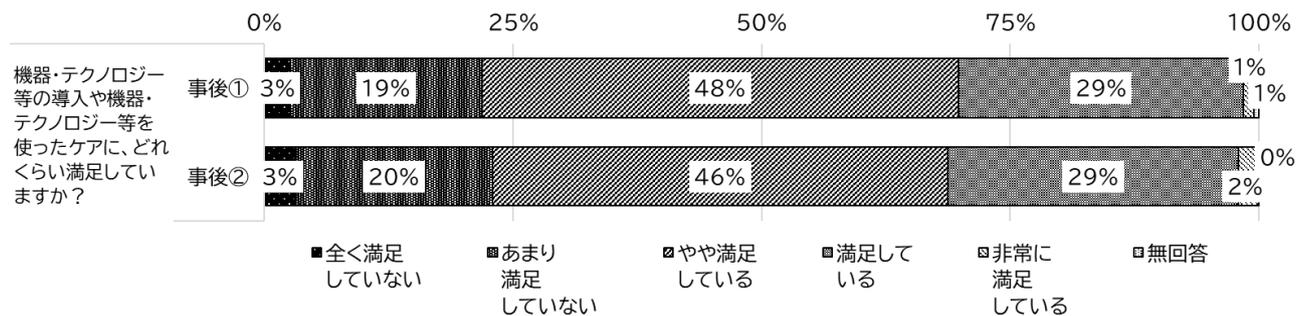


## キ. 全体的な満足度評価

全体及び集計分類ごとの結果は以下の通り。

図表 VII-135 全体 全体的な満足度評価

			全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計
機器・テクノロジー等の導入や機器・テクノロジー等を使ったケアに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	5	37	92	55	2	1	192
		割合	3%	19%	48%	29%	1%	1%	100%
	事後②	人数(人)	6	38	88	56	4	0	192
		割合	3%	20%	46%	29%	2%	0%	100%

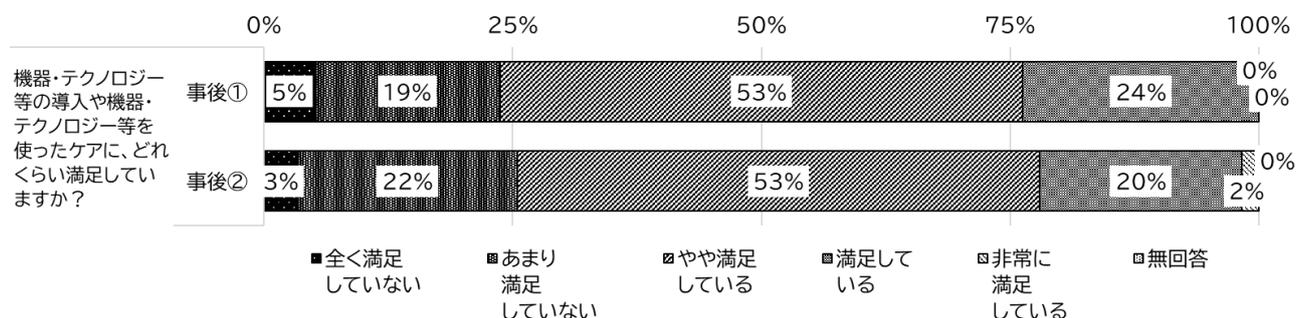


※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価。

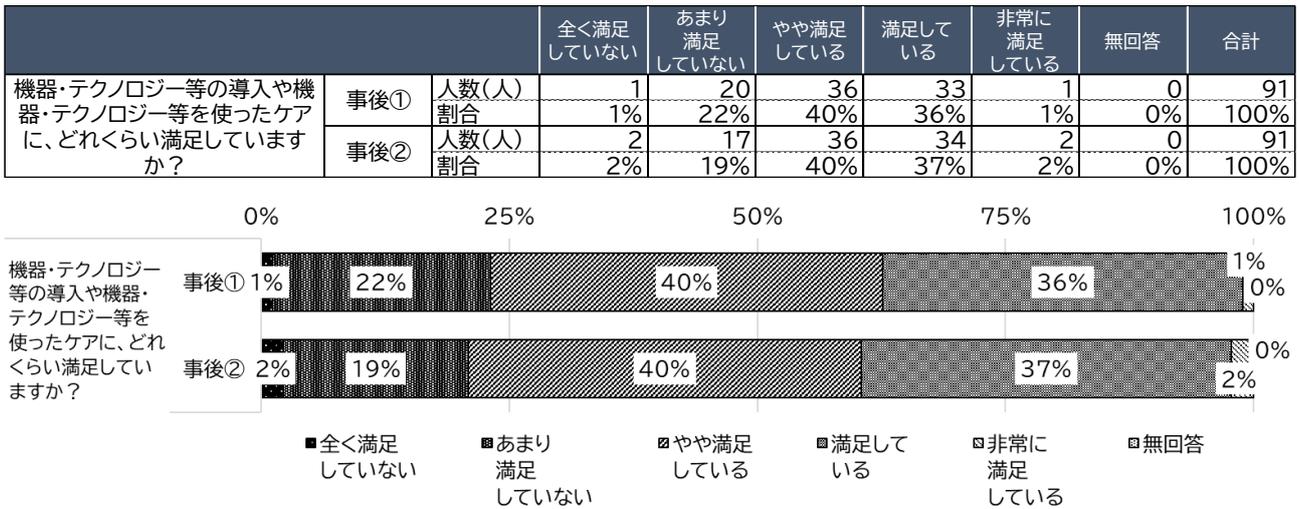
※過年度(令和5年)では同様の項目を調査していないため、今年度(令和6年)のみ集計。

図表 VII-136 加算(I)算定 全体的な満足度評価

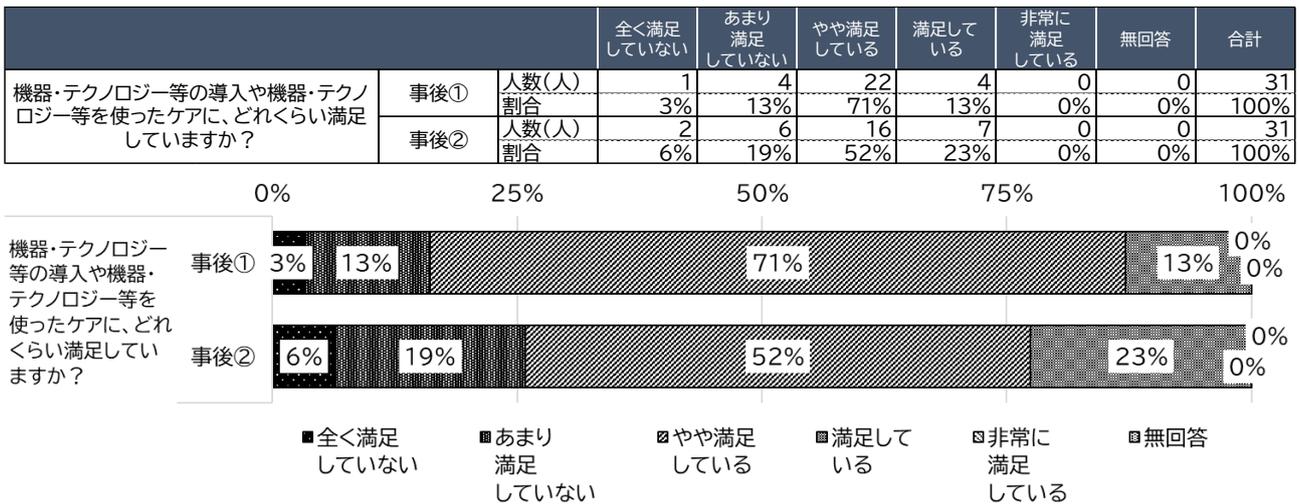
			全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計
機器・テクノロジー等の導入や機器・テクノロジー等を使ったケアに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	3	11	31	14	0	0	59
		割合	5%	19%	53%	24%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	13	31	12	1	0	59
		割合	3%	22%	53%	20%	2%	0%	100%



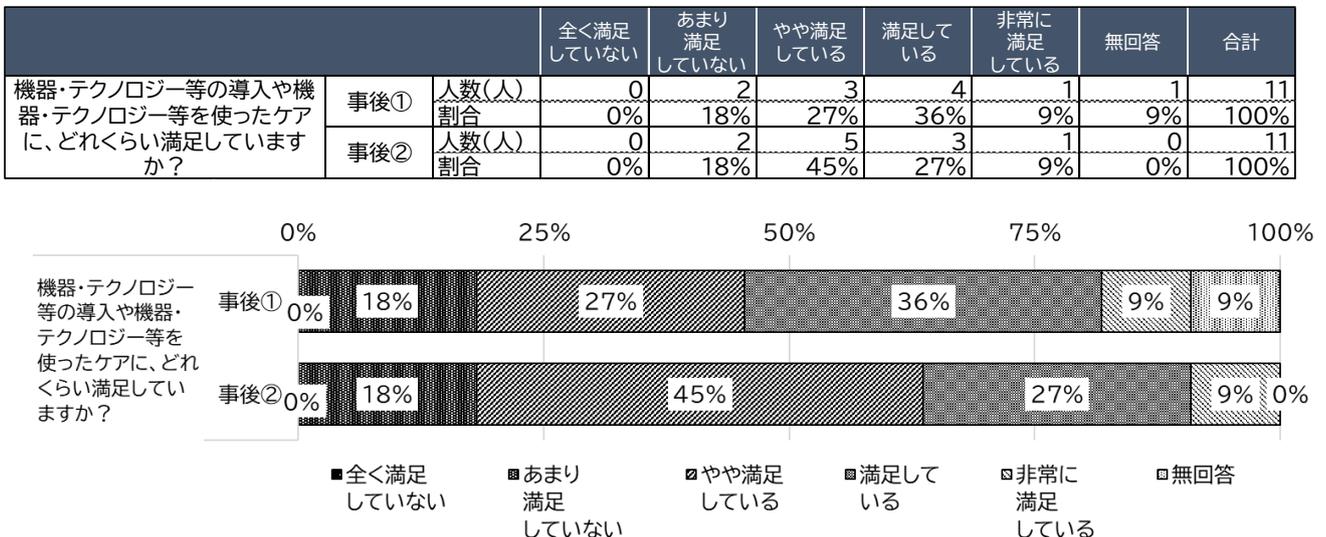
図表 VII-137 加算(Ⅱ)算定 全体的な満足度評価



図表 VII-138 未算定(レンタル有) 全体的な満足度評価



図表 VII-139 未算定(レンタル無) 全体的な満足度評価



## (2) 利用者向けアンケート調査結果

※事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

### ア. 利用者概要

図表 VII-140 利用者概要:新規 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	58	220	16	294
	割合	20%	75%	5%	100%

図表 VII-141 利用者概要:新規 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	4	6	21	24	62	75	45	57	294
	割合	1%	2%	7%	8%	21%	26%	15%	19%	100%

図表 VII-142 利用者概要:新規 要介護度

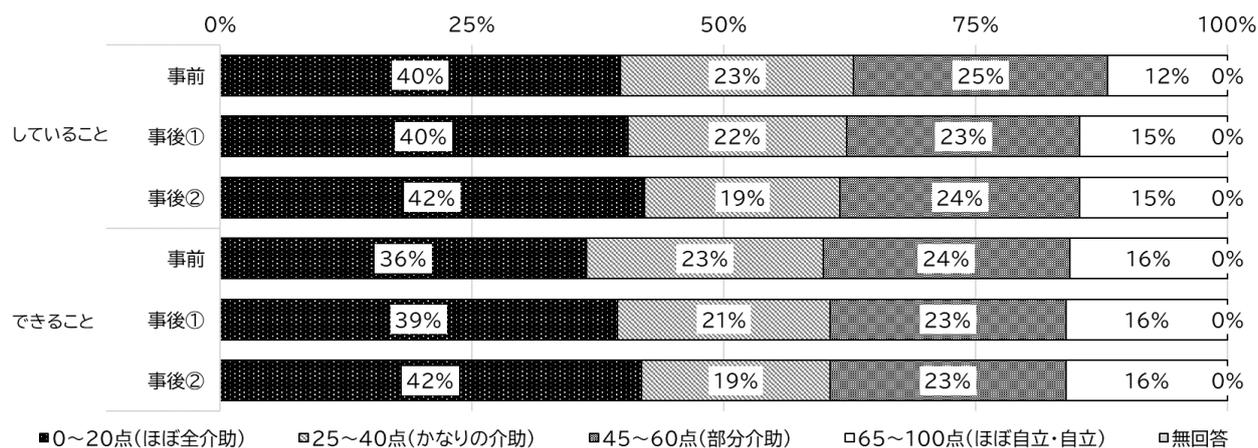
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	7	12	72	93	52	0	0	58	294
	割合	2%	4%	24%	32%	18%	0%	0%	20%	100%

## イ. ADLの変化

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-143 全体 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	117	68	74	35	0	294
		割合	40%	23%	25%	12%	0%	100%
	事後①	人数(人)	119	64	68	43	0	294
		割合	40%	22%	23%	15%	0%	100%
	事後②	人数(人)	124	57	70	43	0	294
		割合	42%	19%	24%	15%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	107	69	72	46	0	294
		割合	36%	23%	24%	16%	0%	100%
	事後①	人数(人)	116	62	69	47	0	294
		割合	39%	21%	23%	16%	0%	100%
	事後②	人数(人)	123	55	69	47	0	294
		割合	42%	19%	23%	16%	0%	100%



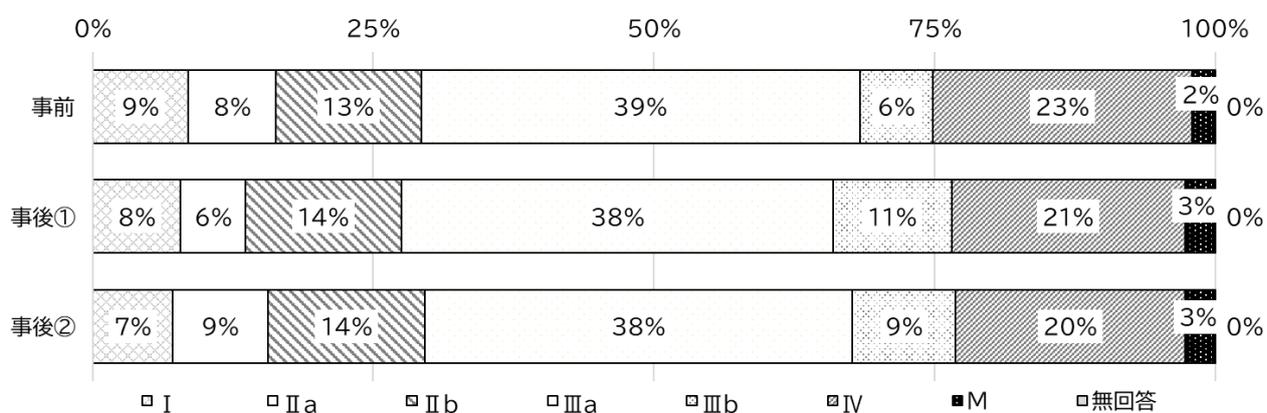
※事前調査または事後調査①・②で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

### ウ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-144 全体 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	25	23	38	115	19	68	6	0	294
	割合	9%	8%	13%	39%	6%	23%	2%	0%	100%
事後①	人数(人)	23	17	41	113	31	61	8	0	294
	割合	8%	6%	14%	38%	11%	21%	3%	0%	100%
事後②	人数(人)	21	25	41	112	27	60	8	0	294
	割合	7%	9%	14%	38%	9%	20%	3%	0%	100%

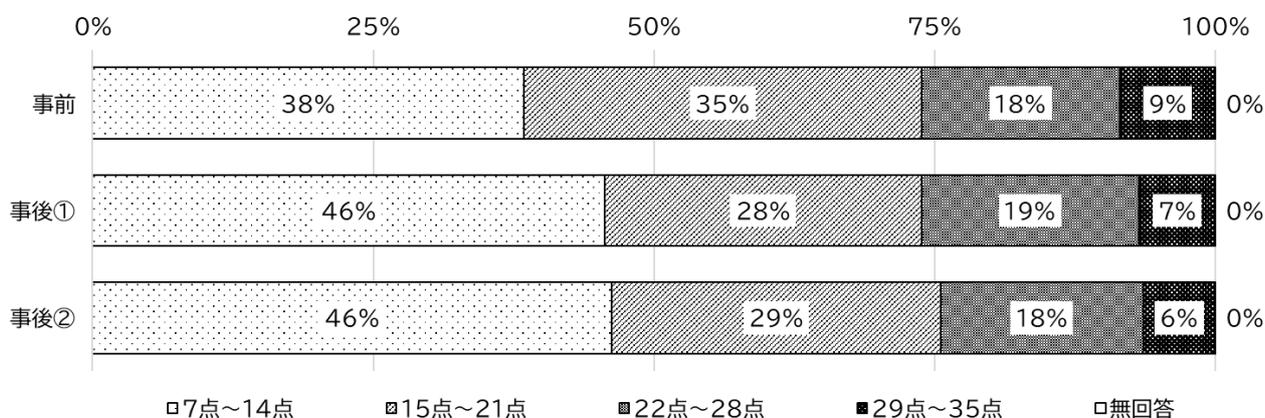


## 工. 認知症行動の変化(生活・認知機能尺度)

結果は以下の通り。

図表 VII-145 全体 生活・認知機能尺度

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	113	104	52	25	0	294
	割合	38%	35%	18%	9%	0%	100%
事後①	人数(人)	134	83	57	20	0	294
	割合	46%	28%	19%	7%	0%	100%
事後②	人数(人)	136	86	53	19	0	294
	割合	46%	29%	18%	6%	0%	100%

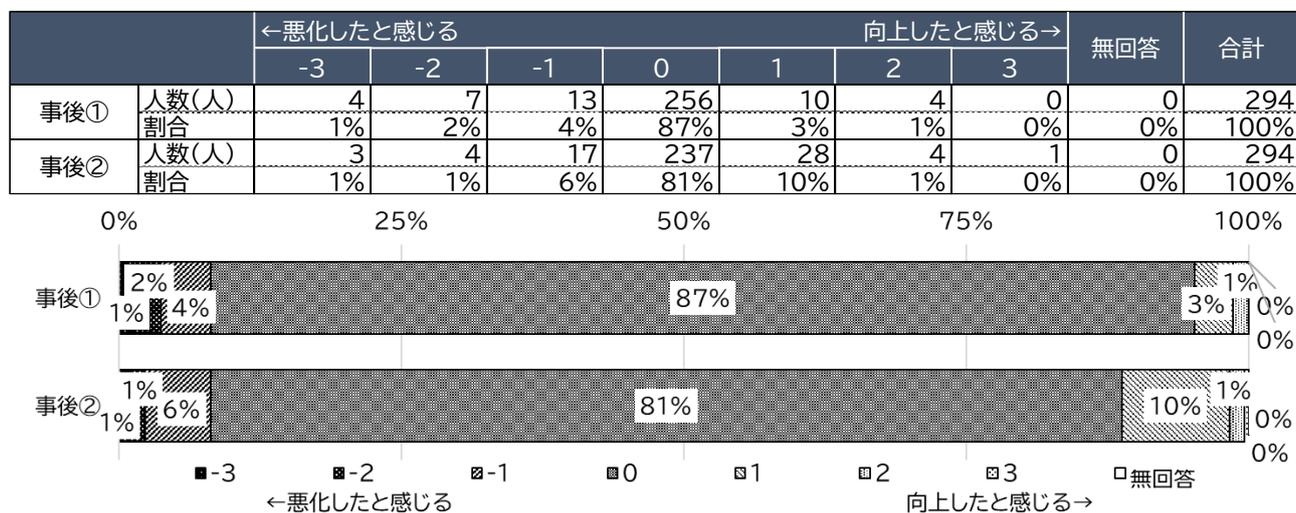


※事前調査または事後調査で、各7項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

## オ. 認知機能変化の総合的な評価

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-146 全体 認知機能変化の総合的な評価



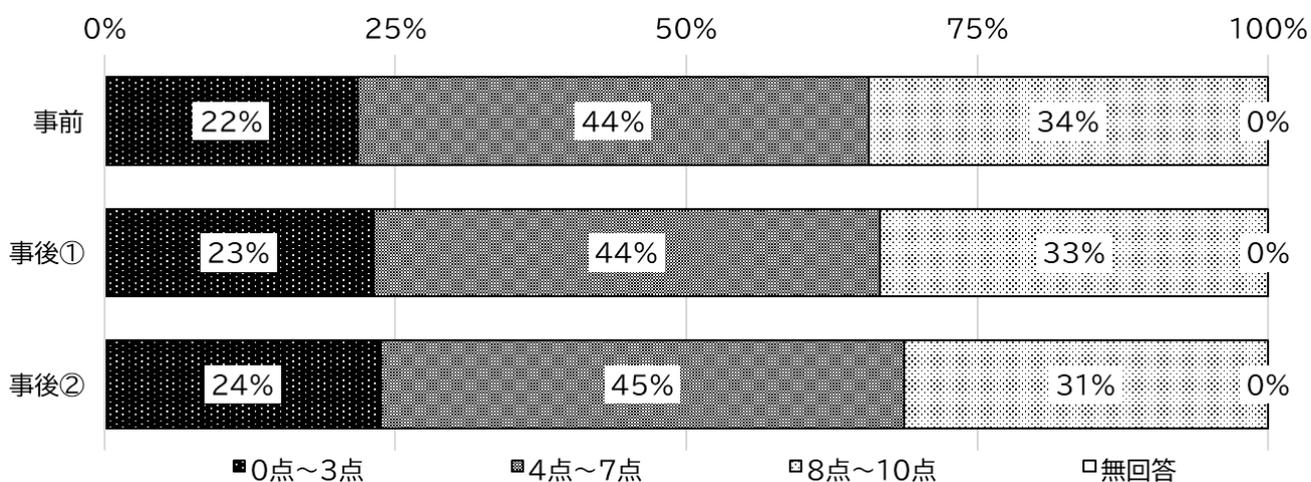
※質問項目に対し、-3(減少したと感じ)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

## カ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-147 全体 Vitality Index

		0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
事前	人数(人)	64	129	101	0	294
	割合	22%	44%	34%	0%	100%
事後①	人数(人)	68	128	98	0	294
	割合	23%	44%	33%	0%	100%
事後②	人数(人)	70	132	92	0	294
	割合	24%	45%	31%	0%	100%



※事前調査または事後調査で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

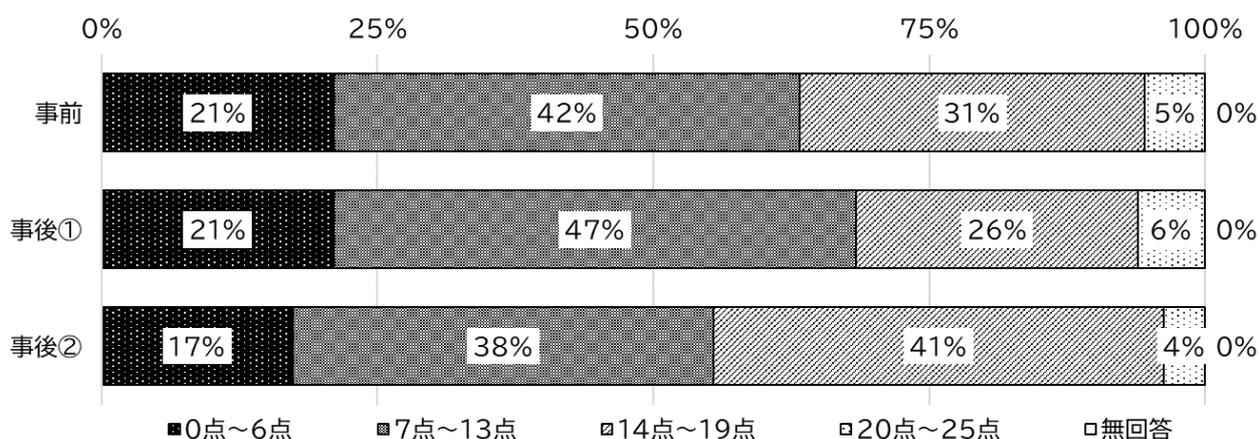
※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

## キ. QOL の変化(WHO-5)

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-148 全体 WHO-5

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	62	124	92	16	0	294
	割合	21%	42%	31%	5%	0%	100%
事後①	人数(人)	62	139	75	18	0	294
	割合	21%	47%	26%	6%	0%	100%
事後②	人数(人)	51	112	120	11	0	294
	割合	17%	38%	41%	4%	0%	100%



※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

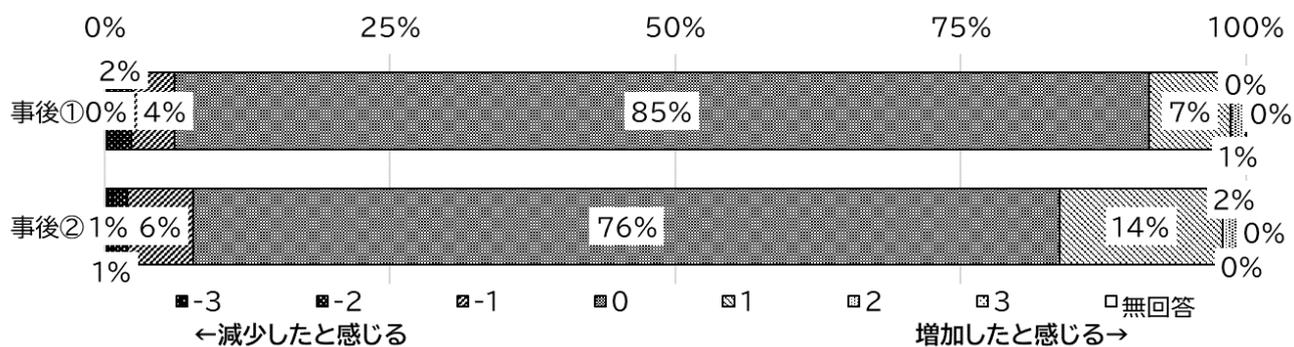
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

## ク. QOL 変化の総合的な評価

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-149 全体 QOL 変化の総合的な評価

		←減少したと感じる			増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
事後①	人数(人)	1	6	11	251	21	4	0	0	294
	割合	0%	2%	4%	85%	7%	1%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	4	17	223	42	6	0	0	294
	割合	1%	1%	6%	76%	14%	2%	0%	0%	100%



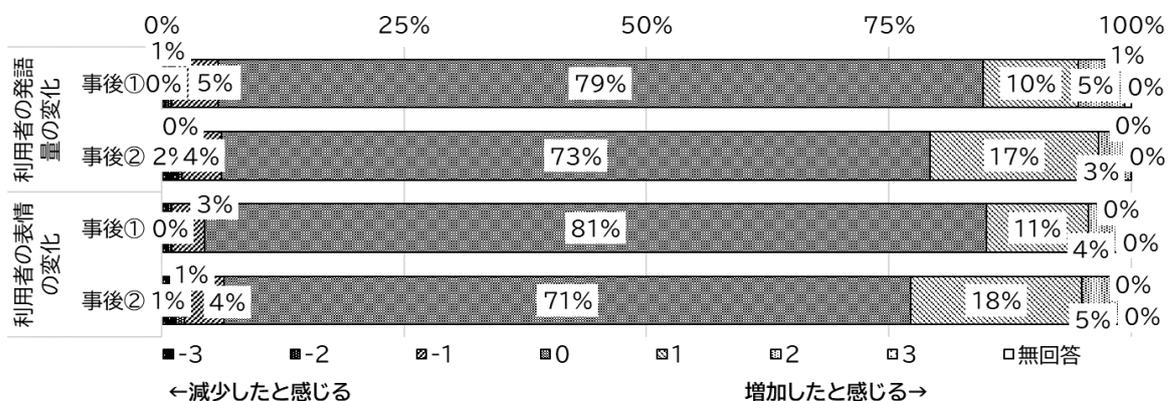
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

## ケ. コミュニケーションの変化

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-150 新規全体 コミュニケーションの変化

			←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	1	2	14	232	29	14	2	0	294		
		割合	0%	1%	5%	79%	10%	5%	1%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	5	1	12	215	51	10	0	0	294		
		割合	2%	0%	4%	73%	17%	3%	0%	0%	100%		
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	2	1	10	237	31	12	1	0	294		
		割合	1%	0%	3%	81%	11%	4%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	4	3	12	208	52	14	1	0	294		
		割合	1%	1%	4%	71%	18%	5%	0%	0%	100%		



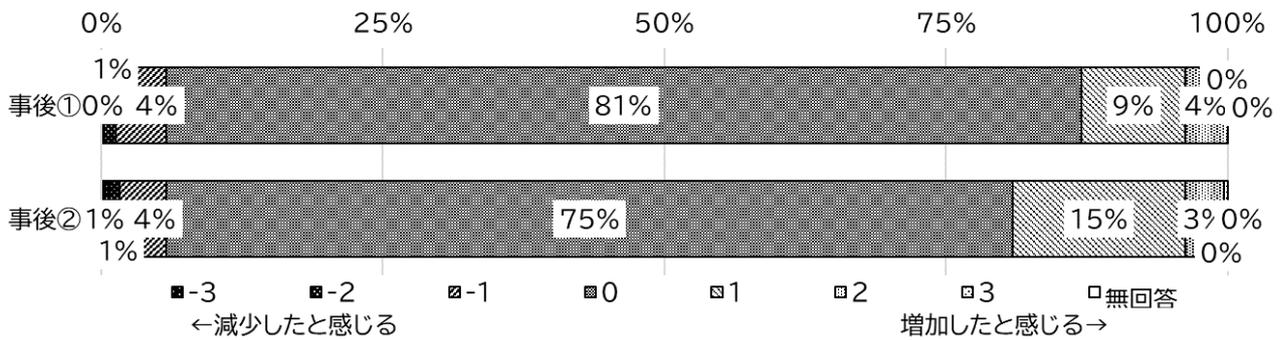
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

## コ. コミュニケーション変化の総合的な評価

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-151 全体 コミュニケーション変化の総合的な評価

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2		
事後①	人数(人)	1	3	13	239	27	11	0	294
	割合	0%	1%	4%	81%	9%	4%	0%	100%
事後②	人数(人)	2	3	12	221	45	10	1	294
	割合	1%	1%	4%	75%	15%	3%	0%	100%



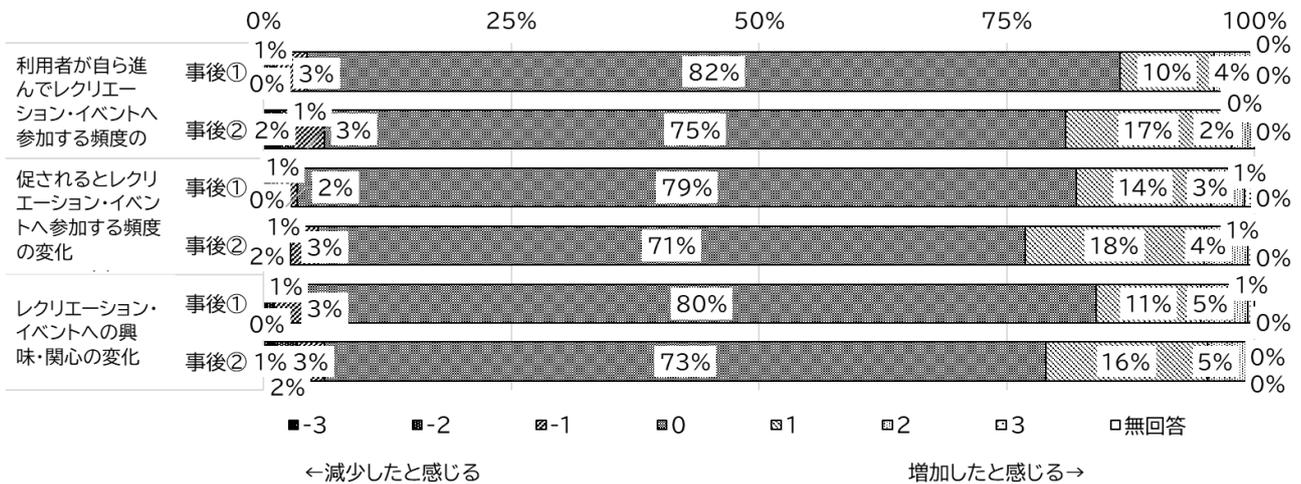
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

## サ. 社会参加の変化

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-152 全体 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

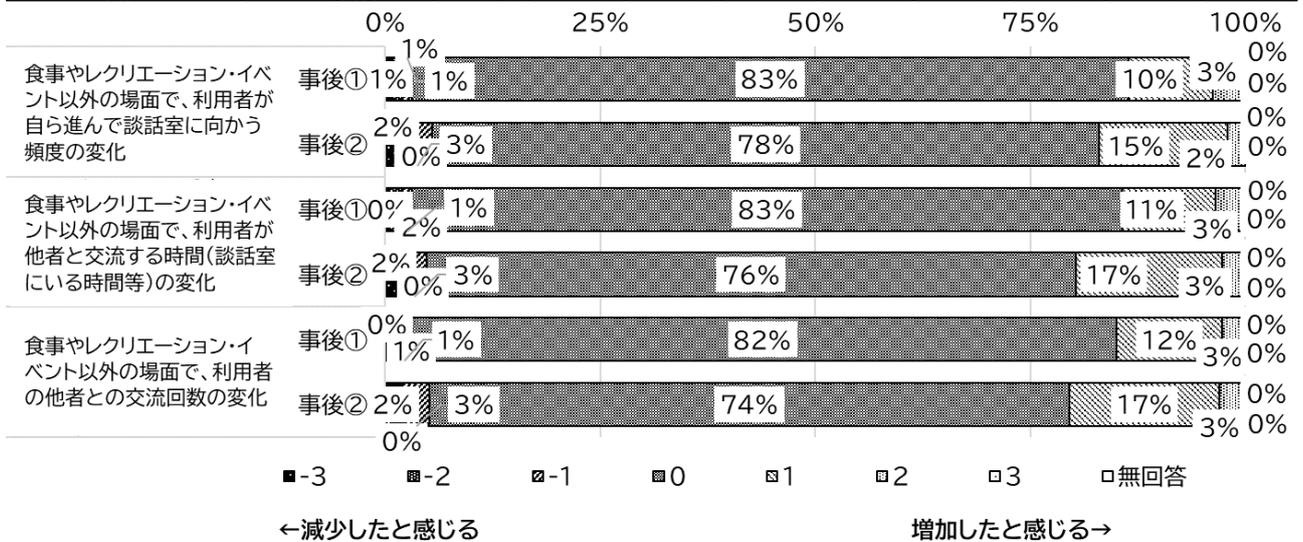
			←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
			-3	-2	-1	0	1	2			3
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	1	2	10	241	28	11	1	0	294
		割合	0%	1%	3%	82%	10%	4%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	5	3	10	220	49	7	0	0	294
		割合	2%	1%	3%	75%	17%	2%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	1	2	7	231	40	10	3	0	294
		割合	0%	1%	2%	79%	14%	3%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	5	3	8	210	53	13	2	0	294
		割合	2%	1%	3%	71%	18%	4%	1%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	1	2	10	234	31	14	2	0	294
		割合	0%	1%	3%	80%	11%	5%	1%	0%	100%
	事後②	人数(人)	4	6	8	214	48	14	0	0	294
		割合	1%	2%	3%	73%	16%	5%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VII-153 全体 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で他の者との交流の変化

			←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人) 割合	2 1%	4 1%	3 1%	245 83%	29 10%	10 3%	1 0%	0 0%	294 100%	
	事後②	人数(人) 割合	5 2%	1 0%	10 3%	228 78%	44 15%	6 2%	0 0%	0 0%	294 100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人) 割合	1 0%	5 2%	3 1%	243 83%	32 11%	10 3%	0 0%	0 0%	294 100%	
	事後②	人数(人) 割合	5 2%	1 0%	8 3%	222 76%	50 17%	8 3%	0 0%	0 0%	294 100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人) 割合	1 0%	4 1%	3 1%	242 82%	36 12%	8 3%	0 0%	0 0%	294 100%	
	事後②	人数(人) 割合	5 2%	1 0%	9 3%	219 74%	51 17%	8 3%	1 0%	0 0%	294 100%	



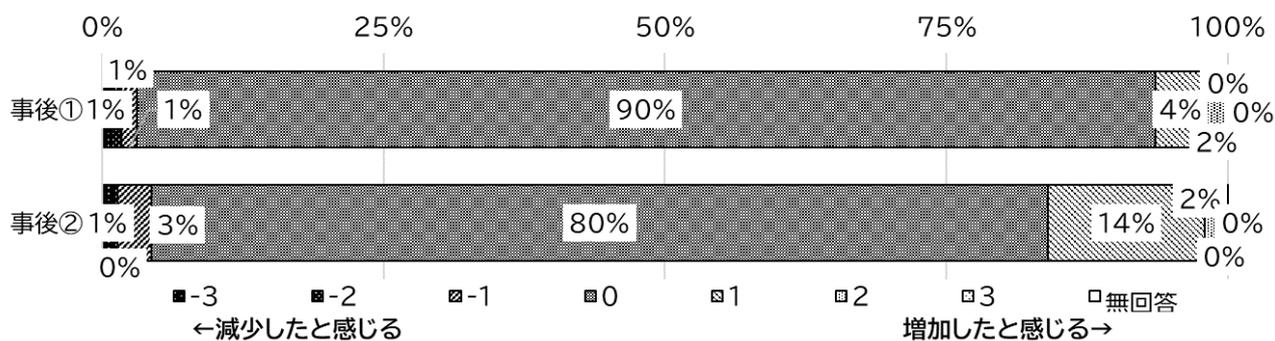
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

## シ. 社会参加の変化の総合的な評価

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-154 全体 社会参加の変化の総合的な評価

		←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
事後①	人数(人)	2	3	4	266	13	6	0	0	294	
	割合	1%	1%	1%	90%	4%	2%	0%	0%	100%	
事後②	人数(人)	3	1	9	234	41	6	0	0	294	
	割合	1%	0%	3%	80%	14%	2%	0%	0%	100%	



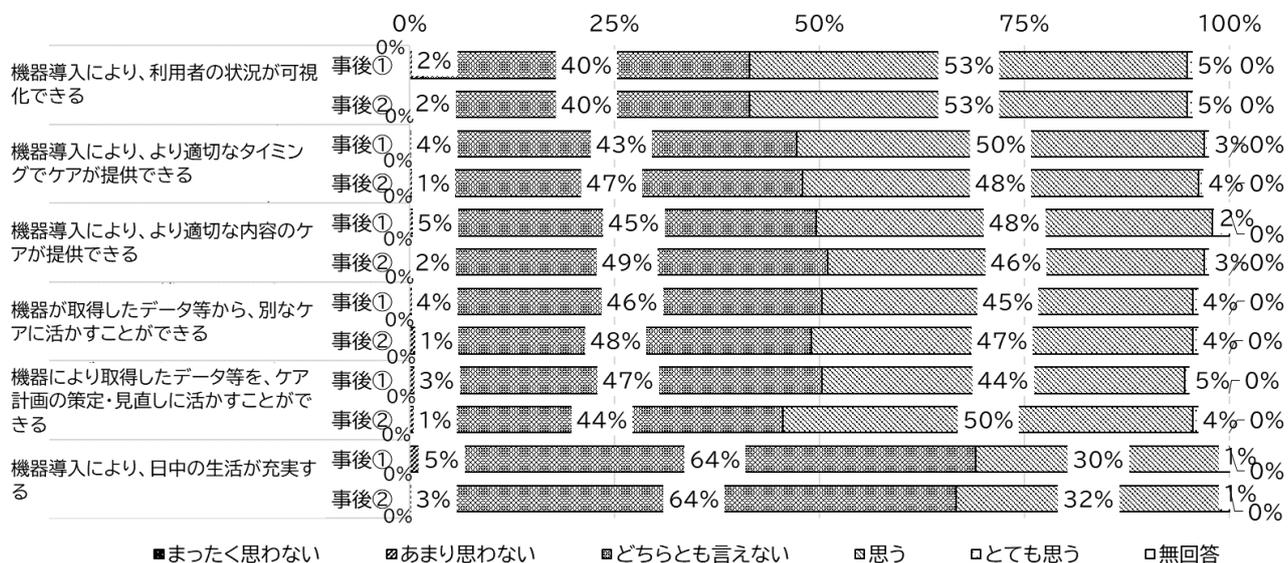
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

## ス. ケアの変更

全体の結果は以下の通り。

図表 VII-155 全体 ケアの変更

			まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化で きる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	5 2%	117 40%	157 53%	15 5%	0 0%	294 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	5 2%	117 40%	157 53%	15 5%	0 0%	294 100%
より適切なタイミングでケ アが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	13 4%	126 43%	146 50%	9 3%	0 0%	294 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	4 1%	137 47%	142 48%	11 4%	0 0%	294 100%
より適切な内容のケアが提 供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	15 5%	131 45%	142 48%	6 2%	0 0%	294 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	6 2%	144 49%	135 46%	9 3%	0 0%	294 100%
機器が取得したデータ等か ら、別なケアに活かすこと ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	12 4%	136 46%	133 45%	13 4%	0 0%	294 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	4 1%	140 48%	137 47%	13 4%	0 0%	294 100%
機器により取得したデータ 等を、ケア計画の策定・見 直しに活かすことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	9 3%	139 47%	130 44%	16 5%	0 0%	294 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	4 1%	130 44%	147 50%	13 4%	0 0%	294 100%
日中の生活が充実する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	16 5%	187 64%	88 30%	3 1%	0 0%	294 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	8 3%	188 64%	95 32%	3 1%	0 0%	294 100%



事前 n=294

事後①n=294

事後②n=294

※質問項目に対し、1(全く思わない)～5(とても思う)の5段階で評価した(回答は職員が実施)。

### (3) 労働時間等調査

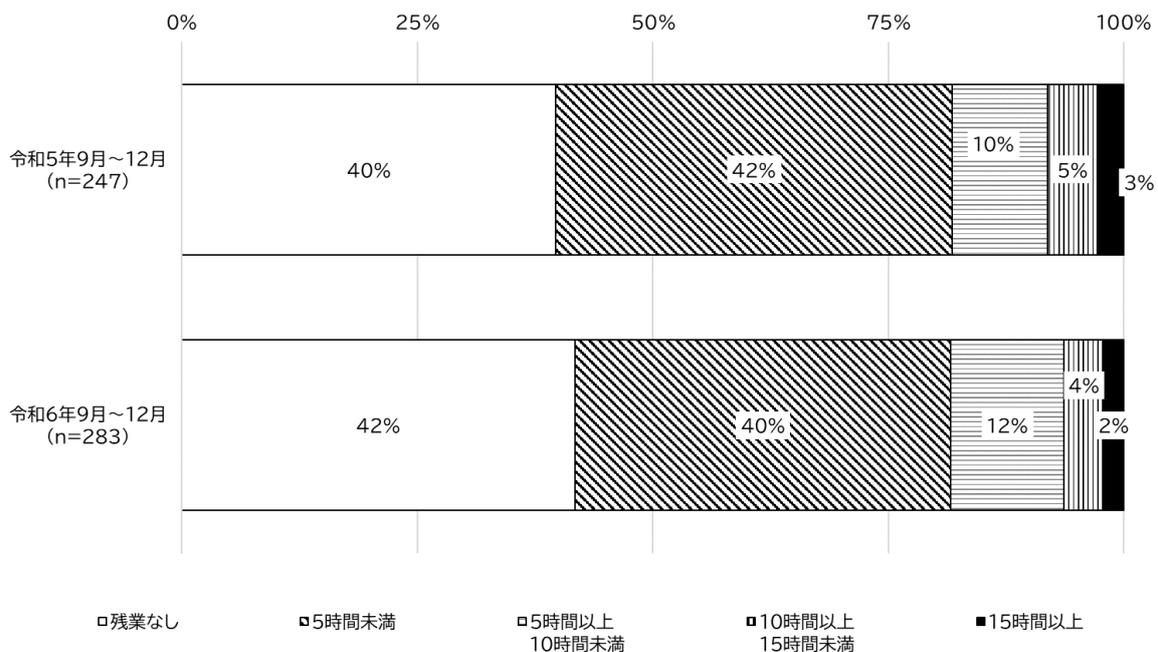
#### ① 全施設

#### ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

本実証調査期間(令和 6 年 9 月～12 月)及び昨年の同期間(令和 5 年 9 月～12 月)中、勤務実績がある職員について、職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間を、総労働時間合計と所定総労働時間の差分から算出し、集計した。集計結果は以下の通り。

図表 VII-156 全施設 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

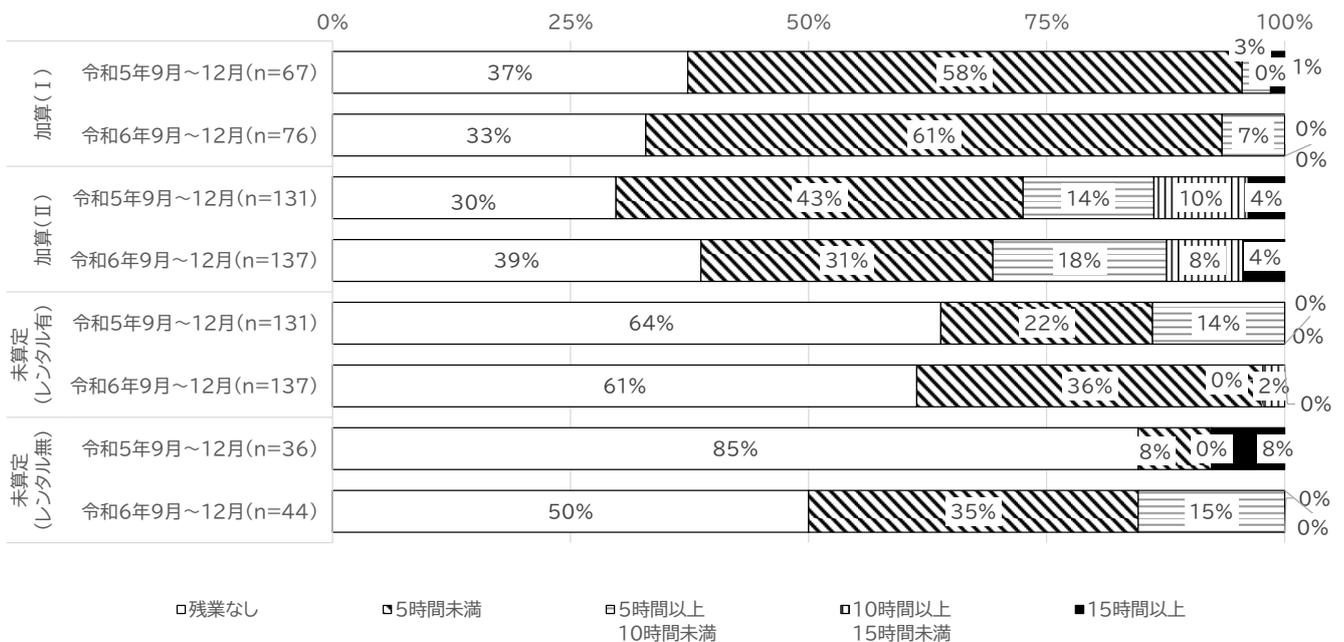
		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
令和5年9月～12月(n=247)	人数(人)	98	104	25	13	7	2.67
	割合	40%	42%	10%	5%	3%	
令和6年9月～12月(n=283)	人数(人)	118	113	34	12	6	2.55
	割合	42%	40%	12%	4%	2%	



4つの集計区分別に、本実証調査期間(令和6年9月~12月)及び昨年の同期間(令和5年9月~12月)中、勤務実績がある職員について、職員1人1か月当たりの所定外労働時間を、総労働時間合計と所定総労働時間の差分から算出し、施設単位で集計した。集計結果は以下の通り。

図表 VII-157 分類別 職員1人1か月当たりの所定外労働時間

		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
加算(I)	令和5年9月~12月(n=67)	人数(人) 25 割合 37%	39 58%	2 3%	0 0%	1 1%	1.40
	令和6年9月~12月(n=76)	人数(人) 25 割合 33%	46 61%	5 7%	0 0%	0 0%	1.20
加算(II)	令和5年9月~12月(n=131)	人数(人) 39 割合 30%	56 43%	18 14%	13 10%	5 4%	3.78
	令和6年9月~12月(n=137)	人数(人) 53 割合 39%	42 31%	25 18%	11 8%	6 4%	4.04
未算定 (レンタル有)	令和5年9月~12月(n=36)	人数(人) 23 割合 64%	8 22%	5 14%	0 0%	0 0%	1.39
	令和6年9月~12月(n=44)	人数(人) 27 割合 61%	16 36%	0 0%	1 2%	0 0%	0.98
未算定 (レンタル無)	令和5年9月~12月(n=13)	人数(人) 11 割合 85%	1 8%	0 0%	0 0%	1 8%	1.57
	令和6年9月~12月(n=26)	人数(人) 13 割合 50%	9 35%	4 15%	0 0%	0 0%	1.33

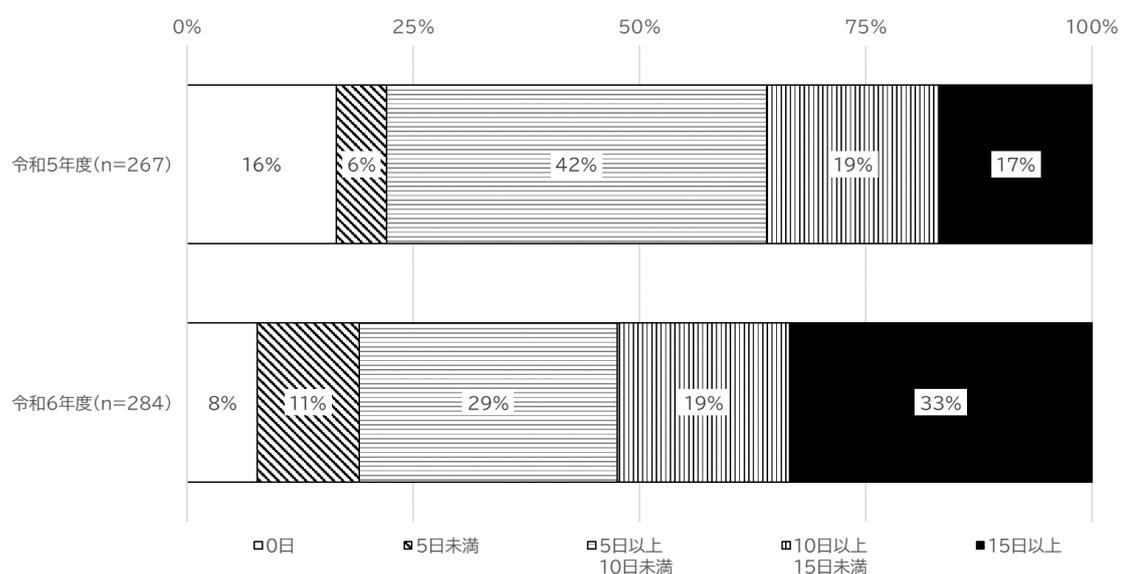


## イ. 職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数

4 つの集計区分別に、令和 6 年度及び令和 5 年度中の、職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数の集計結果は以下の通り。

図表 VII-158 職員 1 人 12 か月当たりの有給休暇取得日数

		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
令和5年度(n=267)	人数(人)	44	15	112	51	45	8.33
	割合	16%	6%	42%	19%	17%	
令和6年度(n=284)	人数(人)	22	32	81	54	95	15.21
	割合	8%	11%	29%	19%	33%	

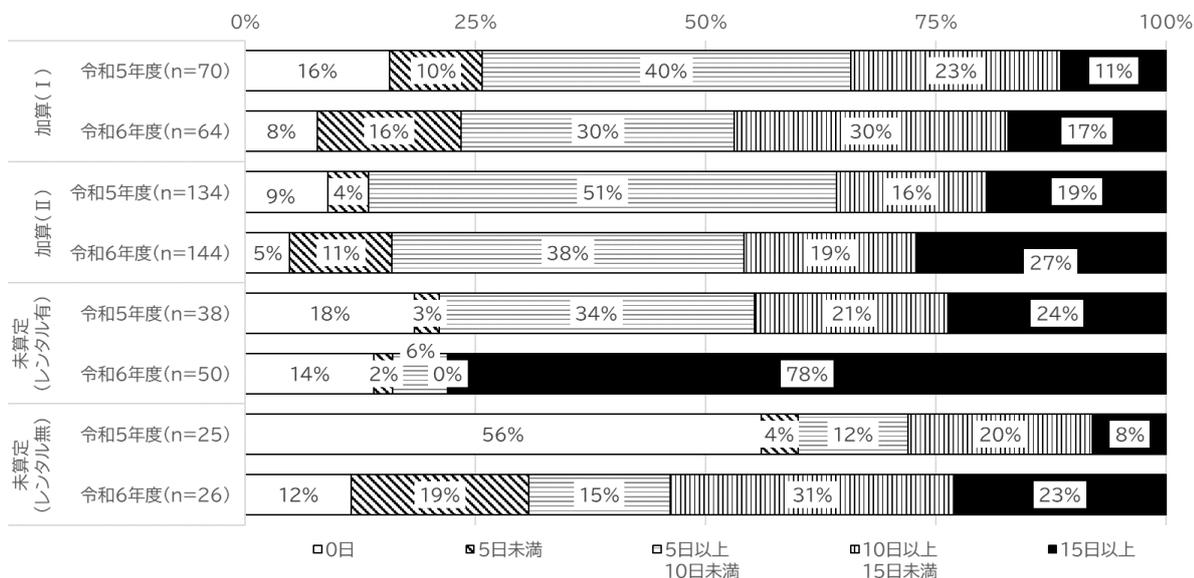


※令和 6 年度の有給休暇取得日数については、有給休暇取得実績月で除し、12 を乗じて算出した。

4つの集計区分別に、令和6年度及び令和5年度中の、職員1人12か月当たりの有給休暇取得日数の差施設単位で集計した。集計結果は以下の通り。

図表 VII-159 分類別 職員1人12か月当たりの有給休暇取得日数

			0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
加算(I)	令和5年度(n=70)	人数(人) 割合	11 16%	7 10%	28 40%	16 23%	8 11%	7.87
	令和6年度(n=64)	人数(人) 割合	5 8%	10 16%	19 30%	19 30%	11 17%	9.65
加算(II)	令和5年度(n=134)	人数(人) 割合	12 9%	6 4%	68 51%	22 16%	26 19%	8.99
	令和6年度(n=144)	人数(人) 割合	7 5%	16 11%	55 38%	27 19%	39 27%	12.49
未算定 (レンタル有)	令和5年度(n=38)	人数(人) 割合	7 18%	1 3%	13 34%	8 21%	9 24%	9.11
	令和6年度(n=50)	人数(人) 割合	7 14%	1 2%	3 6%	0 0%	39 78%	32.46
未算定 (レンタル無)	令和5年度(n=25)	人数(人) 割合	14 56%	1 4%	3 12%	5 20%	2 8%	4.84
	令和6年度(n=26)	人数(人) 割合	3 12%	5 19%	4 15%	8 31%	6 23%	10.83



※令和6年度の有給休暇取得日数については、有給休暇取得実績月で除し、12を乗じて算出した。

## ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

本実証期間(令和6年9月～12月)中の「ヒヤリハット」及び「事故」の発生状況について調査を実施した。各具体的な内容及び再発防止策の主な回答結果は以下の通り。

図表 VII-160 分類別 実証期間中のヒヤリハット・事故の具体的な内容及び再発防止策の主な回答

集計区分	分類	具体的な内容	再発防止策
加算(I) 算定	ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センサー反応があり、すぐ訪室すると、柵に両手で掴まり足を降ろして端坐位になった状態であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センサーは常に見守り中にしておく。体動が多く、自宅でも家族が見ていないところでベッドから立ち上がろうとすることもあるぐらいであるが、コール頻回の際にも、毎回画像や訪室にてご本人のご様子を確認する。転倒・転落の可能性を考慮し、夜間の見守り体制を強化する。(センサー対応優先度の見直し)</li> </ul>
	ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り機器にセンサー反応があり、訪室するとタンスの上にある尿取りパッドをベッド上から取ろうと身を乗り出していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室内と車椅子に載せてあったパッド類を撤去する。</li> <li>・センサー反応時は速やかに対応する(タイムラグあり)。</li> </ul>
加算(II) 算定	ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の定時オムツ交換前に、見守りカメラで居室の様子を確認した際、利用者が床に膝をついている姿を発見した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒・転落の可能性を考慮し、夜間の見守り体制を強化する。(センサー対応優先度の見直し)</li> <li>・ベッド周囲の環境(手すりの位置、ナースコールの使用状況など)を再確認する。</li> <li>・利用者の夜間の行動パターンを把握し、必要に応じてケアプラン(排泄の誘導時間等)を見直す。</li> </ul>
	ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間、赤外線見守りセンサーが動作を検知したため、タブレットで居室の様子を確認した。しかし、タブレットの映像では利用者の姿がよく確認できなかったため、速やかに訪室を行った。訪室すると、利用者が床に尻もちをつき、少し離れた場所に座っているのを発見した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りセンサーの検知範囲や設置位置の見直し、障害となるものを移動させ死角を減らす。</li> <li>・利用者の行動パターンをデータより把握し、必要に応じて転倒予防策を強化する。</li> <li>・環境整備(ベッド柵の位置調整、転倒リスクのある物の撤去)を再確認する。</li> </ul>
	ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間、物音がして訪室すると、床に座り込んでいた。特に外傷などなし。血圧が高いため、主治医に連絡し様子を見ることになる。ふらつき等があるため、車椅子でトイレまで行き排尿する。その後、ベッドで休まれる。1時間後、血圧も下がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センサーを居室ドアの近くに設置していたため、ベッド下に設置することにする。</li> </ul>
	ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PHS 画面表示が作動せず、ボタンを押しても作動しなかった。充電してもランプもつかず作動しなかった。ナースコールの対応ができないと思いヒヤツとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用できる時とできない時がある。フロアーに2台あるため、使用できる方を使用していく。使用方法についてはマニュアルに沿って使用していく。日頃より点検を行い、使用できない場合</li> </ul>

集計区分	分類	具体的な内容	再発防止策
			はすぐに修繕、再購入を行う。
	ヒヤリハット	・夜勤時間に不穏な利用者様を車椅子でお連れして、他の利用者様の体位交換を行っている時、座コールがなり利用者様が立ち車椅子から転落してしまう。	・他の利用者様のケアに行くときは、居室で過ごしてもらうようにする。居室で覚醒時は見守り機器のカメラ機能で確認しながら、目の前の方のケアを行う。優先順位を考え、転倒等の危険性があれば駆けつける。
	ヒヤリハット	・見守り機器を確認すると、ベッドにいないことが判明。居室に行くと、L字バーとベッド柵の間に座っている利用者様を発見する。	・見守り機器は時間差がある為、転倒の危険性が高い場合は、早めに対応できるよう足もとにセンサーマットを併用する。見守り機器の通知を、起き上がりに変更する。
	ヒヤリハット	・コロナ対応で居室で過ごしていただいていた。居室で、自己にて車椅子で動いていたが、上手く操作ができず転落してしまった。	・コロナ対応時は、日中も見守り機器のカメラ機能で居室時の様子を確認していく。離床時にも見える位置にカメラをずらす。
	ヒヤリハット	・インカムマイクのボタンのスイッチが壊れる。インカムを使用しても応答がない。	・取扱いに注意する。インカムのコードは利用者様により(引っ張る、離さない、つかんでしまう方)、外してからケアに入る。インカムのコードを後ろから通す、制服の中に通すなど利用者様が触れないようにする。
未算定	ヒヤリハット	・インカムの相互不受診における応援要請などの連携不足があった(職員が耳が痛いと言ったとイヤホンを外していた)。	・職員にイヤホンをつけるよう指導周知をする。
	ヒヤリハット	・センサーの発報があったが、他の入居者対応のために行けなかった。	・カメラを設置し、居室訪問する優先順位をつけられるようにした。

#### (4) ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下の通り。

##### ア. 生産性向上の取組内容と効果

本実証による生産性向上に向けた取組とその効果を以下に整理した。

図表 VII-161 生産性向上の取組内容と効果

集計区分	主な意見
加算(Ⅰ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>見守り機器を全床導入し、センサーやカメラで利用者の様子を把握することで、定期巡視をなくした。訪室回数が削減され、利用者の睡眠の質向上に繋がった。</u></li> <li>・ <u>カメラタイプの見守り機器により、モニター越しに利用者に様子が確認でき、定期巡視の回数は減少した。また介護記録ソフトと見守り機器が連動し、記録に係る時間が短縮された。</u></li> <li>・ <u>見守り機器の設定を個別化した。利用者状況によってセンサー設定を変更し、音を個別に異なる設定にすることで、職員の負担が減少した。また夜勤でデータを基に利用者の変化に気づきやすくなった。</u></li> <li>・ <u>見守り機器で取得したデータを家族説明の際に活用した。</u></li> <li>・ <u>見守り機器のライブ機能の活用により、複数からケアコールが鳴ったときに対応の優先度の順位付けが可能となり、業務の効率化やサービスの質の向上につながった。なお、当施設では見守り機器導入により定時の巡視をせず、必要に応じた訪室としている。取組当初は職員間でも不安があったが、今では多くの職員が実践できており、業務効率化につながられている。</u></li> <li>・ <u>ICT 機器のチャット機能を活用することにより、急な連絡についても施設内に情報共有ができ、迅速に対応ができるようになった。</u></li> <li>・ <u>間接業務における環境整備の内容をコロナ禍の内容から見直し、業務効率化につながった。</u></li> </ul>
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>見守り機器をレンタルし、訪室しなくても済むようになった。利用者の状態を科学的な面で確認できることは職員にとっても安心材料となり、職員の心理的負担の軽減に繋がった。</u></li> <li>・ <u>音声入力型の記録ソフトを導入し、事後②調査では職員も慣れてきて、記録時間が削減された。</u></li> <li>・ <u>その分余裕時間ができた。利用者とのコミュニケーションが増えた。</u></li> <li>・ <u>夜間の定期巡視回数は一晩 5-7 回であったが、見守り機器の導入により 0-1 回に減少。取得した脈拍・呼吸数のデータにて異常が見られた利用者について医師に報告することで、治療に繋がった。</u></li> <li>・ <u>見守り機器のセンサーを個別調整したことにより、夜間の定時巡視に加えて実施していたセンサー反応時の訪室が適正化されて減少した。</u></li> <li>・ <u>各職種の業務内容や時間帯ごとの余裕を見える化し、介護助手に実施していただく業務を切り分け、介護時間が増えた。</u></li> <li>・ <u>見守り機器を全床導入し、夜勤時間帯の職員の精神的負担軽減を図れた。訪室をしなくても利用者の状況を把握できるため、移動の時間の効率化に繋がった。</u></li> <li>・ <u>介護記録ソフトの活用によりペーパーレス化に繋がった。</u></li> <li>・ <u>見守り機器を全床導入し、インカムとタブレットをほぼ全職員分導入した。訪室回数の減少や職員の動線の効率化等が実現し、職員の業務負担が減った。</u></li> <li>・ <u>職種の現状の業務を公開し、互いを知る機会を設けた。介護助手に業務を委任することで、利用者との触れ合いが増えた。</u></li> </ul>

集計区分	主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守り機器について、アラーム通知に係るルールが無かったところ、必要のない方は通知の設定を変更、呼吸状況が悪くなった場合等のルールを見直した。また、1 週間程度毎に再度ルールの見直しをし、対象利用者に合った使用可について随時見直している。</li> <li>・ 利用者の状態に合わせ、定時巡視をする利用者と、原則見守り機器のみでの見守りとする利用者に分けるよう見直した。</li> <li>・ <u>見守り機器から得られる利用者の睡眠のデータについて、医師や家族への説明に活用している。</u></li> <li>・ インカムを一部レンタルして使用したが、既存のインカムの接続は出来ないため、フロアや職員で分けて使用するように工夫した。連絡の方法について整理。うまく使えないこともあったが、今までは施設内の電話で連絡を取るために走ることがあったが、インカムにより電話の使用頻度は減った。</li> <li>・ 機器により利用者の睡眠の状態に合わせて、訪室のタイミングを事前に把握ができた。</li> <li>・ スマートフォンとタブレットを全ユニットに配備した。通院時や救急搬送時においても、外出先から介護記録ソフトを活用することで、利用者の情報の確認・記録業務を行うことができた。</li> <li>・ インカムを使用する職員を増やすことを目標とし、生産性向上委員会において議論を行っている。毎月使用に関するルールを定め、実施状況を踏まえて、翌月にルールの見直し・新たなルールの追加を行っている。取組当初と実証終了の現在を比較すると、使用頻度は 10 倍以上に増加している。</li> </ul>
未算定(レンタル有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守り機器をレンタルし、夜間に見守りのために行っていたこまめな訪室が最低限に減少した。</li> <li>・ 見守り機器の導入により、利用者のバイタルの確認が効率化できた。</li> <li>・ 適切な役割分担により、高齢の職員にも施設の仕事に従事していただくことで負担軽減・ケアの質の向上につながった。</li> </ul>
未算定(レンタル無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>各職員の業務内容が見える化し、互いの状況を把握したうえで、業務改善に関する意見交換をする。職員同士が相談しやすくなった。</u></li> <li>・ インカムの導入により、職員間で効率的に応援を呼ぶことができるようになった。</li> <li>・ 見守り機器導入により利用者の様子が確認でき、事故数が減少。また事故が発生した際も映像で振り返りができ、対処にかかる時間の削減になった。</li> </ul>

## イ. 生産性向上の検討の場の体制・内容

施設内で生産性向上を検討する場の参加者や主な議題等を以下に整理した。

図表 VII-162 生産性向上の検討の場の頻度・体制・内容

集計区分	主な意見
加算(Ⅰ)算定	・ 生産性向上推進委員会を年間に2回開催。各課長等が参加し、機器導入や活用方法の検討、勉強会の企画を実施。
	・ 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に関する会議を1か月に1回開催。各部署の代表者が参加。また、別途整理整頓について週1回の会議も開催。
	・ 2か月に1回、主任・管理者クラスが参加する委員会を開催。利用者状況に応じて業務分担調整などを話し合う。
	・ 月に1回生産性向上推進委員会を開催している。施設内の職員が参加し、施設独自の効果検証の調査の実施や検証について議論を行った。
加算(Ⅱ)算定	・ 生産性向上推進委員会を1-3か月に1回開催。機器の導入や使用方法について検討。
	・ 生産性向上推進委員会を1か月に1回開催。施設長、専門職、フロアリーダーが参加し、機器の使い方、メンテナンス、職員向けの研修会等について協議。
	・ 生産性向上に関する会議を2つ開催。1つ目は、業務フローの作成等を検討し、2つ目は介護機器の導入・使い方を検討する。どちらも事務職、専門職等の一般職と管理職が参加し、1か月に1回開催。
	・ 職員アンケートを実施し、伺った要望に応じて適宜対応を検討・実施する委員会を開催。今年度は2回実施しており、管理者、主任等が参加している。
	・ 2か月に1回生産性向上推進委員会を開催している。施設内の介護、看護、ケアマネージャー、リハビリ担当職員が参加しており、機器の使用や選定、技術の習得等について議論を行った。
	・ 月に1回、ほぼ全職種のリーダーで開催。導入した機器の使用状況・課題の洗い出しマニュアルの適正化に向けた協議をしている。また年に1回、勉強会後に職員の習熟度調査をフォームアンケートで実施し、その結果についても話し合う。
	・ 生産性向上委員会を月1回開催し、機器の導入や活用について議論している。取組の継続のためには現場職員の意見が重要であり、積極的に意見を伺う機会を設けている。その一環として、施設内に意見箱を設置した。また、生産性向上委員会の委員長が業務の合間に各ユニットの職員の意見を聴取している。
	・ 3か月に1回、生産性向上委員会を開催している。まずは「生産性向上」という言葉自体や趣旨について周知を行った。また、法人全体で、施設長・リーダーのリーダー会議を実施している。それらの中で、日中帯の勤務している職員が遅くまで残っていることもあったが、時間を短縮化し、勤務シフトを利用者の活動する昼間に多く配置するように見直した。
未算定(レンタル有)	・ 月1回、リーダー会議にて、来年度に向けてICTの活用・役割分担等について確認や話し合いを実施し、内容を適宜ユニット会議で各専門職へ共有。
	・ 令和6年度から生産性向上推進委員会を立ち上げ、奇数月に開催している。ノリフトの取組・ICTの活用・実証調査についての共有等を行った。
未算定(レンタル無)	・ 生産性向上推進委員会を1か月に1回開催。課長等の管理職が参加。本実証の取組内容、機器の不具合の確認、業務改善に関することを協議。
	・ 3か月に1回を基本に、機械の安全な使い方や現状確認を行う委員会を開催。施設長、相談員、看護師、外部職員等が参加する。

ウ. 生産性向上に資する複数の取組を含む事例を以下に整理した。

図表 VII-163 複数の取組を含む事例

集計区分	主な意見
加算(Ⅰ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器による検知がスマートフォンとインカムに届く。特に、同時期に通知があった際に、優先順位をつけて対応できるように、マニュアル作成・職員への周知を実施することで、判断に係る労力が軽減され、職員の負担も減った。</li> <li>介護記録ソフトと見守り機器が連動し、記録に係る時間が短縮された。</li> </ul>
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器にて取得したバイタルデータ等を介護記録ソフトに取り込み、利用者の睡眠状態の把握と、それを踏まえた日中の過ごし方の設計を実施。機器の導入によりケアの質も向上し、職員のモチベーションも向上したと考えられる。</li> <li>音声入力型の記録ソフトの機能をインカムとして活用。</li> <li>介護記録ソフトにバイタルが自動記録され、その記録時間について業者と相談して調整いただいた。</li> <li>見守り機器と記録ソフトの連動により夜間の睡眠データの記録が自動化され、職員の記録負担が減った。</li> <li>役割分担の観点で夜勤専従のアルバイト職員を雇用。見守り機器で得られるデータから利用者の状態の把握を行うようにしている。</li> </ul>

エ. 生産性向上のための取組における課題

本実証における生産性向上のための取組の中で課題に感じた事項を以下に整理した。

図表 VII-164 生産性向上のための取組における課題

集計区分	主な意見
加算(Ⅰ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声による介護記録を導入しているが、音声が多く認識されず、修正に時間や手間がかかり、職員によってはストレスを感じている。</li> <li>機器を積極的に活用しない職員もいるため、メリットを提示し、利用促進したい。</li> <li>インカムの活用が使用アプリを変更してから上手くいかない。費用対効果を考慮しつつ、施設にあったアプリ等を検討する必要がある。</li> <li>機器の導入だけでは生産性向上に直結しないため、機器の使用目的や使用方法の共有が重要と実感した。特に新しい職員に関して、使用例や効果を共有する必要がある。</li> <li>新たな機器を導入することも良いことではあるが、既存の機器について、より施設にあった機種を選定や、有効活用の方法を模索することがより重要であると考えられる。</li> <li>新たな取組を行うためには、一定程度の時間とお金の投資が必要となる。</li> </ul>
加算(Ⅱ)算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器の誤作動が多数あった。メーカーにも相談し、設置場所等を改良する。</li> <li>新しいツールの導入によって負担に感じる職員が増えたと考察する。機器に慣れることに追われてしまい、直接介護に掛ける時間を増やすことができなかったこともある。</li> <li>機器を導入した際、職員によっては使いこなすまでに時間がかかってしまった。</li> <li>見守り機器、インカム導入の際、職員に目標やルール等を十分に伝えておらず、職員が機器を使いこなすまでに時間がかかってしまった。</li> <li>介護助手・ボランティアを地域の方々から募っているため、開かれた施設にして地域</li> </ul>

集計区分	主な意見
	<p>内への浸透させる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守り機器への信用度が職員によって異なり、夜間の定時巡視をせずにセンサーの反応に応じて訪室するというオペレーション変更を実施しない職員が半分以上であった。</li> <li>・ 見守り機器の現状の性能では対応できない事項もあるため、メーカーと相談している。</li> <li>・ インカムについては、使用に違和感があり、近隣の工事現場の回線と混線することがあった。施設に合った機種の設定が課題である。</li> <li>・ 感染症の対応や退職する職員もあり、実証期間中の効果が見えにくかった。</li> <li>・ 機器の使用について徹底できていない職員もいた。機器に対するモチベーションが職員間で異なるため、施設内全体での実施が課題である。</li> <li>・ 機器の導入を行ったが、今後オペレーションを最適化するために各種マニュアルやルールを作成し、職員に慣れていただく必要がある。</li> <li>・ 介護記録ソフトの使用についてマニュアルを作成することを目指していたが、実証期間中に対応することができなかつたため、今後の課題としたい。</li> <li>・ 適切な役割分担について、介護助手の方への配置等の見直しについて試行中のため引き続き取り組みを進めたい。</li> <li>・ 新たな取組を試行しているが、職員自身の意思にも沿えているかが課題である。</li> </ul>
未算定(レンタル有)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実証の窓口が施設長だったため、職員への意識の共有が難しかった。機器の導入など生産性向上の取り組みを実施する担当者を職員内で決め、旗振り役となってもらうべきであった。</li> <li>・ 見守り機器をレンタルしたが、既存のナースコールとの連動ができず課題であった。導入出来たこと自体は良いが、費用面で課題が残る。</li> <li>・ 介護記録ソフトへの入力項目と、既存の施設内で使用している項目と齟齬があるため、統一が課題である。</li> <li>・ 介護助手として雇用した職員が介護の資格を持っている場合、業務内容の分担には検討が必要である。</li> </ul>
未算定(レンタル無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一度に多数機器を導入し、不具合時の対応等を予め決めていなかったため、インカムの不具合が多発した際の対応に手間取ってしまった。不具合時の対応もほぼ確立している。</li> <li>・ 見守り機器に録画機能がなく、分析には使用できていない。カメラ機能を導入し、委員会にて転倒対策等を実施したい。</li> </ul>

## オ. 生産性向上の取組による経営面への効果

本実証を通じた生産性向上のための取組の中で経営面の効果を以下に整理した。

図表 VII-165 生産性向上の取組による経営面への効果

集計区分	主な意見
加算(Ⅰ)算定	・ 様々な機器を活用していることは特に若年層にも魅力であり、採用にも効果がある。
	・ 採用の場面で、使用している機器やシステムを示すことが好印象に繋がったケースもある。
	・ シフトの種類を増やし、職員の働きやすさの向上につながった。
	・ 生産性向上の委員会に関わる職員が多いため、職員間のコミュニケーションが増加した。
加算(Ⅱ)算定	・ 音声による記録によって、記録にかかる時間が減り、記録のために残業することが減少した。
	・ 職員の業務の実情や本心を把握するきっかけになった。
	・ 機器の使用等の生産性向上の取組について SNS や HP で広報している。こちらを見た利用者の入所や職員の入職に繋がったこともある。
	・ 見守り機器の導入にあたり、地元メディアに取り上げていただいた。学生等のリクルートのアピールになると考えている。

## カ. 生産性向上推進体制加算への意見

生産性向上推進体制加算への意見を以下に整理した。

図表 VII-166 生産性向上推進体制加算への意見

集計区分	主な意見
加算(Ⅰ)算定	・ 加算のための調査は労力がかかる。職員や利用者のために機器導入やオペレーション変更はすべきであり、その結果として加算算定されると好ましい。
	・ 今後も継続していく意向である。算定の準備には労力がかかったが、過年度調査に参加した経験を活かすことができた。
加算(Ⅱ)算定	・ 算定のための調査、特にタイムスタディ調査は職員にとっても負担である。
	・ 算定に必要なデータをスマートフォンアプリにて計測し、管理している。職員も使いこなしている。
	・ 加算(Ⅰ)算定を目指しており、本実証による見守り機器導入の効果を基に検討する。
	・ タイムスタディの記録がアプリ等で簡単にできると良い。
	・ タイムスタディや訪室の記録を付けるのが負担である。
	・ 現在、生産性向上推進体制加算(Ⅱ)を算定しているが、加算(Ⅰ)の算定に向けて引き続き取り組んでいきたい。タイムスタディ調査に前向きに取り組んでいる職員も多いため、調査ツールの活用も検討したい。
未算定(レンタル有)	・ 加算に向けた準備はコストパフォーマンスが悪いと感じる。以前取得した加算も赤字のため算定を止めた。
	・ 加算(Ⅰ)の取得はまだ難しいが、法人として加算(Ⅱ)の取得を検討している。ただし、データの提出・資料提出で不備があると返還に繋がることが懸念である。
未算定(レンタル無)	・ 加算の取得を目指す、見守り機器の全床導入、通信環境の整備等が必要である。また、導入する機器は厳選し、職員が確実に使いこなすよう目指す。

## VIII. 実証結果:夜間見守り

### 1. 実証概要

#### (1) 実証目的

夜間の人員配置の変更も視野に入れ、見守り機器を全床導入することにより、ケアの質の確保及び、職員の負担軽減が可能かを実証することを目的とした。施設サービス別の調査方針を示す。

図表 VIII-1 施設サービス別調査方針

サービス	方策	論点
介護老人福祉施設	ユニット型で全床見守り機器を導入した場合の人員配置基準緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度介護報酬改定では従来型8施設で実証し、職員1人あたり対応可能な利用者数が134%になった結果で2人→1.6人とした。</li> <li>令和5年度実証では、ユニット型特養3施設で実証実施。さらに5施設以上追加することで、人員配置基準緩和検討に資するエビデンスを取得する。</li> </ul>
介護老人保健施設	夜勤職員配置加算の要件緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護老人保健施設の夜勤職員配置加算の算定率は87.5%であり、要件緩和による影響が大きいと想定。</li> <li>令和5年度実証に引き続き、効果把握とエビデンスの取得を目指す。</li> </ul>
認知症対応型共同施設介護	全床見守り機器を導入した場合の人員配置基準緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度改定時の審議報告における以下記載を踏まえ、人員配置基準緩和検討に資するエビデンスを取得する。 「認知症対応型共同生活介護の例外的な夜勤職員体制の取扱いについて、介護人材の有効活用の観点から、見守り機器等のICTの活用を含む有効なオペレーション等の実態を踏まえて、どのような対応を図ることが適当なのかを検討していくべきである。」</li> </ul>

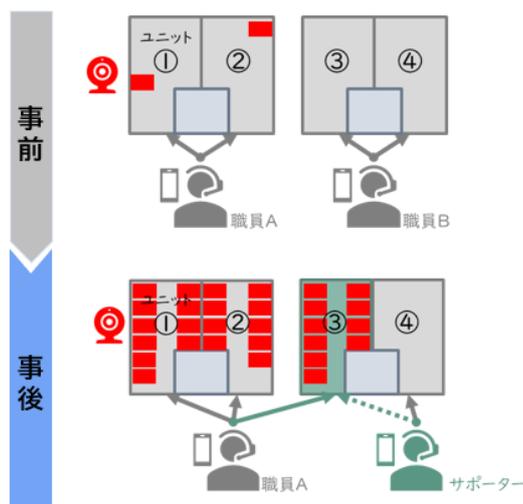
## ア. 介護老人福祉施設

介護老人福祉施設において、図表 VIII-2 の通り、人員配置基準緩和検討に資するデータ取得を目的とし、調査を実施した。

図表 VIII-2 介護老人福祉施設の調査概要

実証目的	人員配置基準緩和検討に資するデータを取得
仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を全床に導入し、職員1名あたりが対応する利用者数が増加しても、職員の負担は変化しない(あるいは減少する)。</li> <li>見守り機器を全床に導入し、利用者あたりの職員数が減少しても、利用者が受ける介護の質は変化しない。</li> <li>(特養の従来型では上記の傾向あり、ユニット型でも同様であるという仮説に基づく)</li> </ul>
対象施設	5 施設 (サポーター有り:3 施設、サポーター無し:2 施設)
評価項目	<b>■職員</b> 職員の直接介護と巡回・移動の合計時間 職員 1 人あたりに対応可能な利用者数 職員の心理的負担 職員のモチベーション 職員の業務の質 <b>■利用者</b> 利用者の ADL/認知機能 利用者の意欲
アウトプット	職員 1 人あたりの対応可能な利用者数割合の事前と事後②での増加率

図表 VIII-3 介護老人福祉施設の調査イメージ



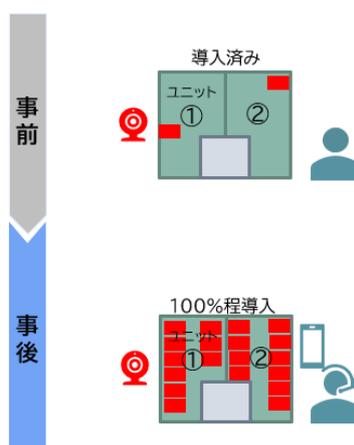
## イ. 介護老人保健施設

介護老人保健施設において、図表 VIII-4 の通り、人員配置基準緩和検討に資するデータ取得を目的とし、調査を実施した。

図表 VIII-4 介護老人保健施設の調査概要

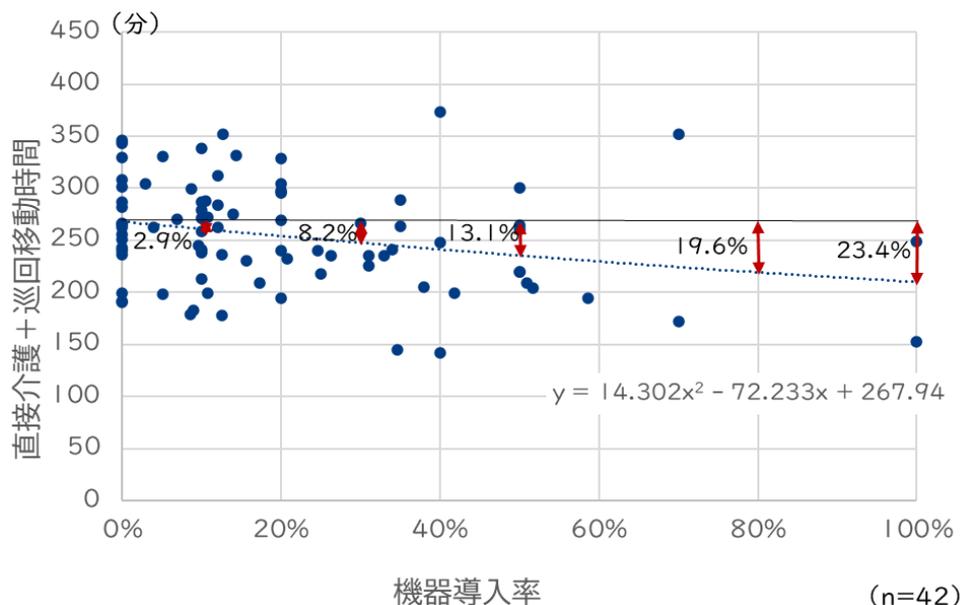
実証目的	加算(夜勤職員配置加算等)対象となる夜間職員配置緩和検討に資するエビデンスを取得(100%導入時)する。そのために、過年度実証結果の精度を高めるため、9施設(n=11)において全床導入(または機器導入率100%の追加導入)での調査を実施する。
仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器の導入率が増加すると、職員の負担、及び直接介護時間・巡回移動時間は減少する。(介護の質も変化しない)</li> <li>(特養では上記の傾向あり、老健でも同様であるという仮説に基づく)</li> </ul>
対象施設	9施設
評価項目	<p>■職員</p> <p>職員の直接介護と巡回・移動の合計時間 職員1人当たりに対応可能な利用者数 職員の心理的負担 職員のモチベーション 職員の業務の質</p> <p>■利用者</p> <p>利用者のADL/認知機能 利用者の意欲</p>
アウトプット	「機器導入率」と「直接介護時間・巡回移動時間」のプロット図における100%導入時の上記時間減少率

図表 VIII-5 介護老人保健施設の調査イメージ



介護老人保健施設(加算)過年度実証結果として、見守り機器を100%導入した場合、見守り機器を導入していない場合と比較して、「直接介護」+「巡回移動時間」合計時間は、23.4%減少した。一方、機器導入率が60%以上の場合の「直接介護」+「巡回移動時間」合計時間のデータが少ないことがわかっている。過年度実証結果の精度を高めるため、9施設(n=11)において全床導入(または機器導入率100%の追加導入)での調査を実施する。

図表 VIII-6 介護老人保健施設(加算)過年度実証結果



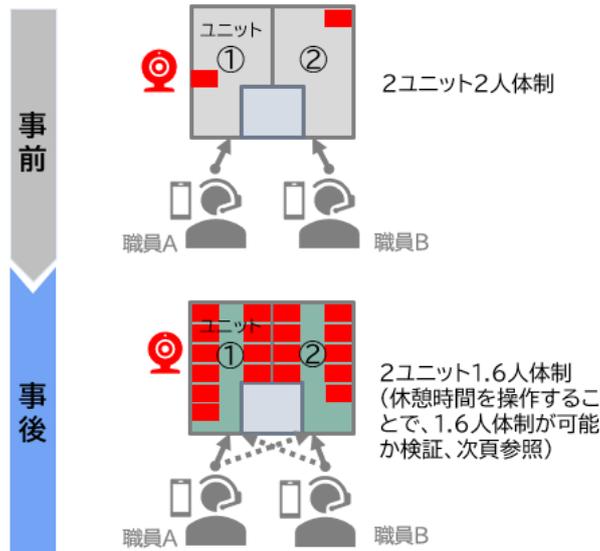
## ウ. 認知症対応型共同施設介護

認知症対応型共同施設介護において、図表 VIII-7 の通り、人員配置基準緩和を達成するデータ取得を目的とし、調査を実施した。

図表 VIII-7 認知症対応型共同施設介護の調査概要

実証目的	人員配置基準緩和(現行の基準に0.8掛(-1ユニット1人以上、2ユニット1.6人以上、3ユニット2.4人以上、等)検討に資するデータを取得
仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を(全床に)導入し、利用者あたりの職員数が減少しても、利用者が受ける介護の質は変化しない。</li> <li>見守り機器を(全床に)導入し、職員1名あたりが対応する利用者数が増加しても、職員の負担は変化しない(あるいは減少する)する。</li> </ul>
対象施設	7施設
評価項目	<p>■職員</p> <p>職員の直接介護と巡回・移動の合計時間 職員1人当たりに対応可能な利用者数 職員の心理的負担 職員のモチベーション/業務の質</p> <p>■利用者</p> <p>利用者のADL/認知機能/意欲</p>
アウトプット	職員1人あたりの対応可能な利用者数割合の事前と事後②での増加率

図表 VIII-8 認知症対応型共同施設介護の調査イメージ



図表 VIII-9 に示す通り、認知症対応型共同施設介護では「夜間帯(22 時～8 時)で 2 ユニット 1.6 人を達成する」タイムシフトを導入して、実証を行うこととした。実証では「休」の時間で、真に「休む」のではなく、必要であれば対応をするサポーター役を担うこととした。夜間帯の時間(22 時～8 時)は実証施設のシフトにあわせて、変更する。

図表 VIII-9 認知症対応型共同施設介護の調査で用いるタイムシフトイメージ



(※)図中の数字は時間を示し、「1」は1時間、「0.5」は30分の意味である。

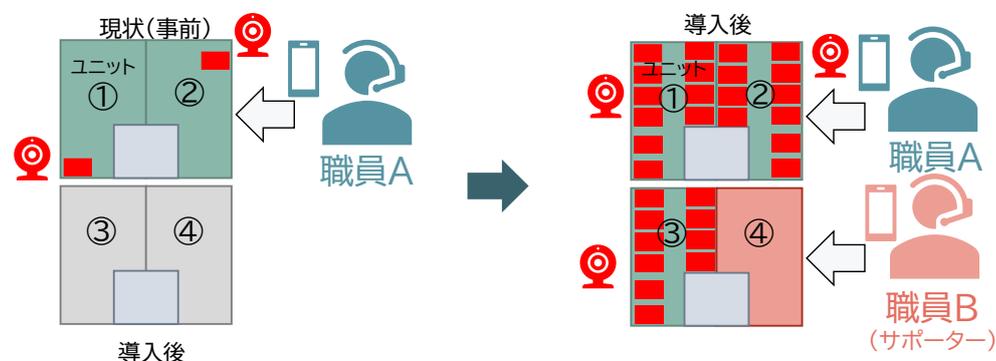
## (2) 実証仮説

本実証においては、見守り機器の導入について全床導入にて実証を行った。

「全床導入」の実証パターンでは、見守り機器を全床導入し、何ユニットまで 1 人の夜勤者が対応可能かを実証した。

仮説としては、見守り機器の全床導入により、ステーションで全利用者の状況を確認できることで、①定期巡回を訪室ではなく端末上で行えるようになり、巡回の時間が削減される。適切な利用者へのケア提供が出来るようになり、②ケアの質が確保され、人員配置基準を超える体制(2ユニットに夜勤職員1人)以上の体制(例:2.5 ユニットに 1 人)で業務が可能となる。機器の活用により③取得したデータを基に、個別援助計画の見直しが可能となり、ケアの質が確保されるとした。

図表 VIII-10 「全床導入」での実証イメージ



※導入後は、サポーターを配置することで人員配置基準を満たし、利用者の安全を担保した上で実証を実施。

## (3) 実証機器

本実証に使用した見守り機器は以下の2種類とした。見守り機器は、補助金等での支援実績、導入・普及状況等を踏まえて選定した。

図表 VIII-11 実証で使用した見守り機器

NO	メーカー名	機器名	機器タイプ別の区分※
1	パラマウントベッド株式会社	眠りSCAN	バイタルタイプ
2	ノーリツプレジジョン株式会社	Neos+Care (ネオスケア)	カメラタイプ
3	株式会社バイオシルバー	aams	バイタルタイプ
4	コニカミノルタ QOL ソリューションズ株式会社	HitomeQ	カメラタイプ

※機器タイプについては以下の区分として本調査内で総称した。

- ・ バイタルタイプ…機器の内蔵センサーにより離床や心拍、呼吸等の体動と、睡眠状態を把握できる見守り機器
- ・ カメラタイプ…カメラ型でシルエット画像により対象者が映し出され、設定された対象動作の検知が可能な見守り機器

#### (4) 対象施設

実証施設の公募等によって、以下の 21 施設を実証の対象施設とした。  
各施設における見守り機器の導入率は以下の通り。

図表 VIII-12 夜間見守りにおける対象施設の属性・見守り機器の導入率

No.	施設名	施設種別	実証パターン	実証対象エリア	機器タイプ	事前導入率	事後導入率
1	社会福祉法人湖星会 特別養護老人ホームラースール坂下	介護老人福祉施設	全床	ユニット	バイタル	17%	100%
2	社会福祉法人浩仁会 地域密着型特別養護老人ホーム桜坂	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	全床	ユニット	バイタル	68%	100%
3	社会福祉法人野の花会 アルテンハイム鹿児島	介護老人福祉施設	全床	ユニット	バイタル	0%	100%
4	社会福祉法人野の花会 地域密着型介護老人福祉施設 ガレリア・ソル	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	全床	ユニット	バイタル	0%	100%
5	社会福祉法人ケアネット 特別養護老人ホームシェ・モア	介護老人福祉施設	全床	ユニット	バイタル	40%	100%
6	医療法人悠明会 ウェルケア悠	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	50%	100%
7	医療法人社団幹人会 介護老人保健施設菜の花	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	24%	100%
8	医療法人ほがらか会 介護老人保健施設サンシャイン	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	-	100%
9	医療法人ほがらか会 介護老人保健施設サンホーム	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	-	100%
10	医療法人燦生会 フルリールむかわ	介護老人保健施設	全床	ユニット	カメラ	-	100%
11	医療法人社団大有会 介護老人保健施設ドリームヒルズ滝山	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	-	100%
12	社会医療法人豊生会 介護老人保健施設ひまわり	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	-	100%
13	社会福祉法人久盛福祉会 介護老人保健施設あまざぎ園	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	-	100%
14	社会医療法人頌徳会 介護老人保健施設ソルヴィラージュ	介護老人保健施設	全床	ユニット	バイタル	-	100%
15	社会福祉法人愛宕福祉会 グループホームなかのくち式号館	認知症対応型共同施設介護	全床	ユニット	カメラ	0%	100%
16	コスモスクエア株式会社 グループホームコスモス松陵	認知症対応型共同施設介護	全床	ユニット	カメラ	56%	100%
17	コスモスクエア株式会社 グループホームコスモス鶴ヶ谷	認知症対応型共同施設介護	全床	ユニット	カメラ	28%	100%
18	コスモスクエア株式会社 グループホームコスモス八乙女	認知症対応型共同施設介護	全床	ユニット	カメラ	61%	100%
19	コスモスクエア株式会社 グループホームコスモス向陽台	認知症対応型共同施設介護	全床	ユニット	カメラ	89%	100%
20	株式会社スマイル スマイル住まいる大岩	認知症対応型共同施設介護	全床	ユニット	バイタル	100%	100%
21	株式会社スマイル スマイル住まいる小川	認知症対応型共同施設介護	全床	ユニット	バイタル	100%	100%

(※)No.8～No.14については調査は1回のみとした。

## (5) 実証方法

### ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。事前調査終了後、見守り機器導入からおおよそ1か月後に、事後①、②調査を実施した。

図表 VIII-13 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和6年7月8日～20日のうち平日5日間
事後①調査	令和6年11月4日～29日のうち平日5日間
事後②調査	令和6年11月4日～29日のうち平日5日間
ヒアリング調査	令和7年1月～2月

※新型コロナウイルス感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

## イ. 各調査の概要

実証結果の把握は、実証の事前と事後で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「訪室回数・排せつケア記録調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 VIII-14 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアで見守り機器を用いたケアを行った夜勤者	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答方法:自記式(1分刻みで自身が実施した作業項目を記入)</li> <li>調査スケジュール:事前(見守り機器導入前)1回、事後(見守り機器導入後)1回の計2回、それぞれ5夜勤分実施。各日の夜勤職員全員が回答</li> <li>調査実施の時間帯:21時～翌7時まで</li> </ul>
職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアで見守り機器を用いたケアを行った夜勤者	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答方式:Web入力式</li> <li>調査スケジュール:事前と事後の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答</li> </ul>
利用者向けアンケート調査	見守り機器(追加分含む)を用いたケアを受けた利用者のうち、5～10名程度を無作為で抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答方式:Web入力式 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼</li> <li>調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前1回、事後1回実施。職員1名につき1回のみ回答</li> </ul>
訪室回数・排せつケア記録調査	機器を導入した利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答方式:自記式</li> <li>調査スケジュール:事前(見守り機器導入前)1回、事後(見守り機器導入後)1回の計2回、それぞれ5夜勤分実施。各日の夜勤職員全員が回答</li> <li>調査実施の時間帯:21時～翌7時まで</li> </ul>
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査方法:WEB会議による聞き取り</li> <li>調査スケジュール:実証終了後に1回実施</li> </ul>

## ウ. 見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更

実証での見守り機器導入に伴い、各実証施設では、介護ロボット等を活用したケアの質の向上、業務負担軽減や生産性向上を目的として、介護ロボットの特性を有効活用した介護・業務に係るオペレーションの工夫・変更の検討を行った。(介護老人保健施設のうち、調査1回実施のみ7施設分については記載を省略している。)

図表 VIII-15 見守り機器導入に伴うオペレーションの工夫・変更の主な内容

施設名	通常の実業・課題	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
特別養護老人ホームラズール坂下	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ユニットで1名の人員配置</li> <li>夜間巡視で10名の利用者を個別に1時間おきに様子確認をしている。</li> <li>訪室時に様子確認をしても利用者に特段の異常は見当たらず、睡眠を妨げることもある。(睡眠時の状態確認は本人への直接観察以外できない。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ユニットで0.9名の人員配置をめざす(別途付帯要件あり)。</li> <li>利用者を見守り機器で確認することで巡視の回数を減らす。</li> <li>不必要な訪室が減り、利用者の睡眠の妨げも軽減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡視にかかる時間を減らし、減らした時間を記録整理等の時間に充てる。</li> <li>夜間帯で複数の利用者の睡眠状態を一元管理でき、安眠の妨げにならない。</li> <li>職員の身体的・精神的負担も軽減される。</li> </ul>
地域密着型特別養護老人ホーム桜坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤者2名(定時巡視)</li> <li>(元々全床導入施設であり、事前調査では6台(2階3台、3階3台)をOFFにして調査実施した。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤者2名(定時巡視を軽減し最低限の巡視)の体制とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間不眠利用者の状態を把握するために、職員はユニット近くの部屋で待機しているが、待機室から眠りスキャンで利用者状態を確認でき職員負担軽減を図る。</li> </ul>
アルテンハイム鹿児島	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間帯は2時間に1回の巡回を実施。</li> <li>入居の方の睡眠や体調管理の把握が難しい。職員が訪室を行い、睡眠を妨げてしまっていることがある。</li> <li>夜勤職員計5名(2~5階各1名、全階管理職員1名)の職員体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間巡回を半数以下に減らす。</li> <li>見守り機器で睡眠の状態を把握し、訪室回数を減らす。</li> <li>夜勤職員計5名(2~5階各1名、全階管理1名)の職員体制のまま、実証フロア(5階)への全階管理職員1名の負担軽減を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回を減らすことで利用者の睡眠の質が向上する。また、夜勤職員の身体的・精神的負担の軽減を図る。</li> <li>睡眠の状態を把握することができるため、夜間不眠改善への対応策を検討できる。</li> </ul>
地域密着型介護老人福祉施設 ガレリア・ソル	<ul style="list-style-type: none"> <li>3階(10名/ユニット+9名/ユニット、計19名)を職員A1名で対応。</li> <li>入居の方の行動の状態を把握できておらず、起き上がりが多い方の転倒の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員Aが3階2ユニットを担当し、2階を担当している職員Bのサポート回数が介護ロボット導入により減少するか図る。</li> <li>介護ロボットを対象ユニッ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の負担を軽減する。</li> <li>転倒リスクの状態を把握することができる。また、訪室回数の減少も期待できるため、職員の身体的、精神的負担軽減を図る。転倒、転</li> </ul>

施設名	通常の実業・課題	見守り機器導入後の実業	実業変更の目的・目指すところ
	危険性がある。それにより訪室回数も多くなり、職員の身体的、精神的負担がみられている。	トに全床導入し、パソコンやスマートフォンにて状態把握を行う。	落事故を防止する。
特別養護老人ホーム シエ・モア	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間帯は、2 時間に 1 回の巡視を実施</li> <li>実証 3 ユニットの夜間職員 2 名は、それぞれ 1 ユニットの担当ユニットとして管理し、当直者不在の 1 ユニットの共同で夜間職員 2 名で管理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間帯巡視を半数(4 時間に 1 回)に減らす。</li> <li>職員 A が 2 ユニットの、職員 B が 1 ユニットの担当する。職員 B は、職員 A の担当ユニットのうち特定の 1 ユニットについて、必要に応じてサポートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡視回数を減らすことで利用者の「睡眠中に職員が入室する」というストレスが軽減し、睡眠の質が向上。</li> <li>当直職員者の身体的・精神的負担の軽減を図る。</li> </ul>
ウエルケア 悠	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤では時間を決めて利用者を定期巡回し、排泄等の介助をしている。利用者が熟睡している時は、少し間をおいて、再度訪室するため訪室回数が増え、介護職員の負担が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が覚醒していることを確認してから訪室する。</li> <li>利用者の起き上がり通知を受けた職員が、利用者の離床前に訪室することで、転倒事故を防止する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>
介護老人保健施設 菜の花	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間帯、1 フロア 4 ユニットの全入所者を 2 名の職員が 1 時間に 1 回ずつ巡視する。巡視の際の物音や光で利用者が起きることがある。</li> <li>巡視のタイミング以外では見守り機能が働かないため、時間が経った後、転落、転倒に気が付く場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器を用いてステーション内のモニターで監視する。巡視は個別に設定したアラートの鳴動時に行う。</li> <li>アラート及びモニター監視で夜間帯を通して利用者の状態を把握することで、転倒・転落を早期に発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>
グループホームなかのくち式号館	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 ユニット(2 階建て)、</li> <li>見守り機器導入台数:0 台</li> <li>夜勤は 22 時~7 時、休憩 1 時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入台数:18 台</li> <li>休憩 3 時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>
グループホームコスモス松陵	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 ユニット(2 階建て)</li> <li>見守り機器導入台数:12 台</li> <li>夜勤は 21 時~8 時、休憩 1 時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入台数:18 台</li> <li>休憩 2 時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>

施設名	通常のオペレーション・課題	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
グループホームコスモス鶴ヶ谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ユニット(2階建て)</li> <li>見守り機器導入台数:5台</li> <li>夜勤は21時~8時、休憩75分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入台数:18台</li> <li>休憩1時間15分、事務作業3時間15分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>
グループホームコスモス八乙女	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ユニット(2階建て)</li> <li>見守り機器導入台数:11台</li> <li>夜勤は21時~8時、休憩75分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入台数:18台</li> <li>休憩2時間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>
グループホームコスモス向陽台	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ユニット(2階建て)</li> <li>見守り機器導入台数:16台</li> <li>夜勤者21時~8時、休憩75分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入台数:18台</li> <li>休憩2時間半</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>
スマイル住まいの大岩	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ユニット(1階建て)</li> <li>見守り機器導入台数:18台</li> <li>夜勤は16時~9時、休憩不定期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入台数:18台</li> <li>休憩1時間半の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>
スマイル住まいの小川	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ユニット(1階建て)</li> <li>見守り機器導入台数:18台</li> <li>夜勤は16時~9時、休憩不定期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入台数:18台</li> <li>休憩1時間半の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の状況を踏まえて訪室することで、職員の負担を軽減する。</li> <li>利用者の安眠を確保する。</li> <li>転倒、転落事故を防止する。</li> </ul>

## (6) 調査項目

「タイムスタディ調査」および「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「ヒアリング調査」について、それぞれの調査項目を以下に示す。

### ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査では、見守り機器の事前と事後のそれぞれで調査を行った。タイムスタディ調査の項目のうち、「直接介護」とは、「移動・移乗・体位変換」「排泄介助・支援」「日常生活自立支援」「行動上の問題への対応」「利用者とのコミュニケーション」「機能訓練・リハビリテーション・医療的処置」「その他の直接介護」を指し、「間接業務」とは、「巡回・移動」「記録・文書作成・連絡調整等」「見守り機器の使用・確認」「食事・おやつのお膳・下膳等」「その他の間接業務」を指すものとした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

介護老人福祉施設の実証におけるタイムスタディ調査においては、5 施設のサポーターを配置した施設、サポーターを配置しない施設の 2 パターンで調査をした。サポーターを配置しない施設の事前、事後調査においては図表 VIII-16 に示す調査票を用いた。サポーターを配置した施設の事前調査では、図表 VIII-16 を用い、事後調査には、図表 VIII-17 に示す調査票を用いた。

- ・ サポーターを配置した施設
  - 社会福祉法人野の花会 アルテンハイム鹿児島
  - 社会福祉法人野の花会 地域密着型介護老人福祉施設 ガレリア・ソル
  - 社会福祉法人ケアネット 特別養護老人ホーム シェ・モア
- ・ サポーターを配置しない施設
  - 社会福祉法人湖星会 特別養護老人ホームラスール坂下
  - 社会福祉法人浩仁会 地域密着型特別養護老人ホーム桜坂

介護老人保健施設において、事前調査、事後調査とも各調査票は、参考資料を参照されたい。

認知症対応型共同施設において、事前調査では、図表 VIII-16 を用い、事後調査では図表 VIII-17 を用いた。

図表 VIII-16 事前調査タイムスタディ記入票(全施設)

区分	NO	分類	Sub-NO	項目
サポート先のユニット・フロア	A	直接介護 (※1)	1	移動・移乗・体位変換
			2	排泄介助・支援
			3	日常生活自立支援(※2)
			4	行動上の問題への対応(※3)
			5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
			6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
	B	間接業務	7	巡回・移動
			8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
			9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
			10	介護ロボット・ICT 機器の使用・確認(※5)
			11	その他の間接業務(※6)
	C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
	D	その他	13	その他
	E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、片付け作業等を含む

※6 レクリエーションの準備等

図表 VIII-17 事後調査におけるタイムスタディ記入票(認知症対応型共同施設)

区分	NO	分類	Sub-NO	項目
サポート先のユニット・フロア	A	直接介護 (※1)	1	移動・移乗・体位変換
			2	排泄介助・支援
			3	日常生活自立支援(※2)
			4	行動上の問題への対応(※3)
			5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
			6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
	B	間接業務	7	巡回・移動
			8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
			9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
			10	介護ロボット・ICT 機器の使用・確認(※5)
			11	その他の間接業務(※6)
自身担当	A'	直接介護	-	-
	B'	間接業務	-	-
共通	C	休憩	12	休憩・待機・仮眠
	D	その他	13	その他
	E	余裕時間	14	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、片付け作業等を含む

※6 レクリエーションの準備等

図表 VIII-18 事後調査におけるタイムスタディ記入票(介護老人福祉施設)

区分	NO	分類	Sub-NO	項目
自身の業務として行った直接介護/間接介護	A	直接介護(※1)	1	移動・移乗・体位変換
			2	排泄介助・支援
			3	日常生活自立支援(※2)
			4	行動上の問題への対応(※3)
			5	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
			6	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
	B	間接業務	7	巡回・移動
			8	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
			9	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
			10	介護ロボット・ICT 機器の使用・確認(※5)
			11	その他の間接業務(※6)
「休み」の予定だがサポーターとして行った直接介護/間接介護	A'	直接介護	12	移動・移乗・体位変換
			13	排泄介助・支援
			14	日常生活自立支援(※2)
			15	行動上の問題への対応(※3)
			16	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
			17	その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)
	B'	間接業務	18	巡回・移動
			19	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
			20	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
			21	介護ロボット・ICT 機器の使用・確認(※5)
共通	C	休憩	22	その他の間接業務(※6)
			23	休憩・待機・仮眠
			24	その他
			25	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む。

※2 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、片付け作業等を含む

※6 レクリエーションの準備等

## イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、新規、追加、全床の全パターンで、共通の内容として調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18に基づく))を実施した。加えて事後では、見守り機器の利用によるモチベーションの変化、見守り機器の利用による職員や施設業務の変化、見守り機器の満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)も実施した。各調査票は、参考資料を参照されたい。

## ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、新規、追加、全床の全パターンで、共通の内容として調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

## エ. 訪室回数調査・排せつケア記録調査

訪室回数・排せつケア記録調査では、新規、追加、全床の全パターンで、共通の内容として調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、目的別の訪室回数(「定時巡視」、「利用者の離床」、「不穏な動きの確認」、「容態変化」、「排せつの確認・対応」と、「排せつの確認・対応」の場合は排せつケアの内容と回数(「トイレ誘導 尿意確認」、「トイレ誘導 自力で排せつ」、「トイレ誘導 排せつなし」、「おむつ・パッド確認」、「おむつ・パッド確認 おむつ・パッド交換」、「おむつ・パッド確認 尿器・カテーテル等での排尿」、「おむつ・パッド確認 排せつなし」)を1時間ごとに記録することとした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

図表 VIII-19 ア～エの調査内容の整理

No	調査分類	調査項目
ア	タイムスタディ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施した業務時間(分)を1分刻みで自記(夜勤5日間分)</li> <li>直接介護、間接業務、休憩、その他の分類で計15項目</li> </ul>
イ	職員向け調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員概要(年齢、職種、役職、経験年数等)</li> <li>心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 SRS-18)</li> <li>機器導入によるモチベーションの変化</li> <li>機器導入による職員や施設業務の変化</li> <li>導入機器の満足度評価(福祉用具満足度評価 QUEST)</li> <li>夜間見守り業務の課題</li> <li>夜間見守り業務の質の向上</li> </ul>
ウ	利用者向け調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者概要(性別・年齢・要介護度・障害高齢者の日常生活自立度)</li> <li>ADL(Barthel Index)</li> <li>認知機能(認知症高齢者の日常生活自立度、DBD13)</li> <li>意欲(Vitality Index)</li> <li>QOL(WHO-5)</li> <li>利用者の社会参加の変化</li> <li>利用者のコミュニケーションの変化</li> <li>見守り機器導入によるケア内容の変更</li> <li>利用者からの意見等</li> </ul>
エ	訪室回数・排せつケア記録調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪室回数・排せつケアの回数(夜勤5日間分)</li> </ul>

## オ. ヒアリング調査

ヒアリング調査は、事後の実証終了後、WEB 会議で実施した。ヒアリング対象者は施設管理者や施設における本実証の責任者とし、調査項目は以下とした。

図表 VIII-20 ヒアリング調査の項目

No	分類	項目
ア	見守り機器導入前の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職員</li> <li>• 利用者</li> <li>• 施設</li> <li>• その他</li> </ul>
イ	見守り機器導入目的・方針に対する達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職員への効果・反応               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 身体的負担の変化</li> <li>➢ 心理的負担の変化</li> <li>➢ 機器に対する反応・意見</li> <li>➢ その他</li> </ul> </li> <li>• 利用者への効果、夜間・日中の生活の質の変化               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 職員によるケアの質の変化</li> <li>➢ 日中の活動状況</li> <li>➢ 夜間の睡眠状況</li> <li>➢ その他</li> </ul> </li> <li>• 施設全体への効果               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 残業時間の変化</li> <li>➢ 業務効率化</li> </ul> </li> </ul>
ウ	転倒・転落、ヒヤリ・ハットの発生件数の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 転倒・転落、ヒヤリ・ハットの発生件数の変化               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 転倒・転落</li> <li>➢ ヒヤリ・ハット</li> <li>➢ その他</li> </ul> </li> </ul>

## 2. 実証結果

### (1) 利用者・職員概要

#### ア. 利用者概要

実証において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者の性別は以下の通り。

図表 VIII-21 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	8	26	0	34
	割合	24%	76%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	11	0	11
	割合	0%	100%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	12	69	0	81
	割合	15%	85%	0%	100%
総数	人数(人)	20	106	0	126
	割合	16%	84%	0%	100%

実証において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者の年齢は以下の通り。

図表 VIII-22 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳以上	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	0	2	8	7	6	10	0	34
	割合	3%	0%	6%	24%	21%	18%	29%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	2	1	1	1	4	2	0	11
	割合	0%	18%	9%	9%	9%	36%	18%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	3	3	6	18	20	18	13	0	81
	割合	4%	4%	7%	22%	25%	22%	16%	0%	100%
総数	人数(人)	4	5	9	27	28	28	25	0	126
	割合	3%	4%	7%	21%	22%	22%	20%	0%	100%

実証において利用者向けアンケート調査に回答があった利用者の要介護度は以下の通り。

図表 VIII-23 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支 援	その他(区 分申請中等)	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	1	11	10	12	0	0	0	34
	割合	0%	3%	32%	29%	35%	0%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	1	3	4	1	2	0	0	0	11
	割合	9%	27%	36%	9%	18%	0%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	20	22	13	14	12	0	0	0	81
	割合	25%	27%	16%	17%	15%	0%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	21	26	28	25	26	0	0	0	126
	割合	17%	21%	22%	20%	21%	0%	0%	0%	100%

## イ. 職員概要

実証において職員向けアンケート調査に回答があった職員の性別は以下の通り。

図表 VIII-24 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	13	5	0	18
	割合	72%	28%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	2	5	0	7
	割合	29%	71%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	12	15	0	27
	割合	44%	56%	0%	100%
総数	人数(人)	27	25	0	52
	割合	52%	48%	0%	100%

実証において職員向けアンケート調査に回答があった職員の性別は以下の通り。

図表 VIII-25 職員概要:年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	7	6	4	0	0	0	0	18
	割合	6%	39%	33%	22%	0%	0%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	2	1	2	1	1	0	0	7
	割合	0%	29%	14%	29%	14%	14%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	0	3	7	5	10	2	0	0	27
	割合	0%	11%	26%	19%	37%	7%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	1	12	14	11	11	3	0	0	52
	割合	2%	23%	27%	21%	21%	6%	0%	0%	100%

実証において職員向けアンケート調査に回答があった職員の職種は以下の通り。

図表 VIII-26 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練 指導員を含 む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	16	2	0	0	0	0	0	0	18
	割合	89%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	5	2	0	0	0	0	0	0	7
	割合	71%	29%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	17	9	1	0	0	0	0	0	27
	割合	63%	33%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	38	13	1	0	0	0	0	0	52
	割合	73%	25%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

実証において職員向けアンケート調査に回答があった職員の役職は以下の通り。

図表 VIII-27 職員概要:役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	5	13	0	0	18
	割合	0%	28%	72%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	2	4	1	0	7
	割合	0%	29%	57%	14%	0%	100%
認知症対応型 共同施設介護	人数(人)	0	9	18	0	0	27
	割合	0%	33%	67%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	0	16	35	1	0	52
	割合	0%	31%	67%	2%	0%	100%

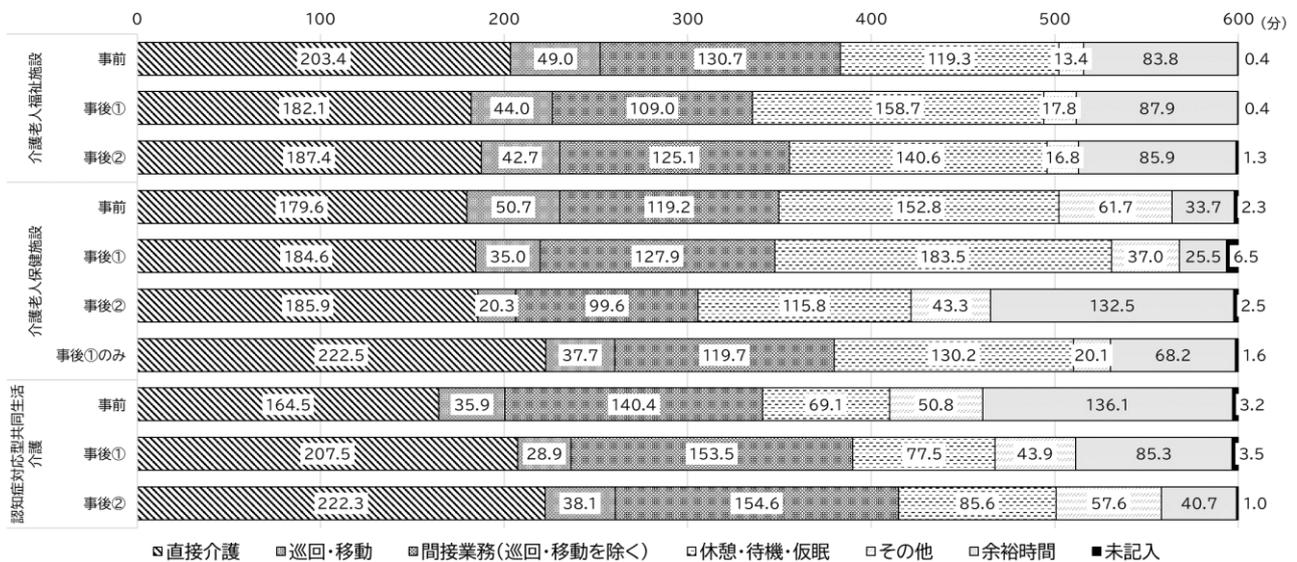
## (2) タイムスタディ調査結果

### ア. 施設種別のタイムスタディ調査結果

サービス種類別のタイムスタディ調査結果では、「直接介護」および「巡回・移動」の合計時間は、介護老人福祉施設では 252.4 分(事前調査)から 230.1 分(事後②調査)となり 22.3 分減少した。介護老人保健施設では 230.3 分(事前調査)から 206.2 分(事後②調査)となり 24.1 分減少した。一方、認知症対応型共同生活介護では「巡回・移動」の時間はほとんど変化がないが(事前調査:35.9 分、事後②調査:38.1 分)、直接介護時間が増加しており、「直接介護」および「巡回・移動」の合計時間は 60 分増加した。

図表 VIII-28 施設種別のタイムスタディ調査の結果(夜勤職員1人1日(600分)あたり)

			直接介護					間接業務					休憩			合計(分)		
			移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・介護計画の作成等	介護ロボット・ICT機器の準備・使用・確認	その他の間接業務	休憩・待機・仮眠	その他		余裕時間	未記入
介護老人福祉施設	事前	時間(分) 割合	44.9 7%	115.5 19%	26.0 4%	11.3 2%	0.8 0%	4.9 1%	49.0 8%	100.4 17%	2.0 0%	4.2 1%	24.1 4%	119.3 20%	13.4 2%	83.8 14%	0.4 0%	600 100%
	事後①	時間(分) 割合	41.1 7%	103.9 17%	24.0 4%	8.3 1%	1.2 0%	3.7 1%	44.0 7%	77.3 13%	1.9 0%	6.5 1%	23.3 4%	158.7 26%	17.8 3%	87.9 15%	0.4 0%	600 100%
	事後②	時間(分) 割合	45.8 8%	101.5 17%	24.4 4%	14.1 2%	0.4 0%	1.2 0%	42.7 7%	78.4 13%	2.2 0%	17.9 3%	26.6 4%	140.6 23%	16.8 3%	85.9 14%	1.3 0%	600 100%
介護老人保健施設	事前	時間(分) 割合	50.4 8%	87.2 15%	29.9 5%	9.3 2%	0.2 0%	2.7 0%	50.7 8%	60.1 10%	3.2 1%	14.5 2%	41.3 7%	152.8 25%	61.7 10%	33.7 6%	2.3 0%	600 100%
	事後①	時間(分) 割合	56.3 9%	88.2 15%	28.6 5%	6.9 1%	0.0 0%	4.5 1%	35.0 6%	62.9 10%	1.7 0%	20.8 3%	42.5 7%	183.5 31%	37.0 6%	25.5 4%	6.5 1%	600 100%
	事後①のみ	時間(分) 割合	45.3 8%	115.7 8%	32.4 8%	12.4 8%	11.0 8%	5.7 8%	37.7 8%	80.6 8%	4.2 8%	6.7 8%	28.3 8%	130.2 8%	20.1 8%	68.2 8%	1.6 8%	600 100%
	事後②	時間(分) 割合	56.8 8%	87.1 8%	14.9 8%	20.2 8%	0.0 8%	6.9 8%	20.3 8%	42.6 8%	1.3 8%	20.1 8%	35.6 8%	115.8 8%	43.3 8%	132.5 8%	2.5 8%	600 100%
認知症対応型共同生活介護	事前	時間(分) 割合	10.8 2%	82.8 14%	46.7 8%	20.3 3%	0.2 0%	3.7 1%	35.9 6%	75.7 13%	6.4 1%	4.9 1%	53.4 9%	69.1 12%	50.8 8%	136.1 23%	3.2 1%	600 100%
	事後①	時間(分) 割合	13.4 2%	90.9 15%	58.2 10%	35.3 6%	0.8 0%	8.8 1%	28.9 5%	88.4 15%	4.8 1%	3.7 1%	56.6 9%	77.5 13%	43.9 7%	85.3 14%	3.5 1%	600 100%
	事後②	時間(分) 割合	12.7 2%	92.0 15%	63.6 11%	35.6 6%	0.0 0%	18.4 3%	38.1 6%	89.3 15%	7.3 1%	6.3 1%	51.7 9%	85.6 14%	57.6 10%	40.7 7%	1.0 0%	600 100%



介護老人福祉施設: 事前 n=27、事後①n=34、事後②n=34

介護老人保健施設: 事前 n=30、事後①n=28、事後②n=29

介護老人保健施設※調査1回: n=95

認知症対応型共同生活介護: 事前 n=52、事後①n=51、事後②n=46

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※グラフ上の数は、調査結果の和から10時間(600分)換算した値